

### 基本計画書（共同学科）

事項	記入欄																									
計画の区分	学部の設置																									
構成大学の設置者	国立大学法人岩手大学					国立大学法人東京農工大学					/															
構成大学の名称	岩手大学					東京農工大学																				
構成大学の本部の位置	岩手県盛岡市上田3丁目18番8号					東京都府中市晴見町三丁目8番1号																				
共同学科の名称	共同獣医学科(Cooperative Department of Veterinary Medicine)																									
共同学科の目的	複雑化・高度化する獣医療に対応した実践的な獣医学教育と、獣医学教育モデル・コア・カリキュラムを基盤とした獣医学教育を実施し、高度な知識と技術を併せ持った、国際的通用性のある獣医師を養成する。																									
共同学科の概要	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	修業年限	入学定員(合計)	編入学定員(合計)	収容定員(合計)													
	30	-	180	35	-	210				6	65	-	390													
学位	学士（獣医学）（Bachelor of Veterinary Medicine）																									
学位の分野	獣医学関係																									
開設時期及び開設年次	令和7年4月 第1年次																									
教育課程 <small>（各構成大学が開設する授業科目数）</small>	講義	演習	実験・実習	計	講義	演習	実験・実習	計	講義	演習	実験・実習	計	講義(合計)	演習(合計)	実験・実習(合計)	計										
	108科目	5科目	37科目	150科目	71科目	9科目	36科目	116科目	科目	科目	科目	科目	161科目	12科目	42科目	215科目										
/	基幹教員				基幹教員以外の教員(助手を除く)	基幹教員				基幹教員以外の教員(助手を除く)	基幹教員(合計)				基幹教員以外の教員(助手を除く)(合計)											
	教授	准教授	講師	助教		計	助手	教授	准教授		講師	助教	計	助手		教授	准教授	講師	助教	計	助手(合計)					
	7人 (10)	11人 (11)	0人 (0)	6人 (6)	24人 (27)	0人 (0)	62人 (59)	5人 (11)	19人 (20)	0人 (0)	3人 (3)	27人 (34)	0人 (0)	62人 (83)	人 (0)	人 (0)	人 (0)	人 (0)	人 (0)	人 (0)	12人 (21)	30人 (31)	0人 (0)	9人 (9)	51人 (61)	0人 (0)
大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 10人				大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 12人				大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 〇〇人				大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 22人														
職種	専	属	そ	の	他	計	専	属	そ	の	他	計	専	属	そ	の	他	計								
事務職員	177 (178)	人	111 (111)	人	288 (289)	人	167 (174)	人	214 (214)	人	381 (388)	人	0 (0)	人	0 (0)	人	0 (0)	人								
技術職員	67 (67)	人	59 (59)	人	126 (126)	人	32 (35)	人	95 (95)	人	127 (130)	人	0 (0)	人	0 (0)	人	0 (0)	人								
図書館職員	4 (4)	人	30 (30)	人	34 (34)	人	5 (7)	人	13 (13)	人	18 (20)	人	0 (0)	人	0 (0)	人	0 (0)	人								
その他の職員	5 (5)	人	97 (97)	人	102 (102)	人	1 (2)	人	9 (9)	人	10 (11)	人	0 (0)	人	0 (0)	人	0 (0)	人								
指導補助者	0 (0)	人	589 (589)	人	589 (589)	人	0 (0)	人	980 (980)	人	980 (980)	人	0 (0)	人	0 (0)	人	0 (0)	人								
計	253 (254)	人	886 (886)	人	1139 (1140)	人	205 (218)	人	1311 (1311)	人	1516 (1529)	人	0 (0)	人	0 (0)	人	0 (0)	人								

校	区 分	専 用 共 用 共用する他の				計	専 用 共 用 共用する他の				計	専 用 共 用 共用する他の				計	専用（合計）	共用（合計）	共用する他の学校等の専用（合計）	計
		学校等の専用	学校等の専用	学校等の専用	学校等の専用		学校等の専用	学校等の専用	学校等の専用	学校等の専用		学校等の専用	学校等の専用	学校等の専用	学校等の専用					
地 等	校 舎 敷 地	340,979 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	340,979 m <sup>2</sup>	268,388 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	268,388 m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	609,367m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	609,367m <sup>2</sup>		
	そ の 他	84,753 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	84,753 m <sup>2</sup>	194,318 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	194,318 m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	279,071m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	279,071m <sup>2</sup>		
	合 計	425,732 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	425,732 m <sup>2</sup>	462,706 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	462,706 m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	888,438m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	888,438m <sup>2</sup>		
大 学 全 体 の 収 容 定 員 (うち共同学科に係る収容定員を除いた数)		5,016人 (4,836)				4,995人 (4,785)				人 ( )										
教 室		494 室				665 室				室										
教 員 研 究 室		24 室				27 室				室										
図 書 ・ 設 備		図書		学術雑誌		機械器具	標本	図書		学術雑誌		機械器具	標本	図書		学術雑誌		機械器具	標本	
		[うち外国書]	電子冊子	[うち外国書]	電子ジャーナル			[うち外国書]	電子冊子	[うち外国書]	電子ジャーナル			[うち外国書]	電子冊子	[うち外国書]	電子ジャーナル			
		冊 [うち外国書]	冊 [うち外国書]	種 [うち外国書]	種 [うち外国書]	冊 [うち外国書]	冊 [うち外国書]	種 [うち外国書]	種 [うち外国書]	冊 [うち外国書]	冊 [うち外国書]	種 [うち外国書]	種 [うち外国書]							
		941,135 (201,560)	12,354 (6,528)	17,991 (4,982)	6,243 (6,240)	30	0	512,179 (178,086)	7,746 (6,891)	32,678 (26,099)	18,572 (18,500)	0	0	( )	[ ]	[ ]	[ ]	( )	( )	
		(988,360 (198,760))	(11,304 (6,433))	(17,991 (4,982))	(6,243 (6,240))	( 71 )	( 0 )	(323,015 (186,334))	(7,626 (6,873))	(32,306 (25,117))	(18,182 (18,110))	( 0 )	( 0 )	( ( ) )	( ( ) )	( ( ) )	( ( ) )	( )	( )	
経 費 の 見 積 り 及 び 維持方法の概要	区 分	開設前年度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	開設前年度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	開設前年度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次							
		第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次										
	経 費 の 見 積 り	教員 1 人 当 り 研 究 費 等	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円						
		共 同 研 究 費 等	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円						
		図 書 購 入 費	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円						
	設 備 購 入 費	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円						
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円						
	学 生 1 人 当 り 金 納 付	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次							
		第 5 年 次	第 6 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次											
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円							
千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円								
学 生 納 付 金 以 外 の 維持方法の概要																				
備 考		国費（運営費交付金による）				国費（運営費交付金による）														

既設学部等の状況	岩手大学								
	大学等の名称	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設年度	所在地
既設学部等の状況	人文社会科学部		年	人	年次人	人			
	人間文化課程		4	125	3年 6	512	学士(総合科学)	平成28年度	岩手県盛岡市上田3丁目18番34号
	地域政策課程		4	75	3年 4	308	学士(総合科学)	平成28年度	同上
	教育学部								
	学校教育教員養成課程		4	160	-	640	学士(教育)	平成12年度	岩手県盛岡市上田3丁目18番33号
	理工学部								
	化学・生命理工学科		4	90	3年 2	364	学士(理工学)	平成28年度	岩手県盛岡市上田4丁目3番5号
	物理・材料理工学科		4	80	3年 2	324	学士(理工学)	平成28年度	同上
	システム創成工学科		4	270	3年 16	1112	学士(工学)	平成28年度	同上
	農学部								
	植物生命科学科		4	40	3年 1	162	学士(農学)	平成28年度	岩手県盛岡市上田3丁目18番8号
	応用生物化学科		4	40	3年 1	162	学士(農学)	平成28年度	同上
	森林科学科		4	30	3年 -	120	学士(農学)	平成28年度	同上
	食料生産環境学科		4	60	3年 2	244	学士(農学)	平成28年度	同上
動物科学科		4	30	3年 1	122	学士(農学)	平成28年度	同上	
共同獣医学科		6	30	-	180	学士(獣医学)	平成24年度	同上	
校舎		専用		共用	共用する他の学校等の専用	計			
			114,304 m <sup>2</sup> (114,304 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	114,304 m <sup>2</sup> (114,304 m <sup>2</sup> )			
既設学部等の状況	東京農工大学								
	大学等の名称	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設年度	所在地
	農学部		年	人	年次人	人			
	生物生産学科		4	57	-	228	学士(農学)	平成16年度	東京都府中市幸町三丁目5番8号
	応用生物科学科		4	71	-	284	学士(農学)	平成16年度	同上
	環境資源科学科		4	61	-	244	学士(農学)	平成16年度	同上
	地域生態システム学科		4	76	-	304	学士(農学)	平成16年度	同上
	共同獣医学科		6	35	-	210	学士(獣医学)	平成24年度	同上
	工学部								
	生命工学科		4	81	3年次 11	346	学士(工学)	平成31年度	東京都小金井市中町二丁目24番16号
	生体医用システム工学科		4	56	3年次 6	236	学士(工学)	平成31年度	同上
	応用化学科		4	81	3年次 10	344	学士(工学)	平成31年度	同上
	化学物理工学科		4	81	3年次 7	338	学士(工学)	平成31年度	同上
	機械システム工学科		4	102	3年次 16	440	学士(工学)	平成31年度	同上
知能情報システム工学科		4	120	3年次 20	520	学士(工学)	平成31年度	同上	
校舎		専用		共用	共用する他の学校等の専用	計			
			130,496 m <sup>2</sup> (130,496 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	130,496 m <sup>2</sup> (130,496 m <sup>2</sup> )			

既設学部等の状況	大 学 等 の 名 称							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人			
校 舎	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計		
	m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )	m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )	m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )	m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )	m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )			

(注)

- 1 共同学科を設置する場合、別記様式第2号(その1の1)に加え、この書類を作成すること。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあつては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあつては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあつては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室」、「教員研究室」、「図書・設備」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「教室」、「教員研究室」、「図書・設備」、「経費の見積もり及び維持方法の概要」及び「校舎」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

## 基本計画書

基本計画書																																																																								
事項	記入欄								備考																																																															
計画の区分																																																																								
フリガナ設置者	コクリツダガクホクシン イテダガク 国立大学法人 岩手大学																																																																							
フリガナ大学の名称	コクリツダガクホクシン イテダガク 国立大学法人 岩手大学																																																																							
大学本部の位置	岩手県盛岡市上田3丁目18番8号																																																																							
大学の目的	岩手大学は、真理を探究する教育研究の場として、学術文化を創造しつつ、幅広く深い教養と高い専門性を備えた人材を育成することを目指すとともに、社会に開かれた大学として、その教育研究の成果をもとに地域社会と国際社会の文化の向上と発展に貢献することを目的とする。																																																																							
新設学部等の目的																																																																								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位	学位の分野	開設時期及 び開設年次	所在地																																																															
	計	年	人	年次 人	人			年 月 第 年次																																																																
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、 名称の変更等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集の停止 (令和7年4月 (3年次編入学生定員は令和9年4月) 学生募集の停止)</li> <li>理工学部                             <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">入学定員</td> <td style="width: 20%;">3年次編入</td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td>化学・生命理工学科</td> <td>(△90)</td> <td>(△2)</td> </tr> <tr> <td>物理・材料理工学科</td> <td>(△80)</td> <td>(△2)</td> </tr> <tr> <td>システム創成工学科</td> <td>(△270)</td> <td>(△16)</td> </tr> </table> </li> <li>農学部                             <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">植物生命科学科</td> <td style="width: 20%;">(△40)</td> <td style="width: 20%;">(△1)</td> </tr> <tr> <td>応用生物化学科</td> <td>(△40)</td> <td>(△1)</td> </tr> <tr> <td>森林科学科</td> <td>(△30)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>食料生産環境学科</td> <td>(△60)</td> <td>(△2)</td> </tr> <tr> <td>動物科学科</td> <td>(△30)</td> <td>(△1)</td> </tr> <tr> <td>共同獣医学科</td> <td>(△30)</td> <td>-</td> </tr> </table> </li> <li>・設置 (令和6年4月届出予定)                             <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">理工学部</td> <td style="width: 20%;">入学定員</td> <td style="width: 20%;">3年次編入</td> </tr> <tr> <td>理工学科</td> <td>(414)</td> <td>(20)</td> </tr> </table> </li> <li>農学部                             <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">食料農学科</td> <td style="width: 20%;">(50)</td> <td style="width: 20%;">(2)</td> </tr> <tr> <td>生命科学科</td> <td>(51)</td> <td>(1)</td> </tr> <tr> <td>地域環境科学科</td> <td>(70)</td> <td>(1)</td> </tr> <tr> <td>動物科学・水産科学科</td> <td>(55)</td> <td>(1)</td> </tr> </table> </li> <li>獣医学部                             <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">共同獣医学科</td> <td style="width: 20%;">(30)</td> <td style="width: 20%;">-</td> </tr> </table> </li> <li>・定員増 (令和7年4月)                             <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">連合農学研究科</td> <td style="width: 20%;">入学定員</td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td>生物生産科学専攻</td> <td>(1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>生物資源科学専攻</td> <td>(1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地域環境創生学専攻</td> <td>(2)</td> <td></td> </tr> </table> </li> </ul>									入学定員	3年次編入		化学・生命理工学科	(△90)	(△2)	物理・材料理工学科	(△80)	(△2)	システム創成工学科	(△270)	(△16)	植物生命科学科	(△40)	(△1)	応用生物化学科	(△40)	(△1)	森林科学科	(△30)	-	食料生産環境学科	(△60)	(△2)	動物科学科	(△30)	(△1)	共同獣医学科	(△30)	-	理工学部	入学定員	3年次編入	理工学科	(414)	(20)	食料農学科	(50)	(2)	生命科学科	(51)	(1)	地域環境科学科	(70)	(1)	動物科学・水産科学科	(55)	(1)	共同獣医学科	(30)	-	連合農学研究科	入学定員		生物生産科学専攻	(1)		生物資源科学専攻	(1)		地域環境創生学専攻	(2)	
	入学定員	3年次編入																																																																						
化学・生命理工学科	(△90)	(△2)																																																																						
物理・材料理工学科	(△80)	(△2)																																																																						
システム創成工学科	(△270)	(△16)																																																																						
植物生命科学科	(△40)	(△1)																																																																						
応用生物化学科	(△40)	(△1)																																																																						
森林科学科	(△30)	-																																																																						
食料生産環境学科	(△60)	(△2)																																																																						
動物科学科	(△30)	(△1)																																																																						
共同獣医学科	(△30)	-																																																																						
理工学部	入学定員	3年次編入																																																																						
理工学科	(414)	(20)																																																																						
食料農学科	(50)	(2)																																																																						
生命科学科	(51)	(1)																																																																						
地域環境科学科	(70)	(1)																																																																						
動物科学・水産科学科	(55)	(1)																																																																						
共同獣医学科	(30)	-																																																																						
連合農学研究科	入学定員																																																																							
生物生産科学専攻	(1)																																																																							
生物資源科学専攻	(1)																																																																							
地域環境創生学専攻	(2)																																																																							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数																																																																	
		講義	演習	実験・実習	計																																																																			
		科目	科目	科目	科目	単位																																																																		

学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の員 教 (助手を除く)		
		教授	准教授	講師	助教	計				
新		人	人	人	人	人	人	人		
		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )		
設	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	( )	( )	( )	( )	( )	/	/		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	( )	( )	( )	( )	( )				
	小計（a～b）	( )	( )	( )	( )	( )				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	( )	( )	( )	( )	( )				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	( )	( )	( )	( )	( )				
	計（a～d）	( )	( )	( )	( )	( )				
		( )	( )	( )	( )	( )			( )	( )
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	( )	( )	( )	( )	( )			/	/
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	( )	( )	( )	( )	( )				
	小計（a～b）	( )	( )	( )	( )	( )				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	( )	( )	( )	( )	( )				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	( )	( )	( )	( )	( )				
計（a～d）	( )	( )	( )	( )	( )					
計	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )			
既	人文社会科学部 人間文化課程	13 (18)	16 (17)	2 (2)	0 (0)	31 (37)	/	/		
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	13 (18)	16 (17)	2 (2)	0 (0)	31 (37)					
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
小計（a～b）	13 (18)	16 (17)	2 (2)	0 (0)	31 (37)					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計（a～d）	13 (18)	16 (17)	2 (2)	0 (0)	31 (37)					

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 ○○人

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 ○○人

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 7人

設	人文社会科学部 地域政策課程		7 (11)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	14 (18)	( )	71 (67)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人			
	a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (11)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	14 (18)	/	/				
	b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	小計（a～b）		7 (11)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	14 (18)						
	c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	計（a～d）		7 (11)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	14 (18)						
	教育学部 学校教育教員養成課程		14 (25)	29 (30)	3 (3)	0 (0)	46 (58)				( )	119 (108)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人
	a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	14 (25)	29 (30)	3 (3)	0 (0)	( )				/	/	
	b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
小計（a～b）		14 (25)	29 (30)	3 (3)	0 (0)	46 (58)							
c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)							
d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)							
計（a～d）		14 (25)	29 (30)	3 (3)	0 (0)	46 (58)							
計		34 (54)	51 (53)	6 (6)	0 (0)	91 (113)	(-)	(-)					
合計		34 (54)	51 (53)	6 (6)	0 (0)	91 (113)	(-)	(-)					
分	職 種		専 属		そ の 他		計						
	事 務 職 員		177 (178)		111 (111)		288 (289)						
	技 術 職 員		67 (67)		59 (59)		126 (126)						
	図 書 館 職 員		4 (4)		30 (30)		34 (34)						
	そ の 他 の 職 員		5 (5)		97 (97)		102 (102)						
	指 導 補 助 者		0 (0)		589 (589)		589 (589)						
	計			253 (254)		886 (886)		1139 (1140)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計							
	校 舎 敷 地	340,979㎡	0㎡	0㎡		340,979㎡							
	そ の 他	84,753㎡	0㎡	0㎡		84,753㎡							
	合 計	425,732㎡	0㎡	0㎡		425,732㎡							
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計								
	114,304㎡ (114,304㎡)	0㎡ ( 0㎡)	0㎡ ( 0㎡)		114,304㎡ (114,304㎡)								
教室・教員研究室		教 室	494室	教 員 研 究 室	24室		大学全体						

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		機械・器具 点	標本 点	学部単位での 特定が不能な ため、大学全 体での数		
		冊	電子図書 〔うち外国書〕	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕					
	獣医学部	941,135 [201,560] (908,360 [198,760])	12,354 [6,528] (11,304 [6,453])	17,991 [4,982] (17,991 [4,982])	6,243 [6,240] (6,243 [6,240])	30 (71)	0 (0)			
	計	941,135 [201,560] (908,360 [198,760])	12,354 [6,528] (11,304 [6,453])	17,991 [4,982] (17,991 [4,982])	6,243 [6,240] (6,243 [6,240])	30 (71)	0 (0)			
スポーツ施設等		スポーツ施設		講堂		厚生補導施設		大学全体		
		6,110 m <sup>2</sup>		471 m <sup>2</sup>		4,146 m <sup>2</sup>				
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費（運営費交付金による）
		教員1人当り研究費等								
		共同研究費等								
		図書購入費								
	設備購入費									
	学生1人当り納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
			千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要										
既設大学等の状況	大学等の名称 岩手大学									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	【学士課程】	年	人	年次	人		倍			
	人文社会科学部	4	200	3年次 10	820		1.08 《1.05》		岩手県盛岡市上田3丁目18番34号	
	人間文化課程	4	125	6	512	学士（総合科学）	1.11 《1.08》	平成28年度		
	地域政策課程	4	75	4	308	学士（総合科学）	1.03 《1.01》	平成28年度		
	教育学部	4	160	-	640		1.09 《1.07》		岩手県盛岡市上田3丁目18番33号	
	学校教育教員養成課程	4	160	-	640	学士（教育）	1.09 《1.07》	平成12年度		
	理工学部	4	440	3年次 20	1800		1.05 《1.01》		岩手県盛岡市上田4丁目3番5号	
	化学・生命理工学科	4	90	2	364	学士（理工学）	1.03 《1.00》	平成28年度		
	物理・材料理工学科	4	80	2	324	学士（理工学）	1.09 《1.04》	平成28年度		
	システム創成工学科	4	270	16	1112	学士（工学）	1.05 《1.01》	平成28年度		
	農学部	4	230	3年次 5	990		1.06 《0.97》		岩手県盛岡市上田3丁目18番8号	
	植物生命科学科	4	40	1	162	学士（農学）	1.09 《1.04》	平成28年度		
	応用生物化学科	4	40	1	162	学士（農学）	1.03 《1.01》	平成28年度		
	森林科学科	4	30	-	120	学士（農学）	1.09 《1.05》	平成28年度		
	食料生産環境学科	4	60	2	244	学士（農学）	1.05 《1.01》	平成28年度		
	動物科学科	4	30	1	122	学士（農学）	1.00 《0.97》	平成28年度		
	共同獣医学科	6	30	-	180	学士（獣医学）	1.12 《1.10》	平成24年度		



97	【修士課程】								
	総合科学研究科	2	294	-	588		1.09		岩手県盛岡市上田3
	地域創生専攻	2	54	-	108	修士(農学)	1.12	平成29年度	丁目18番8号
						修士(水産学)			
						修士(工学)			
						修士(スポーツ健康科学)			
						修士(学術)			
	総合文化学専攻	2	10	-	20	修士(学術)	0.75	平成29年度	
	理工学専攻	2	180	-	360	修士(理工学)	1.18	平成29年度	
						修士(工学)			
	農学専攻	2	50	-	100	修士(農学)	0.79	平成29年度	
	【専門職学位課程】								
	教育学研究科								
	教職実践専攻	2	16		32	教職修士(専門職)	0.93	平成28年度	岩手県盛岡市上田3 丁目18番33号
	【博士課程】								
	理工学研究科	3	18	-	54		0.94		岩手県盛岡市上田4
	自然・応用科学専攻	3	6	-	18	博士(理工学)	0.83	令和元年度	丁目3番5号
						博士(理学)			
	システム創成工学専攻	3	9	-	27	博士(工学)	0.81	令和元年度	
	デザイン・メディア工学専攻	3	3	-	9	博士(工学)	1.55	令和元年度	
					博士(芸術工学)				
獣医学研究科	4	5	-	20				岩手県盛岡市上田3	
共同獣医学専攻	4	5	-	20	博士(獣医学)	0.95	平成30年度	丁目18番8号	
連合農学研究科	3	24	-	72		1.37		岩手県盛岡市上田3	
生物生産科学専攻	3	9	-	27	博士(農学)	0.70	平成30年度	丁目18番8号	
					博士(学術)				
生物資源科学専攻	3	8	-	24	博士(農学)	1.37	平成30年度		
					博士(学術)				
地域環境創生学専攻	3	7	-	21	博士(農学)	2.23	平成30年度		
					博士(学術)				
<p>○地域防災研究センター</p> <p>地域特性に応じた「多重防災型まちづくり」と地域の安全を支えるための「災害文化の醸成と継承」を基本とする地域に根ざした防災システムの構築及び自然災害からの復興を推進することを目的とする。</p> <p>所在地：岩手県盛岡市上田四丁目3番5号 設置年月：平成24年4月 規模：104㎡</p> <p>○平泉文化研究センター</p> <p>東アジアにおける平泉遺跡群の国際的意義を解明するための研究拠点を形成し、平泉文化を国際的・学際的な観点のもとで総合化する「平泉学」を構築することを目指す。併せて、本学における教育研究の進展に寄与するとともに、その研究成果を基に、地域振興に寄与することを目的とする。</p> <p>所在地：岩手県盛岡市上田三丁目18番33号 設置年月：平成24年4月 規模：150㎡</p> <p>○三陸水産研究センター</p> <p>三陸沿岸をフィールドとし、水産業に関連する諸課題に対して分野横断的な研究リソースを動員して研究・開発の推進と成果の社会実装を進め、地震・津波等の災害や地球規模の気候変動に適応した持続的な水産業の構築に貢献するとともに、水産システムを俯瞰できるグローバルな視野を持った次世代の水産業を担う人材育成を行うことを目的とする。</p> <p>所在地：岩手県釜石市大字平田大三地割75番1号 設置年月：平成25年4月 規模：2,913㎡</p>									

附属施設の概要

○ものづくり技術研究センター

目的：これまで岩手大学が蓄積してきた金型技術、鋳造技術及び複合デバイス技術等、工学系分野の実績を活かし、これに農学系分野、社会科学系分野まで含めた全学体制でのものづくり技術の総合的研究拠点として、ものづくり技術に関する研究のさらなる発展を目指すとともに、研究成果ともものづくり技術を地域産業等に提供し、新産業の創出及び高度専門技術者の育成を通じて地域産業の発展及び岩手の基幹的産業の高度化を図ることを目的とする。

所在地：岩手県盛岡市上田四丁目3番5号

設置年月：平成28年4月

規模：1,227㎡

○次世代アグリイノベーション研究センター

目的：本学のこれまでの強み・特色となる農学分野の基盤研究をさらに発展・活用し、グローバルな環境変動や農業が直面している諸課題に対応する次世代農業のイノベーションを先導する基盤・応用研究拠点の構築を目指すとともに、その研究成果を基に地域振興を図ることを目的とする。

所在地：岩手県盛岡市上田三丁目18番8号

設置年月：平成30年4月

規模：26㎡

○分子接合技術研究センター

目的：本学の特色ある研究である表面界面・ナノ工学研究分野における分子接合技術及び樹脂精密合成技術のコア技術研究を推進し、エレクトロニクス実装分野などへのさらなる応用展開を図ることを目的とする。

所在地：岩手県盛岡市上田四丁目3番5号

設置年月：令和4年4月

規模：78㎡

○保健管理センター

目的：学生及び職員の心身両面にわたる健康の保持増進を図ることによって肉体的精神的に教育研究基盤を支え、地域に貢献する人材の輩出に寄与するとともに、大学における学校保健と労働衛生の実践活動を通して生じる研究成果を基に、学内にとどまらず健康な地域社会の発展のために積極的に貢献する。

所在地：岩手県盛岡市上田三丁目18番34号

設置年月：昭和47年5月

規模：440㎡

○情報基盤センター

目的：本学のキャンパス情報ネットワークを含む基盤的情報システムの運用管理を行うとともに、本学における教育、研究及び運営に係る業務を円滑に遂行するため、情報教育、情報技術の研究及び各部局等における情報化の支援を行うことを目的とする。

所在地：岩手県盛岡市上田三丁目18番8号

設置年月：昭和62年4月（平成26年4月名称変更）

規模：684㎡

○国際教育センター

目的：全学の学生を対象とした教育研究基盤施設として、グローバルな視点で社会課題解決に対応する能力の育成を行うことを目的とする。

所在地：岩手県盛岡市上田三丁目18番33号

設置年月：令和2年10月

規模：362㎡

○教学マネジメントセンター

目的：部局と連携・協力し、学修者本位の教育を行うための改善に取り組むことを目的とする。

所在地：岩手県盛岡市上田三丁目18番33号

設置年月：令和2年10月

規模：276㎡

○入試センター

目的：入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、入学者の確保に関する施策や調査・研究等について、各学部や関係部署と連携の上、総合的に推進する。

所在地：岩手県盛岡市上田三丁目18番8号

設置年月：平成26年4月

規模：25㎡

○地域協創教育センター

他部局及び地域社会の多様なステークホルダーと連携・協働しながら、正課教育と地域社会を实践の場とした正課外活動との循環・接続を図る教育（地域協創教育）を实践することにより、高い専門性と実践力を併せ持ち、社会の様々な視点から直面する課題を理解し、解決に向けて自律的に判断・行動ができる能力を持った人材を育成・輩出することを目的とする。

所在地：岩手県盛岡市上田三丁目18番33号

設置年月：令和5年9月

規模：172㎡

○教員養成支援センター

目的：岩手大学における教員養成の充実・強化、質の保証及び教員免許に関わる研修の実施等について、全学的視点から取組むことを目的とする。

所在地：岩手県盛岡市上田三丁目18番33号

設置年月：平成18年7月（平成26年4月名称変更）

規模：25㎡

○研究支援・産学連携センター

本学の特色ある研究の推進及び支援並びに学術研究の基盤強化を図るとともに、本学の教育研究成果及び知的資産の地域への普及・還元を通じ、地域創生に寄与することを目的とする。

所在地：岩手県盛岡市上田三丁目18番33号

設置年月：令和2年10月

規模：3,192㎡

○R I 総合実験センター

目的：放射性同位元素使用による基礎及び応用研究を推進し、併せて放射線による障害等の発生を防止することを目的とする。

所在地：岩手県盛岡市上田三丁目18番8号

設置年月：昭和58年4月（平成26年4月名称変更）

規模：523㎡

(注)

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあつては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあつては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあつては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

## 国立大学法人岩手大学 設置申請に係る組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入 学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入 学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>岩手大学</b>				<b>岩手大学</b>				
人文社会科学部	3年次			人文社会科学部	3年次			
人間文化課程	125	6	512	人間文化課程	125	6	512	
地域政策課程	75	4	308	地域政策課程	75	4	308	
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	160		640	学校教育教員養成課程	160	-	640	
理工学部	3年次			理工学部	3年次			
化学・生命理工学科	90	2	364		0	-	0	令和7年4月募集停止
物理・材料理工学科	80	2	324		0	-	0	令和7年4月募集停止
システム創成工学科	270	16	1112		0	-	0	令和7年4月募集停止
				<b>理工学科</b>	<b>414</b>	<b>20</b>	<b>1696</b>	学科の設置(届出)
農学部	3年次			農学部	3年次			令和7年4月募集停止
植物生命科学科	40	1	162		0	-	0	
応用生物化学科	40	1	162		0	-	0	
森林科学科	30		120		0	-	0	
食料生産環境学科	60	2	244		0	-	0	
動物科学科	30	1	122		0	-	0	
共同獣医学科(6年制)	30		180		0	-	0	
				<b>農学部</b>				学部の設置(届出)
				食料農学科	50	2	204	
				生命科学科	51	1	206	
				地域環境科学科	70	1	282	
				動物科学・水産科学科	55	1	222	
				<b>獣医学部</b>				学部の設置(届出)
				共同獣医学科(6年制)	30		180	
計	1030	35	4250	計	1030	35	4250	
<b>岩手大学大学院</b>				<b>岩手大学大学院</b>				
総合科学研究科				総合科学研究科				
地域創生専攻(M)	54	-	108	地域創生専攻(M)	54	-	108	
総合文化学専攻(M)	10	-	20	総合文化学専攻(M)	10	-	20	
理工学専攻(M)	180	-	360	理工学専攻(M)	180	-	360	
農学専攻(M)	50	-	100	農学専攻(M)	50	-	100	
理工学研究科				理工学研究科				
自然・応用科学専攻(D)	6	-	18	自然・応用科学専攻(D)	6	-	18	
システム創成工学専攻(D)	9	-	27	システム創成工学専攻(D)	9	-	27	
デザイン・メディア工学専攻(D)	3	-	9	デザイン・メディア工学専攻(D)	3	-	9	
教育学研究科				教育学研究科				
教職実践専攻(P)	16	-	32	教職実践専攻(P)	16	-	32	
連合農学研究科				連合農学研究科				
生物生産科学専攻(D)	9	-	27	生物生産科学専攻(D)	10	-	30	定員変更(1)
生物資源科学専攻(D)	8	-	24	生物資源科学専攻(D)	9	-	27	定員変更(1)
地域環境創生学専攻(D)	7	-	21	地域環境創生学専攻(D)	9	-	27	定員変更(2)
獣医学研究科				獣医学研究科				
共同獣医学専攻(D)	5	-	20	共同獣医学専攻(D)	5	-	20	
計	357	-	766	計	361	-	778	



## 基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
昭和24年5月	農学部農学科 設置	農学関係	設置認可(学部)
	農学部農芸化学科 設置	農学関係	
	農学部林学科 設置	農学関係	
	農学部獣医学科 設置	獣医学関係	
	農学部農業工学科 設置	農学関係	
昭和28年4月	農学部総合農学科 設置	農学関係	—
昭和39年4月	農学部総合農学科 → 農学部畜産学科	農学関係	—
昭和42年4月	農学部農業機械学科 設置	農学関係	—
	農学部農業工学科 → 農業土木学科	農学関係	名称変更(学科)
平成3年4月	農学部農林生産学科 設置	農学関係	—
	農学部応用生物学科 設置	農学関係	
	農学部農業生産環境工学科 設置	農学関係	
平成3年4月	農学部農学科 学生募集停止	農学関係	学生募集停止(学科)
	農学部農芸化学科 学生募集停止	農学関係	
	農学部林学科 学生募集停止	農学関係	
	農学部農業土木学科 学生募集停止	農学関係	
	農学部畜産学科 学生募集停止	農学関係	
	農学部農業機械学科 学生募集停止	農学関係	
平成12年4月	農学部農業生命科学科 設置	農学関係	—
	農学部農林環境科学科 設置	農学関係	
平成12年4月	農学部農林生産学科 学生募集停止	農学関係	学生募集停止(学科)
	農学部応用生物学科 学生募集停止	農学関係	
	農学部農業生産環境工学科 学生募集停止	農学関係	
平成19年4月	農学部農学生命課程 設置	農学関係	設置届出(学科)
	農学部応用生物化学課程 設置	農学関係	
	農学部共生環境課程 設置	農学関係	
	農学部動物科学課程 設置	農学関係	
	農学部獣医学課程 設置	獣医学関係	
平成19年4月	農学部農業生命科学科 学生募集停止	農学関係	学生募集停止(学科)
	農学部農林環境科学科 学生募集停止	農学関係	
	農学部獣医学科 学生募集停止	獣医学関係	
平成24年4月	農学部獣医学課程 → 農学部共同獣医学科	獣医学関係	設置届出(学科)

平成28年4月	農学部植物生命科学科 設置	農学関係	設置届出(学科)
	農学部応用生物化学科 設置	農学関係	
	農学部森林科学科 設置	農学関係	
	農学部食料生産環境学科 設置	農学関係	
	農学部動物科学科 設置	農学関係	
平成28年4月	農学部農学生命課程 学生募集停止	農学関係	学生募集停止(学科)
	農学部応用生物化学課程 学生募集停止	農学関係	
	農学部共生環境課程 学生募集停止	農学関係	
	農学部動物科学課程 学生募集停止	農学関係	
令和7年4月	獣医学部共同獣医学科 設置	獣医学関係	設置届出(学部)
令和7年4月	農学部植物生命科学科 学生募集停止	農学関係	学生募集停止(学部)
	農学部応用生物化学科 学生募集停止	農学関係	
	農学部森林科学科 学生募集停止	農学関係	
	農学部食料生産環境学科 学生募集停止	農学関係	
	農学部動物科学科 学生募集停止	農学関係	
	農学部共同獣医学科 学生募集停止	獣医学関係	

教育課程等の概要(共同学科等)																
(岩手大学獣医学部・東京農工大学農学部 共同獣医学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	開設大学	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
大学教育 導入科目群	獣医学基礎ゼミナール	1前	○	岩手大学	2				○		1	1		1		オムニバス
	農学基礎ゼミ	1前		東京農工大学	2				○						2	オムニバス
	小計(2科目)	—			4	0	0		—		1	1	0	1	0	2
スポーツ健康 科目群	健康・スポーツA	1前		岩手大学	1				○						1	
	健康・スポーツB	1後		岩手大学		1			○						1	
	健康・スポーツC	1後		岩手大学		1			○						1	標準外
	体力学実技	1前		東京農工大学	1				○						4	
	生涯スポーツ実技	1後		東京農工大学	1				○						4	
	小計(5科目)	—			3	2	0		—		0	0	0	0	0	6
外国語科目群	英語総合I	1前		岩手大学	1			○							1	
	英語総合II	1後		岩手大学	1			○							1	
	英語コミュニケーションI	1前		岩手大学	1			○							1	
	英語コミュニケーションII	1後		岩手大学	1			○							1	
	英語総合III	2前		岩手大学	1			○							1	
	英語コミュニケーションIII	2後		岩手大学	1			○							1	
	Integrated English	1前		東京農工大学	1				○						8	
	Paragraph Writing	1後		東京農工大学	1				○						9	
	English Discussion	1後		東京農工大学	1				○						7	
	Essay Writing	2前		東京農工大学	1				○						10	
	English Presentation	2前		東京農工大学	1				○						7	
	English Reading	2後		東京農工大学	1				○						8	
小計(12科目)	—			12	0	0		—		0	0	0	0	0	14	
人文社会科学科目群	教育学	1・2前・後		岩手大学		2		○							1	
	経済学・経営学	1・2前・後		岩手大学		2		○							1	
	芸術学	1・2前・後		岩手大学		2		○							1	
	言語学	1・2前・後		岩手大学		2		○							1	
	思想	1・2前・後		岩手大学		2		○							1	
	社会学	1・2前・後		岩手大学		2		○							1	
	心理学	1・2前・後		岩手大学		2		○							1	
	政治学	1・2前・後		岩手大学		2		○							1	
	文学	1・2前・後		岩手大学		2		○							1	
	法学	1・2前・後		岩手大学		2		○							1	
	歴史学	1・2前・後		岩手大学		2		○							1	
	憲法	1・2前・後		岩手大学		2		○							1	
	環境A	1前・後		岩手大学		2		○							1	
	環境B	1前・後		岩手大学		2		○							1	
	環境C	1前・後		岩手大学		2		○							1	
	環境D	1前・後		岩手大学		2		○							1	
	環境E	1前・後		岩手大学		2		○							1	
	環境F	1前・後		岩手大学		2		○							1	
	現代社会をみる視角	1前・後		岩手大学		2		○							1	
	宮沢賢治の世界	1前・後		岩手大学		2		○							1	
危機管理と復興	1前・後		岩手大学		2		○							1	標準外	
地場産業・企業論	1前・後		岩手大学		2		○							1	標準外	
ボランティアとリーダーシップ	1前・後		岩手大学		2		○							1	標準外	
地域協創入門	1前・後		岩手大学		2		○							1		
社会連携学A	1前・後		岩手大学		2		○							1		
社会連携学B	1前・後		岩手大学		2		○							1		
地域協創A	1前・後		岩手大学		1		○							1		





	理系大学生のための表現技法	1前		東京農工大学	1		○								2		
	生態・進化学	1後		東京農工大学	2		○				1		1		7	オムニバス	
	動物・植物科学	1後		東京農工大学	2		○			1	4		1		3	オムニバス	
	線形代数学 I	1前		東京農工大学	2		○								1		
	微分積分学 I	1後		東京農工大学	2		○								1		
	数理統計学	2後		東京農工大学	2		○								1		
	有機化学	2前		東京農工大学	2		○								2	オムニバス	
	生物学実験	1前		東京農工大学	1					○	1				1	共同	
	小計 (40科目)	—			4	69	0		—		4	12	0	3	0	48	
基礎獣医学科目群	獣医学概論	1前	○	岩手大学/東京農工大学	1		○	※			8	9		2		3	オムニバス・共同 (一部) ※演習 (一部)
	獣医倫理 I	1前	○	岩手大学/東京農工大学	1		○	※			3	5		2		2	オムニバス・共同 (一部) ※演習 (一部)
	獣医倫理 II	4後	○	岩手大学/東京農工大学	1		○	※			3	9		1		1	オムニバス・共同 (一部) ※演習 (一部)
	獣医事法規	4前	○	岩手大学/東京農工大学	1		○				1	1				1	オムニバス (岩手)
	運動器・神経系解剖学	1後	○	東京農工大学	2		○					1		1		1	オムニバス、メディア※1
	内臓・脈管系解剖学	2前	○	岩手大学	2		○				1	1					オムニバス、メディア※2
	解剖学実習 I	1後	○	岩手大学/東京農工大学	1				○		1	3		1		1	共同
	解剖学実習 II	2前	○	岩手大学/東京農工大学	2				○		1	3		1		1	共同
	組織学	2前	○	岩手大学	2		○				1						メディア※2
	組織学実習	2前	○	岩手大学/東京農工大学	1				○		1	3		1		2	共同
	発生学	1前	○	東京農工大学	1		○					1				1	共同、メディア※1
	生理学 I	1前	○	東京農工大学	2		○				1	1					オムニバス、メディア※1
	生理学 II	1後	○	岩手大学	2		○				1	1					オムニバス、メディア※2
	生理学実習	1後	○	岩手大学/東京農工大学	1				○		2	2					共同
	獣医基礎生化学	1前	○	岩手大学	2		○					1					メディア※2
	獣医代謝生化学	1後	○	東京農工大学	1		○				1						メディア※1
	生化学実習	1後	○	岩手大学/東京農工大学	1				○		1	2					共同 (農工)
	基盤薬理学	2前	○	東京農工大学	2		○					2					オムニバス、メディア※1
	統合薬理学	2後	○	岩手大学	2		○				1			1			オムニバス、メディア※2
	薬理学実習	2前	○	岩手大学/東京農工大学	1				○		1	2		1			共同
	獣医遺伝育種学	2前	○	岩手大学/東京農工大学	1		○				2					2	オムニバス (岩手)、共同 (農工)
	実験動物学	2前	○	岩手大学	2		○				1						メディア※2
	実験動物学実習	1後	○	岩手大学/東京農工大学	1				○		2	4					オムニバス (農工)・共同 (一部) (農工)
	基礎放射線学	2後	○	岩手大学/東京農工大学	2		○				1	1				1	オムニバス (岩手)
	畜産学概論	1前・1後	○	岩手大学/東京農工大学	2		○				2	1				1	共同 (岩手)、岩手は前期・農工は後期
	家畜飼養学	3前	○	岩手大学/東京農工大学	2		○				2	1				1	共同 (岩手)
	生物統計学	4後	○	東京農工大学	1		○					1					メディア※1
小計 (27科目)	—	—			40	0	0		—		12	26	0	6	0	10	
基礎獣医学科目群	動物病理学総論	2後	○	岩手大学/東京農工大学	3		○				2	2				1	共同 (岩手)、オムニバス (農工)
	動物病理学各論 I	3前	○	岩手大学	2		○				1			1			オムニバス、メディア※2
	動物病理学各論 II	3後	○	東京農工大学	2		○				1	2					オムニバス、メディア※1
	動物病理学実習 I	3前	○	岩手大学/東京農工大学	1				○		2	2				1	共同
	動物病理学実習 II	3後	○	岩手大学/東京農工大学	1				○		1	2		1		1	共同
	免疫学	2前	○	東京農工大学	2		○				3	1				1	オムニバス・共同 (一部)、メディア※1
	微生物学総論	1後	○	東京農工大学	2		○					1				1	共同、メディア※1
	病原微生物学	2前	○	岩手大学	2		○					1				2	オムニバス、メディア※2
	微生物学実習 I	2前	○	岩手大学/東京農工大学	1				○		1	2				1	共同 (岩手)
	微生物学実習 II	2後	○	岩手大学/東京農工大学	1				○			2				1	共同 (岩手)
	家禽疾病学	3前	○	岩手大学	2		○					1				1	オムニバス、共同 (一部)、メディア※2
	動物感染症学	2後	○	東京農工大学	2		○				1	2					オムニバス、メディア※1
	寄生虫学 I	2後	○	岩手大学	2		○				1	1					オムニバス、メディア※2
	寄生虫学 II	3前	○	岩手大学	1		○				1	1					オムニバス、メディア※2
	寄生虫学実習	3前	○	岩手大学/東京農工大学	1				○		2	2				1	共同 (岩手)・オムニバス (農工)
小計 (15科目)	—	—			25	0	0		—		6	6	0	1	0	7	
基礎獣医学科目群	魚病学	3後	○	東京農工大学	2		○				1					1	共同、メディア※1
	動物衛生学	3後	○	東京農工大学	2		○				1					1	共同、メディア※1
	動物衛生学実習	3後	○	岩手大学/東京農工大学	1				○		4					3	共同
	公衆衛生学総論	2後	○	岩手大学/東京農工大学	1		○				2					2	共同 (岩手)、オムニバス (農工)

専門教育科目

応用獣医学科目群	公衆衛生学実習	3後	○	岩手大学/東京農工大学	1					○		2	1		1	共同	
	食品衛生学(獣医)	3前	○	東京農工大学	2				○			1	1			オムニバス、メディア※1	
	食品衛生学実習	3前	○	岩手大学/東京農工大学	1					○		2	1			共同(農工)	
	環境衛生学	3後	○	岩手大学	2				○			1			1	共同、メディア※2	
	毒性学	3後	○	東京農工大学	2				○			1				メディア※1	
	毒性学実習	3後	○	岩手大学/東京農工大学	1					○		1	1	1		共同(岩手)	
	人獣共通感染症学	3前	○	岩手大学	2				○			1			1	共同、メディア※2	
	疫学	3前	○	東京農工大学	2				○			1			1	共同、メディア※1	
	野生動物学	3後	○	岩手大学/東京農工大学	1				○			1	2		1	オムニバス(岩手)	
	行政体験実習	2・3・4	○	岩手大学/東京農工大学	1					○		3	1		2	共同	
	小計(14科目)	—			21	0	0		—			2	11	0	2	0	8
	実証獣医学科目群	内科学総論	3前	○	岩手大学/東京農工大学	1				○		3				1	オムニバス(農工)、メディア※1※2
		呼吸器病・循環器病学	3後	○	東京農工大学	2				○		2		1			オムニバス、メディア※1
		消化器病学	4前	○	東京農工大学	2				○		2	3				オムニバス、メディア※1
外科学総論		3前	○	岩手大学/東京農工大学	1				○		2	3	1			オムニバス、メディア※1※2	
麻酔学・手術学		4前	○	岩手大学/東京農工大学	1				○		3	2			1	オムニバス	
軟部外科学		4前	○	岩手大学/東京農工大学	1				○		3	3	2			オムニバス	
小動物内科学実習・基礎編		3後	○	岩手大学/東京農工大学	1					○		2	3	1		共同(岩手)・オムニバス(農工)	
小動物内科学実習・応用編		4前	○	岩手大学/東京農工大学	1					○		4	5	2		共同(岩手)・オムニバス(農工)	
小動物外科学実習・基礎編		4前	○	岩手大学/東京農工大学	1					○		3	3	3	1	共同(岩手)・オムニバス(農工)	
小動物外科学実習・応用編		4後	○	岩手大学/東京農工大学	1					○		3	4	3		共同(岩手)・オムニバス(農工)	
内分泌病・皮膚病学		4前	○	東京農工大学	2				○		1	1				オムニバス、メディア※1	
代謝病・中毒学		4後	○	岩手大学	1				○		2					オムニバス	
血液免疫病学		4後	○	岩手大学/東京農工大学	1				○		3	1				オムニバス(農工)	
神経病・運動器病学		4後	○	岩手大学	2				○		1		1			オムニバス、メディア※2	
泌尿器病・生殖器病学		4前	○	岩手大学	1				○		2		1		1	オムニバス、メディア※2	
臨床病理学		3後	○	東京農工大学	2				○			1				メディア※1	
臨床薬理学		3後	○	東京農工大学	1				○			2				オムニバス、メディア※1	
臨床腫瘍学		4後	○	岩手大学/東京農工大学	1				○			2			3	オムニバス(岩手)、共同(農工)	
臨床栄養学		4後	○	東京農工大学	1				○		1				1	共同、メディア※1	
画像診断学		4後	○	岩手大学/東京農工大学	2				○		2	2	2			オムニバス	
画像診断学実習		4後	○	岩手大学/東京農工大学	1					○		1	3	2		共同(岩手)・オムニバス(農工)	
眼科学		4後	○	東京農工大学	1				○		2					メディア※1	
獣医動物行動学		4前	○	東京農工大学	2				○			1			1	オムニバス、メディア※1	
総合参加型臨床実習Ⅰ		5前	○	岩手大学/東京農工大学	1					○		4	8	4	1	共同	
総合参加型臨床実習Ⅱ		5後	○	岩手大学/東京農工大学	1					○		4	8	4	1	共同	
総合参加型臨床実習Ⅲ		5前	○	東京農工大学	1					○		2	6	1	1	共同	
総合参加型臨床実習Ⅳ		5前	○	東京農工大学	1					○		2	6	1	1	共同	
小計(27科目)	—	—		34	0	0		—			7	12	0	4	0	8	
大動物臨床獣医学科目群	繁殖機能制御学	4前	○	岩手大学	2				○				1		1	オムニバス、メディア※2	
	臨床繁殖学	4後	○	東京農工大学	2				○		1					メディア※1	
	繁殖機能制御学実習	4前	○	岩手大学/東京農工大学	1					○		1	1	1	1	共同	
	臨床繁殖学実習	4後	○	岩手大学/東京農工大学	1					○		1	1	1	1	共同	
	産業動物臨床学Ⅰ	4前	○	岩手大学	2				○			1			1	共同、メディア※2	
	産業動物臨床学Ⅱ	4後	○	岩手大学	2				○			1			2	オムニバス、メディア※2	
	馬臨床学	4後	○	岩手大学	2				○			1			1	共同、標準外、メディア※2	
	大動物臨床実習・基礎編	4前	○	岩手大学/東京農工大学	1					○		1	2	1	3	共同	
	大動物臨床実習・応用編	4後	○	岩手大学/東京農工大学	1					○		1	3	1	5	共同(岩手) オムニバス(農工)・共同(一部)(農工)	
	総合参加型臨床実習Ⅴ	5前	○	岩手大学	1					○		2	1		2	共同	
	総合参加型臨床実習Ⅵ	5後	○	岩手大学	1					○		2	1		2	共同	
小計(11科目)	—	—		16	0	0		—			2	4	0	1	0	9	
選択科目	学外実習(国内)	1・2・3・4	○	岩手大学/東京農工大学		1				○	4					共同	
	学外実習(国外)	1・2・3・4	○	岩手大学/東京農工大学		1				○	4					共同	
	人と動物関係学	2前	○	岩手大学		2			○		1	1			3	オムニバス	
	動物介在学	3前	○	岩手大学		2			○			1					
	宿主寄生物関係特論	4前	○	岩手大学		1			○		1	1				オムニバス	
	動物園動物学	2後	○	東京農工大学		2			※		1	1			1	オムニバス・共同(一部)※実習(一部)	

	国際感染症制御学	3後	○	東京農工大学		2		○	※		1	3			2	オムニバス・共同（一部）※演習（一部）
	動物病院経営学	4後	○	東京農工大学		1		○				1			3	オムニバス
	小計（8科目）	—	—		0	12	0	—			6	8	0	0	0	9
専修科目	獣医学演習	4後～5前	○	岩手大学/東京農工大学	4				○		17	31		9		3
	卒業研究	5後～6後	○	岩手大学/東京農工大学	10				○		17	31		9		3
	アドバンス演習	5前～6前	○	岩手大学/東京農工大学	4				○		17	31		9		3
	小計（3科目）	—	—		18	0	0	—			17	31	0	9	0	3
合計（215科目）		—	—		177	176	0	—			18	31	0	9	0	145

※ 備考欄の※1は、岩手大学本籍学生がメディアにより受講する科目、※2は、東京農工大学本籍学生がメディアにより受講する科目を表す。

学位又は称号	学士（獣医学）	学位又は学科の分野		獣医学関係		
卒業・修了要件及び履修方法		開設大学	開設単位数（必修）	授業期間等		
卒業要件：共通教育科目から必修科目14単位、選択科目16単位の合計30単位を修得するとともに、専門科目から必修科目154単位、選択科目5単位の合計159単位を修得し、合計189単位以上を修得すること。（履修科目の登録の上限：48単位（年間）） 総合参加型臨床実習の履修条件：獣医学共用試験に合格している者 専修科目の履修条件：3年終了時において共通教育科目（30単位）を全て修得し、必修専門科目（3年次まで）のうち未修得単位の合計が6単位以下である者		岩手大学	254（123）	1 学年の学期区分	2学期	
		東京農工大学	181（125）	1 学期の授業期間	15週	
				1 時限の授業の標準時間	90分	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(獣医学部共同獣医学科) 【岩手大学開設分】																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員 ( 助 手 を 除 く)
科 育 大 目 導 学 群 入 教	獣医学基礎ゼミナール	1前	○	2				○		1	1		1			オムニバス
	小計 (1科目)	—		2	0	0		—		1	1	0	1	0	0	
ス ポ ー ツ 健 康 目 群	健康・スポーツA	1前		1					○						1	
	健康・スポーツB	1後			1				○						1	
	健康・スポーツC	1後			1				○						1	標準外
	小計 (3科目)	—		1	2	0		—		0	0	0	0	0	1	
外 国 語 科 目 群	英語総合 I	1前		1				○							1	
	英語総合 II	1後		1				○							1	
	英語コミュニケーション I	1前		1				○							1	
	英語コミュニケーション II	1後		1				○							1	
	英語総合 III	2前		1				○							1	
	英語コミュニケーション III	2後		1				○							1	
小計 (6科目)	—		6	0	0		—		0	0	0	0	0	2		
人 文 社 会 科 学 科 目 群	教育学	1・2前・後			2			○							1	
	経済学・経営学	1・2前・後			2			○							1	
	芸術学	1・2前・後			2			○							1	
	言語学	1・2前・後			2			○							1	
	思想	1・2前・後			2			○							1	
	社会学	1・2前・後			2			○							1	
	心理学	1・2前・後			2			○							1	
	政治学	1・2前・後			2			○							1	
	文学	1・2前・後			2			○							1	
	法学	1・2前・後			2			○							1	
	歴史学	1・2前・後			2			○							1	
	憲法	1・2前・後			2			○							1	
	環境A	1前・後			2			○							1	
	環境B	1前・後			2			○							1	
	環境C	1前・後			2			○							1	
	環境D	1前・後			2			○							1	
	環境E	1前・後			2			○							1	
	環境F	1前・後			2			○							1	
	現代社会をみる視角	1前・後			2			○							1	
宮沢賢治の世界	1前・後			2			○							1		
危機管理と復興	1前・後			2			○							1	標準外	
地場産業・企業論	1前・後			2			○							1	標準外	
ボランティアとリーダーシップ	1前・後			2			○							1	標準外	

共通教育科目

地域協創入門	1前・後		2		○										1	
社会連携学A	1前・後		2		○										1	
社会連携学B	1前・後		2		○										1	
地域協創A	1前・後		1		○										1	
地域協創B	1前・後		1		○										1	
地域協創C	1前・後		1		○										1	
地域協創D	1前・後		1		○										1	
地域協創E	1前・後		1		○										1	
地域協創F	1前・後		1		○										1	
地域協創G	1前・後		1		○										1	
地域協創H	1前・後		1		○										1	
地域協創I	1前・後		1		○										1	
キャリアを考えるA	1前・後		2		○										1	
キャリアを考えるB	1前・後		2		○										1	
日本事情A	1前・後		2		○										1	
日本事情B	1前・後		2		○										1	
多文化コミュニケーションA	1前・後		2		○										1	
多文化コミュニケーションB	1前・後		2		○										1	
小計 (41科目)	—		0	73	0	—				0	0	0	0	0	22	
獣医細胞生物学	1前		2		○					1	1					オムニバス
基礎生物学実験	1前		1					○		2	4		2		2	共同
情報基礎A	1前		2		○										1	
情報基礎B	1後		2		○										1	
環境・防災学	1・2前・後		2		○										1	
自然科学	1・2前・後		2		○										1	
森林科学	1・2前・後		2		○										1	
農業環境工学	1・2前・後		2		○										1	
エネルギー科学	1・2前・後		2		○										1	
メディア情報学	1・2前・後		2		○										1	
機械科学	1・2前・後		2		○										1	
材料科学	1・2前・後		2		○										1	
数理情報科学	1・2前・後		2		○										1	
電気電子工学	1・2前・後		2		○										1	
物質科学	1・2前・後		2		○										1	
食品健康科学	1・2前・後		2		○										1	
水産学基礎	1・2前・後		2		○										1	
動物科学	1・2前・後		2		○										1	
農学基礎	1・2前・後		2		○										1	
分子生物機能科学	1・2前・後		2		○										1	
分子生命医科学	1・2前・後		2		○										1	
データ分析演習	2前		1			○									1	
統計的機械学習実践	2後		2			○									1	
小計 (23科目)	—		4	40	0	—	—	—		3	5	0	2	0	20	

配置大学特色科目

基礎 獣医学 科目 目 群	獣医学概論	1前	○	1			○			4	4		1		3	オムニバス、共同（一部）	
	獣医倫理 I	1前	○	1			○			2	2				2	オムニバス	
	獣医倫理 II	4後	○	1			○			2	4		1		1	オムニバス、共同（一部）	
	獣医事法規	4前	○	1			○			1					1	オムニバス	
	内臓・脈管系解剖学	2前	○	2			○			1	1					オムニバス	
	解剖学実習 I	1後	○	1				○		1	2					共同	
	解剖学実習 II	2前	○	2				○		1	2					共同	
	組織学	2前	○	2				○		1							
	組織学実習	2前	○	1				○		1	2						共同
	生理学 II	1後	○	2				○		1	1						オムニバス
	生理学実習	1後	○	1					○	1	1						共同
	獣医基礎生化学	1前	○	2				○			1						
	生化学実習	1後	○	1					○		1						
	統合薬理学	2後	○	2				○		1			1				オムニバス
	薬理学実習	2前	○	1					○	1			1				共同
	獣医遺伝育種学	2前	○	1				○		1						1	オムニバス
	実験動物学	2前	○	2				○		1							
	実験動物学実習	1後	○	1					○	1							
	基礎放射線学	2後	○	2				○		1						1	オムニバス
	畜産学概論	1前	○	2				○			1					1	共同、農工は1年後期
	家畜飼養学	3前	○	2				○			1					1	共同
小計（21科目）	—	—	31	0	0		—		6	9	0	3	0	7			
病態 獣医学 科目 目 群	動物病理学総論	2後	○	3			○		1						1	共同	
	動物病理学各論 I	3前	○	2			○		1			1				オムニバス	
	動物病理学実習 I	3前	○	1				○	1						1	共同	
	動物病理学実習 II	3後	○	1				○				1			1	共同	
	病原微生物学	2前	○	2			○			1					2	オムニバス	
	微生物学実習 I	2前	○	1				○		1					1	共同	
	微生物学実習 II	2後	○	1				○		1					1	共同	
	家禽疾病学	3前	○	2			○			1					1	オムニバス、共同（一部）	
	寄生虫学 I	2後	○	2			○		1	1						オムニバス	
	寄生虫学 II	3前	○	1			○		1	1						オムニバス	
	寄生虫学実習	3前	○	1					○	1	1					共同	
小計（11科目）	—	—	17	0	0		—		2	2	0	1	0	4			
応用 獣医学 科目 目 群	動物衛生学実習	3後	○	1				○		3					1	共同	
	公衆衛生学総論	2後	○	1			○			1					1	共同	
	公衆衛生学実習	3後	○	1				○		1					1	共同	
	食品衛生学実習	3前	○	1				○		1							
	環境衛生学	3後	○	2			○			1					1	共同	
	毒性学実習	3後	○	1				○	1			1				共同	
	人獣共通感染症学	3前	○	2			○			1					1	共同	
	野生動物学	3後	○	1			○		1						1	オムニバス	
	行政体験実習	2・3・4	○	1						2					2	共同	
小計（9科目）	—	—	11	0	0		—		2	4	0	1	0	4			
専 門 教 育 科 目																	

実証獣医学科目	小動物臨床獣医学科目群	内科学総論	3前	○	1			○			1								
		外科学総論	3前	○	1			○			1	1						オムニバス	
		麻酔学・手術学	4前	○	1			○			1					1		オムニバス	
		軟部外科学	4前	○	1			○			1	1		1				オムニバス	
		小動物内科学実習・基礎編	3後	○	1					○	1	1		1				共同	
		小動物内科学実習・応用編	4前	○	1					○	1	1		1				共同	
		小動物外科学実習・基礎編	4前	○	1					○	1	1		2		1		共同	
		小動物外科学実習・応用編	4後	○	1					○	1	1		2				共同	
		代謝病・中毒学	4後	○	1					○	2								オムニバス
		血液免疫病学	4後	○	1					○	1								
		神経病・運動器病学	4後	○	2					○	1			1					オムニバス
		泌尿器病・生殖器病学	4前	○	1					○	2			1		1			オムニバス
		臨床腫瘍学	4後	○	1					○		1				2			オムニバス
		画像診断学	4後	○	2					○	2			2					オムニバス
		画像診断学実習	4後	○	1					○	1	1		2					共同
		総合参加型臨床実習Ⅰ	5前	○	1					○	2	2		3					共同
		総合参加型臨床実習Ⅱ	5後	○	1					○	2	2		3					共同
小計(17科目)	—	—	19	0	0			—	3	2	0	3	0	4					
大動物臨床獣医学科目群	繁殖機能制御学	4前	○	2				○				1		1			オムニバス		
	繁殖機能制御学実習	4前	○	1				○				1		1			共同		
	臨床繁殖学実習	4後	○	1				○				1		1			共同		
	産業動物臨床学Ⅰ	4前	○	2				○		1				1			共同		
	産業動物臨床学Ⅱ	4後	○	2				○		1				2			オムニバス		
	馬臨床学	4後	○	2				○		1				1			共同、標準外		
	大動物臨床実習・基礎編	4前	○	1				○		2		1		2			共同		
	大動物臨床実習・応用編	4後	○	1				○		2		1		2			共同		
	総合参加型臨床実習Ⅴ	5前	○	1				○		2		1		2			共同		
	総合参加型臨床実習Ⅵ	5後	○	1				○		2		1		2			共同		
小計(10科目)	—	—	14	0	0			—	0	2	0	1	0	5					
選択科目	学外実習(国内)	1・2・3・4	○		1			○		2							共同		
	学外実習(国外)	1・2・3・4	○		1			○		2							共同		
	人と動物関係学	2前	○		2			○		1	1				3		オムニバス		
	動物介在学	3前	○		2			○			1								
	宿主寄生体関係特論	4前	○		1			○		1	1						オムニバス		
小計(5科目)	—	—	0	7	0			—	3	3	0	0	0	3					
専修科目	獣医学演習	4後～5前	○	4				○		7	11		6		3				
	卒業研究	5後～6後	○	10				○		7	11		6		3				
	アドバンス演習	5前～6前	○	4				○		7	11		6		3				
	小計(3科目)	—	—	18	0	0		—	7	11	0	6	0	3					
合計(150科目)		—	—	123	122	0		—	7	11	0	6	0	62					



学位又は称号	学士（獣医学）	学位又は学科の分野	獣医学関係
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：共通教育科目から必修科目14単位、選択科目16単位の合計30単位を修得するとともに、専門科目から必修科目154単位、選択科目5単位の合計159単位を修得し、合計189単位以上を修得すること。（履修科目の登録の上限：48単位（年間）） 総合参加型臨床実習の履修条件：獣医学共用試験に合格している者 専修科目の履修条件：3年終了時において共通教育科目（30単位）を全て修得し、必修専門科目（3年次まで）のうち未修得単位の合計が6単位以下である者		1 学年の学期区分	2学期
		1 学期の授業期間	15週
		1 時限の授業の標準時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要																
(農学部共同獣医学科) 【東京農工大学開設分】																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)以外の教員
導大 群 入 科 目 育	農学基礎ゼミ	1前		2					○						2	オムニバス
	小計 (1科目)	—		2	0	0			—		0	0	0	0	0	2
科ッ 目健 群康	体力学実技	1前		1					○						4	
	生涯スポーツ実技	1後		1					○						4	
	小計 (2科目)	—		2	0	0			—		0	0	0	0	0	5
外 国 語 科 目 群	Integrated English	1前		1					○						8	
	Paragraph Writing	1後		1					○						9	
	English Discussion	1後		1					○						7	
	Essay Writing	2前		1					○						10	
	English Presentation	2前		1					○						7	
	English Reading	2後		1					○						8	
	小計 (6科目)	—		6	0	0			—		0	0	0	0	0	12
共 通 教 育 科 目	現代倫理論	1・2後		2					○						1	
	日本国憲法	1前・1・2後		2					○						2	
	経済学	1前・1・2後		2					○						3	オムニバス(前期のみ)
	社会学	1・2後		2					○						1	
	心理学	1後		2					○						1	
	現代宗教論	1前		2					○						1	
	多文化共生論	1・2後		2					○						1	
	文学・芸術学	1後		2					○						1	
	哲学	1後		2					○						1	
	歴史学	1前		2					○						1	
小計 (10科目)	—		0	20	0			—		0	0	0	0	0	13	
配 置 大 学 特 色 科 目 群	細胞・遺伝学	1前		2					○			2			5	オムニバス
	情報処理学	1前		2					○						1	
	物理化学	1後		2					○						1	
	情報・データ科学活用入門Ⅰ	2・3・4		1					○						1	
	情報・データ科学活用入門Ⅱ	2・3・4		1					○						1	
	情報・データ科学活用入門Ⅲ	2・3・4		1					○						1	
	農業史	1前		2					○						1	
	食料・環境問題	1前		2					○						2	
	(農)の哲学と倫理	1前		2					○						2	オムニバス
	理系大学生のための表現技法	1前		1					○						2	
	生態・進化学	1後		2					○			1		1	7	オムニバス
	動物・植物科学	1後		2					○		1	4		1	3	オムニバス
	線形代数学Ⅰ	1前		2					○						1	
	微分積分学Ⅰ	1後		2					○						1	
	数理統計学	2後		2					○						1	
	有機化学	2前		2					○						2	オムニバス
	生物学実験	1前		1						○		1			1	共同
小計 (17科目)	—		0	29	0			—		1	6	0	1	0	28	
基 礎 獣 医 学 科 目 群	獣医学概論	1前	○	1					○	※		4	5		1	オムニバス・共同(一部)※演習(一部)
	獣医倫理Ⅰ	1前	○	1					○	※		1	3		2	オムニバス・共同(一部)※演習(一部)
	獣医倫理Ⅱ	4後	○	1					○	※		1	5			オムニバス・共同(一部)※演習(一部)
	獣医事法規	4前	○	1					○			1		1		
	運動器・神経系解剖学	1後	○	2					○			1			1	オムニバス
	解剖学実習Ⅰ	1後	○	1						○		1		1	1	共同
	解剖学実習Ⅱ	2前	○	2						○		1		1	1	共同
	組織学実習	2前	○	1						○		1		1	2	共同
	発生学	1前	○	1					○			1			1	共同
	生理学Ⅰ	1前	○	2					○		1	1				オムニバス
	生理学実習	1後	○	1						○	1	1				共同
	獣医代謝生化学	1後	○	1					○		1					共同
	生化学実習	1後	○	1						○	1	1				共同
	基盤薬理学	2前	○	2					○			2				オムニバス
薬理学実習	2前	○	1						○		2				共同	

基礎獣医学科目	獣医遺伝育種学	2前	○	1			○			1					1	共同	
	実験動物学実習	1後	○	1					○	1	4					オムニバス・共同（一部）	
	基礎放射線学	2後	○	2			○				1						
	畜産学概論	1後	○	2			○			2							
	家畜飼養学	3前	○	2			○			2							
	生物統計学	4後	○	1			○				1						
	小計（21科目）	—	—	28	0	0	—			6	17	0	3	0	3		
	病態獣医学科目群	動物病理学総論	2後	○	3			○			1	2					オムニバス
		動物病理学各論Ⅱ	3後	○	2			○			1	2					オムニバス
		動物病理学実習Ⅰ	3前	○	1					○	1	2					共同
		動物病理学実習Ⅱ	3後	○	1					○	1	2					共同
免疫学		2前	○	2			○			3	1				1	オムニバス・共同（一部）	
微生物学総論		1後	○	2			○				1				1	共同	
微生物学実習Ⅰ		2前	○	1					○	1	1						
微生物学実習Ⅱ		2後	○	1					○		1						
動物感染症学		2後	○	2			○			1	2						オムニバス
寄生虫学実習		3前	○	1					○	1	1				1	オムニバス	
小計（10科目）		—	—	16	0	0	—			4	4	0	0	0	3		
応用獣医学科目群	魚病学	3後	○	2			○				1				1	共同	
	動物衛生学	3後	○	2			○				1				1	共同	
	動物衛生学実習	3後	○	1					○		1				2	共同	
	公衆衛生学総論	2後	○	1			○				1				1	オムニバス	
	公衆衛生学実習	3後	○	1					○		1	1				共同	
	食品衛生学（獣医）	3前	○	2			○				1	1				オムニバス	
	食品衛生学実習	3前	○	1					○		1	1				共同	
	毒性学	3後	○	2			○				1						
	毒性学実習	3後	○	1					○		1						
	疫学	3前	○	2			○				1				1	共同	
	野生動物学	3後	○	1			○				2						
行政体験実習	2・3・4	○	1					○		1	1				共同		
小計（12科目）	—	—	17	0	0	—			0	9	0	1	0	4			
実証獣医学科目群	内科学総論	3前	○	1			○			2					1	オムニバス	
	呼吸器病・循環器病学	3後	○	2			○			2		1				オムニバス	
	消化器病学	4前	○	2			○			2	3					オムニバス	
	外科学総論	3前	○	1			○			1	2	1				オムニバス	
	麻酔学・手術学	4前	○	1			○			2	2					オムニバス	
	軟部外科学	4前	○	1			○			2	2	1				オムニバス	
	小動物内科学実習・基礎編	3後	○	1					○	1	2					オムニバス	
	小動物内科学実習・応用編	4前	○	1					○	3	4	1				オムニバス	
	小動物外科学実習・基礎編	4前	○	1					○	2	2	1				オムニバス	
	小動物外科学実習・応用編	4後	○	1					○	2	3	1				オムニバス	
	内分泌病・皮膚病学	4前	○	2			○			1	1					オムニバス	
	血液免疫病学	4後	○	1			○			2	1					オムニバス	
	臨床病理学	3後	○	2			○				1						
	臨床薬理学	3後	○	1			○				2					オムニバス	
	臨床腫瘍学	4後	○	1			○				1				1	共同	
	臨床栄養学	4後	○	1			○			1					1	共同	
	画像診断学	4後	○	2			○				2					オムニバス	
	画像診断学実習	4後	○	1					○		2					オムニバス	
	眼科学	4後	○	1			○			2							
	獣医動物行動学	4前	○	2			○				1				1	オムニバス	
	総合参加型臨床実習Ⅰ	5前	○	1					○	2	6	1			1	共同	
	総合参加型臨床実習Ⅱ	5後	○	1					○	2	6	1			1	共同	
	総合参加型臨床実習Ⅲ	5前	○	1					○	2	6	1			1	共同	
	総合参加型臨床実習Ⅳ	5前	○	1					○	2	6	1			1	共同	
小計（24科目）	—	—	30	0	0	—			4	10	0	1	0	4			
大動物臨床獣医学科目群	臨床繁殖学	4後	○	2			○			1							
	繁殖機能制御学実習	4前	○	1					○	1	1					共同	
	臨床繁殖学実習	4後	○	1					○	1	1					共同	
	大動物臨床実習・基礎編	4前	○	1					○	1					1	共同	
	大動物臨床実習・応用編	4後	○	1					○	1	1				3	オムニバス・共同（一部）	
小計（5科目）	—	—	6	0	0	—			2	2	0	0	0	4			
選択科目	学外実習（国内）	1・2・3・4	○	1				○	2							共同	
	学外実習（国外）	1・2・3・4	○	1				○	2							共同	
	動物園動物学	2後	○	2			○		※	1	1				1	オムニバス・共同（一部）※実習（一部）	
	国際感染症制御学	3後	○	2			○	※		1	3				2	オムニバス・共同（一部）※演習（一部）	
	動物病院経営学	4後	○	1			○				1				3	オムニバス	
小計（5科目）	—	—	0	7	0	—			3	5	0	0	0	6			
専修科目	獣医学演習	4後～5前	○	4				○	10	20		3					
	卒業研究	5後～6後	○	10				○	10	20		3					
	アドバンス演習	5前～6前	○	4				○	10	20		3					
	小計（3科目）	—	—	18	0	0	—		10	20	0	3	0	0			
合計（116科目）	—	—	125	56	0	—		11	20	0	3	0	83				

学位又は称号	学士（獣医学）	学位又は学科の分野	獣医学関係	
卒業・修了要件及び履修方法			授業期間等	
卒業要件：共通教育科目から必修科目14単位、選択科目16単位の合計30単位を修得するとともに、専門科目から必修科目154単位、選択科目5単位の合計159単位を修得し、合計189単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））  総合参加型臨床実習の履修条件：獣医学共用試験に合格している者  専修科目の履修条件：3年終了時において共通教育科目（30単位）を全て修得し、必修専門科目（3年次まで）のうち未修得単位の合計が6単位以下である者			1 学年の学期区分	2学期
			1 学期の授業期間	15週
			1 時限の授業の標準時間	90分

教育課程等の概要（共同学科等）

【既設】（岩手大学農学部・東京農工大学農学部共同獣医学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	開設大学	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
導入科目群	基礎ゼミナール	1前	岩手大学	1				○		1	1		1		兼2	オムパス
	農学基礎ゼミ	1前	東京農工大学	1				○							兼2	オムパス
	小計（2科目）	—		2	0	0		—		1	1	0	1	0	兼2	
スポーツ健康科目群	健康・スポーツA	1前	岩手大学	1				○							兼6	
	体力学実技	1前	東京農工大学	1				○							兼4	
	健康・スポーツB	1後	岩手大学	1				○							兼6	
	生涯スポーツ実技	1後	東京農工大学	1				○							兼4	
	小計（4科目）	—		4	0	0		—		0	0	0	0	0	兼12	
外国語科目群	英語総合Ⅰ	1前	岩手大学	1			○								兼8	
	英語総合Ⅱ	1後	岩手大学	1			○								兼8	
	英語コミュニケーションⅠ	1前	岩手大学	1			○								兼9	
	英語コミュニケーションⅡ	1後	岩手大学	1			○								兼7	
	英語総合Ⅲ	2前	岩手大学	1			○								兼1	
	英語コミュニケーションⅢ	2後	岩手大学	1			○								兼1	
	Integrated English	1前	東京農工大学	1			○								兼9	
	Paragraph Writing	1後	東京農工大学	1			○								兼9	
	English Discussion	1後	東京農工大学	1			○								兼5	
	Essay Writing	2前	東京農工大学	1			○								兼10	
	English Presentation	2前	東京農工大学	1			○								兼5	
	English Reading	2後	東京農工大学	1			○								兼9	
小計（12科目）	—		12	0	0		—		0	0	0	0	0	兼22		
人文社会科学科目群	哲学の世界	1・2前	岩手大学		2		○								兼2	
	哲学	2前	東京農工大学		2		○								兼1	
	倫理学の世界	1前・後	岩手大学		2		○								兼2	
	現代倫理論	1・2後	東京農工大学		2		○								兼1	
	憲法	2前・後	岩手大学		2		○								兼5	
	日本国憲法	1・2前・後	東京農工大学		2		○								兼2	
	経済のしくみ	2前・後	岩手大学		2		○								兼3	
	経済学	1・2前・後	東京農工大学		2		○								兼3	オムパス（前期のみ）
	現代社会の社会学	1後・2前・後	岩手大学		2		○								兼5	
	社会学	1後	東京農工大学		2		○								兼1	
	心の理解	1後・2後	岩手大学		2		○								兼6	
	心理学	1後	東京農工大学		2		○								兼1	
	日本の歴史と文化	1前・後	岩手大学		2		○								兼1	
歴史学	1前	東京農工大学		2		○								兼1		
市民と政治	1後・2前・後	岩手大学		2		○								兼1		

	グローバル政策論	2前	東京農工大学		2		○								兼1
	小計 (16科目)	—		0	32	0	—			0	0	0	0	0	兼36
理数系基礎科目群	生物学	1前	岩手大学	2			○								兼4
	化学	1前	岩手大学	2			○								兼1
	獣医細胞生物学	1後	岩手大学	2			○								兼1
	情報基礎	1前	岩手大学	2			○								兼12
	細胞・遺伝学	1前	東京農工大学	2			○		1	2					兼8 オムニバス
	物理化学	1後	東京農工大学	2			○								兼1
	微生物学	2前	東京農工大学	2			○			3					兼4
	情報処理学	1前	東京農工大学	2			○								兼1
	小計 (8科目)	—		16	0	0	—		1	5	0	0	0		兼32
	初級ドイツ語 (入門)	1前	岩手大学		1		○								兼7
	初級ドイツ語 (入門)	1前	岩手大学		1		○								兼7
	初級ドイツ語 (発展)	1後	岩手大学		1		○								兼7
	初級ドイツ語 (発展)	1後	岩手大学		1		○								兼7
	初級フランス語 (入門)	1前	岩手大学		1		○								兼10
	初級フランス語 (入門)	1前	岩手大学		1		○								兼10
	初級フランス語 (発展)	1後	岩手大学		1		○								兼9
	初級フランス語 (発展)	1後	岩手大学		1		○								兼9
	初級中国語 (入門)	1前	岩手大学		1		○								兼6
	初級中国語 (入門)	1前	岩手大学		1		○								兼6
	初級中国語 (発展)	1後	岩手大学		1		○								兼5
	初級中国語 (発展)	1後	岩手大学		1		○								兼5
	初級韓国語 (入門)	1前	岩手大学		1		○								兼3
	初級韓国語 (入門)	1前	岩手大学		1		○								兼3
	初級韓国語 (発展)	1後	岩手大学		1		○								兼3
	初級韓国語 (発展)	1後	岩手大学		1		○								兼3
	ドイツ語 I	1前	東京農工大学		1		○								兼1
	ドイツ語 II	1後	東京農工大学		1		○								兼1
	異文化理解のためのドイツ語	1後	東京農工大学		1		○								兼1
	フランス語 I	1前	東京農工大学		1		○								兼1
	フランス語 II	1後	東京農工大学		1		○								兼1
	異文化理解のためのフランス語	1後	東京農工大学		1		○								兼1
	中国語 I	1前	東京農工大学		1		○								兼2
	中国語 II	1後	東京農工大学		1		○								兼2
	異文化理解のための中国語	1後	東京農工大学		1		○								兼1
	スペイン語 I	1前	東京農工大学		1		○								兼1
	スペイン語 II	1後	東京農工大学		1		○								兼1
	異文化理解のためのスペイン語	1後	東京農工大学		1		○								兼1
	日本語初級	1後	東京農工大学		1		○								兼1
	日本語中級	1後	東京農工大学		1		○								兼1



基礎獣医学科目群	獣医学概論	1前	岩手大学/東京農工大学	2			○	※		10	10		2	兼1	私コハス・共同（一部・農工）※演習（一部）
	獣医倫理	1後	岩手大学/東京農工大学	2			○	※		11	10		1	兼1	私コハス※演習（一部）
	獣医事法規	4後	岩手大学/東京農工大学	1			○			2				兼1	
	運動器・神経系解剖学	2前	東京農工大学	2			○						1	兼1	私コハス・ｽﾚｲﾌ*1
	内臓・脈管系解剖学	2後	岩手大学	2			○			1	1				ｽﾚｲﾌ*2
	解剖学実習	2前・後	岩手大学/東京農工大学	3				○		1	3		1	兼1	共同
	組織学	2前	岩手大学	2			○			1					ｽﾚｲﾌ*2
	組織学実習	2前	岩手大学/東京農工大学	1				○		1	2		1	兼2	共同
	発生学	1後	東京農工大学	1			○							兼1	ｽﾚｲﾌ*1
	統合生理学	2前	東京農工大学	2			○			1	1			兼1	私コハス、ｽﾚｲﾌ*1
	器官制御生理学	2後	岩手大学	2			○			1	1				私コハス、ｽﾚｲﾌ*2
	内分泌学	3前	岩手大学/東京農工大学	2			○			2	2				私コハス
	生理学実習	2後	岩手大学/東京農工大学	1				○		2	2				共同
	獣医遺伝育種学	2前	岩手大学/東京農工大学	1			○			1				兼2	私コハス（岩手）
	動物行動学	2後	東京農工大学	2			○			1	1			兼1	私コハス、ｽﾚｲﾌ*1
	実験動物学	2前	岩手大学	2			○			1					ｽﾚｲﾌ*2
	実験動物学実習	2後	岩手大学/東京農工大学	1				○		2	4				私コハス・共同（一部）（農工）
	基礎放射線学	2後	岩手大学/東京農工大学	2			○			2	1				私コハス（岩手）
	獣医基礎生化学	2後	岩手大学	2			○				1				ｽﾚｲﾌ*2
	獣医代謝生化学	3前	東京農工大学	2			○							兼1	ｽﾚｲﾌ*1
	生化学実習	3前	岩手大学/東京農工大学	1				○		1	2				共同（農工）
	基盤薬理学	2前	東京農工大学	2			○				2				私コハス、ｽﾚｲﾌ*1
	統合薬理学	3後	岩手大学	2			○			1					ｽﾚｲﾌ*2
	薬理学実習	3前	岩手大学/東京農工大学	1				○		1	2		1		共同
小計（24科目）	—		41	0	0		—		15	21	0	5	0	兼10	
病態獣医学科目群	微生物学総論	2後	東京農工大学	2			○							兼1	ｽﾚｲﾌ*1
	病原微生物学	3前	岩手大学	2			○			1	1			兼1	私コハス、ｽﾚｲﾌ*2
	微生物学実習Ⅰ	2後	岩手大学/東京農工大学	1				○		2	1				共同（岩手）
	微生物学実習Ⅱ	3前	岩手大学/東京農工大学	1				○		1	2				共同（岩手）
	免疫学	3後	東京農工大学	2			○			2	1			兼1	私コハス・共同（一部）、ｽﾚｲﾌ*1
	原虫・原虫病学	3前	岩手大学	2			○			1	1				私コハス、ｽﾚｲﾌ*2
	蠕虫・蠕虫病・衛生動物学	3後	岩手大学	2			○			1	1				私コハス、ｽﾚｲﾌ*2
	寄生虫学実習	3後	岩手大学/東京農工大学	1				○		2	1			兼1	共同（大学）、私コハス（農工）
	動物感染症学	4前	東京農工大学	3			○			1	1				私コハス、ｽﾚｲﾌ*1
	家禽疾病学	4前	岩手大学	2			○			1					ｽﾚｲﾌ*2
	魚病学	4後	東京農工大学	2			○							兼1	ｽﾚｲﾌ*1
	動物病理学総論	3前・後	岩手大学/東京農工大学	2			○			3	2				私コハス（農工）
	動物病理学各論A（主要臓器）	3後	岩手大学	2			○			1			1		私コハス、ｽﾚｲﾌ*2
	動物病理学各論B（他臓器・組織）	4前	東京農工大学	2			○			2					私コハス、ｽﾚｲﾌ*1
	病理学実習Ⅰ	3後	岩手大学/東京農工大学	1				○		3					共同（農工）
	病理学実習Ⅱ	4前	岩手大学/東京農工大学	1				○		3			1		共同
小計（16科目）	—		28	0	0		—		7	5	0	1	0	兼5	



専門教育科目

応用獣医学科 科目群	公衆衛生学総論	3前	岩手大学/東京農工大学	1			○			2			兼1	私ニハス(農工)
	疫学	3前	東京農工大学	2			○			1				特イ7*1
	人獣共通感染症学	3後	岩手大学	2			○			1			兼1	特イ7*2
	環境衛生学	3後	岩手大学	2			○			1				特イ7*2
	公衆衛生学実習	3後	岩手大学/東京農工大学	1				○		1	2	1		共同
	毒性学	3後	東京農工大学	2			○			1				特イ7*1
	毒性学実習	4後	岩手大学/東京農工大学	1				○		1	1	1		共同(岩手)
	動物衛生学	3後	東京農工大学	2			○			1			兼2	私ニハス、特イ7*1
	動物衛生学実習	3後	岩手大学/東京農工大学	1				○		2	4			兼1 共同
	野生動物学	3後	岩手大学/東京農工大学	1			○			1	1			兼1 私ニハス(岩手)
	食品衛生学	4前	東京農工大学	2			○			1		1		特イ7*1
	食品衛生学実習	4前	岩手大学/東京農工大学	1				○		2		1		共同(農工)
	公衆衛生実践実習	3・4・5	岩手大学/東京農工大学	1				○		2	3	1		共同
小計(13科目)	—			19	0	0	—		5	7	0	3	0	兼6
小動物臨床獣医学科 科目群	内科学総論	3後	岩手大学/東京農工大学	1			○			4				私ニハス(農工)
	呼吸器病・循環器病学	4前	東京農工大学	2			○			2		1		私ニハス、特イ7*1
	消化器病学	4後	岩手大学/東京農工大学	2			○			3	4		兼2	私ニハス
	外科学総論	3後	岩手大学/東京農工大学	1			○			2	2	1		私ニハス(農工)
	麻酔学・手術学	4前	岩手大学/東京農工大学	1			○			3	3	2	兼1	私ニハス
	軟部外科学	4後	岩手大学/東京農工大学	1			○			3	3	3		私ニハス
	小動物内科学実習・基礎編	4前	岩手大学/東京農工大学	1				○		2	3	1		共同(岩手)、私ニハス(農工)
	小動物内科学実習・応用編	4後	岩手大学/東京農工大学	1				○		3	5	2		共同(岩手)、私ニハス(農工)
	小動物外科学実習・基礎編	4前	岩手大学/東京農工大学	1				○		3	4	2		共同(岩手)、私ニハス(農工)
	小動物外科学実習・応用編	4後	岩手大学/東京農工大学	1				○		3	5	2		共同(岩手)、私ニハス(農工)
	内分泌病・皮膚病学	5前	東京農工大学	2			○			1	1			私ニハス、特イ7*1
	代謝病・中毒学	5後	岩手大学/東京農工大学	1			○			4	1			私ニハス
	血液免疫病学	5後	岩手大学/東京農工大学	1			○			2	1		兼1	私ニハス
	神経病・運動器病学	5前	岩手大学	2			○			1				特イ7*2
	泌尿器病・生殖器病学	5後	岩手大学	2			○			3		1		私ニハス、特イ7*2
	臨床病理学	3後	岩手大学/東京農工大学	2			○			1	2	1		私ニハス(岩手)
	臨床薬理学	5前	東京農工大学	1			○				2			私ニハス、特イ7*1
	臨床腫瘍学	5後	岩手大学/東京農工大学	2			○			1	1		兼2	私ニハス(岩手)
	臨床栄養学	5後	岩手大学/東京農工大学	1			○			1			兼1	
	画像診断学	5前	岩手大学/東京農工大学	2			○			1	2	1		私ニハス
画像診断実習	5前	岩手大学/東京農工大学	1				○		2	4	2		共同(岩手)、私ニハス(農工)	
眼科学	5後	東京農工大学	1			○			1				特イ7*1	
動物行動治療学	4後	東京農工大学	1			○			1	1		兼1	私ニハス、特イ7*1	
総合参加型臨床実習Ⅰ	5前・後	岩手大学/東京農工大学	1				○		4	8	4	兼1	共同	
総合参加型臨床実習Ⅱ	5前・後	岩手大学/東京農工大学	1				○		4	8	4	兼1	共同	
総合参加型臨床実習Ⅲ	5後	東京農工大学	1				○		2	6	1	兼1	共同	
総合参加型臨床実習Ⅳ	5後	東京農工大学	1				○		2	6	1	兼1	共同	
小計(27科目)	—			35	0	0	—		9	12	0	4	0	兼8

実証獣医学科  
科目



教育課程等の概要															
【既設】(農学部共同獣医学科) 【岩手大学開設分】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学教育 科目群	基礎ゼミナール	1前	1					○		1	1		1		オムニバス
	小計(1科目)	—	1	0	0			—		1	1	0	1	0	—
スポーツ 健康科目群	健康・スポーツA	1前	1					○							兼6
	健康・スポーツB	1後	1					○							兼6
	小計(2科目)	—	2	0	0			—		0	0	0	0	0	兼6
外国語科目群	英語総合Ⅰ	1前	1				○								兼8
	英語総合Ⅱ	1後	1				○								兼8
	英語コミュニケーションⅠ	1前	1				○								兼9
	英語コミュニケーションⅡ	1後	1				○								兼7
	英語総合Ⅲ	2前	1				○								兼1
	英語コミュニケーションⅢ	2後	1				○								兼1
	小計(6科目)	—	6	0	0			—		0	0	0	0	0	兼9
人文社会科学科目群	哲学の世界	1・2前		2			○								兼2
	倫理学の世界	1前・後		2			○								兼2
	憲法	2前・後		2			○								兼5
	経済のしくみ	2前・後		2			○								兼3
	現代社会の社会学	1後・2前・後		2			○								兼5
	心の理解	1後・2後		2			○								兼6
	日本の歴史と文化	1前・後		2			○								兼1
	市民と政治	1後・2前・後		2			○								兼1
小計(8科目)	—	0	16	0			—		0	0	0	0	0	兼25	
理数系基礎科目群	生物学	1前	2				○								兼4
	化学	1前	2				○								兼1
	獣医細胞生物学	1後	2				○								兼1
	情報基礎	1前	2				○								兼12
	小計(4科目)	—	8	0	0			—		0	0	0	0	0	兼18
共通教育科目	初級ドイツ語(入門)	1前		1			○								兼7
	初級ドイツ語(入門)	1前		1			○								兼7
	初級ドイツ語(発展)	1後		1			○								兼7
	初級ドイツ語(発展)	1後		1			○								兼7
	初級フランス語(入門)	1前		1			○								兼10
	初級フランス語(入門)	1前		1			○								兼10
	初級フランス語(発展)	1後		1			○								兼9
	初級フランス語(発展)	1後		1			○								兼9
	初級中国語(入門)	1前		1			○								兼6
	初級中国語(入門)	1前		1			○								兼6



基礎獣医学科目 病態獣医学科目群 応用獣医学科目群 専門教育科目 小動物臨床獣医学科目群 実証獣医学科	統合薬理学	3後	2			○			1									
	薬理学実習	3前	1					○	1			1					共同	
	小計 (18科目)	—	30	0	0	—			6	6	0	3	0				兼3	
	病原微生物学	3前	2			○			1	1							兼1 オムニバス	
	微生物学実習 I	2後	1					○	1	1							共同	
	微生物学実習 II	3前	1					○	1	1							共同	
	原虫・原虫病学	3前	2			○			1	1							オムニバス	
	蠕虫・蠕虫病・衛生動物学	3後	2			○			1	1							オムニバス	
	寄生虫学実習	3後	1					○	1	1							共同	
	家禽疾病学	4前	2			○			1									
	動物病理学総論	3前	2			○			1									
	動物病理学各論 A (主要臓器)	3後	2			○			1			1					オムニバス	
	病理学実習 I	3後	1					○	1									
	病理学実習 II	4前	1					○	1			1					共同	
	小計 (11科目)	—	17	0	0	—			3	2	0	1	0					兼1
	公衆衛生学総論	3前	1			○				1								
	人獣共通感染症学	3後	2			○				1								兼1 オムニバス
	環境衛生学	3後	2			○			1									
	公衆衛生学実習	3後	1					○	1	1								共同
	毒性学実習	4後	1					○	1			1						共同
	動物衛生学実習	3後	1					○	2	3								共同
	野生動物学	3後	1			○			1									兼1 オムニバス
	食品衛生学実習	4前	1					○		1								
	公衆衛生実践実習	3・4・5	1					○	2	2								共同
	小計 (9科目)	—	11	0	0	—			5	3	0	1	0					兼2
	内科学総論	3後	1			○			1									
	消化器病学	4後	2			○			1	1								兼2 オムニバス
	外科学総論	3後	1			○			1									
	麻酔学・手術学	4前	1			○			1	1		2						兼1 オムニバス
	軟部外科学	4後	1			○			1	1		2						オムニバス
	小動物内科学実習・基礎編	4前	1					○	1	1		1						共同
	小動物内科学実習・応用編	4後	1					○	1	1		1						共同
	小動物外科学実習・基礎編	4前	1					○	1	1		2						共同
小動物外科学実習・応用編	4後	1					○	1	1		2						共同	
代謝病・中毒学	5後	1			○			3									オムニバス	
血液免疫病学	5後	1			○			1									兼1 オムニバス	
神経病・運動器病学	5前	2			○			1										
泌尿器病・生殖器病学	5後	2			○			3			1						オムニバス	
臨床病理学	3後	2			○			1	1		1						オムニバス	
臨床腫瘍学	5後	2			○			1	1								兼1 オムニバス	
臨床栄養学	5後	1			○			1										
画像診断学	5前	2			○			1			1						オムニバス	

科目	画像診断実習	5前	1					○	2	2		2			共同
	総合参加型臨床実習Ⅰ	5前	1					○	2	2		3			共同
	総合参加型臨床実習Ⅱ	5前	1					○	2	2		3			共同
	小計（20科目）	—	26	0	0			—	4	2	0	3	0		兼5
大動物臨床獣医学科目群	繁殖機能制御学	4前	2				○		1			1			オムニバス
	繁殖機能制御学実習	4前	1					○	1			1			オムニバス
	臨床繁殖学実習	4後	1					○	1			1			共同
	産業動物臨床学Ⅰ	4前	2				○								兼1
	産業動物臨床学Ⅱ	4後	2				○			1					兼1 オムニバス
	馬臨床学	4後	1				○								兼1
	大動物臨床実習・基礎編	5前	1					○	2	2		1			共同
	大動物臨床実習・応用編	5前	1					○	2	2		1			共同
	総合参加型臨床実習Ⅴ	5後	1					○	2	2		1			共同
	総合参加型臨床実習Ⅵ	5後	1					○	2	2		1			共同
	小計（10科目）	—	13	0	0			—	2	2	0	1	0		兼3
選択科目	インターンシップ	3・4・5		1				○	2						集中・共同
	海外実習	3・4・5		1				○	2						集中・共同
	人と動物関係学	2前		2			○		1	1					兼1 集中・オムニバス
	動物品種論	3前		2			○		2						兼1 集中・オムニバス
	食品安全管理学	4前		2			○		1						集中
	小計（5科目）	—	0	8	0			—	6	1	0	0	0		兼2
専修科目	獣医学演習	4後～5前	4					○	11	10	0	5	0		共同
	卒業研究	5後～6後	10					○	11	10	0	5	0		共同
	小計（2科目）	—	14	0	0			—	11	10	0	5	0		兼0
合計（129科目）		—	128	74	0			—	11	10	0	5	0		兼144
学位又は称号		学士（獣医学）			学位又は学科の分野			獣医学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
共通教育科目から必修科目17単位、選択科目27単位の計44単位を修得するとともに、専門科目から必修科目152単位、選択科目6単位の計158単位を修得し、合計202単位以上修得すること。								1学年の学期区分				2学期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

教育課程等の概要

【既設】（農学部共同獣医学科）【東京農工大学開設分】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
導入学科目群	農学基礎ゼミ	1前	1				○							兼2	オムニバス
	小計（1科目）	—	1	0	0		—		0	0	0	0	0	兼2	
スポーツ健康	体力学実技	1前	1					○						兼4	
	生涯スポーツ実技	1後	1					○						兼4	
	小計（2科目）	—	2	0	0		—		0	0	0	0	0	兼6	
外国語科目群	Integrated English	1前	1				○							兼9	
	Paragraph Writing	1後	1				○							兼9	
	English Discussion	1後	1				○							兼5	
	Essay Writing	2前	1				○							兼10	
	English Presentation	2前	1				○							兼5	
	English Reading	2後	1				○							兼9	
小計（6科目）	—	6	0	0		—		0	0	0	0	0	兼13		
人文社会科学科目群	哲学	2前		2		○								兼1	
	現代倫理論	1・2後		2		○								兼1	
	日本国憲法	1・2前・後		2		○								兼2	
	経済学	1・2前・後		2		○								兼3	オムニバス（前期のみ）
	社会学	1後		2		○								兼1	
	心理学	1後		2		○								兼1	
	歴史学	1前		2		○								兼1	
	グローバル政策論	2前		2		○								兼1	
小計（8科目）	—	0	16	0		—		0	0	0	0	0	兼11		
理数系基礎科目群	細胞・遺伝学	1前	2			○			1	2				兼8	オムニバス
	物理化学	1後	2			○								兼1	
	微生物学	2前	2			○				3				兼4	
	情報処理学	1前	2			○								兼1	
	小計（4科目）	—	8	0	0		—		1	5	0	0	0	兼14	
共通教育科目	ドイツ語Ⅰ	1前		1		○								兼1	
	ドイツ語Ⅱ	1後		1		○								兼1	
	異文化理解のためのドイツ語	1後		1		○								兼1	
	フランス語Ⅰ	1前		1		○								兼1	
	フランス語Ⅱ	1後		1		○								兼1	
	異文化理解のためのフランス語	1後		1		○								兼1	
	中国語Ⅰ	1前		1		○								兼2	
	中国語Ⅱ	1後		1		○								兼2	
	異文化理解のための中国語	1後		1		○								兼1	
	スペイン語Ⅰ	1前		1		○								兼1	
	スペイン語Ⅱ	1後		1		○								兼1	
	異文化理解のためのスペイン語	1後		1		○								兼1	
	日本語初級	1後		1		○								兼1	
	日本語中級	1後		1		○								兼1	
	日本語上級	1前		1		○								兼1	
	日本語上級ステップアップ	1後		1		○								兼1	
	配置大学特色科目	農業史	1前		2		○								兼1
知的財産権・特許法		2後		2		○								兼3	オムニバス
多文化共生論		1・2後		2		○								兼1	
動物と人間の行動		2後		2		○			1	1					オムニバス
キャリア・プランニング		2後		2		○								兼1	

群	食料・環境問題	1前	2	○								兼15	オムニバス	
	技術者倫理	2後	2	○								兼1		
	生命倫理	2後	2	○								兼1		
	現代宗教論	1・2前	2	○								兼1		
	理系大学生のための表現技法	1前	1	○								兼1		
	生態・進化学	1後	2	○			1					兼7	オムニバス	
	動物・植物科学	1後	2	○			2	4				兼5	オムニバス	
	物理学	1前	2	○								兼1	メディア	
	線形代数学 I	1前	2	○								兼1		
	微分積分学 I	1後	2	○								兼1		
	数理統計学	2後	2	○								兼1		
	有機化学	2前	2	○								兼2	オムニバス	
	生物学実験	1前	1			○		2				兼1	共同	
	情報・データ科学活用入門 I	2・3・4	1	○								兼1		
	情報・データ科学活用入門 II	2・3・4	1	○								兼1		
	情報・データ科学活用入門 III	2・3・4	1	○								兼1		
	小計 (37科目)	—	0	23	0	—	5	5	0	0	0	兼49		
基礎 獣医学 科目群	獣医学概論	1前	2	○	※	4	6		1				オムニバス・共同 (一部) ※演習 (一部)	
	獣医倫理	1後	2	○	※	5	4						オムニバス・共同 (一部) ※演習 (一部)	
	獣医事法規	4後	1	○								兼1		
	運動器・神経系解剖学	2前	2	○					1			兼1	オムニバス	
	解剖学実習	2前・2後	3			○	1		1			兼1	共同	
	組織学実習	2前	1			○			1			兼2	共同	
	発生学	1後	1	○								兼1		
	統合生理学	2前	2	○		1	1					兼1	オムニバス	
	内分泌学	3前	2	○		1	1						オムニバス	
	生理学実習	1後	1			○	1	1					共同	
	獣医遺伝育種学	2前	1	○								兼1		
	動物行動学	2後	2	○		1	1					兼1	オムニバス	
	実験動物学実習	2後	1			○	1	4					オムニバス・共同 (一部)	
	基礎放射線学	2後	2	○			1							
	獣医代謝生化学	3前	2	○								兼1		
	生化学実習	3前	1			○	1	1					共同	
	基盤薬理学	2前	2	○			2						オムニバス	
	薬理学実習	3前	1			○		2					共同	
	小計 (18科目)	—	29	0	0	—	9	15	0	2	0	兼7		
	基礎 獣医学 科目群	微生物学総論	2後	2	○								兼1	
		微生物学実習 I	2後	1			○	1					0	
		微生物学実習 II	3後	1			○		1				0	
		免疫学	3後	2	○		2	1					兼1	オムニバス・共同 (一部)
寄生虫学実習		3後	1			○	1					兼1	オムニバス	
動物感染症学		4前	3	○		1	1					0	オムニバス	
魚病学		4後	2	○								兼1		
動物病理学総論		3後	2	○		2	2					0	オムニバス	
動物病理学各論 B (他臓器・組織)		4前	2	○		2						0	オムニバス	
病理学実習 I		3後	1			○	2					0	共同	
病理学実習 II		4前	1			○	2					0	共同	
小計 (11科目)	—	18	0	0	—	4	3	0	0	0	兼4			
応用 獣医学 科目群	公衆衛生学総論	3前	1	○			1					兼1	オムニバス	
	疫学	3前	2	○			1							
	公衆衛生学実習	3後	1			○	1		1				共同	
	毒性学	3後	2	○			1							
	毒性学実習	3後	1			○	1							
	動物衛生学	3後	2	○			1					兼2	オムニバス	
	動物衛生学実習	3後	1			○	1					兼1	共同	
	野生動物学	3後	1	○			1							
	食品衛生学	4前	2	○			1		1				オムニバス	
	食品衛生学実習	4前	1			○	1		1				共同	
公衆衛生実践実習	3・4・5	1			○	1		1				共同		
小計 (11科目)	—	15	0	0	—	0	4	0	2	0	兼4			
専 門 教 育 科 目	内科学総論	3後	1	○		3							オムニバス	
	呼吸器病・循環器病学	4前	2	○		2			1				オムニバス	
	消化器病学	4後	2	○		2	3						オムニバス	
	外科学総論	3後	1	○		1	2		1				オムニバス	
	麻酔学・手術学	4前	1	○		2	2						オムニバス	
	軟部外科学	4後	1	○		2	2		1				オムニバス	
	小動物内科学実習・基礎編	4前	1			○	1	2					オムニバス	
	小動物内科学実習・応用編	4後	1			○	2	4		1			オムニバス	
	小動物外科学実習・基礎編	4前	1			○	2	3					オムニバス	
小動物外科学実習・応用編	4後	1			○	2	4					オムニバス		



実証獣医学科目	動物臨床獣医科目群	内分泌病・皮膚病学	5前	2			○			1	1						オムニバス		
	代謝病・中毒学	5後	1			○			1	1							オムニバス		
	血液免疫病学	5後	1			○			1	1							オムニバス		
	臨床病理学	3後	2			○				1									
	臨床薬理学	5前	1			○				2							オムニバス		
	臨床腫瘍学	5後	2			○											兼1		
	臨床栄養学	5後	1			○											兼1		
	画像診断学	5前	2			○				2							オムニバス		
	画像診断実習	5前	1					○		2								オムニバス	
	眼科学	5後	1				○			1									
	動物行動治療学	4後	1				○			1	1						兼1	オムニバス	
	総合参加型臨床実習Ⅰ	5後	1					○	2	6		1					兼1	共同	
	総合参加型臨床実習Ⅱ	5後	1					○	2	6		1					兼1	共同	
	総合参加型臨床実習Ⅲ	5後	1					○	2	6		1					兼1	共同	
	総合参加型臨床実習Ⅳ	5後	1					○	2	6		1					兼1	共同	
小計(25科目)	—	31	0	0			—	5	10	0	1	0				兼3			
大動物臨床獣医学科目群	臨床繁殖学	4後	2				○		1										
	繁殖機能制御学実習	4前	1					○	1	1								共同	
	臨床繁殖学実習	4後	1					○	1	1								共同	
	大動物臨床実習・基礎編	5前	1					○	1								兼1	共同	
	大動物臨床実習・応用編	5前	1					○	1	1							兼3	オムニバス・共同(一部)	
小計(5科目)	—	6	0	0			—	2	2	0	0	0				兼4			
選択科目	インターンシップ	3・4・5		1				○		1									
	海外実習	3・4・5		1				○		1									
	動物園動物学	2後		2			○	※	1	1							兼2	オムニバス・共同(一部) ※実習(一部)	
	国際感染症制御学	2後		2			○	※	1	3								兼2	オムニバス・共同(一部) ※演習(一部)
	動物病院経営学	4後		2			○											兼3	オムニバス
小計(5科目)	—	0	8	0			—	2	5	0	0	0				兼7			
専修科目	獣医学演習	4後～5前	4					○	12	21		3							
	卒業研究	5後～6後	10					○	12	21		3							
	小計(2科目)	—	14	0	0			—	12	21	0	3	0				兼0		
合計(135科目)	—	130	47	0			—	12	21	0	3	0				兼124			
学位又は称号		学士(獣医学)						獣医学関係											
卒業要件及び履修方法						授業期間等													
共通教育科目から必修科目17単位、選択科目27単位の計44単位を修得するとともに、専門科目から必修科目152単位、選択科目6単位の計158単位を修得し、合計202単位以上修得すること。						1学年の学期区分						2学期							
						1学期の授業期間						15週							
						1時限の授業時間						90分							

授 業 科 目 の 概 要					
(岩手大学獣医学部・東京農工大学農学部共同獣医学科)					
科目区分	開設大学	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	大学教育導入科目群	岩手大学	獣医学基礎ゼミナール	○ 全学共通教育・専門教育・大学生活へのイントロダクションや、学生が互いに学びあうことによって、獣医学分野の基礎知識や心構えを身につけ、学習意欲を高めると共に協調性や社会性の大切さを再認識する。 (オムニバス方式/15回) (45 宮崎珠子/13回) 第1回～13回：資料館見学、図書館見学、研究室訪問、生物学勉強会、震災学修(56 佐々木淳/1回) 第14回：標本室見学(2 片山泰章/1回) 第15回：動物病院見学	オムニバス
		東京農工大学	農学基礎ゼミ	第1回から第5回までの講義等の内容 大学を知り、大学でいかに学ぶかを考える講義形式の授業です。 本学は、現代社会と科学技術が顕在化した持続発展可能な社会の実現に向けた課題を正面から受け止め、農学、工学およびその融合領域における自由な発想に基づく教育研究を通して、世界の平和と社会や自然環境と調和した科学技術の進展に貢献するとともに、課題解決とその実現を担う人材の育成と知の創造に邁進することを基本理念としています。本学の理念・歴史と共に、研究活動に関する理解を深め、学びへの意欲を増進すると共に、キャリア形成を理解することを目的としています。 (オムニバス方式/15回) (133 安村 友紀/5回) 本学の理念・歴史とともに、本学の研究活動や社会的な取組み、そして研究倫理に関する理解を深め、学びへの意欲の増進と俯瞰的な大学生活の設計を促します。 (73 北野 克和/10回) 大学生活に適応し、自発的な学習習慣を身につけることを目的としています。この授業を通し、大学での学びは問いを立てて理解を深めること、知を開拓する面白さや、主体的に学ぶことにあることを実感、自覚し、大学生活への動機付けを目的としています。	オムニバス
スポーツ健康科目群	岩手大学	健康・スポーツA		スポーツをツールとして、心身の健康と体力を高めるための技法知を学修する科目であり、第1週：オリエンテーション及び実技種目選択、第2週：講義「学生生活と健康」、第3～13週：実技、第14週：講義「運動生理学」で構成されている。その中で、①すこやかな大学生活をおくるために必要な知識の理解、②体を動かすことの楽しさを味わい体力に応じた運動計画の立案と実践、③公正・協力・責任・参画に対する意欲と安全の確保、④豊かなスポーツライフ実現へ向けた自己と仲間の課題に応じた工夫、を到達目標としている。	
	岩手大学	健康・スポーツB		スポーツをツールとして、心身の健康と体力を高めるための技法知を学修する科目であり、第1週：オリエンテーション及び実技種目選択、第2～12週：実技、第13週：講義「体力づくりのために」、第14週：講義「スポーツと事故」で構成されている。その中で、①スポーツの楽しさを深く味わい、体力と健康を増進する方法を理解し実践する、②公正・協力・責任・参画に対する意欲を高める、③安全を確保しながら主体的にスポーツ活動に参加する、④豊かなスポーツライフ実現へ向けた自己と仲間の課題に応じた工夫、⑤スポーツを「する」ことのみならず「知る・観る・支える」といった多様な関わり方について理解し実践する、を到達目標としている。	
	岩手大学	健康・スポーツC		積雪寒冷地にある本学の特徴を生かし、冬季スポーツをツールとして、心身の健康と体力を高めるための技法知を学修する科目であり、岩手県内のスキー場あるいはスケート場を使用した合宿研修型の集中講義である。「雪上のスポーツ」としてアルペンスキー、「氷上のスポーツ」としてスケート・カーリング・アイスホッケーを取り扱う。その中で、①冬季スポーツの楽しさを深く味わい、体力と健康を増進する方法を理解し実践する、②公正・協力・責任・参画に対する意欲を高める、③安全を確保しながら主体的にスポーツ活動に参加する、④豊かなスポーツライフ実現へ向けた自己と仲間の課題に応じた工夫、⑤スポーツを「する」ことのみならず「知る・観る・支える」といった多様な関わり方について理解し実践する、⑥合宿研修でのルールやマナーの理解と実践、を到達目標としている。	標準外
	東京農工大学	体力学実技		豊かで健全な社会生活（大学生生活含む）を営むための身体的な基盤となる健康関連体力を自己管理する方法を実践することを目的とし、スポーツ健康科学科目として位置づける。健康関連体力や運動能力を測定し、自己の体力レベルに適したエクササイズを行なう。体力トレーニング法の実技に加えて、各種スポーツ種目の特性を活かしたエクササイズ実技を行う。各自の授業成果を分析し、考察する。	
	東京農工大学	生涯スポーツ実技		スポーツは個々人の自由な自発的欲求に基づくものであり、社会生活においてスポーツを楽しむことは単に「する」だけにとどまらない。オリンピック・パラリンピックやワールドカップを観戦したり、子供の運動会で応援するなど、スポーツを「みる」楽しさもある。さらに、職場や地域で健康づくりイベントを企画運営したり、指導者やボランティアとして協力するなど、スポーツを「ささえる」側に立って楽しみを分かち合うこともある。「スポーツは、個々人のより高く豊かな生活の質を実現することに役立ち、その楽しみ方や関わり方が個々の体力レベルやライフイベントにより生涯を通して変容していくものである。本科目では、希望するスポーツ種目を選択し、そのスポーツに特有の文化的側面の理解、運動スキル・戦術・ルール・マナー・審判方法・試合の運営方法等を実技で学びながら、将来の社会形成に貢献する能力を身に付けることを目的として、スポーツ健康科学科目に位置づける。	
外国語科目群	岩手大学	英語総合Ⅰ		複雑な英文を正確に理解できる読解力、多様なトピックについて適切な英文を書くことができる作文力の育成を中心にして授業を行なう。これにリスニングとスピーキングの言語活動も加え、英語による総合的なコミュニケーション能力を養う。こうした英語力の育成を通して、他国および自国の文化や社会を理解してグローバル社会に貢献できる人材を養成する。	
	岩手大学	英語総合Ⅱ		複雑な英文を正確に理解できる読解力、多様なトピックについて適切な英文を書くことができる作文力の育成を中心にして授業を行なう。これにリスニングとスピーキングの言語活動も加え、英語による総合的なコミュニケーション能力を養う。こうした英語力の育成を通して、他国および自国の文化や社会を理解してグローバル社会に貢献できる人材を養成する。	

共通教育科目	外国語科目群	岩手大学	英語コミュニケーションⅠ		社会や文化に関する多様なトピックを英語で聞いて正しく理解する能力、自分の意見を英語で論理的に説明する能力、英語によるディベートやプレゼンテーションの能力を育成する。オーラルコミュニケーションが中心となるが、必要な情報を英語で集めるための読解力の向上も行なう。こうした英語力の育成を通して、グローバル社会に対応できる人材を育てる。	
		岩手大学	英語コミュニケーションⅡ		社会や文化に関する多様なトピックを英で聞いて正しく理解する能力、自分の意見を英語で論理的に説明する能力、英語によるディベートやプレゼンテーションの能力を育成する。オーラルコミュニケーションが中心となるが、必要な情報を英語で集められるための読解力の向上も行なう。こうした英語力の育成を通して、グローバル社会に対応できる人材を育てる。	
		岩手大学	英語総合Ⅲ		獣医学部2年生を対象とし、複雑な英文を十分に理解する読解力と、様々なテーマにおける適切な論述力の養成に重点を置く。これらの英語力の育成を通して、アカデミックな文章を理解し、自らアカデミックな文章を書ける人材を育成する。	
		岩手大学	英語コミュニケーションⅢ		獣医学部2年生を対象に、様々な社会的・文化的なトピックを英語で聞き取り、十分に理解する力、自分の意見を英語で論理的に説明する力、英語でディベートやプレゼンテーションができる力を養成する。このような英語力の育成を通して、自分の考えをわかりやすく伝え、発表できる未来の獣医師を育成する。	
		東京農工大学	Integrated English		大学で必要とされる英語の基礎固めを目的とし、Integrated Englishを農工大の英語カリキュラムの導入科目として位置付けます。学生は、英語のスキルを様々な組み合わせで使うことを学びます。この科目では特に、リーディング、リスニングなどの受容技能を向上させることを目指します。あわせて、それらの受容技能を、ライティング、スピーキングなどの発表技能と統合することを学びます。	
		東京農工大学	Paragraph Writing		大学で必要となる自律的に学びを深める力は、特定の事柄について、自分で調べて、考えて、書くことを通して培われます。したがって、一年次にParagraph Writingを必修科目とし、英語で文章を記述する上での基礎であるパラグラフの構成の仕方を学び、形式性と論理性を意識して英文を書く技能を修得します。習熟度別クラス編成で授業を行います。この科目は、農工大の英語カリキュラムのライティング入門科目として位置づけられます。	
		東京農工大学	English Discussion		英語で積極的にコミュニケーションをはかる能力を伸ばすために、必修科目として1年次にEnglish Discussion、2年次にEnglish Presentationを開講し、アカデミックな環境で重要となる英語によるディスカッション能力、プレゼンテーション能力を身につけます。English Discussionでは、学術的な場面を含め、いろんな場面において、英語で話す際の基本的なスキルを学びます。また、効果的なコミュニケーションをするためのノウハウも学びます。	
		東京農工大学	Essay Writing		この科目では、Paragraph Writingで修得した技能を前提とし、パラグラフを組み合わせてることによって、自分の考えを英文エッセイとして論理的に表現する技能を身につけます。また、構想を練り、草稿を作成し、推敲・編集を重ねることを通して、議論をまとめ上げるプロセス・ライティングに習熟することを目指します。	
		東京農工大学	English Presentation		英語で積極的にコミュニケーションをはかる能力を伸ばすために、必修科目として1年次にEnglish Discussion、2年次にEnglish Presentationを開講し、アカデミックな環境で重要となる英語によるディスカッション能力、プレゼンテーション能力を身につけます。English Presentationでは、どのように学術的なプレゼンテーションを行うか、どのようにしたら効果的なプレゼンテーションができるのかを学びます。	
		東京農工大学	English Reading		大学での研究で必要とされる英語の読解力を身につけるため、科学技術や世界事情、文化・社会などについて、論理的に書かれたやや複雑な英文を、Essay Writingまでで習得した文章構成方法を基礎として、パラグラフごとの論点の展開、対比されている複数の視点、文献参照と引用、等を理解しつつ読みます。12月第2土曜日に受験するTOEFL ITPのスコアを20点に換算して成績に算入します。この科目は、農工大の英語カリキュラムの2年次必修英語科目として開講されます。	
人文社会科学科目群	岩手大学	教育学		学生が自らの教育観を相対化し、教育をめぐる諸問題を多角的に考察するための視座を高めることを目的とする。教育学の対象は学校教育にとどまらず、人間の学びと成長、文化の創造や地域づくりなどにも及ぶ。本講義では、教育哲学・思想、教育史、生涯学習・社会教育学、教育方法学、カリキュラム学、教育行政学、教育社会学、比較教育学、教科教育学などに基づく教育学の知見を紹介することで、学生が自己の生き方や教育のあり方を考える力を養成する。		
	岩手大学	経済学・経営学		本講義では、経済学・経営学の視点から、現代社会で起きている諸問題を理解し、考察する力を身につけることを目標とする。担当教員が経済学・経営学の基本的理論について説明した後、理論をもとに社会問題について考察する。本講義では、農業経済論、理論経済学、政治経済学、財政学、環境経済学、経営学(とりわけ人的資源管理論)の視点から、毎回の講義担当者が社会問題を取り上げつつ、基礎的な理論をもとに講義をする。本講義では、表層的な内容を理解することにとどまらず、そうした問題が起る要因を深く考察する力を養成することを心がける。また、そうした問題に対し、受講者自身がいかにか考えるのか、その問題についてどのような問題性を感じるのかを考える機会を作りたい。		
	岩手大学	芸術学		音楽・美術・書道・デザインなどのいずれかの芸術関連分野について取り上げながら、芸術への理解を深め、親しみを持って探求する姿勢を身につけることを目的とする。様々な作品やそれらに関わる考え方に触れることは、単に知識を獲得するだけではなく、感性を磨き、社会における他者理解や異文化理解を深める一助となる。また、自己表現から自己実現へとつながる成長の過程にも有効である。豊かな人間性を涵養し、創造力をはぐくむ手がかかりとなるとともに、芸術を愛好し、文化的な共生社会の実現に向けた主体的な活動ができるようになる礎を築くものとして学習の機会を提供する。		
	岩手大学	言語学		言語学とは、人間の言語の仕組み、特徴などについて様々な面から研究・分析する学問である。本講義では、身近な言語である日本語を中心に、言葉・言語に関するさまざまな問題を取り上げつつ、言語全般について言語学の立場からの見方を学ぶ。特に、多くの学生にとっての母語である日本語について、ほかの多くの言語と同列の一言語として対象化・相対化することを通して、固定観念にとらわれない柔軟なものを見方を身につけるとともに、言葉というものの仕組みと言葉を使う人間について理解を深めることを目指す。		

岩手大学	思想		「思想」領域では、西洋や日本の思想のなかに表現されている人間観、世界観、倫理観、死生観などについて学修することによって、他の文化に属する思想を深く理解するとともに、それとの比較によって、自らの文化的背景を反省的に顧みる能力を養成することを目指す。具体的には、哲学、倫理学、西洋思想史、日本思想史などの観点から、思想の歴史と現代における展開について学修する。その際、単に個別の文化思想について知識を獲得するだけではなく、社会で自明のこととされている常識や通念を批判的に捉え返すことができるようなものの見方や考え方、基礎的な議論の立て方などについても学修する。そのことによって、文化的背景や価値観が異なる者どうしの間で、その差異を尊重しつつ、より普遍的な価値の創出に向けて協働していくための基礎的素養を身につける。	
岩手大学	社会学		近代社会の誕生とともに生まれた社会学の基礎的な枠組みを学び、私たちが生きる社会を考えることが本講義の目標となる。例えば、一人ひとりの行為者の主観的意味内容を理解することによって社会現象を説明したM・ウェーバーの主張は、現在の社会を理解するためにむしろ重要性が増していると言える。本講義では、マクロレベルの諸現象を自分の問題として捉える視点、また、身近な問題を社会と関連づける視点を身につけ、現代的課題の背景にある人間と社会の関係、これからの時代の共生社会のあり方を考察する。	
岩手大学	心理学		心理学とは、人間の「こころ」を科学的に理解する学問である。人間の「こころ」を広く深く理解するためには、複数の研究対象とアプローチが必要となる。主な研究対象としては、人間の知覚・感覚、記憶、認知、学習、感情、パーソナリティ、発達、ストレス、適応、健康、コミュニケーション、対人関係、社会的影響等がある。これらの研究対象の中から、先人たちが蓄積してきたアプローチのいくつかを紹介する。つまり、人間の「こころ」を理解するには、自分自身（自己）の理解だけではなく、自分に影響を及ぼす他者や環境とのかかわりも複眼的に理解してもらう講義内容となる。	
岩手大学	政治学		現代政治の仕組みとプロセス（政治的意識、選挙制度と民主主義、利益団体、政党、国会、行政と地方自治、政官関係、外交、安全保障と国際政治、世論とマスメディア、政策決定過程、現代の政治的対立軸など）の基本について解説する。欧米先進諸国との比較の視点も踏まえて、とりわけ日本の政治を読み解く上で必要とされる基礎知識を学ぶと同時に、現代日本の政治課題について筋の通った意見を述べるために求められる教養を身につけること、現実の政治の中から自ら問題を発見し、自ら考え、問題解決の方途を探る眼を養うことを目的とする。	
岩手大学	文学		作家・作品等に関する基礎知識や作品内容の解釈のみにとどまらず、作品の文化的・社会的背景や同時代および後代における享受・影響など、多角的な観点から文学作品に対する理解を深める。多角的な観点を導入することで、作者や作品に関する知識を獲得するだけでなく、日本文化および異文化への興味関心を養い、時間的・文化的差異を越えて存在する人間や社会に関する問題を探究する能力を獲得することを目指す。なお、ここでいう文学作品とは必ずしも文字で書かれたものに限らず、演劇作品等も含むものとする。授業形態に関しては、教員による講義のほか、グループワークやリアクションペーパーの内容共有など、学生同士の意見の交換を促す工夫を取り入れる。これにより、学生が自身の意見や考察を適切な論理展開・言語表現で表出できるようにすることを目指す。	
岩手大学	法学		広い視野を持って個々の社会現象間の連関を認識することを通して、現代社会を科学的に把握するための知識や「ものの見方・考え方」を修得し、もって現代社会に適切に対応し、これからの社会を形成していく市民としての基礎的素養の一つとして市民生活に必要な法的基礎知識の修得を目的とする。この目的を達成するために、「法の目的」「法の効力」「法の存在形式」など法学一般の内容と、私法・公法等の具体的な規定を取り上げながら、市民としての私たちの生活に法がどのように機能しているのかを論じる。	
岩手大学	歴史学		歴史学は資料の正確な読みや、新資料の発見によって、書き直されていくものである。また、過去との対話を通して現代を相対化するとともに、現代という時代がどのように形成されてきたかを明らかにすることもできる。現代に埋没しては、かえって現代は見えてこないからである。つまり、現代を深く理解し、将来に向けての自分の生き方を考えるためにも、歴史学は不可欠な学問である。授業を通して、そのことを理解するとともに、日本・アジア・西洋の各地域に関する政治・社会・経済・文化・思想などの歴史を学ぶことにより、広い視野から相互に比較することを通して、各地域の歴史の違いや影響関係などを考え、地域と現代についての理解を深めることを目指す。	
岩手大学	憲法		学生に対し、教養教育の根幹をなす憲法の考え方について、単に字句の表層的な理解にとどまらず、幅広い背景知識とともに理解を深め、現代社会の諸問題を多角的・客観的な視野から考察する手掛かりを得ることを求めるものである。講義の前半は、日本国憲法の特徴について説明していく。その後、現在問題とされている社会的な事象を取り上げ、そこにおいて憲法がどのように理解され、適用され、どのような結果をもたらすべきなのか、を考えていく。	
岩手大学	環境A		生活・都市・地球環境・水・廃棄物・農畜産業・森林などの環境に関するテーマを設定し、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、感情に流されず、理性的に「環境問題」と向き合えるような「ものの見方や考え方」を身につける。	
岩手大学	環境B		生活・都市・地球環境・水・廃棄物・農畜産業・森林などの環境に関するテーマを設定し、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、感情に流されず、理性的に「環境問題」と向き合えるような「ものの見方や考え方」を身につける。	
岩手大学	環境C		生活・都市・地球環境・水・廃棄物・農畜産業・森林などの環境に関するテーマを設定し、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、感情に流されず、理性的に「環境問題」と向き合えるような「ものの見方や考え方」を身につける。	
岩手大学	環境D		生活・都市・地球環境・水・廃棄物・農畜産業・森林などの環境に関するテーマを設定し、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、感情に流されず、理性的に「環境問題」と向き合えるような「ものの見方や考え方」を身につける。	
岩手大学	環境E		生活・都市・地球環境・水・廃棄物・農畜産業・森林などの環境に関するテーマを設定し、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、感情に流されず、理性的に「環境問題」と向き合えるような「ものの見方や考え方」を身につける。	
岩手大学	環境F		生活・都市・地球環境・水・廃棄物・農畜産業・森林などの環境に関するテーマを設定し、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、感情に流されず、理性的に「環境問題」と向き合えるような「ものの見方や考え方」を身につける。	

岩手大学	現代社会をみる視角		現代社会はさまざまな問題を抱え、日々それに対する対応が迫られている。旧来型の社会制度に見直し求められるとともに、日本社会の持続可能性に関わる問題が露呈してきた。ことに、東日本大震災に見舞われた私たちは、震災後の復旧・復興を見据えた、多くの、かつ新たな諸問題に直面している。 この講義では、現代社会ならびに地域社会が抱える今日的な諸問題を、法学、経済学、社会学、科学論といった分野から多角的に考察し、もって、一筋の光明を見いだすことを目的とする。	
岩手大学	宮沢賢治の世界		本学の先輩であり、宗教、科学、文学、環境問題など様々な分野に強い関心を持ち、稀有の詩、童話を残した宮沢賢治の作品に幅広く触れる。専門分野の異なる複数の教員により、これまでの賢治研究の成果を学び、賢治を見る複数の視点を獲得し、賢治が持っていた問題意識に迫る。安易に文系とも理系とも区分けも限定も出来ない多層的な詩人・宮沢賢治を多角的・総合的に捉える基礎を作る。	
岩手大学	危機管理と復興		いわて高等教育コンソーシアムの「地域復興を担う中核的人材育成プラン」における中核的人材育成事業として開発する「地域リーダー育成プログラム」のコア科目の一つで、危機管理や防災、都市計画、コミュニティの再生などについて学び、それぞれのテーマに関連した実習等を行いながら、想定される災害等に対して的確に振る舞うことができるとともに、被災地域の復興にかかわる様々な状況に的確に対応し得る能力と知見を修得する。	標準外
岩手大学	地場産業・企業論		地元企業の訪問調査を通じて能動的な学びと社会人としての基礎力を実践的に学び、地元企業の魅力を適切に理解し、地元企業の魅力探究や地元定着のための課題を整理する。雇用の課題は採用側（求人）、就職側（求職）、地域や行政側と多岐にわたっている。それらの課題を実践的かつ客観的に学び分析し、自らの課題として捉えることのできる能力を身につける。	標準外
岩手大学	ボランティアとリーダーシップ		いわて高等教育コンソーシアムの「地域復興を担う中核的人材育成プラン」における中核的人材育成事業として開発する「地域リーダー育成プログラム」のコア科目の一つで、ボランティア活動に関する知識や技能、リーダーの役割、組織の動かし方などについて学び、ボランティアが必要とされる事態やグループで活動するような様々な状況に対応し得る能力と知見を修得する。また、修得した能力・知見を活かしてボランティア活動を実践する。	標準外
岩手大学	地域協創入門		持続可能な社会の実現を目指し、アンロックをキーワードに学生自らが学びをデザインすることができる基礎力を養成する。また、VUCA時代の特徴を理解し、かつ、多面的なスキルと柔軟性の重要性を認識し、問題解決と振り返りのスキルを向上させ、学びを深化させる能力を養成する。	
岩手大学	社会連携学A		企業経営に必須となる要素を知識として学ぶと同時に、経営実務において必須となるスキルや企業経営や組織運営の難しさとポイントを体系的に学ぶ。講義では、企業経営に携わる方から企業経営の必須要素、企業経営に必要な戦略について学び、学生自らがキャリアプランを考えることができる力を養成する。	
岩手大学	社会連携学B		公共政策の社会的な意義と役割に必須となる要素を知識として学び、また、近年高まっているコレクティブ・インパクト等の地域活性化の手法について、実践事例を通じて手法の仕組みを学ぶ。講義では、社会に参画している意識を実感できる場として、実際の公共政策に携わる方々とのディスカッションを行う。	
岩手大学	地域協創A		”平和”をテーマに人類の歴史を俯瞰しながら、戦争と平和の要因と結果、影響範囲を検証し、学生自身にできることの延長線上に平和を感じられるようにするために何が必要かを学ぶ。講義では、実践活動をしている国連機関や報道機関等の方々のディスカッションを通じて平和に貢献すると思われる学生自身の身近なアクションプランを策定する。	
岩手大学	地域協創B		先端企業の実践的な活動を通じて、AI、DX、ビッグデータ、グリーンテクノロジーに関する基本的な知識を学び、また、テクノロジー関連企業の歴史的な進化とテクノロジーがビジネスと社会に与える影響を具体的に理解する。	
岩手大学	地域協創C		“Wellbeing/Diversity”の歴史的な変遷と組織や各国での浸透度を具体的な事例を活用しながら検証し、“Wellbeing/Diversity”が重要視されるようになった背景や学生自身が“Wellbeing/Diversity”の考え方を実践するための具体的なマインドセットと行動指針を学ぶ。また、組織の中で“Wellbeing/Diversity”を推進するために必要なマネジメント能力の養成を図る。	
岩手大学	地域協創D		組織の人材育成課題に焦点を当て、実際の組織に対する調査と分析を通じて、適切な人材育成プランを作成する方法を学ぶ。また、教材の設計と提供を通じて、自己学習の計画を立て、他人に教えるスキルを向上させ、実践的なスキルの修得を図る。	
岩手大学	地域協創E		アントレプレナー人材の養成を目的に、ビジネス系を中心とした民間/公共で活躍している人材を講師として招き、実際の現場で必要とするスキル、考え方、起きている出来事にフォーカスした実践的な学びを通じて、地域の課題やその解決手法について学ぶ	
岩手大学	地域協創F		ソーシャルイノベーション人材の養成を目的に、ソーシャル系を中心とした民間/公共で活躍している人材を講師として招き、実際の現場で必要とするスキル、考え方、起きている出来事にフォーカスした実践的な学びを通じて、地域の課題やその解決手法について学ぶ	
岩手大学	地域協創G		先端企業の実践的な活動を通じて、AI、DX、ビッグデータ、グリーンテクノロジーに関する基本的な知識を学び、また、テクノロジー関連企業の歴史的な進化とテクノロジーがビジネスと社会に与える影響を具体的に理解する。	
岩手大学	地域協創H		実社会でのフィールドワークを通じて、学生自らが課題を発見し、課題を自分目線で見つめなおし、グループワークにより課題を認識・整理し、理解する。また、今までに修得した考具を使用して発見した課題に対する対応策への検討を行い、学生自らが対応策に応じたプロジェクトを創生することができる力の醸成を図る。	
岩手大学	地域協創I		学生自らが今までに修得した考具を使用して発見した課題に対し、対応するプロジェクトを創生し成功させるために必要となる準備段階から運営、クロージングまでの流れを具体的な事例を活用しながら学び、プロジェクト・チームを企画し運営することができる力の醸成を図る。	

岩手大学	キャリアを考えるA		予測不能な時代において、自分はどうか？大学で何をどのように学ぶか？自分はどうか？自分はどうか？自分はどうか？自分に問を立て、自分の将来をプランニングするための基礎的な知識を身に付ける講義である。学生同士や学外の社会人との関わりから多様な考え方を獲得し、「自己に気づく力」「社会・地域と関わる力」、キャリア自律が求められる社会を「生き抜く力」を身に付けることを目指す。グループワークなど能動的な学びを通して、自分らしいキャリアを描くための進路選択行動につなげる態度を醸成する。	
岩手大学	キャリアを考えるB		学生が自らのキャリアを具体的にイメージできるように、岩手大学の卒業生や地元で活躍する社会人のキャリア実践例を通じて学ぶ機会とする。それぞれの社会人のキャリア・ストーリーから、判断のポイントや考え方、社会で働く意味などを、ディスカッション形式も取り入れて体感的に学びを深める機会とする。	
岩手大学	日本事情A		外国人留学生を対象とし、日本や岩手の歴史や文化、社会について学び、日本人のものの考え方や行動の根底にある民族性を理解することを目的とする。様々な調査や発表活動を通じ、日本の独自性、他国との相違などについて考える力を養成する。	
岩手大学	日本事情B		外国人留学生を対象とし、主体的に情報収集を行いながら日本の社会。文化、日本人等について知識を高めると同時に、討論等を行い、日本について理解を深める。	
岩手大学	多文化コミュニケーションA		日本人学生と留学生が共修し、多文化状況において必要な基礎的な知識、技能を高める。授業中は、毎回、多文化状況でのコミュニケーション課題についてテーマを設定し、日本人学生と留学生が討論し、課題解決の方策を探る。また、学外の人々との接触、協働体験を通じ、多文化社会において想定される課題について解決する態度、技能を高める。	
岩手大学	多文化コミュニケーションB		日本人学生と外国人留学生が共修し、多文化状況において必要なコミュニケーション力の基礎力を高める。クラスの中、また他大学の学生と多文化社会において想定される課題について協働して解決する体験を通じ、多文化状況とは何か、コミュニケーションとは何かについて知識と技能を習得し、グローバル社会での基礎力を高める。	
東京農工大学	現代倫理論		本講義では、現代社会に生きるわれわれがいかに生きるべきかという問いを倫理的な視点から考える。一見、自らの意志で生きているようで、どこか何者かによって動かされて生きている感覚。この感覚をもちながら、生きているのは私だけだろうか。本講義を通じて、現代社会において自ら考え、行為することの難しさ、同時に自ら考え、行為することを放棄してしまうことの危うさを、受講者が考える契機とする。現代社会において、社会の中で流されて生きてしまっていないだろうか。「ジリツ」が叫ばれ、個性が奪われているが、あなたは「ジリツ」できているかどうか、さらに個性を發揮できているだろうか。はたまた、社会の中で流されて生きることに馴化してはいないだろうか。本講義では、このような問いを、倫理学の諸理論に触れることを通じて、考えていきたい。「自ら考え、行為すること」を考えることは、「いかに生きるべきか」を問うことであり、倫理学の問いそのものである。	
東京農工大学	日本国憲法		日本国憲法は、我々国民が守るべきことが書かれた法ではありません。ここにある憲法とは、国家権力を制限して国民の権利・自由を守ることが目的とする国家の基礎法のことです。どこの国の歴史においても、国家権力はしばしば濫用され、これにより国民の権利・自由は侵害されてきました。憲法は、そのような歴史を踏まえて定められた法規範なのです。日本の憲法も、戦争の放棄をはじめ、国家権力を制限する様々な仕組みが定められています。そこで、日本国憲法におけるそのような仕組みを理解するのが本講義の目標です。憲法の教科書を見ると、大きく分けて、憲法について検討するための一般理論である「憲法総論」、憲法が保障する自由と権利に関する「基本権（人権）」、政府の権限分配に関する「統治機構」の三分野があります。この授業では、日本国憲法の基本原理、立憲主義とは何かを理解し、人権の分野について学び、可能であれば統治機構論についてもふれ、ひいては「憲法に基づいたものの見方」を養うことを目的とします。	
東京農工大学	経済学		前期に開講される経済学に関する講義等の内容 経済理論（近代経済学）はミクロ経済学（新古典派経済学）とマクロ経済学（ケインズの一般理論に由来）に大きく分類される。ミクロ経済学では、市場の資源配分機能とその背景にある個々の経済主体（消費者や生産者）の行動様式について考察する。ここで留意すべきは、市場は効率的な資源配分を実現するメカニズムであり、そこでは価格が重要なシグナルとして機能している点にある。これが、ミクロ経済理論が一般に 価格理論とも呼ばれている理由である。一方、マクロ経済学では、GDP、失業率、利子率、為替レートなどの集計的経済変数の動向やそれら変 数間の関係および背景にある諸要因について分析する。また財政政策や金融政策に関する分析もマク ロ経済学の重要なテーマである。本授業では、まず、経済学な考え方を概説したうえで、現在私たちが直面している経済現象のいくつかを具体例として示しながら、本題であるマクロ経済学とミクロ経済学の諸理論について説明していく。 (オムニバス方式/15回) (147 丸 健/前半7回) マクロ経済学の紹介およびミクロ経済学の価格理論を扱う。  (121 草 旭 基/後半8回) 不完全競争市場における市場の限界および政府の役割を扱う。  後期に開講される経済学に関する講義等の内容 主にマルクス経済学をベースにしなが、封建社会とその崩壊、資本主義の発生・確立、後期資本主義への転化、ならびに日本資本主義の発達史、金融史を理解するための講義です。あわせて資本主義に特徴的な生産関係、商品化、貨幣、資本等の概念についても考察を行います。  以下の教員が後期に経済学を単独で担当する 62 新井 祥穂	オムニバス（前期のみ）
東京農工大学	社会学		人と社会の学であるところの社会学の理論や視点を学び、社会は私たちがどう捉えているか、私たちは 私たち自身や社会をどう捉えているか、またそのつながりについて理解する。	
東京農工大学	心理学		心理学は、複雑な「心」を科学的に解明し、理解しようとする学問です。現代心理学が扱う内容や方法は多岐に渡りますが、この授業では心理学における基礎的な知見を理解し、それらが日常生活の中でどのように作用しているのかを知ることが目標とします。また、自分の心理状態の一端を知る試みも授業中に取り上げる予定です。	

東京農工大学	現代宗教論		「世界を分断する宗教」といったように「宗教」は人々の差異を説明するのに用いられています。また、「日本人は無宗教」もよく耳にすることばでしょう。これらの解釈ははたして正しいのか？実はこうした発言をする人が「宗教」音痴なだけという可能性は？本講義では、テンプレな「宗教」理解に対して、一見すると「宗教」とは無関係にみえるモノ・コトから「宗教」を捉えます。これは現代社会が「価値観の異なる相手との協働」を必要としているからです。相手を理解することと自分を伝えることは等価です。そのための知識・方法論を「宗教」から学びます。	
東京農工大学	多文化共生論		国際社会が多様性の価値と豊かさをますます認識するようになった今、私たちは「違いを欠陥とみなす」見方から脱却する必要がある。また、文化を「本質化」したり、伝統的に理解したりすることは、特定の集団に固定的な特徴があるかのように誤って描きかねないため、避けることが肝要である。本講義は、主として日本社会における様々なマイノリティ当事者の経験や歴史から、文化の複雑さ、多様性、アイデンティティの概念、権力関係などに関する困難な問いを探究する。従来の多文化共生の論理が、とすれば異なる文化的背景を持つ「他者」と「私たち」という文化本質主義的な二分法に陥ってしまう限界を抱えてきたからこそ、多様な差異を受けとめ、様々な経験に学ぶ必要がある。「誰もが生きやすい社会へと日本を開いていくためにはどうすればいいか。本講義を通じて自分事として考える視点を持つことで、地域社会の調和、反レイシズム、異文化理解、あらゆる文化的背景を持つ市民間の好ましい関係を促進しよう。	
東京農工大学	文学・芸術学		「文学・芸術学」は、大きくみれば哲学、より専門的には美学とよばれる学問領域に属します。美学は英語ではaestheticsと言い、「感性の学問」という意味です。「文学・芸術学」では、この「感性」が、私たちにどうもつ意味を、探求します。「感性」とは、私たちの心が、なにかに出会った時、その相手を受け取り、触発される能力のことです（「相手」とは、具体的な人であったり、社会的事件であったり、空模様だったりします）。わたしは、これからの時代は、どんな職業に就くにせよ、出来合いの意見や世論の寄せ集めでなく、ひとりひとりが自分の歩む人生を裏切らないような意見を持つことが、とても大事になると考えています。そのためには、「感性」の働きに、もっと注目する必要があると考えます（その理由は、授業のなかで話します）。授業では、過去の文学・芸術運動をとりあげながら、いま、わたしたちが感じ、意見をもつためのヒントを一緒に探求していきたいと思っています。	
東京農工大学	哲学		哲学の対象は、時代とともに変遷してきており、自然、宇宙、神、科学、人間、人生、愛、社会、自由、平等、生命・・・と、いまや多岐にわたっているからです。このことは、哲学者たちが、時代の要請に応じて前の時代の思想を変化させ、次の時代にバトンタッチしてきたという事実を表しています。そうした哲学の歴史的営為が新しい社会観、人間観、歴史観を築いてきたことによって、現代に生きる私たちはあらゆる自由を享受できているのです。理系学部にも所属するみなさんが携わる自然科学を例に考えてみましょう。自然科学は、近代の科学革命の恩恵により誕生しますが、科学革命を可能にしたのは、哲学による価値観の転換だったのです。また、自然科学を扱ううえでは、その研究の社会的意義を考えなければなりません。さらに、科学の発展には自由な発想が欠かせません。そして、研究者として、社会人として働くことの意味も自問する日が来るかもしれません。そこで本講義では、あらゆる哲学の対象の中から「科学とは何か」「自由とは何か」「人間が働く意味とは何か」というテーマで哲学の面白さを探求しつつ、自然科学や現代社会の諸問題と哲学がいかに深く関係しているか考えたいと思います。	
東京農工大学	歴史学		かつて私たちの踏みしめるこの大地のうえに、江戸文明と呼ばれる文明社会が存在しました。この文明は高度な資源循環型社会を生み出したといわれ、日本列島を素材とした環境史を考えていくうえで重要な検討素材になると考えられています。高度経済成長以降の私たちの社会は、この江戸文明の否定のうえに成り立ったものとも考えられ、江戸文明を考えることは、私たちの社会が豊かさと便利さを手に入れる一方で、何を失ってきたのかを指し示してくれることになるかもしれません。この授業では、このような問題関心を抱えながら、「江戸文明とは何か」、そして「江戸文明はなぜ日本列島のうえに成立したのか」を考えてみたいと思っています。それは、日本の伝統的文化がどのように成立したのか・どのような特徴をもつのかを理解することにもつながっていくことになろうと思います。	
配置大学特色科目群	岩手大学	獣医細胞生物学	<p>生体は構成する構成要素の大きさにより、分子、細胞内小器官、細胞、組織、器官、個体というような階層構造を有している。本科目では、生体の構成要素の中で特に細胞のレベルに注目して、生体がどのような形態と機能を有しているかを理解する。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (30 大沼俊名/13回) 第1回～第13回：細胞の多様性と統一性、細胞のエネルギー利用、タンパク質の形と構造、染色体構造、転写・翻訳、ゲノム塩基配列、生体膜・膜タンパク質、代謝の調節、小胞輸送、細胞骨格 (3 木崎景一郎/2回) 第14回、第15回：細胞周期、組織の維持と更新</p>	オムニバス
岩手大学	基礎生物学実験		生物（植物および動物）の構造と機能に関する実験を行う。授業冒頭で本科目の概要や実験上の諸注意、レポートの作成方法などについて説明する。生物の様々な器官などを対象として、スケッチを行うとともに、さまざまな生物検体を用いた実験を行い、生物の構造（しくみ）を理解し、機能（はたらき）との関係を知ることを目的とする。	共同
岩手大学	情報基礎A		Society5.0で必須となる、コンピュータや情報処理に関する基礎的な知識と技能と、今後益々重要性を増すであろう数理データサイエンス・AIの基礎的な知識を習得することを目的とする。この講義では、次の事項を取り扱う。コンピュータの基本的な仕組みを理解し、目的に応じたアプリケーション等を使いこなすこと。著作権を理解した上で必要な情報を探索し適切に処理できるようになること。インターネットやソーシャルメディアの利活用における情報倫理・情報モラル・情報セキュリティの実践力を養うこと。岩手大学の中でコンピュータとネットワークを活用していくための基礎知識を学ぶこと。数理データサイエンス・AIの基礎的な知識を習得すること。	
岩手大学	情報基礎B		Society5.0で必要となるデータ分析およびAIや情報セキュリティなど関連する基礎的な事項を理解することを目的とする。この講義では、次の事項を取り扱う。データの適切な処理・分析。データの特性を理解し、情報セキュリティも踏まえた上でデータの取り扱い。AIやデータ分析の自動化の基礎となるアルゴリズム・プログラミングに触れること。整理したデータや情報からわかりやすい資料をまとめること。	

岩手大学	環境・防災学		環境問題や災害に関する基本的な知識と理解を深めるため、環境問題の背景や原因、持続可能な社会の実現に向けた取り組みなどについて学ぶ。また、自然災害の種類や発生メカニズム、それに伴う社会・経済的影響、防災対策の重要性についても学ぶ。さらに、地球温暖化、気候変動、資源問題など、グローバルな課題に対する取り組みや、地域レベルでの防災計画や復興策についても、実際の事例や最新の研究を通して学び、それにより環境保全や災害管理に関する理解を深める。	
岩手大学	自然科学		この科目では、物理学、化学、生物学、地球科学などの自然科学の基本的な原理と概念について学び、自然界の法則や現象に関する知識を総合的に理解する。さらに、自然科学の融合領域や分野間のつながり、科学的方法論、科学技術の社会への影響についても紹介する。また、自然科学に関する最先端研究の動向についても触れる。これらを通して、自然界におけるさまざまな現象とその科学的解釈について理解を深めるとともに、科学的思考と探求力を養う。	
岩手大学	森林科学		森林科学は、水土保持、生物多様性保全、生活環境保全、物質生産など、森林の有する多面的機能の解明を目指す応用科学である。現在、地球温暖化の進行や野生生物の分布域の拡大・縮小に伴い、森林と人間社会との関係や野生生物と人との共生のあり方を再考することが求められている。本講義では、森林と自然環境との関係、森林に生息する野生生物の特徴、森林の構造と機能、木材等の林産物の特性、日本の林業の歴史と現在、森林と人の暮らしとの関係を学び、健全な森林生態系を維持しながら人と野生生物が共存する社会について考える。	
岩手大学	農業環境工学		この講義では、近年の農業環境工学分野でトピックとなっている話を分かりやすく、かつ具体的な事例を紹介する。具体的には、農業の生産基盤の整備や生活環境の向上、農村の生態系、文化・景観の保全や災害に強い地域づくり、食を取り巻く環境の急速なグローバル化および農業就業人口の減少や高齢化に対応する食料生産技術の高度化、農産物の保存・加工・流通、6次産業化、農業経営の高度化、さらに持続可能な食料管理や加工技術の改良と開発、グローバルな視野に立った新たな流通体系などの科学と技術について講義し、今後の農業環境工学の未来について考える。	
岩手大学	エネルギー科学		エネルギーの基本的な概念から、その種類や利用方法、環境への影響など、エネルギーに関する広範なトピックについて学ぶ。この授業では、まずエネルギーの種類（化石燃料、再生可能エネルギーなど）や、エネルギーの生成、輸送、保存、利用に関する基礎を習得する。また、化石燃料の使用が及ぼす環境への影響や、再生可能エネルギー利用の現状を理解し、持続可能なエネルギー源の必要性について議論する。さらに、最新の研究から、エネルギーシステムの高効率化や新技術の開発について紹介し、現代社会におけるエネルギー問題に対する理解を深める。	
岩手大学	メディア情報学		この科目では、情報とコミュニケーション技術の理論と実践を広く学ぶ。授業では、コンピュータグラフィックスの基礎から応用までを学び、ビジュアルメディアの表現と処理について理解を深める。また、人間の感覚、認知、感情に対する情報処理やメディア技術とユーザーをつなぐインターフェースについて学ぶ。さらに、メディア情報学分野の最先端研究の例を紹介する。これらを通して、メディア情報の創造的な活用方法や効果的なコミュニケーション手法について探究する。	
岩手大学	機械科学		この科目は機械の基本的な原理や応用に関する教養科目である。講義では機械工学の基礎概念、力学、熱力学、材料科学、制御工学などを学ぶとともに、機械の設計、製造、動力伝達、エネルギー変換などの基本的な理論についてその概要を学ぶ。その上で、機械工学の応用分野であるロボティクス、自動車工学、航空宇宙工学、持続可能なエネルギー利用など、機械工学の幅広い応用領域について、最新の研究開発動向なども紹介しながら理解を深める。	
岩手大学	材料科学		この科目では、物質の性質、構造、実用技術や製品の応用について広く学ぶ。講義では、材料の物理・化学的性質、特性評価、加工など、金属、誘電体、半導体など様々についての基礎知識を習得する。さらに、材料の微視構造や物性、材料の耐久性、再利用可能性などにも触れ、材料科学の観点からの持続可能性についても論ずる。さらに、最新の材料技術、ナノテクノロジー、バイオマテリアル、エネルギー材料などの新たな応用分野、関連する最先端研究についても学ぶ。	
岩手大学	数理情報科学		数学、情報科学の基礎的な概念を学ぶとともに、各々の相互関係の理解を深める。数値計算や数理モデルといった数学的な理論や手法から、知能情報学、情報システムにおける情報の表現、記憶、処理など、広く数理情報科学に関する内容を網羅的に学ぶ。さらに、機械学習、人工知能、ロボティクスなど、関連分野の最先端研究や実際の問題に対する数学的・情報科学的観点からのアプローチについても学ぶ。これらにより数理的思考や情報処理能力を養う。	
岩手大学	電気電子工学		電気と電子の基本原則や応用について学び、現代社会の基盤技術である電気電子工学に関する基礎的な知識や技術を網羅的に理解する。講義では、電気回路や電磁気学を基礎として、電子物性、電子デバイス、計測工学、電気機器工学、プラズマ工学、制御、通信システムなどの応用について概観する。また、電気電子工学の最新動向や革新的な技術にも触れ、さらには持続可能な社会の実現のための関連分野における取り組みについても論ずる。	
岩手大学	物質科学		この科目は、物質の構造、性質、合成、分析など物質科学の基本的な概念や法則、応用について学ぶことを目的とする。この授業では、無機化学と有機化学の基礎を学び、元素や化合物の性質、反応、構造に関する理解を深める。また、触媒や高分子化学の原理、応用、材料への影響についても学習する。さらに、生体分子、医薬品化学など生体関連化学についても学ぶ。最先端研究の例を紹介し、関連分野の最新動向も紹介する。これらを通して、物質科学の基礎と実践的な応用について理解を深める。	
岩手大学	食品健康科学		食と健康のつながりは深く、食は私たちの生命を維持する上で欠くことのできないものであると同時に摂取の仕方によっては健康を害することもある。これらの関係は、食品が持つ栄養成分だけでなく、体内での代謝やその制御の仕組みを学ぶことで理解が深まる。近年では非栄養成分による代謝調節や生理活性因子に類似した働きなども知られている。また、食材としての農産物はその物理化学特性や微生物・酵素などの生物材料の利用により、食品へと加工されている。これら加工技術や加工に伴う成分変化には、物理化学的、生物学的な要因への理解が欠かせない。時代のニーズに応じて、高齢社会に適応した食品の開発などが求められている。本講義では、これら食と健康に関わる、栄養や代謝、生体調節機構、食品関連技術について概説していく。	
岩手大学	水産学基礎		岩手県は世界3大漁場の一つである三陸沖漁場に立地する全国有数の水産物生産県である。一方で、地球規模の環境変動による主要魚種の不漁や魚種変動、世界および国内における水産物需要の変化など、本県の水産業をとりまく環境は大きく変化しつつある。本講義では水産業を構成する一連の過程（生産、加工、流通）について、その基盤となる水産物の生理・生態、利用技術、流通などの概要を紹介することで、地域社会を支える基盤産業への関心を高めることを目指す。	



岩手大学	動物科学		野生動物や家畜・家禽の乳、肉および卵を食用として繁栄してきた我々人類にとって、動物は最も重要かつ馴染み深い生物である。さらに現代社会においては、犬や猫など伴侶動物は日々の暮らしの中でなくてはならない存在になっている。しかしその一方で、近年、鹿や猪、熊など様々な野生動物やアライグマなどの外来生物が人間の生活圏に侵入し軋轢が生じている。本講義では、それら家畜・家禽を含めた動物の生態や生理、繁殖、その進化の歴史、さらには動物と人との関係を学び、人と動物が共存する豊かな社会について考える。	
岩手大学	農学基礎		我々人類の生存に不可欠な食料生産や生活に潤いを与えてくれる栽培植物（食用作物、野菜・花き、果樹など）を対象に、植物の生長、栽培方法、繁殖、生理・生態、健全な生育に影響を与える病気などの環境ストレスとの関わり、土壌環境との関わり、農作物の流通、農業の経営や政策などについて、それぞれの専門家がわかりやすく講義を行い、農作物の生産や食料の安定供給の向上に不可欠な農学の基礎ならびに応用研究について学ぶとともに、地域・国際社会での食料生産から流通に関わる諸問題の理解や解決に向けた視点を助長する。	
岩手大学	分子生物機能科学		微生物、植物、昆虫、動物など種々多様な生き物は、それぞれが暮らす地球上の様々な環境の温度や水分条件などの物理的な特徴に適応しているだけでなく、そこで暮らす生物間の相互作用にも適応することにより、自身の発生や生長、生殖などの生物学的活動を営んでいる。この様な個体レベルで見られる生物学的活動はすべて細胞レベルに由来し、更に、生命の営みの基本であるタンパク質や核酸などが関与する分子レベルの反応に基づく。これら多種多様な生物機能について分子レベルで解明することは、環境や食料などのグローバルな問題を解決する基盤となるだけでなく、産業への応用にもつながる。本講義では、様々な生き物における多種多様な分子生物機能について基礎的な内容を学ぶ。	
岩手大学	分子生命医科学		私たちヒトの健康と病態について理解するためには、生命の基本単位である細胞ならびに細胞内にある生体分子の構造と機能について学習する必要がある。この科目では、はじめに、生体分子の種類やDNA、RNA、タンパク質の構造や機能に焦点を当て、細胞内の分子プロセスやシグナル伝達経路を理解し、生体内での化学反応や分子間相互作用などを学習する。また、正常な生理機能や生命維持機構、病態における分子レベルでの変化に関する知識を習得する。さらに、遺伝子と遺伝疾患、ゲノム解析、オミクス解析といったトピックスを通じて、疾患発症の分子メカニズムや新たな治療戦略について理解を深める。この科目を履修することで、分子生命医科学の基本的な原理を理解し、将来的に生物学、化学、医学など幅広い分野で活躍するための基盤を築くことが期待される。	
岩手大学	データ分析演習		獣医学を学ぶ上で必要な数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ演習科目として設置する。データ駆動社会とデータサイエンス、分析設計（問題認識、フレームング、文献レビュー、モデル化、データ収集、データ解析、結果の説明と実行）、ビッグデータとデータエンジニアリング、データ表現、AIの歴史と応用分野、確率の概念、推計学、統計モデリング、アルゴリズムに関する基礎的事項を説明できること、およびRやPythonによる簡単なプログラミングができることを到達目標とする。	
岩手大学	統計的機械学習実践		数理データサイエンス・AI (DSAI) について、講義及びExcelおよびPythonを用いた演習を通じて理解を深める。データを取り扱う基礎的理解として、データ倫理とセキュリティ・データ観察と加工・分析に触れる。また、DSAIの利活用のために、AIの歴史と応用分野、AIと社会、機械学習・深層学習の基礎と展望、予測・判断、AIの学習と推論、評価を概説する。演習では、DSAIで汎用されるプログラミング言語であるPythonを用いていくつかのDSAI手法を計算機で演習することで、DSAIの実際に触れる。PBLとして、画像のクラス分類を題材とした問題解決に取り組む。	
東京農工大学	細胞・遺伝学		遺伝学の基礎を学ぶとともに、生命体の最小単位である「細胞」におけるエネルギーの獲得、利用ならびに遺伝情報の処理の生物学的仕組みを分子レベルで解説する。この講義は、生命科学系の専門教育の基盤となる。 (オムニバス方式/15回) (100 山田哲也/2回) 「第1回 細胞の基礎」、「第2回 細胞周期、減数分裂と配偶子形成」 (86 天竺桂 弘子/1回) 「第3回 メンデル遺伝」 (32 金田 正弘/2回) 「第4回 非メンデル遺伝」、「第5回 染色体と遺伝子地図」 (38 鈴木 和彦/3回) 「第6回 細胞の構造と機能 (1) 細胞骨格・細胞外マトリックス・細胞間連絡構造」 「第7回 細胞の構造と機能 (2) 細胞膜・膜タンパク質・膜輸送」 「第8回 生体を構成する物質：糖とタンパク質」 (132 宮田 真路/2回) 「第9回 細胞呼吸：化学エネルギーの利用 (1) 解糖系・醗酵」 「第10回 細胞呼吸：化学エネルギーの利用 (2) TCA回路・グリオキシル酸回路」 (99 森山 裕充/3回) 「第11回 葉緑体とその働き」 「第12回 遺伝子の構造・複製・修復」 「第13回 遺伝子からタンパク質へ」 (67 梅澤 泰史/2回) 「第14回 遺伝子の発現調節 (1) 原核生物の遺伝子発現制御」 「第15回 遺伝子の発現調節 (2) 真核生物の遺伝子発現制御」	オムニバス
東京農工大学	情報処理学		本授業科目は、高度情報化社会における技術の発展やそれに伴う社会の変化に対し、主体的に対応できる能力と態度を育成することを目指します。初等中等教育においても情報活用能力の育成が行われていることも考慮し、本授業科目では、ワードプロセッサや表計算等のアプリケーションソフトウェアの具体的な使用方法を教授する授業ではなく、その概念や原理を理解し、正しく情報機器を利用する能力と情報を扱う力（情報活用能力）を育むことを目指します。	
東京農工大学	物理化学		エネルギーは最も重要な物理量のひとつであり、熱、電気、光など様々な形態をとる。本講義では化学熱力学、電気化学、光化学の基礎を理解する。講義では、各項目で重要となるポイントを説明し、それを理解できるように進めていく。また、知識として修得しておくべき用語についても説明する。さらに講義中に使用するスライドをGoogle classroomにアップして配布するので、講義中だけでなく、予習・復習にも活用して物理化学の基礎を修得してほしい。	
東京農工大学	情報・データ科学活用入門 I		事例を紹介しながら社会とデータサイエンスの関連、およびビッグデータを含むデータの収集、加工、分析方法を学ぶ。まず、データサイエンスやAI・機械学習技術が実社会の業務・サービスでどのように活用されているか概観するとともに、その技術的発展が人間社会にもたらした変革について解説する。次に、AI 研究の歴史を概観するとともに、AI 技術の発展が顕在化させた倫理的な問題について解説する。こうした社会的背景を踏まえて、データ分析の基礎となる記述統計について学び、データの取得方法、取得したデータ分析のための前処理の方法、データを概観するために必要となる可視化手法を習得する。Python を用いた演習では、リスト、多次元配列、データフレーム処理、グラフ描画を扱う。最後に、変数間の関係を定量化する相関係数について学び、Pythonを使って関数、条件分岐、線形単回帰、ロジスティック回帰について演習する。	

東京農工大学	情報・データ科学活用入門Ⅱ		機械学習の基礎的事項について学び、さらにPython を用いた演習を実施することで、より理解を深める。まず、機械学習の基礎として、教師あり学習、教師なし学習、強化学習の違いを理解する。このために、重回帰分析、正則化、ロジスティック回帰、交差検証等について学び、実践的な演習を行う。さらに、教師あり学習の例として、決定木、サポートベクターマシン (SVM) の理論について学ぶ。教師なし学習の例としては、クラスタリング (階層型/非階層型クラスタリング、k-means 法) や主成分分析 (PCA) の理論について学ぶ。これらの中で、決定木、SVM、kmeans法、主成分分析について、Scikit-learn モジュールを用いて、実践的な演習を行う。	
東京農工大学	情報・データ科学活用入門Ⅲ		深層学習を学び、AI を用いたデータ処理を実践的に進められる素地を養う。まず、ニューラルネットワークの基礎技術として、パーセプトロン、多層パーセプトロン、誤差逆伝播法、確率的勾配降下法等について学び、TensorFlow、Keras モジュール等を用いて3層ニューラルネットワークの誤差逆伝播法について実践的な演習を行う。さらにIris データセットを用いて非線形な多クラス分類問題に取り組む。次に、深層学習の基礎となる技術的課題について学び、最新の機械学習技術の活用について理解を深める。最後に、ビッグデータ活用、機械学習、深層学習等を応用した研究事例を通して、AIの構築と運用を考える。さらに企業での運用例として、実際に作ったモデルをデプロイしたり、バージョン管理したりする MLOps の必要性和実際について、自然言語処理を例に解説する。	
東京農工大学	農業史		原始・古代から現代に至る日本農業の歩みを、世界史の中に位置づけながら概観する。本科目の目的は、日本農業の歴史的な変化を通時的に学ぶことで異なる時代に固有な農業技術とそれを支える価値観を理解できるようになること、そして農業のあり方から時代や社会の特徴を広く見渡し、持続可能な技術のあり方を歴史的に考察できる視点をも身に付けることとする。このために、まずは原始の「農耕の開始」、古代の「開発・勸農と仏教」、中世の「農法・村落と資源管理」を学ぶ。そして近世から近代にかけての、「小農社会の成立」、「農書の世界」、「地租改正と地主制」、「食料問題と明治農法」、「資本主義の発展と小作争議」、「『帝国』日本の農業」について理解を深める。最後に、現代の「大恐慌から農地改革へ」、「高度経済成長と農業・農村」、「衰退する農業と現在」、「有機農業の歴史」を学び持続可能な技術のあり方を考察する。	
東京農工大学	食料・環境問題		現代社会が直面している食料・環境問題とその背景についての知識を深める。具体的には、食料問題を取り巻く動向、プラスチックによる環境汚染、作物生産や畜産の現状と課題について説明したのち、近年の食料消費と家計や食の安心・安全問題を考える。さらに、持続可能な社会の観点から、環境保全型農業の可能性、バイオマス変換利用技術の現状と課題、大気環境問題、植物・森林・野生動物・水産資源に関連した環境問題、近年の環境汚染問題について理解を深め、そのうえで人新世における食糧・環境問題を考える。	
東京農工大学	(農)の哲学と倫理		<p>〈農〉は、私たち人類にとって生きていく上で必須の基盤である。ところでなぜ、私たち人類は〈農〉を実践するようになったのか。〈農〉の様式は、時代の変化とともにどのように変遷してきたのか。国連が、国際家族農業年 (2014年)、小農の権利宣言 (2018年) といった形でそのよさを提唱する小規模農業と、大規模農業とでは、どのような違いがあり、持続可能な社会にとってどういったメリット、デメリットがあるのか。本科目は、こうした問いを念頭に、オムニバス方式で各教員が哲学、倫理学の面から以下の内容を講義する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)          (144 澤 佳成/第1~4回、第6回~9回、第11~12回、第14~15回)          まず、〈農〉とはそもそも人間にとってどんな意味を持っているのか、という根源的な考察を行う (第1~4回)。そのうえで、〈農〉を取り巻く現実の問題や実践をふまえて、〈農〉にはどんな社会的問題があるのかを把握する (第6~9回)。そして最後に、持続可能な〈農〉はどうすれば可能かという点について、〈農〉の思想と地域での実践を交えながら考える (第11~12、14~15回)。</p> <p>(143 大倉 茂/第5回、第10回、第13回)          人類史のなかで、〈農〉は常に人間の生活のなかで育まれていたことを確認し、〈農〉が自然に対する人間の倫理の一側面を担っている点を考える (第5回)。技術のひとつである農業は、技術倫理としての農業倫理が存在することを示している。そこで農業を人間が自然に対する技術として捉え、その倫理のあり方に迫る (第10回)。現代社会において、都市生活者は消費を通して、農と関わっている。そういった現状を踏まえ、これからの農を考える上で消費と倫理の関係はどうあるべきかについて考える (第13回)。</p>	オムニバス
東京農工大学	理系大学生のための表現技法		大学での学びに必要な文章力、思考力の養成を目的とし、大学導入科目として位置づける。講義による授業のほか、様々な考え方を共有し思考を深めるグループワークや文章作成の演習、課題作文などを通して実践的に以下の内容を学ぶ。1. 理系学生に必要な文章作法とは2. クリティカルシンキングを身に付ける: 「主眼的に考える力」と「根拠の確かさ」3. 問題を解決に導くための考え方の基礎を学ぶ4. データを基に議論を展開させるエクササイズ5. 論理的な文章の書き方を身に付ける 授業時間16時間課題作文作成時間5時間程度に加え、テキストや参考書を用いて予習復習を行うことが求められている。	
東京農工大学	生態・進化学		<p>生物は環境に適応し、進化・多様化してきました。生物資源の永続的利用、環境問題などの課題に適切に対処するためには、生物の進化ならびに生物とその環境の相互作用に関する科学である生態学に関する理解が必要です。この講義では、生物の進化現象、個体-個体群-群集-生態系、さまざまな階層に渡る生態学の基礎について学びます。生物・環境系専門科目を理解する基盤となります。</p> <p>(オムニバス方式/15回)          (102 伊藤 克彦/1回)          「集団の進化」          (161 小栗 恵美子/2回)          「植物系統学Ⅰ」、「植物系統学Ⅱ」          (54 木賀田 哲人/2回)          「動物系統学Ⅰ」、「動物系統学Ⅱ」          (201 小林 勇太/1回)          「生態学概論・環境-生物」          (34 小山 哲史/1回)          「行動生態学」          (115 金子 弥生/1回)          「個体群生態学 (1)」          (105 岩井 紀子/1回)          「個体群生態学 (2)」          (137 吉田 智弘/1回)          「群集生態学」          (135 山崎 和久) /5回)          「生物多様性」、「生態系生態学Ⅰ」、「生態系生態学Ⅱ」、「保全生態学Ⅰ」、「保全生態学Ⅱ」</p>	オムニバス

東京農工大学	動物・植物科学		<p>植物と動物の構造と機能についてその基礎を理解するとともに、その多様な構造と機能による生きる仕組みおよびそれらの農学分野への応用研究例についてオムニバス授業形態により解説する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)                  (140 渡辺 誠/3回)                  「植物の構造、成長、分化」、「土壌と植物栄養、被子植物の生殖とバイオテクノロジー」、「農学への応用1」                  (114 桂 圭佑/2回)                  「内外のシグナルに対する植物の応答」、「農学への応用2」                  (10 田中 知己/2回)                  「動物の形態と機能の基本原理」、「感覚と運動のメカニズム」                  (81 杉村 智史/2回)                  「動物の栄養」、「農学への応用3」                  (22 皆上 大吾/2回)                  「循環とガス交換」、「浸透圧調節と排出」                  (26 遠藤なつみ/1回)                  「ホルモンと内分泌系」                  (46 村上 智亮/1回)                  「免疫系」                  (54 木質田 哲人/1回)                  「神経系」                  (25 臼井 達哉/1回)                  「農学への応用4」</p>	オムニバス
東京農工大学	線形代数学 I		<p>いくつかの数をひとまとめにして考えるとき、行列を用いると効果的に計算を行うことが可能となる。本講義では、基本変形、逆行列、行列式など行列に関連する様々な概念を学ぶとともに、その計算方法の習得を目指す。工学・農学の諸分野におけるさまざまな現象を記述し解析する上で、線形代数学で学習する内容は必須のものとなっている。とくに行列に関する種々の計算技術を習得することはより抽象的なベクトル空間などの諸概念を理解する助けとなるので、演習を通してこれを実践する。</p>	
東京農工大学	微分積分学 I		<p>1変数関数の微分積分とその応用を学ぶ。微分積分学は自然現象や社会現象などの変化を数式で記述し解析する学問であり、統計学、物理学、化学、工学などに広く利用されている。高校で学んだ微分積分の考え方を発展させ、極限の考え方を理解するとともに高度な計算力を身につけることが目標である。まず実数の性質におけるさまざまな現象を記述し解析する上で、線形代数学で学習する内容は必須のものとなっている。とくに行列に関する種々の計算技術を習得することはより抽象的なベクトル空間などの諸概念を理解する助けとなるので、演習を通してこれを実践する。</p>	
東京農工大学	数理統計学		<p>数理統計学は実験結果や測定値などの与えられたデータの特性を数学的に記述し、少数の標本から母集団の性質を推定することを目的とする学問である。本講義ではまず統計学の基本概念である平均、分散、確率分布、標準偏差、ランダムサンプルなどを学び、そして母集団の性質と標本データの間のつながりについて考察を行う。そのうえで各種の確率分布を用いた区間推定、仮説検定の考え方を学習し、基本的な推測統計の手法を理解することを目標とする。</p>	
東京農工大学	有機化学		<p>【目的】生物が営む生命現象（生物の有機反応）を理解するうえで、その基礎となる有機化学を理解する。【概要】有機化合物は天然物、合成物を合わせると数えきれないほど多く、複雑な構造をもつものや変わった反応をするものなどがあり、一見理解しがたいと感じるかもしれない。一見複雑そうに見える構造や反応も、個々に見ていけば合理的に考えることができるのである。初めて有機化学を学ぶ人が、なぜそのような構造になるのか、どのように反応するかを考え、理解することに重点をおきながら講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/15回)                  (70 梶田 真也/8回)                  第1回；原子の構造と電子配置                  第2回；混成軌道                  第3回；酸と塩基                  第4回；共鳴                  第5回；立体化学                  第6回；結合の生成と解離                  第7回；付加、置換、脱離、転移反応の基礎                  第8回；前半のまとめと総合演習</p> <p>(73 北野 克和/7回)                  第9回；アルカン、ハロゲン化アルキル                  第10回；アルコール、エーテル                  第11回；アルケン                  第12回；アルキン、芳香族化合物                  第13回；アルデヒド、ケトン                  第14回；カルボン酸とその誘導体、含窒素化合物                  第15回；全体のまとめと総合演習</p>	オムニバス
東京農工大学	生物学実験		<p>共同獣医学科専門科目の基礎となる「生物学」の実験手技、スケッチの仕方、顕微鏡の使い方、データの統計解析の基礎、レポート作成法について学ぶ。各教育研究分野の研究室・施設の見学も行う。</p>	共同

<p>専門教育科目</p>	<p>基礎獣医学科目</p>	<p>基礎獣医学科目群</p>	<p>岩手大学 ／ 東京農工大学</p>	<p>獣医学概論</p>	<p>○</p>	<p>獣医学概論は、獣医学の概要を明確に把握すると同時に、獣医学、獣医師、獣医療に求められる獣医哲学を極める生命科学として存在する。その意図に基づき、獣医学史では人類と動物の共生における歴史的考察と、日本の獣医学教育史を、次いで現代日本における獣医師の使命と獣医療の実践活動、さらに諸外国の獣医師との比較論、国際貢献論を講述し、獣医師の本質的な存在意義の修得に必要な資源とする。</p> <p>【岩手大学】（オムニバス方式・共同開講（一部）/15回） （6 佐藤洋/2回） 第1回、2回：獣医学概論の理念と獣医史学、野生動物保全と獣医師 （40 高橋正弘/2回） 第3回、4回：産業動物獣医師の役割、牛の分娩観察実習ガイダンス （2 片山泰章/2回） 第5回、6回：伴侶動物獣医師の役割、獣医医療サービスの質の保証 （48 山崎朗子/1回） 第7回：獣医師と国際関係 （3 木崎景一郎/1回） 第8回：獣医学の隣接科学と獣医療関係職種 （4 佐藤至/1回） 第9回：行政獣医師、公衆・家畜衛生獣医師の役割 （15 古市達哉/1回） 第10回：教育・研究分野における獣医師 （30 大沼俊名/1回） 第11回：企業における獣医師 （40 高橋正弘・8 高橋透・53 金澤朋美・120 木村淳・45 宮崎珠子（共同開講）/3回） 第12-14回：牛の分娩観察実習 （45 宮崎珠子/1回） 第15回：岩手県鳥獣保護センター見学</p> <p>【東京農工大学】（オムニバス方式/10回、共同開講演習/5回） （13 西藤公司/1回） 第1回：獣医学概論の理念（獣医学教育、獣医師免許・資格制度など） （35 佐々木一昭/1回） 第2回：獣医史学 （12 永岡謙太郎/1回） 第3回：企業における獣医師の役割 （10 田中知己/1回） 第4回：産業動物獣医師の役割 （14 福島隆治/1回） 第5回：伴侶動物獣医師の役割 （31 オプライエン悠木子/1回） 第6回：国際関係における獣医師の役割 （38 鈴木和彦/1回） 第7回：教育・研究分野における獣医師の役割 （63 石原加奈子/1回） 第8回：行政獣医師、家畜衛生獣医師、公衆衛生獣医師の役割 （60 播磨勇人/1回） 第9回：野生動物保全における獣医師の役割 （29 大森啓太郎/1回） 第10回：地域における二次診療施設の役割 （担当教員全員/5回） 第11-15回：獣医学概論課題発表、総合討論</p>	<p>オムニバス、共同（一部）、演習（一部）</p>
			<p>岩手大学 ／ 東京農工大学</p>	<p>獣医倫理 I</p>	<p>○</p>	<p>生命倫理（Biotehics）の心理を理解し、動物倫理及び動物の権利、動物の愛護と福祉の思想を、獣医学・獣医療における獣医師の真相理念として習得する。</p> <p>【岩手大学】（オムニバス方式/8回） （20 山本欣郎/1回） 第1回：生命倫理学入門 （4 佐藤至/1回） 第2回：日本の獣医関連法規と獣医倫理の基本原則 （52 横山拓矢/1回） 第3回：獣医師に係る倫理学 （197 山手寛嗣（非常勤）/2回） 第4、5回：動物介在療法と獣医倫理 （6 佐藤洋/1回） 第6回：野生動物および展示動物と獣医倫理 （30 大沼俊名/2回） 第7、8回：西欧の動物保護法規と日本の動物保護法</p> <p>【東京農工大学】（オムニバス方式/6回、共同開講演習/2回） （13 西藤公司/1回） 第1回：獣医倫理学概論 （32 金田正弘/1回） 第2回：日本の獣医関連法規と獣医倫理の基本原則 （54 木賀田哲人/1回） 第3回：獣医師に係る倫理学 （57 島田香寿美/1回） 第4回：動物介在療法と獣医倫理 （51 山本ゆき/1回） 第5回：野生動物および展示動物と獣医倫理 （43 濱部理奈/1回） 第6回：西欧の動物保護法規と日本の動物保護法 （担当教員全員/2回） 第7-8回：獣医倫理I課題発表、総合討論</p>	<p>オムニバス、共同（一部）、演習（一部）</p>

専門教育科目 基礎獣医学科目群	基礎獣医学科目群 岩手大学／東京農工大学	獣医倫理Ⅱ	○	<p>生命倫理 (Biotehics) の心理を理解し、動物倫理及び動物の権利、動物の愛護と福祉の思想を、獣医学・獣医療における獣医師の真相理念として習得する。</p> <p>【岩手大学】 (オムニバス方式・共同開講 (一部) / 8回)          (49 山田慎二/1回)          第1回: 科学実験の遂行と成果の発表に関する倫理 (6 佐藤洋/1回)          第2回: 医薬品使用と獣医倫理 (15 古市達哉/1回)          第3回: 動物実験に係る獣医倫理 (15 古市達哉、6 佐藤洋、30 大沼俊名 (共同開講) / 1回)          第4回: 動物実験に係る獣医倫理 (ケーススタディ) (47 森田智也/1回)          第5回: 伴侶動物の獣医療と獣医倫理学 (47 森田智也、55 小林沙織 (共同開講) / 1回)          第6回: 伴侶動物の獣医療と獣医倫理学 (ケーススタディ) (8 高橋透/1回)          第7回: 産業動物の獣医療と獣医倫理学 (8 高橋透、40 高橋正弘 (共同開講) / 1回)          第8回: 産業動物の獣医療と獣医倫理学 (ケーススタディ)</p> <p>【東京農工大学】 (オムニバス方式/6回、共同開講演習/2回)          (46 村上智亮/1回)          第1回: 科学実験の遂行と成果の発表に関する倫理 (25 臼井達哉/1回)          第2回: 医薬品使用と獣医倫理 (12 永岡謙太郎/1回)          第3回: 動物実験に係る獣医倫理 (24 井手香織/1回)          第4回: 伴侶動物の獣医療と獣医倫理学 (28 大松勉/1回)          第5回: 防疫の重要性と獣医倫理 (26 遠藤なつ美/1回)          第6回: 産業動物の獣医療と獣医倫理学 (担当教員全員/2回)          第7-8回: 獣医倫理Ⅱ課題発表、総合討論</p>	オムニバス、共同 (一部)、演習 (一部)
	岩手大学／東京農工大学	獣医事法規	○	<p>獣医師の職務である獣医療・公衆衛生ならびに家畜衛生に関する種々の法令の規定について習得し、職務の適正な遂行に資する。</p> <p>(オムニバス方式 (岩手大学のみ) / 8回)          (2 片山泰章/3回)          第1回～第3回: 獣医師法および獣医療法並びに小動物医療指針 (4 佐藤至/5回)          第4回～第8回: 薬機法、麻取法、動愛法、鳥獣保護法、感染症予防法、狂犬病予防法、家伝法、家畜改良増殖法、飼料安全法、食品衛生法、と畜場法、食鳥検査法、他</p>	オムニバス (岩手大学のみ)
	東京農工大学	運動器・神経系解剖学	○	<p>犬、馬、豚、反芻類、および鶏を対象動物とし、動物体を構成する骨格系、筋系、および神経系について主要な器官の肉眼的構造を理解する。また、対象動物間の解剖学的な差異、器官が担う機能と構造の対応関係、および器官の臨床上の重要性を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)          (54 木賀田哲人/5回)          第1回～5回: 運動器解剖学 (173 柴田秀史/10回)          第6回～15回: 神経系解剖学</p>	オムニバス
	岩手大学	内臓・脈管系解剖学	○	<p>犬、馬、豚、反芻類、および鶏を対象動物とし、動物体を構成する消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、および脈管系について主要な器官の肉眼的構造を理解する。また、対象動物間の解剖学的な差異、器官が担う機能と構造の対応関係、および器官の臨床上の重要性を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)          (20 山本欣郎/10回)          第1回～第10回: 内臓系の解剖学 (42 中牟田信明/5回)          第11回～第15回: 脈管系の解剖学</p>	オムニバス
	岩手大学／東京農工大学	解剖学実習Ⅰ	○	<p>動物体を構成する骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、脈管系、神経系、および感覚器系について主要な器官の肉眼的構造に関する理解を深める。</p>	共同
	岩手大学／東京農工大学	解剖学実習Ⅱ	○	<p>犬、馬、豚、反芻類、および鶏を対象動物とし、動物間の解剖学的な差異、器官が担う機能と構造の対応関係、および器官の臨床上の重要性について理解を深める。</p>	共同
	岩手大学	組織学	○	<p>動物体を構成する細胞集団としての組織・臓器の構造と細胞構成を理解し、代表的な組織学用語を修得する。また、臓器・組織・細胞が担う機能について組織・細胞レベルの構造と対応関係を理解する。</p>	
	岩手大学／東京農工大学	組織学実習	○	<p>犬、馬、豚、反芻類、実験動物(マウス、ラットなど)および鶏を対象動物とし、各項目に記載された主要な組織・器官の組織標本を光学顕微鏡で観察・スケッチすることにより、それらの構造的特徴を理解する。</p>	共同
	東京農工大学	発生学	○	<p>獣医学で対象とする動物体を構成する組織や器官あるいは個体の形成過程を学ぶことによって発生、成熟過程と発生過程の調節のしくみを理解し、発生異常によって起こる奇形などを生じるしくみの基本的な知識を修得する。</p>	

専門教育科目

基礎獣医学科目群

東京農工大学	生理学 I	○	動物の生体における細胞、神経の機能およびそれらの情報交換および相互調節機構について、生命現象の根幹である分子・細胞・組織を基本とした生体における機能と制御機構について修得する。本科目では主として細胞機能、細胞間情報伝達、恒常性維持、神経、筋肉、消化機能（反芻動物の消化生理を含む）、腎機能を理解する。 (オムニバス方式/15回) (12 永岡謙太郎/8回) 第1回～第8回：細胞機能、細胞間情報伝達、恒常性維持、消化機能（反芻動物の消化生理を含む）の生理学 (51 山本ゆき/7回) 第9回～第15回：神経、筋肉、腎臓の生理学	オムニバス
岩手大学	生理学 II	○	動物体を構成する組織・臓器の機能と相互の作用について総合的に理解し、将来学習する病態や臨床獣医学の学習の基盤を修得する。本科目では主として血液の成分や機能、呼吸調節、心臓や血管機能を含む循環系、体温調節、内分泌系による内部環境の統合調節を理解する。 (オムニバス方式/15回) (3 木崎景一郎/13回) 第1回～第13回：血液、循環、呼吸及び体温調節の生理学 (30 大沼俊名/2回) 第14、15回：内分泌学	オムニバス
東京農工大学／岩手大学	生理学実習	○	動物の個体・組織・細胞・人（被験者）を用いて・動物のさまざまな生理機能を自らの目で観察し・自らの手で定性的・定量的に測定すると共に・コンピュータを使用したシミュレーションやビデオ等の観察も通して・個体の生体恒常性が維持される仕組みについて理解する。	共同
岩手大学	獣医基礎生化学	○	獣医学の対象となる生命現象が連続的に進行する化学反応によって支えられているという考え方を修得し、その仕組みを分子レベルで捉える。また、生体を構成する成分の構造と機能を理解し、生命活動を維持するエネルギー産生機構について理解を深める。	
東京農工大学	獣医代謝生化学	○	獣医代謝生化学では、獣医基礎生化学での知識を基にして、生体構成成分の代謝について分子レベルで理解を深める。生体エネルギー産生機構とその調節機構について修得し、その調節機構の乱れが疾病につながることを理解する。また、動物種特有の代謝機構についても知識を修得する。	
岩手大学／東京農工大学	生化学実習	○	生体構成成分の構造と機能に関する基本的な知識に基づいて、獣医学が対象とする生命現象を分子レベルで分析・考察できる基礎的技能を修得する。	共同（東京農工大学のみ）
東京農工大学	基盤薬理学	○	薬の作用や体内での運命に関する基本的な理論を習得する。さらに、獣医学が対象とする薬のうち、末梢神経系、中枢神経系、呼吸・循環器系に作用する薬の対象となる疾病の成り立ちを理解するとともに、その作用の現れ方、作用機序、および体内での運命に関する基本的知識を、動物種差を含めて修得する。 (オムニバス方式/15回) (35 佐々木一昭/8回) 第1回～8回：総論、末梢神経系作用薬、局所麻酔薬、中枢神経系作用薬、薬物動態学の基礎 (25 白井達哉/7回) 第9回～15回：循環器薬、オータコイド、抗炎症薬、利尿薬	オムニバス
岩手大学	統合薬理学	○	獣医学が対象とする薬のうち、酸・塩基平衡や体液平衡、消化器系、泌尿・生殖器系、免疫系に作用する薬の対象となる疾病の成り立ちを理解するとともに、その作用の現れ方や作用機序に関する基本的知識を、動物種差を含めて修得する。さらに、微生物、ウイルス、寄生虫の感染症や腫瘍の治療・予防薬および殺虫薬・解毒薬についても、作用の現れ方、作用機序や臨床応用に関する基本的知識を修得する。 (オムニバス方式/15回) (6 佐藤洋/13回) 第1回～13回：血液に作用する薬、消化器に影響する薬、ホルモン・抗ホルモン・ビタミン、抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、生物学的製剤、抗腫瘍薬、駆虫剤、殺虫剤、中毒とその治療薬、眼科に用いる薬、製薬の概要 (61 前原都有子/2回) 第14回、15回：免疫機能に影響する薬、消毒薬	オムニバス
岩手大学／東京農工大学	薬理学実習	○	獣医学が対象とする代表的な治療薬の反応を様々な実験手技を通じて修得する。さらに、それらの反応を多角的に考察することにより、薬の作用の現れ方、作用機序、および生体内運命に関する基本的知識を修得するとともに、生体反応を総合的に理解する。	共同
岩手大学／東京農工大学	獣医遺伝育種学	○	動物の生命現象のほとんどは、ゲノムにより決定される。その根幹としての遺伝現象について遺伝子に基づく形質発現原理と機序、世代間での遺伝の仕組みを理解した上で、家畜改良や動物に発生する遺伝性疾患について、その発生の仕組みや遺伝様式を推定し、育種選択法や予防法の確立について考察できるようにすることを目標とする。 (オムニバス方式（岩手大学のみ）/8回) (15 古市達哉/6回) 第1回～6回：遺伝様式の基礎、分子遺伝学の実践、動物の遺伝性疾患・概論、各論 (94 福田智一/2回) 第7、8回：育種学の基礎、遺伝的改良の基礎	オムニバス（岩手大学のみ） 共同（東京農工大学のみ）
岩手大学	実験動物学	○	遺伝、育種、繁殖などの実験動物の品質に関する事項および飼育環境（微生物等を含む）や動物実験法などの動物実験に関する事項を比較生物学的視点から理解すると共に法令や基準等の社会規範に則し、かつ動物の福祉に配慮した適正な動物実験を実施するための方策を修得する。	
岩手大学／東京農工大学	実験動物学実習	○	動物実験計画の立案と審査について学ぶとともに保定、投与、採血、麻酔、安楽死、剖検・採材などの基本的動物実験手技を修得する。また、実験動物の品質を保証するための遺伝的モニタリングや微生物モニタリング、および発生工学の基礎技術を体験し、動物実験を実施するための基盤を理解する。 (オムニバス方式（東京農工大学のみ）/15回) (9 田中あかね/9回) 第1回～9回：動物実験計画書の作成演習、実験小動物のハンドリング、生物統計、遺伝子モニタリング (37 鈴木馨/3回) 第10回～12回：エキゾチック動物のハンドリング (31 オブライエン悠木子/2回) 第13回～14回：鳥のハンドリング (27 大場真己、28 大松勉/1回) 第15回：微生物モニタリング	オムニバス・共同（一部）（東京農工大学のみ）

専門教育科目	基礎獣医学科目群	岩手大学／東京農工大学	基礎放射線学	○	放射線および放射性物質の性質・放射線の生物影響・並びに関係法規について学び、放射線の安全な取り扱いとその防護について習得する。 (オムニバス方式(岩手大学のみ)/15回) (4 佐藤至/6回) 第1回～6回：放射線物理及び化学並びに放射線測定 (2 片山泰章/9回) 第7回～15回：放射線の生物学的利用、DNA損傷、放射線の細胞への影響、放射線の組織・臓器に対する影響、放射線による確定的影響と確率的影響、遺伝的影響、放射線の臨床応用	オムニバス(岩手大学のみ)
		岩手大学／東京農工大学	畜産学概論	○	わが国の畜産の現況を、養豚論、家禽論、乳牛論及び肉牛論の4科目から総合的に学び、日本の畜産業の実際的な側面と将来の方向性について学習する。	共同(岩手大学のみ)
		岩手大学／東京農工大学	家畜飼養学	○	家畜飼養学は、動物栄養学及び飼料機能学を基礎とし、家畜・家禽の各論、生産及び消費動向、飼養管理技術、栄養評価、飼料評価に関する知識の修得を目標とする。	共同(岩手大学のみ)
		東京農工大学	生物統計学	○	身の回りには多くのデータが氾濫しており、それらを避けては生活できない。文献や実験での調査・実験等から収集した情報・データの統計学的評価方法を学ぶ。	
	病態獣医学科目群	岩手大学／東京農工大学	動物病理学総論	○	獣医学において対象とする動物の疾病の病理学を理解するために、病理学の歴史・概念を学ぶと共に、細胞の傷害、適応と細胞死、炎症、組織の再生と修復、循環障害、免疫、腫瘍や先天異常などの基本的知識を習得することを目的とする。 (オムニバス方式(東京農工大学のみ)/15回) (21 吉田敏則/9回) 第1回～第9回：細胞傷害の基本、細胞組織の傷害死、適応・分化異常、細胞増殖・再生修復の病理学 (46 村上智亮/3回) 第10回～第12回：炎症、免疫の病理学 (38 鈴木和彦/3回) 第13回～第15回：腫瘍、発生異常の病理学	共同(岩手大学のみ) オムニバス・共同(一部)(東京農工大学のみ)
		岩手大学	動物病理学各論Ⅰ	○	獣医学病理学Ⅰ(総論)で学んだ事を基礎に、主要6臓器(循環器、血液および造血器、体腔、呼吸器、消化器)につき、臓器・組織別に獣医学において対象とする動物の疾病を理解する。対象動物は生産動物および伴侶動物から野生動物や虫類までであり、各疾患について病理形態学を基盤として病理発生や比較病理学的観点からも疾病を理解・習得することを目的とする。 (オムニバス方式/15回) (6 佐藤洋/1回) 第1回：各論の概要 (56 佐々木淳/14回) 第2～15回：循環器、血液および造血器、体腔、呼吸器、消化器	オムニバス
		東京農工大学	動物病理学各論Ⅱ	○	動物病理学総論で学んだ事を基礎に、主要6臓器(動物病理学各論Ⅰ)以外の臓器(上部呼吸器、消化管、生殖器、感覚器、内分泌器、運動器、外皮・乳腺)、臓器・組織別に獣医学において対象とする動物の疾病を理解する。対象動物は生産動物および伴侶動物から野生動物や虫類までであり、各疾患について病理形態学を基盤として病理発生や比較病理学的観点からも疾病を理解・習得することを目的とする。 (オムニバス方式/15回) (21 吉田敏則/9回) 第1回～第9回：泌尿器、生殖器、神経の病理学 (46 村上智亮/3回) 第10回～第12回：感覚器、内分泌器の病理学 (38 鈴木和彦/3回) 第13回～第15回：運動器、外皮の病理学	オムニバス
		岩手大学／東京農工大学	動物病理学実習Ⅰ	○	動物疾患の代表的な形態学的変化とその意義を、病理解剖や病理組織学的検索を通して理解する。さらに鑑別診断・補助的なあるいは追加すべき検索方法に関する基本知識を習得し、動物疾患の成り立ちを総合的に理解する能力を養う。	共同
		岩手大学／東京農工大学	動物病理学実習Ⅱ	○	動物疾患の代表的な形態学的変化とその意義を、病理解剖や病理組織学的検索を通して理解する。さらに鑑別診断・補助的なあるいは追加すべき検索方法に関する基本知識を習得し、動物疾患の成り立ちを総合的に理解する能力を養う。	共同
		東京農工大学	免疫学	○	免疫学は臨床および基礎を問わずすべての分野に関連する自己・非自己認識機構を体系的に理解するものである。最も重要な生体機能のひとつである免疫反応は、重度の疾患から生態のホメオスタシスの維持に至るまで、幅広く生命現象に関わっている。さらに近年免疫系は細胞分化などを理解する上にも必要不可欠な要因を多く含んでいる。本科目では免疫系の基本的な仕組みと働きを充分理解でき、さらに免疫学と他の教科との関連づけができる応用力を習得することを目的としている。 (オムニバス方式/15回) (177 高橋武司/5回) 第1回～5回：基礎免疫学 (9 田中あかね/5回) 第6回～10回：臨床免疫学 (16 古谷哲也/1回) 第11回：感染症と免疫 (31 オブライエン悠木子/2回) 第12回～13回：鳥の免疫、免疫を用いた実験方法 (担当教員全員/2回) 第14～15回：免疫学最新トピックス、総合討論	オムニバス・共同(一部)
		東京農工大学	微生物学総論	○	微生物そのものおよび感染症の原因となる病原微生物の特性について基礎的な事項を学び、感染症への対策(治療・予防法)についての能力を養う。	共同

専門教育科目

基礎獣医学科目

病態獣医学科目群	岩手大学	病原微生物学	○	<p>感染症の原因となるウイルスおよび細菌について病原体ごとに基本的な性状を学び、動物感染症ならびに人獣共通感染症について病因学的見地から理解する素養を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (18 村上賢二/8回) 第1回～8回：DNAウイルス、RNAウイルス、プリオン (49 山田慎二/6回) 第9回～14回：グラム陰性菌、グラム陽性菌、らせん菌、芽胞性桿菌、無芽胞菌桿菌、リケッチア、クラミジア (183 秦 英司 (非常勤) /1回) 第15回：マイコプラズマ、放線菌</p>	オムニバス
	東京大学農工大学大／岩手大学	微生物学実習Ⅰ	○	<p>獣医学において基本的な概念である無菌操作、病原体の特性及びその取扱いを体験的に学ぶ。細菌の特性を体験的に理解することにより適切で安全に取扱える能力、ならびに基礎的な免疫学的手法を用いた診断法を実施できる能力を身につける。</p>	共同 (岩手大学のみ)
	東京大学農工大学大／岩手大学	微生物学実習Ⅱ	○	<p>獣医学において基本的な概念である無菌操作、病原体の特性及びその取扱いを体験的に学ぶ。ウイルスの特性を体験的に理解することにより適切で安全に取扱える能力、ならびに基礎的な免疫学的手法を用いた診断法を実施できる能力を身につける。</p>	共同 (岩手大学のみ)
	岩手大学	家禽疾病学	○	<p>家禽の解剖学的・生理学的・免疫学的機能と特性を理解し、個々の家禽疾病の原因、症状、診断および予防に関する知識を修得し、それらを家禽産業あるいは関連分野に応用できる能力と技能を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (157 落合謙爾 (非常勤) /14回) 第1回～14回：養鶏の飼養衛生管理、解剖と生理、鶏の病気 (49 山田慎二、岩手県家畜保健所講師 (非常勤) /1回) 第15回：高病原性鳥インフルエンザ</p>	オムニバス・共同 (一部)
	東京農工大学	動物感染症学	○	<p>産業動物および伴侶動物の代表的な感染症について、前半は細菌性、後半はウイルス性感染症の概要および診断・予防について学習する。本講義では基本的に、ほ乳類の伝染病に関してのみ行う。動物の感染症について流行様式、病原、症状、診断、予防などを全て習得する。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (31 オブライエン 悠木子/8回) 第1回～8回：ウイルス性感染症 (16 古谷哲也/7回) 第9回～15回：細菌性感染症</p>	オムニバス
	岩手大学	寄生虫学Ⅰ	○	<p>原虫類、吸虫類、糸虫類の生物学的特性および宿主との関連性を学び、原虫類、吸虫類、糸虫類による感染症の機序や制御に関する知識、技術および考え方を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (7 佐藤雪太/8回) 第1回～8回：寄生虫学・寄生虫学総論、原虫総論、原虫各論 (鞭毛虫類、アピコンプレックス類、微孢子虫類他) (39 関まどか/7回) 第9回～15回：吸虫総論、吸虫各論 (肝蛭、双口吸虫、肺吸虫他)、糸虫総論、糸虫各論 (裂頭糸虫、テニア属糸虫、エキノコックス他)</p>	オムニバス
	岩手大学	寄生虫学Ⅱ	○	<p>線虫類および衛生動物の生物学的特性および宿主との関連性を学び、線虫類による感染症の機序および制御、衛生動物と獣医衛生に関する知識、技術および考え方を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (7 佐藤雪太/11回) 第1回～11回：線虫総論、線虫各論 (円虫、毛様線虫、鉤虫、糞線虫、回虫、顎口虫、糸状虫他)、鉤頭虫 (39 関まどか/4回) 第12回～15回：節足動物総論、節足動物各論 (マダニ、ノミ、カ、ブユ、ヌカカ他)</p>	オムニバス
	岩手大学／東京農工大学	寄生虫学実習	○	<p>寄生虫の感染様式や、発育に伴う寄生様式並びに形態の変化の観察、および代表的な寄生虫感染検出法の実践に基づいて、寄生虫の発育・生活環と病害発生や診断法との関連性を説明でき、寄生虫病の診断と対策に必要な知識、技術、および考え方を身につける。</p> <p>(オムニバス方式 (東京農工大学のみ) /15回) (151 案浦 研/4回) 第1回～4回：蠕虫分野の基礎実習 (16 古谷哲也/11回) 第5回～15回：原虫分野の基礎実習、衛生動物分野の基礎実習、外部施設見学</p>	共同 (岩手大学のみ) オムニバス (東京農工大学のみ)
応用獣医学科目群	東京農工大学	魚病学	○	<p>水生動物の疾病の病態ならびに疫学を理解することにより、それらの診断・予防ならびに治療のための基礎知識を得ることを目標とする。養殖現場における疾病診断や無病証明書の発行、抗生物質や抗菌物質による治療、またワクチン投与、さらに動物園・水族館、小動物臨床において、臨床に対応できる基礎知識を習得する。</p>	共同
	東京農工大学	動物衛生学	○	<p>アニマルウェルフェアの考え方にに基づき家畜を健全に飼育し、安全な畜産物を得るために家畜衛生行政、飼育環境、疾病の予防・防除の重要性・必要性を学び、家畜疾病を制御する基本的な方策を関連法規に基づき習得する。さらに伴侶動物、展示動物、使役動物、特用家畜などの飼養・管理衛生、野生動物と家畜防疫などを習得する。</p>	共同
	東京大学農工大学大／岩手大学	動物衛生学実習	○	<p>動物衛生学が対象とする家畜の飼育環境と管理方法、疾病予防・診断・防除方法、畜産物の安全性の評価方法など家畜衛生に関する基本的技能と手技を、関連する法規の趣旨と共に修得することで、高学年次で履修する獣医臨床学・予防衛生学を総合的に理解する知識を習得する。</p>	共同
	岩手大学／東京農工大学	公衆衛生学総論	○	<p>公衆衛生の基本的な考え方について理解を深め、公衆衛生に関連した様々な問題解決を行うための手法を理解し、国民の健康増進、動物福祉、地球環境保全等に役立つ知識を習得する。</p> <p>(オムニバス方式 (東京農工大学のみ) /8回) (187 堀田 明豊/3回) 第1回から第3回：公衆衛生概論、獣医公衆衛生学の役割と課題、国民衛生の動向、人と動物の共生と公衆衛生 (63 石原 加奈子/5回) 第4回から第8回：感染症と対策、公衆衛生行政Ⅰ・Ⅱ</p>	共同 (岩手大学のみ) オムニバス (東京農工大学のみ)



専門教育科目	基礎獣医学科目	応用獣医学科目群	工大／岩手大学 東京農工大学	公衆衛生学実習	○	人獣共通感染症の特色や診断の意義を理解し、各種検査法、診断法を修得する。また、大気・水等の衛生検査手技を修得し、われわれを取り巻く環境の衛生状態を評価する能力を養う。	共同		
			東京農工大学	食品衛生学（獣医）	○	食品の安全を確保することを目的に、害を及ぼす要因、その作用機序を理解し、さらに食品の規格基準等に関する知識を身につけることにより、食品の安全確保の方策を理解する。 (オムニバス方式/15回) (63 石原 加奈子/13回) 第1回から第13回：食品衛生の概要、細菌性・ウイルス・寄生虫性食中毒、自然毒、有害物質、食品添加物、生体反応による食品の有害性、微生物制御と腐敗、食肉・食鳥肉の衛生、食品衛生行政 (60 播磨 勇人/2回) 第14回から第15回：食品衛生管理、乳・乳製品・食卵・魚介類・野菜・果物の衛生	オムニバス		
			工大／岩手大学 東京農工大学	食品衛生学実習	○	獣医学の科学と技術を人類の健康確保に還元する事を最終的な目的として、食品の安全を守るために必要な技術を修得すると共に、これらの技術の背後にある科学的な裏付けを理解する。	共同（東京農工大学のみ）		
			岩手大学	環境衛生学	○	ヒトや動物の健康ならびに生態系にとってより良い環境を維持するために、生活環境・地域環境・および地球環境における課題・現状ならびに対策等に関する基本的知識と必要な関連法規を習得する。	共同		
			東京農工大学	毒性学	○	化学物質がヒトや動物、環境に及ぼす有害作用を明らかにし、その予防における獣医師の役割を理解して必要な知識を習得することを目的とする。化学物質の有害作用と体内動態、生体毒性発現のメカニズム、地域・地球規模での化学物質の動態や環境への影響について学ぶ毒性学の網羅する範囲の重要性を理解し、リスク解析や規制方法について学習する。			
			岩手大学／東京農工大学	毒性学実習	○	化学物質が、人や動物そして環境に及ぼす有害作用を明らかにするための手法について、必要な知識と手技を修得することを目的とする。化学物質の生体での有害作用と体内動態および毒性発現のメカニズムおよびその毒性試験法について学び、毒性学における網羅性の重要性について理解する。	共同（岩手大学のみ）		
			岩手大学	人獣共通感染症学	○	人獣共通感染症の制御は、それぞれの感染症の感染環を理解した上で予防対策を実施することが重要である。人獣共通感染症の一般的な特色や発生要因などについて理解するとともに、各種人獣共通感染症に関して感染環、発生状況、症状、病原体、診断法および予防対策などの詳細な知識の習得を目標とする。	共同		
			東京農工大学	疫学	○	動物や人間集団における健康や疾病とそれらに関連する事象の分布や規定要因を解明し、集団レベルでの疾病予防対策を行う疫学の基本的な考え方を理解し、そのために必要な疫学指標、疫学研究のデザインと手法、疫学的データの解析の基礎的知識を修得する。	共同		
			岩手大学／東京農工大学	野生動物学	○	野生動物の生体機構のしくみを深く理解しながら、生態系のバランスを崩さぬように環境を健全な形で保全していく知恵や知識を養成する。 (オムニバス方式（岩手大学のみ）/15回) (181 辻本恒徳（非常勤）/14回) 第1回～14回：野生動物学総論、分類、形態機能、生態、疾病、保護管理、野生動物医学、域外保全、動物園・水族館学 (7 佐藤雪太/1回) 第15回 野生動物と獣医学	オムニバス（岩手大学のみ）		
			工大／岩手大学 東京農工大学	行政体験実習	○	家畜衛生または公衆衛生の職場を体験し、獣医師としての進路を考える機会を作ると共に、社会生活に必要な礼節とコミュニケーション能力を涵養する。	共同		
			実証獣医学科目	小動物臨床獣医学科目群	岩手大学／東京農工大学	内科学総論	○	獣医学領域における診療の進め方の全体像を理解する。その中で、総論部分においては、問診、身体検査、診療記録、説明と同意、臨床検査、画像診断といった項目に関する基本的な概念を理解した上で、それらを論理的に組み立てて診療を進めるための実際的な考え方と知識を習得する。 (オムニバス方式（東京農工大学のみ）/8回) (13 西藤公司/3回) 第1回～3回：内科診察の進め方と内分泌病学総論、皮膚病学総論、臨床栄養学総論 (9 田中あかね/2回) 第4回～5回：血液免疫病学総論、眼科学総論 (155 打出毅：3回) 第6回～8回：インフォームドコンセントと診療記録、代謝病・中毒学総論、泌尿器病学総論	オムニバス（東京農工大学のみ）
					東京農工大学	呼吸器病・循環器病学	○	獣医学が対象とする動物（主に犬、猫）の呼吸器系および循環器系の正常な構造と機能を理解した上で、主な呼吸器疾患と循環器疾患の病因、病態生理、症候、診断法および治療法（内科的・外科的）を学ぶ。 (オムニバス方式/15回) (11 田中綾/7回) 第1回～7回：呼吸器病の診断法、胸腔と縦隔の疾患、循環器の構造と機能、循環器疾患の臨床症状、心不全、先天性心疾患、後天性弁膜症 (14 福島隆治/4回) 第8回～11回：呼吸器の構造と機能、呼吸器疾患の臨床症状、上部気道疾患、循環器疾患の診断法 (57 島田香寿美：4回) 第12回～15回：気管と気管支の疾患、肺の疾患、心筋・心膜疾患、犬糸状虫症	オムニバス
					東京農工大学	消化器病学	○	歯牙も含め口腔から肛門にいたる消化器系の全領域について、その正常な構造と機能を理解した上で、各種消化器疾患の病因、病態生理、症候、診断法および治療法（内科的・外科的）を学ぶ。 (オムニバス方式/15回) (11 田中綾/3回) 第1回～3回：上部消化管の外科的治療、下部消化管の外科的治療 (29 大森啓太郎/3回) 第4回～6回：消化器疾患の臨床症状、腸の疾患1、肝臓・胆道の疾患 (13 西藤公司：3回) 第7回～9回：胃の疾患、腸の疾患2、腹膜・膵臓の疾患 (24 井手香織/4回) 第10回～13回：消化器の解剖と生理、消化器疾患の診断法、消化器疾患の治療法、口腔・歯の疾患 (43 濱部理奈：2回) 第14回～15回：咽頭・食道の疾患と嚥下障害、肝臓・胆道・膵臓の外科的治療	オムニバス

<p>岩手大学 ／ 東京農工大学</p>	<p>外科学総論</p>	<p>○</p>	<p>外科的疾患に対する診断と治療の基礎を横断的に理解するために、外科的侵襲、損傷、創傷治癒、ショック、出血・止血、周術期の輸液や栄養管理、理学療法などに関する基本的な知識を習得する。</p> <p>【岩手大学】（オムニバス方式/8回） （44 星野有希/1回） 第1回：体液組成と外科領域の輸液、 （2 片山泰章/7回） 第2回～8回：創傷の治癒と一般創傷処置、ショック、外科手術の栄養管理、跛行診断、理学療法、移植療法</p> <p>【東京農工大学】（オムニバス方式/8回） （11 田中綾/3回） 第1回～3回：栄養管理、体液と酸塩基平衡ならびに輸液 （22 皆上大吾/2回） 第4回～5回：損傷と創傷治癒、外科的侵襲 （43 濱部理奈/2回） 第6回～7回：ショック、出血、止血と輸血 （57 島田香寿美/1回） 第8回：再生医療と臓器移植</p>	<p>オムニバス</p>
<p>岩手大学 ／ 東京農工大学</p>	<p>麻酔学・手術学</p>	<p>○</p>	<p>手術を実施する上で必要な理論と実践に関する基本的な知識、技能および態度を身につけるために、手術の方法と技術論について包括的に学習する。さらに、麻酔学では麻酔・疼痛管理および心肺脳蘇生・集中治療の基礎理論を学ぶ。</p> <p>【岩手大学】（オムニバス方式/8回） （152 伊丹貴晴/6回） 第1回～6回：麻酔の概要と歴史・疼痛と鎮痛、局所麻酔、鎮静、全身麻酔薬、周術期管理、動物種と麻酔・心肺脳蘇生法・安楽死、 （2 片山泰章/2回） 第7回、8回：手術準備と無菌手技</p> <p>【東京農工大学】（オムニバス方式/15回） （11 田中綾/5回） 第1回～5回：手術の歴史的発展と特性、採血法、手術手技、低侵襲手術、全身麻酔 （14 福島隆治/3回） 第6回～8回：無菌法、輸液・輸血 （22 皆上大吾/2回） 第9回～10回：周術期管理・モニター、心肺脳蘇生法・安楽死 （36 清水美希/5回） 第11回～15回：手術器具および手術室、手術創の管理、手術創と感染、麻酔前投与薬、局所麻酔・疼痛と鎮痛</p>	<p>オムニバス</p>
<p>岩手大学 ／ 東京農工大学</p>	<p>軟部外科学</p>	<p>○</p>	<p>小動物の軟部組織・臓器における外科疾患について、病因、病態、症候、診断法および外科的治療法を理解する。</p> <p>【岩手大学】（オムニバス方式/8回） （2 片山泰章/2回） 第1回、2回：外科の基本、外科手術器械 （58 中田浩平/1回） 第3回：避妊と去勢 （44 星野有希/5回） 第4回～8回：縫合・結紮法と止血法、皮膚の外科、ヘルニア（会陰、腹壁、横隔膜）、脾臓の外科、救急外科</p> <p>【東京農工大学】（オムニバス方式/8回） （22 皆上大吾/2回） 第1～2回：皮膚と皮下織の疾患、雄性生殖器の外科疾患雌性生殖器の外科疾患 （43 濱部理奈/1回） 第3回：雌性生殖器の外科疾患 （57 島田香寿美/1回） 第4回：循環器系の外科疾患 （11 田中綾/2回） 第5～6回：呼吸器・胸郭・胸腔の外科疾患、泌尿器系の外科疾患 （14 福島隆治/2回） 第7～8回：消化器系の外科疾患、ヘルニア</p>	<p>オムニバス</p>
<p>岩手大学 ／ 東京農工大学</p>	<p>小動物内科学実習・基礎編</p>	<p>○</p>	<p>内科学的な診断法と治療法に関する基礎的な手技・技術を習得する。</p> <p>（オムニバス方式（東京農工大学のみ）/15回） （13 西藤公司/5回） 第1回～5回：犬身体検査1、犬身体検査2、皮膚科検査、耳科検査、爪及び肛門囊処置 （24 井手香織/5回） 第6～10回：問診、採血法、血球計算・血液塗抹検査、消化管内視鏡検査、骨髄検査 （29 大森 啓太郎/5回） 第11～15回：医療面接、血液生化学検査、投薬法、採尿法・尿検査、糞便検査</p>	<p>共同（岩手大学のみ） オムニバス（東京農工大学のみ）</p>
<p>岩手大学 ／ 東京農工大学</p>	<p>小動物内科学実習・応用編</p>	<p>○</p>	<p>基礎編で習得した手技・技術を実践可能なレベルにまで高める。</p> <p>（オムニバス方式（東京農工大学のみ）/15回） （29 大森啓太郎/6回） 第1回～6回：輸液療法、内分泌検査・腺外分泌機能検査、腹部超音波検査、肝機能検査、OSCEに対応した医療面接 （9 田中あかね/2回） 第7回～8回：腎機能検査、眼科検査 （24 井手香織/2回） 第9回～10回：輸血、血液凝固検査 （22 皆上大吾/2回） 第11回～12回：脳脊髄液検査、細胞診 （11 田中綾/1回） 第13回：心臓超音波検査 （36 清水美希/1回） 第14回：神経学的検査 （57 島田香寿美/1回） 第15回：心電図検査</p>	<p>共同（岩手大学のみ） オムニバス（東京農工大学のみ）</p>

岩手大学 ／ 東京農工大学	小動物外科学実習・基礎編	○	<p>外科学的な診断法と治療法に関する基礎的な手技・技術を習得する。</p> <p>(オムニバス方式(東京農工大学のみ)/15回) (11 田中綾/6回) 第1回～6回:外科的処置の適応判断、リスク評価、結紮、切開・止血・縫合、全身麻酔 (57 島田香寿美/1回) 第7回:血管確保 (36 清水美希:3回) 第8回～10回:器具の滅菌、術創保護・創傷管理、局所麻酔 (14 福島隆治/2回) 第11回～12回:手洗い・グローブ・ガウン装着、尿道カテーテル・ドレイン (22 皆上大吾:3回) 第13回～15回:周術期管理・モニター、救命医療の基本手技</p>	共同(岩手大学のみ) オムニバス(東京農工大学のみ)
岩手大学 ／ 東京農工大学	小動物外科学実習・応用編	○	<p>基礎編で習得した手技・技術を実践可能なレベルにまで高める。</p> <p>(オムニバス方式(東京農工大学のみ)/15回) (22 皆上大吾/4回) 第1～4回:体表の手術、生殖器系の手術 (11 田中綾/4回) 第5～8回:呼吸器系の手術、胸腔の手術、泌尿器系の手術 (36 清水美希/2回) 第9～10回:運動器系の手術、神経系の手術 (14 福島隆治/2回) 第11～12回:消化器系の手術、体壁の手術 (43 濱部理奈/1回) 第13回:循環器系の手術 (57 島田香寿美/2回) 第14～15回:生体を用いた手術実践</p>	共同(岩手大学のみ) オムニバス(東京農工大学のみ)
東京農工大学	内分泌病・皮膚病学	○	<p>生体内細胞が細胞外に分泌する化学伝達物質であるホルモンの作用と、そのホルモンによる生体内の代謝変化を理解し、ホルモン異常による病態(亢進症・低下症)の診断法と治療法を習得する。さらに、内分泌性疾患とも密接な関連性を有する皮膚病について、皮膚の正常な構造と機能を十分に理解したうえで、その病因、病態生理、症候、診断法および治療法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (13 西藤 公司/9回) 第1～9回:皮膚病学総論、外部寄生虫症、皮膚感染症、アレルギー性皮膚疾患、免疫介在性皮膚疾患、遺伝性皮膚疾患・角化症、猫特有の皮膚疾患、脱毛症、皮膚腫瘍 (24 井手 香織/6回) 第10～15回:視床下部・下垂体・性腺の疾患、甲状腺の疾患、上皮小体の疾患、膵臓の内分泌疾患1、膵臓の内分泌疾患2</p>	オムニバス
岩手大学	代謝病・中毒学	○	<p>食品、薬品、化学物質、農薬、殺虫剤、殺鼠剤など各種の中毒物質に起因する疾患、ならびにエネルギー代謝、蛋白質代謝、糖質代謝、脂肪代謝、水電解質代謝など物質代謝が障害されることによって起こる疾患(代謝病)の病態生理、症候、診断法および治療法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/8回) (6 佐藤洋/1回) 第1回:中毒学総論 (19 山崎真大/7回) 第2回～8回:伴侶動物および産業動物の代謝病、中毒</p>	オムニバス
岩手大学 ／ 東京農工大	血液免疫病学	○	<p>正常な造血機構を十分に理解した上で、赤血球、白血球および血小板が増加あるいは減少する機構について学び、各種血液疾患に関する臨床的な考え方と対応法を習得する。</p> <p>(オムニバス方式(東京農工大学のみ)/8回) (9 田中あかね/4回) 第1回～4回:産業動物の血液免疫病 (24 井手香織/4回) 第5回～8回:小動物の血液免疫病</p>	オムニバス(東京農工大学のみ)
岩手大学	神経病・運動器病学	○	<p>神経系疾患の診断手法を理解し、基本的技能を身につけるために、主要な神経疾患について病因、病態生理、症候、診断法および治療法を学ぶ。また、神経系疾患とも密接な関連性を有する運動器病について、筋骨格系の正常な構造と機能を十分に理解したうえで、その病因、病態生理、症候、診断および治療についての基礎的な知識と技術を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (58 中田浩平/7回) 第1回～7回:神経病学 (2 片山泰章/8回) 第8回～15回:整形外科</p>	オムニバス
岩手大学	泌尿器病・生殖器病学	○	<p>泌尿・生殖器系の構造と機能を理解し、主な泌尿器病および生殖器病の病因、病態生理、症候、診断と治療(内科的・外科的)に関する知識を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/8回) (19 山崎真大/1回) 第1回:泌尿器の問診、検査法 (55 小林沙織/3回) 第2回～4回:泌尿器病の内科学 (2 片山泰章/3回) 第5回～7回:泌尿器病の外科学 (8 高橋透/1回) 第8回:伴侶動物の繁殖学</p>	オムニバス
東京農工大学	臨床病理学	○	<p>動物の生体試料を用いて様々な検査を実施し、それらの検査で得られた情報を解釈して、疾患について適切な診断、治療、予後判定を行う能力の獲得を目指す。そのために、臨床診断に用いる様々な臨床検査の原理、方法、ならびに意義を理解・習得する。さらに、検査結果を総合的に解釈し、診断・治療・予後判定に結びつける方法を習得する。</p>	

専門教育科目

実証獣医学科目

小動物臨床獣医学科目群

東京農工大学	臨床薬理学	○	薬物治療を行う際に必要となる医薬品の基礎知識を学び、投薬方法の根拠となる薬物動態学の理論、投薬後に現れる効果や副作用を理解する。これらの事項に関わる獣医学領域の特殊性を、特に比較生物学的な立場から理解する。また、産業動物における疾病治療を含めた医薬品の使用方法と残留について理解する。 (オムニバス方式/8回) (35 佐々木一昭/6回) 第1回～6回：総論、薬物動態支配因子、抗菌薬とPKPD理論、食用動物へ使用する医薬品、薬物間相互作用 (25 臼井達哉/2回) 第7回：投与経路と剤型	オムニバス
岩手大学／東京農工大学	臨床腫瘍学	○	動物に発生する各種の腫瘍疾患に対して適切な診断と治療を施すために、腫瘍に関する生物学的および臨床病理学的な基礎知識、診断法、治療法、予防法について理解する。 (オムニバス方式(岩手大学のみ) / 8回) (44 星野有希 / 4回) 第1回～4回：腫瘍の生物学・診断学、放射線腫瘍学、皮膚皮下の腫瘍、リンパ系と組織球系腫瘍 (154 内田直宏(非常勤) / 1回) 第5回：腫瘍内科学 (174 高木哲(非常勤) / 3回) 第6回～8回：腫瘍外科学、骨・口腔・肛門周囲の腫瘍、内分泌・泌尿生殖器の腫瘍	オムニバス(岩手大学のみ) 共同(東京農工大学のみ)
東京農工大	臨床栄養学	○	健康小動物の栄養学的な健康管理法をベースとして、罹病小動物の各種疾患時における栄養補助や病態の悪化防止を目的とした栄養管理法について理解する。	共同
岩手大学／東京農工大学	画像診断学	○	獣医臨床において用いられる各種画像診断法の基本原理を学び、それぞれの画像診断法の特性を把握した上で、各種疾患に対する具体的な臨床応用法について理解する。さらに獣医臨床において重要かつ代表的な疾患の画像上の特徴を学習する。 <b>【岩手大学】</b> (オムニバス方式/15回) (2 片山泰章/11回) 第1回～11回：X線装置の基本構造、X線検査、CT検査、核医学、画像診断(胸部、腹部、消化管、四肢関節) (6 佐藤洋/1回) 第12回：造影剤の種類と特殊な造影検査 (58 中田浩平/2回) 第13回、14回：画像診断(頭部)、MRI検査 (59 南雲隆弘/1回) 第15回：超音波検査 <b>【東京農工大学】</b> (オムニバス方式/15回) (36 清水美希/8回) 第1回～8回：超音波検査、核磁気共鳴画像検査、頭部・脳の画像診断、呼吸器の画像診断、循環器の画像診断、脊椎・脊髄の画像診断、筋骨格系の画像診断1、筋骨格系の画像診断2 (33 岸本海織/7回) 第9回～15回：X線検査、コンピューター断層撮影検査、放射線同位元素を用いた画像診断と放射線防護、消化管の画像診断1、消化管の画像診断2、腹部画像診断1、腹部画像診断2	オムニバス
岩手大学／東京農工大学	画像診断学実習	○	放射線の発生、測定、生物への影響を理解し、放射線と放射性同位元素を安全かつ有効に利用する能力を養う。また、獣医臨床において用いられる各種画像診断法の基礎原理とそれぞれの画像診断法の特性を理解するとともに、主要疾患の画像診断に関する知識と技術を習得する。 (オムニバス方式(東京農工大学のみ) / 15回) (33 岸本海織/8回) 第1回～8回：X線検査1、X線検査2、コンピューター断層撮影検査、放射線同位元素を用いた画像診断と放射線防護、消化管の画像診断1、消化管の画像診断2、腹部画像診断1、腹部画像診断2 (36 清水美希/7回) 第9回～15回：超音波検査、核磁気共鳴画像検査、頭部・脳の画像診断、呼吸器の画像診断、循環器の画像診断、脊椎・脊髄の画像診断、筋骨格系の画像診断	共同(岩手大学のみ) オムニバス(東京農工大学のみ)
東京農工大学	眼科学	○	眼・視覚器系の構造と生理・機能を理解し、視覚機能に障害をおよぼす眼科(眼・視覚系)疾患の病因・病態、臨床徴候、診断(介助・補助犬の正確な視覚機能検査実施能力も含む)、治療(視覚機能維持、もしくは視覚機能を維持できないまでも良好な生活の質を確保することを目的とした内科・薬物療法と外科療法)、予後判定、予防法を理解する。	
東京農工大学	獣医動物行動学	○	「行動治療学」は比較的新しい学問領域であるが、これまで動物の身体的健康に主眼が置かれてきた臨床獣医学においては、動物の心身の健康を維持・増進するという観点から、今後ますます重要性が増すことが予想される。「行動治療学」について、その基本的な概念、すなわち、問題行動の定義、種類、特徴、病因、病態生理、危険因子、症状、診断方法、治療方法、フォローアップ方法などを体系的に理解し、臨床に応用する能力を培う。 (オムニバス方式/15回) (34 小山哲史/5回) 第1回～5回：基礎動物行動学 (104 入交眞巳/10回) 第6回～15回：行動治療学	オムニバス
岩手大学／東京農工大学	総合参加型臨床実習Ⅰ	○	実際の診療技能と臨床的知識を身につけることを最終目標に、主に双方向授業によりコミュニケーションスキル、チーム医療、インフォームドコンセント、医療の安全性確保等の重要性について十分に理解する。さらに模擬症例を用いて問題志向型システム(POS)にそった診療法を理解し実践できるようになった上で、教員の同伴もしくは指導下で臨床例に対する診療行為を実践する。 総合参加型臨床実習Ⅰは農工大において農工大生のために開講される。	共同
岩手大学／東京農工大学	総合参加型臨床実習Ⅱ	○	実際の診療技能と臨床的知識を身につけることを最終目標に、主に双方向授業によりコミュニケーションスキル、チーム医療、インフォームドコンセント、医療の安全性確保等の重要性について十分に理解する。さらに模擬症例を用いて問題志向型システム(POS)にそった診療法を理解し実践できるようになった上で、教員の同伴もしくは指導下で臨床例に対する診療行為を実践する。 総合参加型臨床実習Ⅱは農工大において農工大生のために開講される。	共同

専門教育科目	実証獣医学科目	小動物臨床獣医学科目群	東京農工大学	総合参加型臨床実習Ⅲ	○	実際の診療技能と臨床的知識を身につけることを最終目標に、主に双方向授業によりコミュニケーションスキル、チーム医療、インフォームドコンセント、医療の安全性確保等の重要性について十分に理解する。さらに模擬症例を用いて問題志向型システム（POS）にそった診療法を理解し実践できるようになった上で、教員の同伴もしくは指導下で臨床例に対する診療行為を実践する。 総合参加型臨床実習Ⅲは農工大において岩手大学の学生のために開講される。	共同
		東京農工大学	総合参加型臨床実習Ⅳ	○	実際の診療技能と臨床的知識を身につけることを最終目標に、主に双方向授業によりコミュニケーションスキル、チーム医療、インフォームドコンセント、医療の安全性確保等の重要性について十分に理解する。さらに模擬症例を用いて問題志向型システム（POS）にそった診療法を理解し実践できるようになった上で、教員の同伴もしくは指導下で臨床例に対する診療行為を実践する。 総合参加型臨床実習Ⅳは農工大において岩手大学の学生のために開講される。	共同	
	大動物臨床獣医学科目群	岩手大学	繁殖機能制御学	○	動物の繁殖に関わる生理学を体系的に学び、代表的な動物の発情周期、妊娠、分娩および産褥の過程を理解する。また、動物の生殖機能を人為的に調節する方法についても学習する。  (オムニバス方式/15回) (8 高橋透/11回) 第1回～11回：雌性生殖器官の構造 雄性生殖器官の構造、生殖機能を司る内分泌機構1（視床下部および下垂体）、生殖機能を司る内分泌機構2（性腺および副生殖腺）、雌の繁殖生理1（家畜）、雌の繁殖生理（伴侶動物）、雄の繁殖生理、発情と受精、初期胚の発生と着床、着床と妊娠、分娩 (53 金澤朋美/4回) 第12回～15回：人工授精、胚移植、OPUと体外受精、先進生殖補助医療	オムニバス	
		工東大 学農	臨床繁殖学	○	動物の繁殖障害、妊娠期の異常、分娩時の異常、産褥期の異常、泌乳および乳房の疾患の原因、診断、治療および予防法を理解する。		
		工大 学	繁殖機能制御学実習	○	動物の各種生殖器官検査の基本的な手技を学び、発情診断、妊娠診断、人工授精、胚移植および各種関連技術を実践する。	共同	
		工大 学	臨床繁殖学実習	○	動物の繁殖障害および産科疾患に対する診断方法と治療方法ならびに生殖制御法を学び、実践する。群としての動物の繁殖管理方法を学ぶ。	共同	
		岩手 大 学	産業動物臨床学Ⅰ	○	産業動物臨床の基本事項と特性・産業動物における各種内科疾患の病態・原因、診断法および治療法を理解し・疾病予防と生産性の向上に必要な予防法について学ぶ。	共同	
		岩手 大 学	産業動物臨床学Ⅱ	○	大動物（産業動物）の外科学を網羅し、馬の疾患も含む講義内容である。産業動物の疾患に共通する臨床徴候とその病態の解釈、さらに診断と治療の基本原則について学ぶ。  (オムニバス方式/15回) (158 岡田啓司（非常勤）/9回) 第1回～9回：麻酔、運動器疾患総論、運動器疾患（蹄疾患）、運動器疾患（骨疾患）、運動器疾患（関節・靭帯疾患）、牛の胃腸疾患、体壁疾患、乳房・泌尿器疾患、生殖器疾患 (163 笠嶋快周（非常勤）/1回) 第10回：馬の外科疾患（馬疾患等の臨床例について） (40 高橋正弘/5回) 第11～15回：産業動物における診療技術の基本、運動器疾患（腱疾患）、消化器疾患（上部消化器・馬）、頭部・呼吸器疾患、その他総括	オムニバス	
		岩手 大 学	馬臨床学	○	動物としての馬の特徴を理解し、競走馬・乗馬・コンパニオンアニマルとしての馬について知り、馬を取り扱う技術、馬特有の疾患について原因・症状・診断法・治療法・予後に関する知識を学ぶ。	共同、標準外	
		工大 学	大動物臨床実習・基礎編	○	大動物の健康情報を収集・診断するための基本的な手技を習得する。	共同	
		岩手 大 学 ／ 東 京 農 工 大 学	大動物臨床実習・応用編	○	大動物の内科ならびに外科疾患に対する処置ならびに治療法について学ぶ。  (オムニバスと共同（東京農工大学のみ）/15回) (9 田中あかね、190 前尚見、169 黒田泰輔/6回) 第1回～6回：馬の内科疾患（循環器・呼吸器・消化器）、馬の外科疾患（運動器）、馬の感染症、競馬開催における獣医師の役割、競走馬研究所における研究業務、馬の取扱い・曳き馬・保定法・個体識別、糞告・臨床検査、歩様検査・跛行診断・包帯法、採血・投薬・予防注射、東京競馬場施設見学・レントゲン検査、トレッドミル見学・エコー検査・内視鏡検査 (27 大場真己、165 吉川康宏/9回) 第7回～15回：家畜としての豚の基本的な知識、豚熱とPED、農場防疫、養豚場とと畜場（パッキングプラント）、養豚関連まとめ、豚の取り扱い方、保定法、採血方法、ワクチン注射、投薬、殺処分法、サンプリング方法	共同（岩手大学のみ） オムニバス・共同（東京農工大学のみ）	
		岩手 大 学	総合参加型臨床実習Ⅴ	○	実際の診療技能と臨床的知識を身につけることを最終目標に、主に双方向授業によりコミュニケーションスキル、チーム医療、インフォームドコンセント、医療の安全性確保等の重要性について十分に理解する。さらに模擬症例を用いて問題志向型システム（POS）にそった診療法を理解し実践できるようになった上で、教員の同伴もしくは指導下で臨床例に対する診療行為を実践する。	共同・集中	
	岩手 大 学	総合参加型臨床実習Ⅵ	○	実際の診療技能と臨床的知識を身につけることを最終目標に、主に双方向授業によりコミュニケーションスキル、チーム医療、インフォームドコンセント、医療の安全性確保等の重要性について十分に理解する。さらに模擬症例を用いて問題志向型システム（POS）にそった診療法を理解し実践できるようになった上で、教員の同伴もしくは指導下で臨床例に対する診療行為を実践する。	共同・集中		
	選択科目	工大 学	学外実習（国内）	○	獣医師としてのキャリアパスに関する意識を涵養することを目的とし、広い獣医師の職域の最前線で職場体験を行う。	共同	
		工大 学	学外実習（国外）	○	獣医師に必要な国際的視野を養うことを目的とし、姉妹校への短期留学等により海外の獣医学教育を体験する。	共同	

岩手大学	人と動物関係学	○	<p>本講義では人と動物の関係を大まかに伴侶動物・産業動物そして野生動物に分類する。歴史的に人とどのような関わりを持ってきたのか・また動物に対する社会情勢や文化的背景なども解説する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)                      (3 木崎景一郎/1回)                      第1回：人・動物関係学概論、産業動物と人の関係                      (192 松浦晶央/4回)                      第2回～5回：動物介在活動・療法・教育                      (168 木村祐也/4回)                      第6回～9回：伴侶動物と人の関係                      (181 辻本恒徳/5回)                      第10回～14回：野生動物及び動物園動物と人の関係                      (30 大沼俊名/1回)                      第15回：動物愛護</p>	オムニバス
岩手大学	動物介在学	○	<p>動物介在療法、動物介在教育、動物介在活動について実例を学ぶ。獣医師として動物の健康と福祉を確保しながら、医療や教育現場や社会における動物の役割について考える。乗馬によるホースセラピーの実習を含む。</p>	
岩手大学	宿主寄生体関係特論	○	<p>産業動物や野生動物を対象に、宿主と病原体の関係を理解するため、フィールド調査等を通じて原虫・蠕虫・衛生動物の分布状況を明らかにし、宿主における病原性も考察する一連の手法を実践する。</p> <p>(オムニバス方式/8回)                      (7 佐藤雪太/4回)                      第1回～4回：宿主寄生体関係総論、調査方法論、原虫調査実践演習、衛生動物調査実践演習                      (39 関まどか/4回)                      第5回～8回：蠕虫総論、蠕虫調査実践演習、総合討論</p>	オムニバス
東京農工大学	動物園動物学	○	<p>本科目を受講することで、動物園で飼育展示されている野生動物(水族館で飼育されている海獣類を含む)・動物園動物の種類と特徴、動物園動物の福祉、飼育管理、健康管理、希少動物保全のための動物園の役割に関する基礎的な知識を習得する。また、動物園水族館の機能や社会的役割および臨床技術を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/12回、共同開講/3回)                      (12 永岡謙太郎/4回)                      第1回～4回：動物園動物の種類、特徴、福祉、飼育管理、健康管理                      (199 綿貫宏史朗/5回)                      第5回～9回：動物園水族館の機能や社会的役割および臨床技術                      (51 山本ゆき/3回)                      第10回～12回：希少動物保全のための動物園の役割                      (担当教員全員/3回)                      第13-15回：東京近辺の動物園と水族館見学</p>	オムニバス、共同(一部)、実習(一部)
東京農工大学	国際感染症制御学	○	<p>世界における感染症の現状を把握し、それらをどのように制御していくべきか、それぞれの国状を理解しながら、グローバルな視点で対応を考えられるような知識を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/13回、共同開講/2回)                      (31 オブライエン悠木子/8回)                      第1回～8回：海外生活及び動物の国際取引で注意すべき感染症、農林水産省検疫所の取り組み                      (16 古谷哲也/1回)                      第9回：節足動物媒介性感染症                      (27 大場真己/1回)                      第10回：現在流行している感染症                      (153 林昌宏/2回)                      第11回～12回：国際感染症制御のための国際的な取り組み                      (156 浦辺真帆/1回)                      第13回：国際獣疫事務局(WOAH)の取り組み                      (担当教員全員/2回)                      第14-15回：感染症の最新トピック、討論</p>	オムニバス、共同(一部)、実習(一部)
東京農工大学	動物病院経営学	○	<p>小動物(伴侶動物)の一次診療施設、二次診療施設および企業動物病院の経営担当者が、動物病院経営の現状と将来的展望について解説する。</p> <p>(オムニバス方式/8回)                      (22 皆上大吾/2回)                      第1回～2回：大学附属病院経営学                      (160 小椋功/2回)                      第3回～4回：小動物一次診療施設における動物病院経営学                      (185 平尾秀博/2回)                      第5回～6回：小動物二次診療施設における動物病院経営学                      (162 小沼守/2回)                      第7回～8回：企業動物病院の将来的展望</p>	オムニバス

<p>専門教育科目</p>	<p>専修科目</p>	<p>岩手大学／東京農工大学</p>	<p>獣医学演習</p>	<p>講義・実習等で習得した知識と技術を利用して研究を行い、獣医学を総合的に理解することを目的とする。研究室に配属し、指導教員のもとで学習及び研究を行い、本授業を通じて専門性を高めるとともに、獣医学領域に関わる「課題」に着目し、「課題」に対する研究手法や研究意義を理解する。得られた課題や研究結果をまとめ、指導教員の指導に基づき報告または発表する。</p> <p>【岩手大学】  (2 片山 泰章)  獣医外科学、臓器移植、腎臓病学、整形外科学  (3 木崎 景一郎)  動物生命科学、総合動物科学、分子細胞生理学  (4 佐藤 至)  環境衛生学、放射性物質、化学物質、重金属、環境汚染  (6 佐藤 洋)  薬学、薬理、基礎医学、トキシコロジー、内分泌、実験病理、化学療法  (7 佐藤 雪太)  獣医寄生虫学、野生動物、保全医学、ベクター媒介性感染症  (8 高橋 透)  繁殖障害の診断・治療・予防  (15 古市 達哉)  動物生命科学、総合動物科学、実験動物学、疾患モデル動物学、発生工学  (18 村上 賢二)  微生物学、獣医感染症学、獣医免疫学、病原微生物、ウイルス、動物ウイルス感染症、感染免疫、診断・予防  (19 山崎 真大)  小動物内科学、獣医血液病学、原虫病  (20 山本 欣郎)  動物生命科学、総合動物科学、神経系比較組織学  (30 大沼 俊名)  動物生命科学、腫瘍学、統合獣医学、腫瘍生物学  (39 関 まどか)  獣医寄生虫学、蠕虫学、吸虫、人獣共通感染症、顧みられない熱帯病  (40 高橋 正弘)  産業動物臨床学、牛、胚移植、脂肪酸分析  (42 中牟田 信明)  獣医解剖学、獣医組織学、獣医発生学  (44 星野 有希)  臨床腫瘍学、軟部組織外科学  (45 宮崎 珠子)  動物介在学、動物行動学、産業動物臨床学  (47 森田 智也)  獣医内科学、循環器病学、画像診断  (48 山崎 朗子)  食品衛生学、野生鳥獣肉衛生管理  (49 山田 慎二)  獣医微生物学、ウイルス、感染免疫、抗体、診断・予防学  (50 山田 美鈴)  動物生命科学、総合動物科学、ホメオスタシス維持機構  (52 横山 拓矢)  動物生命科学、組織学、神経科学  (53 金澤 朋美)  臨床繁殖学、卵巣生理、牛の受胎性評価、繁殖改善  (55 小林 沙織)  小動物内科学、腎泌尿器病学、獣医遺伝病学、免疫不全症  (56 佐々木 淳)  獣医病理学、感染症、家禽疾病、運動器系疾患、被ばく  (58 中田 浩平)  小動物外科学、獣医神経病学、獣医画像診断学  (59 南雲 隆弘)  獣医外科学、低侵襲外科学、小動物画像診断学、手術支援  (61 前原 都有子)  薬理、薬学、毒性</p> <p>【東京農工大学】  (32 金田 正弘)  動物基礎医学、形態機能学、獣医解剖学、エビゲノム生物学  (54 木賀田 哲人)  動物基礎医学、形態機能学、獣医解剖学、哺乳類の比較解剖学  (12 永岡 謙太郎)  動物基礎医学、形態機能学、獣医生理学、生理機能調節学  (51 山本 ゆき)  動物基礎医学、形態機能学、獣医生理学、動物生理学  (35 佐々木 一昭)  動物基礎医学、機能制御学、獣医薬理学、獣医臨床薬理学  (25 臼井 達哉)  動物基礎医学、機能制御学、獣医薬理学、獣医病態薬理学  (21 吉田 敏則)  動物基礎医学、機能制御学、獣医病理学、実験病理学  (38 鈴木 和彦)  動物基礎医学、機能制御学、獣医毒性学、実験病態病理学  (46 村上 智亮)  動物基礎医学、機能制御学、獣医毒性学、疾病病態解析学  (16 古谷 哲也)  獣医衛生科学、動物衛生学、獣医微生物学、病原感染因子学  (31 オプライエン 悠木子)  獣医衛生科学、動物衛生学、獣医伝染病学、病原性微生物学  (63 石原 加奈子)  獣医衛生科学、獣医衛生学、獣医公衆衛生学、衛生微生物学  (60 播磨 勇人)  獣医衛生科学、獣医衛生学、獣医公衆衛生学、人獣共通感染症学  (13 西藤 公司)  獣医臨床医学、伴侶動物臨床医学、獣医内科学、獣医皮膚科学  (24 井手 香織)  獣医臨床医学、伴侶動物臨床医学、獣医内科学、小動物内科学  (57 島田 香寿美)  獣医臨床医学、伴侶動物臨床医学、獣医外科学、獣医軟部外科学  (10 田中 知己)  獣医臨床医学、産業動物臨床医学、獣医臨床繁殖学、家畜不妊症防除学  (26 遠藤 なつ美)  獣医臨床医学、産業動物臨床医学、獣医臨床繁殖学、繁殖障害診断学  (5 佐藤 俊幸)  動物基礎医学、形態機能学、動物行動学、行動生物学</p>
---------------	-------------	--------------------	--------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

			<p>(34 小山 哲史) 動物基礎医学、形態機能学、動物行動学、進化生物学</p> <p>(29 大森 啓太郎) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医分子病態治療学、獣医臨床免疫学</p> <p>(36 清水 美希) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医画像診断学、小動物外科学</p> <p>(33 岸本 海織) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医画像診断学、獣医臨床放射線学</p> <p>(22 皆上 大吾) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医臨床腫瘍学、腫瘍学</p> <p>(43 濱部 理奈) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医臨床腫瘍学、腫瘍診断学</p> <p>(9 田中 あかね) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、比較動物医学、分子免疫学</p> <p>(14 福島 隆治) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、動物病院経営学、小動物病態ME解析学</p> <p>(11 田中 綾) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医外科学、実験外科学</p> <p>(17 水谷 哲也) 獣医衛生科学、獣医衛生学、感染症未来疫学、家畜感染症学</p> <p>(28 大松 勉) 獣医衛生科学、獣医衛生学、感染症未来疫学、動物感染症防疫学</p> <p>(27 大場 真己) 獣医衛生科学、獣医衛生学、感染症未来疫学、未来疫学</p> <p>(41 竹前 等) 獣医衛生科学、獣医衛生学、感染症未来疫学、ウイルスゲノム学</p> <p>(37 鈴木 馨) 獣医臨床医科学、野生動物臨床医学、野生動物医学、獣医麻酔学</p>	
--	--	--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--



専門教育科目

専修科目

岩手大学 ／ 東京農工大学	卒業研究	○ <p>講義・実習等で習得した知識と技術を利用して研究を行い・獣医学を総合的に理解することを目的とする。研究室に配属し・指導教員のもとで学習及び研究を行い、本授業を通じて専門性を高めるとともに・獣医学領域に関わる「課題」に着目し、「課題」に対する研究手法や研究意義を理解する。得られた課題や研究結果をまとめ・指導教員の指導に基づき報告または発表する。</p> <p>【岩手大学】 (2 片山 泰章) 獣医外科学、臓器移植、腎臓病学、整形外科 (3 木崎 景一郎) 動物生命科学、総合動物科学、分子細胞生理学 (4 佐藤 至) 環境衛生学、放射性物質、化学物質、重金属、環境汚染 (6 佐藤 洋) 薬学、薬理、基礎医学、トキシコロジー、内分泌、実験病理、化学療法 (7 佐藤 雪太) 獣医寄生虫学、野生動物、保全医学、ベクター媒介性感染症 (8 高橋 透) 繁殖障害の診断・治療・予防 (15 古市 達哉) 動物生命科学、総合動物科学、実験動物学、疾患モデル動物学、発生工学 (18 村上 賢二) 微生物学、獣医感染症学、獣医免疫学、病原微生物、ウイルス、動物ウイルス感染症、感染免疫、診断・予防 (19 山崎 真大) 小動物内科学、獣医血液病学、原虫病 (20 山本 欣郎) 動物生命科学、総合動物科学、神経系比較組織学 (30 大沼 俊名) 動物生命科学、腫瘍学、統合獣医科学、腫瘍生物学 (39 関 まどか) 獣医寄生虫学、蠕虫学、吸虫、人獣共通感染症、顧みられない熱帯病 (40 高橋 正弘) 産業動物臨床学、牛、胚移植、脂肪酸分析 (42 中牟田 信明) 獣医解剖学、獣医組織学、獣医発生学 (44 星野 有希) 臨床腫瘍学、軟部組織外科学 (45 宮崎 珠子) 動物介在学、動物行動学、産業動物臨床学 (47 森田 智也) 獣医内科学、循環器病学、画像診断 (48 山崎 朗子) 食品衛生学、野生鳥獣肉衛生管理 (49 山田 慎二) 獣医微生物学、ウイルス、感染免疫、抗体、診断・予防学 (50 山田 美鈴) 動物生命科学、総合動物科学、ホメオスタシス維持機構 (52 横山 拓矢) 動物生命科学、組織学、神経科学 (53 金澤 朋美) 臨床繁殖学、卵巣生理、牛の受胎性評価、繁殖改善 (55 小林 沙織) 小動物内科学、腎泌尿器病学、獣医遺伝病学、免疫不全症 (56 佐々木 淳) 獣医病理学、感染症、家禽疾病、運動器系疾患、被ばく (58 中田 浩平) 小動物外科学、獣医神経病学、獣医画像診断学 (59 南雲 隆弘) 獣医外科学、低侵襲外科学、小動物画像診断学、手術支援 (61 前原 都有子) 薬理、薬学、毒性</p> <p>【東京農工大学】 (32 金田 正弘) 動物基礎医学、形態機能学、獣医解剖学、エビゲノム生物学 (54 木賀田 哲人) 動物基礎医学、形態機能学、獣医解剖学、哺乳類の比較解剖学 (12 永岡 謙太郎) 動物基礎医学、形態機能学、獣医生理学、生理機能調節学 (51 山本 ゆき) 動物基礎医学、形態機能学、獣医生理学、動物生理学 (35 佐々木 一昭) 動物基礎医学、機能制御学、獣医薬理学、獣医臨床薬理学 (25 臼井 達哉) 動物基礎医学、機能制御学、獣医薬理学、獣医病態薬理学 (21 吉田 敏則) 動物基礎医学、機能制御学、獣医病理学、実験病理学 (38 鈴木 和彦) 動物基礎医学、機能制御学、獣医毒性学、実験病態病理学 (46 村上 智亮) 動物基礎医学、機能制御学、獣医毒性学、疾病病態解析学 (16 古谷 哲也) 獣医衛生科学、動物衛生学、獣医微生物学、病原感染因子学 (31 オブライエン 悠木子) 獣医衛生科学、動物衛生学、獣医伝染病学、病原性微生物学 (63 石原 加奈子) 獣医衛生科学、獣医衛生学、獣医公衆衛生学、衛生微生物学 (60 播磨 勇人) 獣医衛生科学、獣医衛生学、獣医公衆衛生学、人獣共通感染症学 (13 西藤 公司) 獣医臨床医学、伴侶動物臨床医学、獣医内科学、獣医皮膚科学 (24 井手 香織) 獣医臨床医学、伴侶動物臨床医学、獣医内科学、小動物内科学 (57 島田 香寿美) 獣医臨床医学、伴侶動物臨床医学、獣医外科学、獣医軟部外科学 (10 田中 知己) 獣医臨床医学、産業動物臨床医学、獣医臨床繁殖学、家畜不妊症防除学 (26 遠藤 なつ美) 獣医臨床医学、産業動物臨床医学、獣医臨床繁殖学、繁殖障害診断学</p>
---------------------	------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

			<p>(5 佐藤 俊幸) 動物基礎医学、形態機能学、動物行動学、行動生物学</p> <p>(34 小山 哲史) 動物基礎医学、形態機能学、動物行動学、進化生物学</p> <p>(29 大森 啓太郎) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医分子病態治療学、獣医臨床免疫学</p> <p>(36 清水 美希) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医画像診断学、小動物外科学</p> <p>(33 岸本 海織) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医画像診断学、獣医臨床放射線学</p> <p>(22 皆上 大吾) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医臨床腫瘍学、腫瘍学</p> <p>(43 濱部 理奈) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医臨床腫瘍学、腫瘍診断学</p> <p>(9 田中 あかね) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、比較動物医学、分子免疫学</p> <p>(14 福島 隆治) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、動物病院経営学、小動物病態ME解析学</p> <p>(11 田中 綾) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医外科学、実験外科学</p> <p>(17 水谷 哲也) 獣医衛生科学、獣医衛生学、感染症未来疫学、家畜感染症学</p> <p>(28 大松 勉) 獣医衛生科学、獣医衛生学、感染症未来疫学、動物感染症防疫学</p> <p>(27 大場 真己) 獣医衛生科学、獣医衛生学、感染症未来疫学、未来疫学</p> <p>(41 竹前 等) 獣医衛生科学、獣医衛生学、感染症未来疫学、ウイルスゲノム学</p> <p>(37 鈴木 馨) 獣医臨床医科学、野生動物臨床医学、野生動物医学、獣医麻酔学</p>	
--	--	--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

専門教育科目

専修科目

岩手大学／東京農工大学	アドバンス演習	○ <p>【岩手大学】 学内臨床アドバンス：共用試験に合格した学生が総合参加型臨床実習とは別途 本学附属動物病院での臨床実習に参加し・獣医師として将来目指す分野の知識 や技術をさらに深化させるとともに学生の自主性を育む。また・様々な分野の 科目を学生自ら選択して受講することで・獣医師としての見識を広げる。</p> <p>(2 片山 泰章) 獣医外科学、臓器移植、腎臓病学、整形外科学 (8 高橋 透) 繁殖障害の診断・治療・予防 (19 山崎 真大) 小動物内科学、獣医血液病学、原虫病 (40 高橋 正弘) 産業動物臨床学、牛、胚移植、脂肪酸分析 (44 星野 有希) 臨床腫瘍学、軟部組織外科学 (45 宮崎 珠子) 動物介在学、動物行動学、産業動物臨床学 (47 森田 智也) 獣医内科学、循環器病学、画像診断 (53 金澤 朋美) 臨床繁殖学、卵巣生理、牛の受胎性評価、繁殖改善 (55 小林 沙織) 小動物内科学、腎臓器病学、獣医遺伝病学、免疫不全症 (58 中田 浩平) 小動物外科学、獣医神経病学、獣医画像診断学 (59 南雲 隆弘) 獣医外科学、低侵襲外科学、小動物画像診断学、手術支援</p> <p>獣医学特別研究アドバンス：本学教員（卒業論文指導教員に限らない）指導の もと・興味関心のあるテーマについての研究をすすめる・研究方法・実験の技 術・文献探査・ならびに成果の纏め方や発表法について習得する。</p> <p>(2 片山 泰章) 獣医外科学、臓器移植、腎臓病学、整形外科学 (3 木崎 景一郎) 動物生命科学、総合動物科学、分子細胞生理学 (4 佐藤 至) 環境衛生学、放射性物質、化学物質、重金属、環境汚染 (6 佐藤 洋) 薬学、薬理、基礎医学、トキシコロジー、内分泌、実験病理、化学療法 (7 佐藤 雪太) 獣医寄生虫学、野生動物、保全医学、ベクター媒介性感染症 (8 高橋 透) 繁殖障害の診断・治療・予防 (15 古市 達哉) 動物生命科学、総合動物科学、実験動物学、疾患モデル動物学、発生工学 (18 村上 賢二) 微生物学、獣医感染症学、獣医免疫学、病原微生物、ウイルス、動物ウイルス 感染症、感染免疫、診断・予防 (19 山崎 真大) 小動物内科学、獣医血液病学、原虫病 (20 山本 欣郎) 動物生命科学、総合動物科学、神経系比較組織学 (30 大沼 俊名) 動物生命科学、腫瘍学、統合獣医科学、腫瘍生物学 (39 関 まどか) 獣医寄生虫学、蠕虫学、吸虫、人獣共通感染症、顧みられない熱帯病 (40 高橋 正弘) 産業動物臨床学、牛、胚移植、脂肪酸分析 (42 中牟田 信明) 獣医解剖学、獣医組織学、獣医発生学 (44 星野 有希) 臨床腫瘍学、軟部組織外科学 (45 宮崎 珠子) 動物介在学、動物行動学、産業動物臨床学 (47 森田 智也) 獣医内科学、循環器病学、画像診断 (48 山崎 朗子) 食品衛生学、野生鳥獣肉衛生管理 (49 山田 慎二) 獣医微生物学、ウイルス、感染免疫、抗体、診断・予防学 (50 山田 美鈴) 動物生命科学、統合動物科学、ホメオスタシス維持機構 (52 横山 拓矢) 動物生命科学、組織学、神経科学 (53 金澤 朋美) 臨床繁殖学、卵巣生理、牛の受胎性評価、繁殖改善 (55 小林 沙織) 小動物内科学、腎臓器病学、獣医遺伝病学、免疫不全症 (56 佐々木 淳) 獣医病理学、感染症、家禽疾病、運動器系疾患、被ばく (58 中田 浩平) 小動物外科学、獣医神経病学、獣医画像診断学 (59 南雲 隆弘) 獣医外科学、低侵襲外科学、小動物画像診断学、手術支援 (61 前原 都有子) 薬理、薬学、毒性</p> <p>獣医学特別実践演習アドバンス：共用試験に合格した学生が外部機関における 研修を通じ・獣医師として将来目指す分野の知識や技術をさらに深化させると ともに学生の自主性を育む。また・様々な分野の科目を学生自ら選択して受講 することで・獣医師としての見識を広げる。</p> <p>(2 片山 泰章) 獣医外科学、臓器移植、腎臓病学、整形外科学 (3 木崎 景一郎) 動物生命科学、総合動物科学、分子細胞生理学</p>
-------------	---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		<p>(4 佐藤 至) 環境衛生学、放射性物質、化学物質、重金属、環境汚染 (6 佐藤 洋) 薬学、薬理、基礎医学、トキシコロジー、内分泌、実験病理、化学療法 (7 佐藤 雪太) 獣医寄生虫学、野生動物、保全医学、ベクター媒介性感染症 (8 高橋 透) 繁殖障害の診断・治療・予防 (15 古市 達哉) 動物生命科学、総合動物科学、実験動物学、疾患モデル動物学、発生工学 (18 村上 賢二) 微生物学、獣医感染症学、獣医免疫学、病原微生物、ウイルス、動物ウイルス感染症、感染免疫、診断・予防 (19 山崎 真大) 小動物内科学、獣医血液病学、原虫病 (20 山本 欣郎) 動物生命科学、総合動物科学、神経系比較組織学 (30 大沼 俊名) 動物生命科学、腫瘍学、統合獣医科学、腫瘍生物学 (39 関 まどか) 獣医寄生虫学、蠕虫学、吸虫、人獣共通感染症、顧みられない熱帯病 (40 高橋 正弘) 産業動物臨床学、牛、胚移植、脂肪酸分析 (42 中牟田 信明) 獣医解剖学、獣医組織学、獣医発生学 (44 星野 有希) 臨床腫瘍学、軟部組織外科学 (45 宮崎 珠子) 動物介在学、動物行動学、産業動物臨床学 (47 森田 智也) 獣医内科学、循環器病学、画像診断 (48 山崎 朗子) 食品衛生学、野生鳥獣肉衛生管理 (49 山田 慎二) 獣医微生物学、ウイルス、感染免疫、抗体、診断・予防学 (50 山田 美鈴) 動物生命科学、統合動物科学、ホメオスタシス維持機構 (52 横山 拓矢) 動物生命科学、組織学、神経科学 (53 金澤 朋美) 臨床繁殖学、卵巣生理、牛の受胎性評価、繁殖改善 (55 小林 沙織) 小動物内科学、腎泌尿器病学、獣医遺伝病学、免疫不全症 (56 佐々木 淳) 獣医病理学、感染症、家禽疾病、運動器系疾患、被ばく (58 中田 浩平) 小動物外科学、獣医神経病学、獣医画像診断学 (59 南雲 隆弘) 獣医外科学、低侵襲外科学、小動物画像診断学、手術支援 (61 前原 都有子) 薬理、薬学、毒性</p> <p>【東京農工大学】 学内臨床アドバンス：共用試験に合格した学生が総合参加型臨床実習とは別途 本学附属動物病院での臨床実習に参加し・獣医師として将来目指す分野の知識 や技術をさらに深化させるとともに学生の自主性を育む。また・様々な分野の 科目を学生自ら選択して受講することで・獣医師としての見識を広げる。</p> <p>獣医学特別研究アドバンス：本学教員（卒業論文指導教員に限らない）指導の もと・興味関心のあるテーマについての研究をすすめる・研究方法・実験の技 術・文献探索・ならびに成果の纏め方や発表法について習得する。</p> <p>獣医学特別実践演習アドバンス：共用試験に合格した学生が外部機関における 研修を通じ・獣医師として将来目指す分野の知識や技術をさらに深化させると ともに学生の自主性を育む。また・様々な分野の科目を学生自ら選択して受講 することで・獣医師としての見識を広げる。</p> <p>(32 金田 正弘) 動物基礎医学、形態機能学、獣医解剖学、エビゲノム生物学 (54 木賀田 哲人) 動物基礎医学、形態機能学、獣医解剖学、哺乳類の比較解剖学 (12 永岡 謙太郎) 動物基礎医学、形態機能学、獣医生理学、生理機能調節学 (51 山本 ゆき) 動物基礎医学、形態機能学、獣医生理学、動物生理学 (35 佐々木 一昭) 動物基礎医学、機能制御学、獣医薬理学、獣医臨床薬理学 (25 臼井 達哉) 動物基礎医学、機能制御学、獣医薬理学、獣医病態薬理学 (21 吉田 敏則) 動物基礎医学、機能制御学、獣医病理学、実験病理学 (38 鈴木 和彦) 動物基礎医学、機能制御学、獣医毒性学、実験病態病理学 (46 村上 智亮) 動物基礎医学、機能制御学、獣医毒性学、疾病病態解析学 (16 古谷 哲也) 獣医衛生科学、動物衛生学、獣医微生物学、病原感染因子学 (31 オブライエン 悠木子) 獣医衛生科学、動物衛生学、獣医伝染病学、病原性微生物学 (63 石原 加奈子) 獣医衛生科学、獣医衛生学、獣医公衆衛生学、衛生微生物学 (60 播磨 勇人) 獣医衛生科学、獣医衛生学、獣医公衆衛生学、人獣共通感染症学 (13 西藤 公司) 獣医臨床医学、伴侶動物臨床医学、獣医内科学、獣医皮膚科学 (24 井手 香織) 獣医臨床医学、伴侶動物臨床医学、獣医内科学、小動物内科学 (57 島田 香寿美) 獣医臨床医学、伴侶動物臨床医学、獣医外科学、獣医軟部外科学 (10 田中 知己) 獣医臨床医学、産業動物臨床医学、獣医臨床繁殖学、家畜不妊症防除学 (26 遠藤 なつ美) 獣医臨床医学、産業動物臨床医学、獣医臨床繁殖学、繁殖障害診断学 (5 佐藤 俊幸) 動物基礎医学、形態機能学、動物行動学、行動生物学</p>
--	--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		<p>(34 小山 哲史) 動物基礎医学、形態機能学、動物行動学、進化生物学</p> <p>(29 大森 啓太郎) 獣医臨床医学、伴侶動物臨床医学、獣医分子病態治療学、獣医臨床免疫学</p> <p>(36 清水 美希) 獣医臨床医学、伴侶動物臨床医学、獣医画像診断学、小動物外科学</p> <p>(33 岸本 海織) 獣医臨床医学、伴侶動物臨床医学、獣医画像診断学、獣医臨床放射線学</p> <p>(22 皆上 大吾) 獣医臨床医学、伴侶動物臨床医学、獣医臨床腫瘍学、腫瘍学</p> <p>(43 濱部 理奈) 獣医臨床医学、伴侶動物臨床医学、獣医臨床腫瘍学、腫瘍診断学</p> <p>(9 田中 あかね) 獣医臨床医学、伴侶動物臨床医学、比較動物医学、分子免疫学</p> <p>(14 福島 隆治) 獣医臨床医学、伴侶動物臨床医学、動物病院経営学、小動物病態ME解析学</p> <p>(11 田中 綾) 獣医臨床医学、伴侶動物臨床医学、獣医外科学、実験外科学</p> <p>(17 水谷 哲也) 獣医衛生科学、獣医衛生学、感染症未来疫学、家畜感染症学</p> <p>(28 大松 勉) 獣医衛生科学、獣医衛生学、感染症未来疫学、動物感染症防疫学</p> <p>(27 大場 真己) 獣医衛生科学、獣医衛生学、感染症未来疫学、未来疫学</p> <p>(41 竹前 等) 獣医衛生科学、獣医衛生学、感染症未来疫学、ウイルスゲノム学</p> <p>(37 鈴木 馨) 獣医臨床医学、野生動物臨床医学、野生動物医学、獣医麻酔学</p>	
--	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

授 業 科 目 の 概 要				
(獣医学部共同獣医学科)【岩手大学開設分】				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	大学教育導入科目群	獣医学基礎ゼミナール	○ 全学共通教育・専門教育・大学生活へのイントロダクションや、学生が互いに学びあうことによって、獣医学分野の基礎知識や心構えを身につけ、学習意欲を高めると共に協調性や社会性の大切さを再認識する。 (オムニバス方式/15回) (45 宮崎珠子/13回) 第1回～13回：資料館見学、図書館見学、研究室訪問、生物学勉強会、震災学修 (56 佐々木淳/1回) 第14回：標本室見学 (2 片山泰章/1回) 第15回：動物病院見学	オムニバス
	スポーツ健康科目群	健康・スポーツA	スポーツをツールとして、心身の健康と体力を高めるための技法知を学修する科目であり、第1週：オリエンテーション及び実技種目選択、第2週：講義「学生生活と健康」、第3～13週：実技、第14週：講義「運動生理学」で構成されている。その中で、①すこやかな大学生活をおくるために必要な知識の理解、②体を動かすことの楽しさを味わい体力に応じた運動計画の立案と実践、③公正・協力・責任・参画に対する意欲と安全の確保、④豊かなスポーツライフ実現へ向けた自己と仲間の課題に応じた工夫、を到達目標としている。	
		健康・スポーツB	スポーツをツールとして、心身の健康と体力を高めるための技法知を学修する科目であり、第1週：オリエンテーション及び実技種目選択、第2～12週：実技、第13週：講義「体力づくりのために」、第14週：講義「スポーツと事故」で構成されている。その中で、①スポーツの楽しさを深く味わい、体力と健康を増進する方法を理解し実践する、②公正・協力・責任・参画に対する意欲を高める、③安全を確保しながら主体的にスポーツ活動に参加する、④豊かなスポーツライフ実現へ向けた自己と仲間の課題に応じた工夫、⑤スポーツを「する」ことのみならず「知る・観る・支える」といった多様な関わり方について理解し実践する、を到達目標としている。	
	健康・スポーツC	積雪寒冷地にある本学の特徴を生かし、冬季スポーツをツールとして、心身の健康と体力を高めるための技法知を学修する科目であり、岩手県内のスキー場あるいはスケート場を使用した合宿研修型の集中講義である。「雪上のスポーツ」としてアルペンスキー、「氷上のスポーツ」としてスケート・カーリング・アイスホッケーを取り扱う。その中で、①冬季スポーツの楽しさを深く味わい、体力と健康を増進する方法を理解し実践する、②公正・協力・責任・参画に対する意欲を高める、③安全を確保しながら主体的にスポーツ活動に参加する、④豊かなスポーツライフ実現へ向けた自己と仲間の課題に応じた工夫、⑤スポーツを「する」ことのみならず「知る・観る・支える」といった多様な関わり方について理解し実践する、⑥合宿研修でのルールやマナーの理解と実践、を到達目標としている。	標準外	
外国語科目群	英語総合Ⅰ		複雑な英文を正確に理解できる読解力、多様なトピックについて適切な英文を書くことができる作文力の育成を中心にして授業を行なう。これにリスニングとスピーキングの言語活動も加え、英語による総合的なコミュニケーション能力を養う。こうした英語力の育成を通して、他国および自国の文化や社会を理解してグローバル社会に貢献できる人材を養成する。	
	英語総合Ⅱ		複雑な英文を正確に理解できる読解力、多様なトピックについて適切な英文を書くことができる作文力の育成を中心にして授業を行なう。これにリスニングとスピーキングの言語活動も加え、英語による総合的なコミュニケーション能力を養う。こうした英語力の育成を通して、他国および自国の文化や社会を理解してグローバル社会に貢献できる人材を養成する。	
	英語コミュニケーションⅠ		社会や文化に関する多様なトピックを英語で聞いて正しく理解する能力、自分の意見を英語で論理的に説明する能力、英語によるディベートやプレゼンテーションの能力を育成する。オーラルコミュニケーションが中心となるが、必要な情報を英語で集めるための読解力の向上も行なう。こうした英語力の育成を通して、グローバル社会に対応できる人材を育てる。	
	英語コミュニケーションⅡ		社会や文化に関する多様なトピックを英で聞いて正しく理解する能力、自分の意見を英語で論理的に説明する能力、英語によるディベートやプレゼンテーションの能力を育成する。オーラルコミュニケーションが中心となるが、必要な情報を英語で集められるための読解力の向上も行なう。こうした英語力の育成を通して、グローバル社会に対応できる人材を育てる。	
	英語総合Ⅲ		獣医学部2年生を対象とし、複雑な英文を十分に理解する読解力と、様々なテーマにおける適切な論述力の養成に重点を置く。これらの英語力の育成を通して、アカデミックな文章を理解し、自らアカデミックな文章を書ける人材を育成する。	
	英語コミュニケーションⅢ		獣医学科2年生を対象に、様々な社会的・文化的なトピックを英語で聞き取り、十分に理解する力、自分の意見を英語で論理的に説明する力、英語でディベートやプレゼンテーションができる力を養成する。このような英語力の育成を通して、自分の考えをわかりやすく伝え、発表できる未来の獣医師を育成する。	

教育学		<p>学生が自らの教育観を相対化し、教育をめぐる諸問題を多角的に考察するための視座を高めることを目的とする。教育学の対象は学校教育にとどまらず、人間の学びと成長、文化の創造や地域づくりなどにも及ぶ。本講義では、教育哲学・思想、教育史、生涯学習・社会教育学、教育方法学、カリキュラム学、教育行政学、教育社会学、比較教育学、教科教育学などに基づく教育学の知見を紹介することで、学生が自己の生き方や教育のあり方を考える力を養成する。</p>	
経済学・経営学		<p>本講義では、経済学・経営学の視点から、現代社会で起きている諸問題を理解し、考察する力を身につけることを目標とする。担当教員が経済学・経営学の基本的理論について説明をした後、理論をもとに社会問題について考察する。本講義では、農業経済論、理論経済学、政治経済学、財政学、環境経済学、経営学(とりわけ人的資源管理論)の視点から、毎回の講義担当者が社会問題を取り上げつつ、基礎的な理論をもとに講義をする。本講義では、表層的な内容を理解するにとどまらず、そうした問題が起きる要因を深く考察する力を養成することを心がける。また、そうした問題に対し、受講者自身がいかにか考えるのか、その問題についてどのような問題性を感じるのかを考える機会を作りたい。</p>	
芸術学		<p>音楽・美術・書道・デザインなどのいずれかの芸術関連分野について取り上げながら、芸術への理解を深め、親しみを持って探求する姿勢を身につけることを目的とする。様々な作品やそれらに関わる考え方に触れることは、単に知識を獲得するだけではなく、感性を磨き、社会における他者理解や異文化理解を深める一助となる。また、自己表現から自己実現へとつながる成長の過程にも有効である。豊かな人間性を涵養し、創造力をはぐくむ手がかりとなるとともに、芸術を愛好し、文化的な共生社会の実現に向けた主体的な活動ができるようになる礎を築くものとして学習の機会を提供する。</p>	
言語学		<p>言語学とは、人間の言語の仕組み、特徴などについて様々な面から研究・分析する学問である。本講義では、身近な言語である日本語を中心に、言葉・言語に関するさまざまな問題を取り上げつつ、言語全般について言語学の立場からの見方を学ぶ。特に、多くの学生にとっての母語である日本語について、ほかの多くの言語と同列の一言語として対象化・相対化することを通して、固定観念にとらわれない柔軟なものの見方を身につけるとともに、言葉というものの仕組みと言葉を使う人間について理解を深めることを目指す。</p>	
思想		<p>「思想」領域では、西洋や日本の思想のなかに表現されている人間観、世界観、倫理観、死生観などについて学修することによって、他の文化に属する思想を深く理解するとともに、それとの比較によって、自らの文化的背景を反省的に顧みる能力を養成することを目指す。具体的には、哲学、倫理学、西洋思想史、日本思想史などの観点から、思想の歴史と現代における展開について学修する。その際、単に個別の文化思想について知識を獲得するだけではなく、社会で自明のこととされている常識や通念を批判的に捉え返すことができるようなものの見方や考え方、基礎的な議論の立て方などについても学修する。そのことによって、文化的背景や価値観が異なる者どうしの間で、その差異を尊重しつつ、より普遍的な価値の創出に向けて協働していくための基礎的素養を身につける。</p>	
社会学		<p>近代社会の誕生とともに生まれた社会学の基礎的な枠組みを学び、私たちが生きる社会を考えることが本講義の目標となる。例えば、一人ひとりの行為者の主観的意味内容を理解することによって社会現象を説明したM. ウェーバーの主張は、現在の社会を理解するためにむしろ重要性が増していると言える。本講義では、マクロレベルの諸現象を自分の問題として捉える視点、また、身近な問題を社会と関連づける視点を身につけ、現代的課題の背景にある人間と社会の関係、これからの時代の共生社会のあり方を考察する。</p>	
心理学		<p>心理学とは、人間の「こころ」を科学的に理解する学問である。人間の「こころ」を広く深く理解するためには、複数の研究対象とアプローチが必要となる。主な研究対象としては、人間の知覚・感覚、記憶、認知、学習、感情、パーソナリティ、発達、ストレス、適応、健康、コミュニケーション、対人関係、社会的影響等がある。これらの研究対象の中から、先人たちが蓄積してきたアプローチのいくつかを紹介する。つまり、人間の「こころ」を理解するには、自分自身(自己)の理解だけではなく、自分に影響を及ぼす他者や環境とのかかわりも複眼的に理解してもらおう講義内容となる。</p>	
政治学		<p>現代政治の仕組みとプロセス(政治的意識、選挙制度と民主主義、利益団体、政党、国会、行政と地方自治、政官関係、外交、安全保障と国際政治、世論とマスメディア、政策決定過程、現代の政治的対立軸など)の基本について解説する。欧米先進諸国との比較の視点も踏まえて、とりわけ日本の政治を読み解く上で必要とされる基礎知識を学ぶと同時に、現代日本の政治課題について筋の通った意見を述べるために求められる教養を身につけること、現実の政治の中から自ら問題を発見し、自ら考え、問題解決の方途を探る眼を養うことを目的とする。</p>	
文学		<p>作家・作品等に関する基礎知識や作品内容の解釈のみにとどまらず、作品の文化的・社会的背景や同時代および後代における享受・影響など、多角的な観点から文学作品に対する理解を深める。多角的な観点を導入することで、作者や作品に関する知識を獲得するだけでなく、日本文化および異文化への興味関心を養い、時間的・文化的差異を越えて存在する人間や社会に関する問題を探究する能力を獲得することを目指す。なお、ここでいう文学作品とは必ずしも文字で書かれたものに限らず、演劇作品等も含むものとする。授業形態に関しては、教員による講義のほか、グループワークやリアクションペーパーの内容共有など、学生同士の意見の交換を促す工夫を取り入れる。これにより、学生が自身の意見や考察を適切な論理展開・言語表現で表出できるようにすることを目指す。</p>	
法学		<p>広い視野を持って個々の社会現象間の連関を認識することを通して、現代社会を科学的に把握するための知識や「ものの見方・考え方」を修得し、もって現代社会に適切に対応し、これからの社会を形成していく市民としての基礎的素養の一つとして市民生活に必要な法的基礎知識の修得を目的とする。この目的を達成するために、「法の目的」「法の効力」「法の存在形式」など法学一般の内容と、私法・公法等の具体的な規定を取り上げながら、市民としての私たちの生活に法がどのように機能しているのかを論じる。</p>	

歴史学		歴史学は資料の正確な読みや、新資料の発見によって、書き直されていくものである。また、過去との対話を通して現代を相対化するとともに、現代という時代がどのように形成されてきたかを明らかにすることもできる。現代に埋没しては、かえって現代は見えてこないからである。つまり、現代を深く理解し、将来に向けての自分の生き方を考えるためにも、歴史学は不可欠な学問である。授業を通して、そのことを理解するとともに、日本・アジア・西洋の各地域に関する政治・社会・経済・文化・思想などの歴史を学ぶことにより、広い視野から相互に比較することを通して、各地域の歴史の違いや影響関係などを考え、地域と現代についての理解を深めることを目指す。	
憲法		学生に対し、教養教育の根幹をなす憲法の考え方について、単に字句の表層的な理解にとどまらず、幅広い背景知識とともに理解を深め、現代社会の諸問題を多角的・客観的な視野から考察する手掛かりを得ることを求めるものである。講義の前半は、日本国憲法の特徴について説明していく。その後、現在問題とされている社会的な事象を取り上げ、そこにおいて憲法がどのように理解され、適用され、どのような結果をもたらすべきなのか、を考えていく。	
環境A		生活・都市・地球環境・水・廃棄物・農畜産業・森林などの環境に関するテーマを設定し、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、感情に流されず、理性的に「環境問題」と向き合えるような「ものの見方や考え方」を身につける。	
環境B		生活・都市・地球環境・水・廃棄物・農畜産業・森林などの環境に関するテーマを設定し、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、感情に流されず、理性的に「環境問題」と向き合えるような「ものの見方や考え方」を身につける。	
環境C		生活・都市・地球環境・水・廃棄物・農畜産業・森林などの環境に関するテーマを設定し、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、感情に流されず、理性的に「環境問題」と向き合えるような「ものの見方や考え方」を身につける。	
環境D		生活・都市・地球環境・水・廃棄物・農畜産業・森林などの環境に関するテーマを設定し、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、感情に流されず、理性的に「環境問題」と向き合えるような「ものの見方や考え方」を身につける。	
環境E		生活・都市・地球環境・水・廃棄物・農畜産業・森林などの環境に関するテーマを設定し、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、感情に流されず、理性的に「環境問題」と向き合えるような「ものの見方や考え方」を身につける。	
環境F		生活・都市・地球環境・水・廃棄物・農畜産業・森林などの環境に関するテーマを設定し、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、感情に流されず、理性的に「環境問題」と向き合えるような「ものの見方や考え方」を身につける。	
現代社会をみる視角		現代社会はさまざまな問題を抱え、日々それに対する対応が迫られている。旧来型の社会制度に見直しが求められるとともに、日本社会の持続可能性に関わる問題が露呈してきた。ことに、東日本大震災に見舞われた私たちは、震災後の復旧・復興を見据えた、多くの、かつ新たな諸問題に直面している。 この講義では、現代社会ならびに地域社会が抱える今日的な諸問題を、法学、経済学、社会学、科学論といった分野から多角的に考察し、もって、一筋の光明を見いだすことを目的とする。	
宮沢賢治の世界		本学の先輩であり、宗教、科学、文学、環境問題など様々な分野に強い関心を持ち、稀有の詩、童話を残した宮沢賢治の作品に幅広く触れる。専門分野の異なる複数の教員により、これまでの賢治研究の成果を学び、賢治を見る複数の視点を得て、賢治が持っていた問題意識に迫る。安易に文系とも理系とも分けも限定も出来ない多層的な詩人・宮沢賢治を多角的・総合的に捉える基礎を作る。	
危機管理と復興		いわて高等教育コンソーシアムの「地域復興を担う中核的人材育成プラン」における中核的人材育成事業として開発する「地域リーダー育成プログラム」のコア科目の一つで、危機管理や防災、都市計画、コミュニティの再生などについて学び、それぞれのテーマに関連した実習等を行いながら、想定される災害等に対して的確に振る舞うことができるとともに、被災地域の復興にかかわる様々な状況に的確に対応し得る能力と知見を修得する。	標準外
地場産業・企業論		地元企業の訪問調査を通じて能動的な学びと社会人としての基礎力を実践的に学び、地元企業の魅力を適切に理解し、地元企業の魅力探究や地元定着のための課題を整理する。雇用の課題は採用側（求人）、就職側（求職）、地域や行政側と多岐にわたっている。それらの課題を実践的かつ客観的に学び分析し、自らの課題として捉えることのできる能力を身につける。	標準外
ボランティアとリーダーシップ		いわて高等教育コンソーシアムの「地域復興を担う中核的人材育成プラン」における中核的人材育成事業として開発する「地域リーダー育成プログラム」のコア科目の一つで、ボランティア活動に関する知識や技能、リーダーの役割、組織の動かし方などについて学び、ボランティアが必要とされる事態やグループで活動するような様々な状況に対応し得る能力と知見を修得する。また、修得した能力・知見を活かしてボランティア活動を実践する。	標準外
地域協創入門		持続可能な社会の実現を目指し、アンロックをキーワードに学生自らが学びをデザインすることができる基礎力を養成する。また、VUCA時代の特徴を理解し、かつ、多面的なスキルと柔軟性の重要性を認識し、問題解決と振り返りのスキルを向上させ、学びを深化させる能力を養成する。	



社会連携学 A		企業経営に必須となる要素を知識として学ぶと同時に、経営実務において必須となるスキルや企業経営や組織運営の難しさとポイントを体系的に学ぶ。講義では、企業経営に携わる方から企業経営の必須要素、企業経営に必要な戦略について学び、学生自らがキャリアプランを考えることができる力を養成する。	
社会連携学 B		公共政策の社会的な意義と役割に必須となる要素を知識として学び、また、近年高まっているコレクティブ・インパクト等の地域活性化の手法について、実践事例を通じて手法の仕組みを学ぶ。講義では、社会に参画している意識を実感できる場として、実際の公共政策に携わる方々とのディスカッションを行う。	
地域協創 A		”平和”をテーマに人類の歴史を俯瞰しながら、戦争と平和の要因と結果、影響範囲を検証し、学生自身にできることの延長線上に平和を感じられるようにするためには何が必要かを学ぶ。講義では、実践活動をしている国連機関や報道機関等の方々とのディスカッションを通じて平和に貢献すると思われる学生自身の身近なアクションプランを策定する。	
地域協創 B		先端企業の実践的な活動を通じて、AI、DX、ビッグデータ、グリーンテクノロジーに関する基本的な知識を学び、また、テクノロジー関連企業の歴史的な進化とテクノロジーがビジネスと社会に与える影響を具体的に理解する。	
地域協創 C		“Wellbeing/Diversity”の歴史的な変遷と組織や各国での浸透度を具体的な事例を活用しながら検証し、“Wellbeing/Diversity”が重要視されるようになった背景や学生自身が“Wellbeing/Diversity”の考え方を実践するための具体的なマインドセットと行動指針を学ぶ。また、組織の中で“Wellbeing/Diversity”を推進するために必要なマネジメント能力の養成を図る。	
地域協創 D		組織の人材育成課題に焦点を当て、実際の組織に対する調査と分析を通じて、適切な人材育成プランを作成する方法を学ぶ。また、教材の設計と提供を通じて、自己学習の計画を立て、他人に教えるスキルを向上させ、実践的なスキルの修得を図る。	
地域協創 E		アントレプレナー人材の養成を目的に、ビジネス系を中心とした民間/公共で活躍している人材を講師として招き、実際の現場で必要とするスキル、考え方、起きている出来事にフォーカスした実践的な学びを通じて、地域の課題やその解決手法について学ぶ	
地域協創 F		ソーシャルイノベーション人材の養成を目的に、ソーシャル系を中心とした民間/公共で活躍している人材を講師として招き、実際の現場で必要とするスキル、考え方、起きている出来事にフォーカスした実践的な学びを通じて、地域の課題やその解決手法について学ぶ	
地域協創 G		先端企業の実践的な活動を通じて、AI、DX、ビッグデータ、グリーンテクノロジーに関する基本的な知識を学び、また、テクノロジー関連企業の歴史的な進化とテクノロジーがビジネスと社会に与える影響を具体的に理解する。	
地域協創 H		実社会でのフィールドワークを通じて、学生自らが課題を発見し、課題を自分目線で見つめなおし、グループワークにより課題を認識・整理し、理解する。また、今までに修得した考具を使用して発見した課題に対する対応策への検討を行い、学生自らが対応策に応じたプロジェクトを創生することができる力の醸成を図る。	
地域協創 I		学生自らが今までに修得した考具を使用して発見した課題に対し、対応するプロジェクトを創生し成功させるために必要となる準備段階から運営、クロージングまでの流れを具体的な事例を活用しながら学び、プロジェクト・チームを企画し運営することができる力の醸成を図る。	
キャリアを考える A		予測不能な時代において、自分はどうか？大学で何をどのように学ぶか？自分はどうか？自分はどうか？自分に問を立て、自分の将来をプランニングするための基礎的な知識を身に付ける講義である。学生同士や学外の社会人との関わりから多様な考え方を獲得し、「自己に気づく力」「社会・地域と関わる力」、キャリア自律が求められる社会を「生き抜く力」を身に付けることを目指す。グループワークなど能動的な学びを通して、自分らしいキャリアを描くための進路選択行動につなげる態度を醸成する。	
キャリアを考える B		学生が自らのキャリアを具体的にイメージできるように、岩手大学の卒業生や地元で活躍する社会人のキャリア実践例を通じて学ぶ機会とする。それぞれの社会人のキャリア・ストーリーから、判断のポイントや考え方、社会で働く意味などを、ディスカッション形式も取り入れて体感的に学びを深める機会とする。	
日本事情 A		外国人留学生を対象とし、日本や岩手の歴史や文化、社会について学び、日本人のものの考え方や行動の根底にある民族性を理解することを目的とする。様々な調査や発表活動を通じ、日本の独自性、他国との相違などについて考える力を養成する。	
日本事情 B		外国人留学生を対象とし、主体的に情報収集を行いながら日本の社会、文化、日本人等について知識を高めると同時に、討論等を行い、日本について理解を深める。	
多文化コミュニケーション A		日本人学生と留学生が共修し、多文化状況において必要な基礎的な知識、技能を高める。授業中は、毎回、多文化状況でのコミュニケーション課題についてテーマを設定し、日本人学生と留学生が討論し、課題解決の方策を探る。また、学外の人々との接触、協働体験を通じ、多文化社会において想定される課題について解決する態度、技能を高める。	

多文化コミュニケーションB		日本人学生と外国人留学生が共修し、多文化状況において必要なコミュニケーション力の基礎力を高める。クラスの中、また他大学の学生と多文化社会において想定される課題について協働して解決する体験を通じ、多文化状況とは何か、コミュニケーションとは何かについて知識と技能を習得し、グローバル社会での基礎力を高める。	
獣医細胞生物学		生体は構成する構成要素の大きさにより、分子、細胞内小器官、細胞、組織、器官、個体というような階層構造を有している。本科目では、生体の構成要素の中で特に細胞のレベルに注目して、生体がどのような形態と機能を有しているかを理解する。 (オムニバス方式/15回) (30 大沼俊名/13回) 第1回～第13回：細胞の多様性と統一性、細胞のエネルギー利用、タンパク質の形と構造、染色体構造、転写・翻訳、ゲノム塩基配列、生体膜・膜タンパク質、代謝の調節、小胞輸送、細胞骨格 (3 木崎景一郎/2回) 第14回、第15回：細胞周期、組織の維持と更新	オムニバス
基礎生物学実験		生物（植物および動物）の構造と機能に関する実験を行う。授業冒頭で本科目の概要や実験上の諸注意、レポートの作成方法などについて説明する。生物の様々な器官などを対象として、スケッチを行うとともに、さまざまな生物検体をを用いた実験を行い、生物の構造（しくみ）を理解し、機能（はたらき）との関係を知ることを目的とする。	共同
情報基礎A		Society5.0で必須となる、コンピュータや情報処理に関する基礎的な知識と技能と、今後益々重要性を増すであろう数理データサイエンス・AIの基礎的な知識を習得することを目的とする。この講義では、次の事項を取り扱う。コンピュータの基本的な仕組みを理解し、目的に応じたアプリケーション等を使いこなすこと。著作権を理解した上で必要な情報を探索し適切に処理できるようになること。インターネットやソーシャルメディアの利活用における情報倫理・情報モラル・情報セキュリティの実践力を養うこと。岩手大学の中でコンピュータとネットワークを活用していくための基礎知識を学ぶこと。数理データサイエンス・AIの基礎的な知識を習得すること。	
情報基礎B		Society5.0で必要となるデータ分析およびAIや情報セキュリティなど関連する基礎的な事項を理解することを目的とする。この講義では、次の事項を取り扱う。データの適切な処理・分析。データの特性を理解し、情報セキュリティも踏まえた上でデータの取り扱い。AIやデータ分析の自動化の基礎となるアルゴリズム・プログラミングに触れること。整理したデータや情報からわかりやすい資料をまとめること。	
環境・防災学		環境問題や災害に関する基本的な知識と理解を深めるため、環境問題の背景や原因、持続可能な社会の実現に向けた取り組みなどについて学ぶ。また、自然災害の種類や発生メカニズム、それに伴う社会・経済的影響、防災対策の重要性についても学ぶ。さらに、地球温暖化、気候変動、資源問題など、グローバルな課題に対する取り組みや、地域レベルでの防災計画や復興策についても、実際の事例や最新の研究を通して学び、それにより環境保全や災害管理に関する理解を深める。	
自然科学		この科目では、物理学、化学、生物学、地球科学などの自然科学の基本的な原理と概念について学び、自然界の法則や現象に関する知識を総合的に理解する。さらに、自然科学の融合領域や分野間のつながり、科学的方法論、科学技術の社会への影響についても紹介する。また、自然科学に関する最先端研究の動向についても触れる。これらを通して、自然界におけるさまざまな現象とその科学的解釈について理解を深めるとともに、科学的思考と探求力を養う。	
森林科学		森林科学は、水土保全、生物多様性保全、生活環境保全、物質生産など、森林の有する多面的機能の解明を目指す応用科学である。現在、地球温暖化の進行や野生生物の分布域の拡大・縮小に伴い、森林と人間社会との関係や野生生物と人との共生のあり方を再考することが求められている。本講義では、森林と自然環境との関係、森林に生息する野生生物の特徴、森林の構造と機能、木材等の林産物の特性、日本の林業の歴史と現在、森林と人の暮らしとの関係を学び、健全な森林生態系を維持しながら人と野生生物が共存する社会について考える。	
農業環境工学		この講義では、近年の農業環境工学分野でトピックとなっている話を分かりやすく、かつ具体的な事例を紹介する。具体的には、農業の生産基盤の整備や生活環境の向上、農村の生態系、文化・景観の保全や災害に強い地域づくり、食を取り巻く環境の急速なグローバル化および農業就業人口の減少や高齢化に対応する食料生産技術の高度化、農産物の保存・加工・流通、6次産業化、農業経営の高度化、さらに持続可能な食料管理や加工技術の改良と開発、グローバルな視野に立った新たな流通体系などの科学と技術について講義し、今後の農業環境工学の未来について考える。	
エネルギー科学		エネルギーの基本的な概念から、その種類や利用方法、環境への影響など、エネルギーに関する広範なトピックについて学ぶ。この授業では、まずエネルギーの種類（化石燃料、再生可能エネルギーなど）や、エネルギーの生成、輸送、保存、利用に関する基礎を習得する。また、化石燃料の使用が及ぼす環境への影響や、再生可能エネルギー利用の現状を理解し、持続可能なエネルギー源の必要性について議論する。さらに、最新の研究から、エネルギーシステムの高効率化や新技術の開発について紹介し、現代社会におけるエネルギー問題に対する理解を深める。	
メディア情報学		この科目では、情報とコミュニケーション技術の理論と実践を広く学ぶ。授業では、コンピュータグラフィックスの基礎から応用までを学び、ビジュアルメディアの表現と処理について理解を深める。また、人間の感覚、認知、感情に対する情報処理やメディア技術とユーザーをつなぐインターフェースについて学ぶ。さらに、メディア情報学分野の最先端研究の例を紹介する。これらを通して、メディア情報の創造的な活用方法や効果的なコミュニケーション手法について探究する。	

機械科学		この科目は機械の基本的な原理や応用に関する教養科目である。講義では機械工学の基礎概念、力学、熱力学、材料科学、制御工学などを学ぶとともに、機械の設計、製造、動力伝達、エネルギー変換などの基本的な理論についてその概要を学ぶ。その上で、機械科学の応用分野であるロボティクス、自動車工学、航空宇宙工学、持続可能なエネルギー利用など、機械科学の幅広い応用領域について、最新の研究開発動向なども紹介しながら理解を深める。	
材料科学		この科目では、物質の性質、構造、実用技術や製品の応用について広く学ぶ。講義では、材料の物理・化学的性質、特性評価、加工など、金属、誘電体、半導体など様々についての基礎知識を習得する。さらに、材料の微視構造や物性、材料の耐久性、再利用可能性などにも触れ、材料科学の観点からの持続可能性についても論ずる。さらに、最新の材料技術、ナノテクノロジー、バイオマテリアル、エネルギー材料などの新たな応用分野、関連する最先端研究についても学ぶ。	
数理情報科学		数学、情報科学の基礎的な概念を学ぶとともに、各々の相互関係の理解を深める。数値計算や数理モデルといった数学的な理論や手法から、知能情報学、情報システムにおける情報の表現、記憶、処理など、広く数理情報科学に関する内容を網羅的に学ぶ。さらに、機械学習、人工知能、ロボティクスなど、関連分野の最先端研究や実際の問題に対する数学的・情報科学的観点からのアプローチについても学ぶ。これらにより数理的思考や情報処理能力を養う。	
電気電子工学		電気と電子の基本原理解や応用について学び、現代社会の基盤技術である電気電子工学に関する基礎的な知識や技術を網羅的に理解する。講義では、電気回路や電磁気学を基礎として、電子物性、電子デバイス、計測工学、電気機器工学、プラズマ工学、制御、通信システムなどの応用について概観する。また、電気電子分野の最新動向や革新的な技術にも触れ、さらには持続可能な社会の実現のための関連分野における取り組みについても論ずる。	
物質科学		この科目は、物質の構造、性質、合成、分析など物質科学の基本的な概念や法則、応用について学ぶことを目的とする。この授業では、無機化学と有機化学の基礎を学び、元素や化合物の性質、反応、構造に関する理解を深める。また、触媒や高分子化学の原理、応用、材料への影響についても学習する。さらに、生体分子、医薬品化学など生体関連化学についても学ぶ。最先端研究の例を紹介し、関連分野の最新動向も紹介する。これらを通して、物質科学の基礎と実践的な応用について理解を深める。	
食品健康科学		食と健康のつながりは深く、食は私たちの生命を維持する上で欠くことのできないものであると同時に摂取の仕方によっては健康を害することもある。これらの関係は、食品が持つ栄養成分だけでなく、体内での代謝やその制御の仕組みを学ぶことで理解が深まる。近年では非栄養成分による代謝調節や生理活性因子に類似した働きなども知られている。また、食材としての農産物はその物理化学特性や微生物・酵素などの生物材料の利用により、食品へと加工されている。これら加工技術や加工に伴う成分変化には、物理化学的、生物学的な要因への理解が欠かせない。時代のニーズに応じて、高齢社会に適応した食品の開発などが求められている。本講義では、これら食と健康に関わる、栄養や代謝、生体調節機構、食品関連技術について概説していく。	
水産学基礎		岩手県は世界3大漁場の一つである三陸沖漁場に立地する全国有数の水産物生産県である。一方で、地球規模の環境変動による主要魚種の不漁や魚種変動、世界および国内における水産物需要の変化など、本県の水産業をとりまく環境は大きく変化しつつある。本講義では水産業を構成する一連の過程（生産、加工、流通）について、その基盤となる水産物の生理・生態、利用技術、流通などの概要を紹介することで、地域社会を支える基盤産業への関心を高めることを目指す。	
動物科学		野生動物や家畜・家禽の乳、肉および卵を食用として繁栄してきた我々人類にとって、動物は最も重要かつ馴染み深い生物である。さらに現代社会においては、犬や猫など伴侶動物は日々の暮らしの中でなくてはならない存在になっている。しかしその一方で、近年、鹿や猪、熊など様々な野生動物やアライグマなどの外来生物が人間の生活圏に侵入し軋轢が生じている。本講義では、それら家畜・家禽を含めた動物の生態や生理、繁殖、その進化の歴史、さらには動物と人との関係を学び、人と動物が共存する豊かな社会について考える。	
農学基礎		我々人類の生存に不可欠な食料生産や生活に潤いを与えてくれる栽培植物（食用作物、野菜・花き、果樹など）を対象に、植物の生長、栽培方法、繁殖、生理・生態、健全な生育に影響を与える病気などの環境ストレスとの関わり、土壌環境との関わり、農作物の流通、農業の経営や政策などについて、それぞれの専門家がわかりやすく講義を行い、農作物の生産や食料の安定供給の向上に不可欠な農学の基礎ならびに応用研究について学ぶとともに、地域・国際社会での食料生産から流通に関わる諸問題の理解や解決に向けた視点を助長する。	
分子生物機能科学		微生物、植物、昆虫、動物など種々多様な生き物は、それぞれが暮らす地球上の様々な環境の温度や水分条件などの物理的な特徴に適応しているだけでなく、そこで暮らす生物間の相互作用にも適応することにより、自身の発生や生長、生殖などの生物学的活動を営んでいる。この様な個体レベルで見られる生物学的活動はすべて細胞レベルに由来し、更に、生命の営みの基本であるタンパク質や核酸などが関与する分子レベルの反応に基づく。これら多種多様な生物機能について分子レベルで解明することは、環境や食料などのグローバルな問題を解決する基盤となるだけでなく、産業への応用にもつながる。本講義では、様々な生き物における多種多様な分子生物機能について基礎的な内容を学ぶ。	

共通教育科目	配置大学特色科目群	分子生命医科学	私たちヒトの健康と病態について理解するためには、生命の基本単位である細胞ならびに細胞内にある生体分子の構造と機能について学習する必要がある。この科目では、はじめに、生体分子の種類やDNA、RNA、タンパク質の構造や機能に焦点を当て、細胞内の分子プロセスやシグナル伝達経路を理解し、生体内での化学反応や分子間相互作用などを学習する。また、正常な生理機能や生命維持機構、病態における分子レベルでの変化に関する知識を習得する。さらに、遺伝子と遺伝疾患、ゲノム解析、オミクス解析といったトピックスを通じて、疾患発症の分子メカニズムや新たな治療戦略について理解を深める。この科目を履修することで、分子生命医科学の基本的な原理を理解し、将来的に生物学、化学、医学など幅広い分野で活躍するための基盤を築くことが期待される。		
		データ分析演習	獣医学を学ぶ上で必要な数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ演習科目として設置する。データ駆動社会とデータサイエンス、分析設計（問題認識、フレーミング、文献レビュー、モデル化、データ収集、データ解析、結果の説明と実行）、ビッグデータとデータエンジニアリング、データ表現、AIの歴史と応用分野、確率の概念、推計学、統計モデリング、アルゴリズムに関する基礎的事項を説明できること、およびRやPythonによる簡単なプログラミングができることを到達目標とする。		
		統計的機械学習実践	数理データサイエンス・AI (DSAI) について、講義及びExcelおよびPythonを用いた演習を通じて理解を深める。データを取り扱う基礎的理解として、データ倫理とセキュリティ・データ観測と加工・分析に触れる。また、DSAIの利活用のために、AIの歴史と応用分野、AIと社会、機械学習・深層学習の基礎と展望、予測・判断、AIの学習と推論、評価を概説する。演習では、DSAIで汎用されるプログラミング言語であるPythonを用いていくつかのDSAI手法を計算機で演習することで、DSAIの実際に触れる。PBLとして、画像のクラス分類を題材とした問題解決に取り組む。		
専門教育科目	基盤獣医学科目群	基礎獣医学科目群	獣医学概論	<p>獣医学概論は、獣医学の概要を明確に把握すると同時に、獣医学、獣医師、獣医療に求められる獣医哲学を極める生命科学として存在する。その意図に基づき、獣医学史では人類と動物の共生における歴史的考察と、日本の獣医学教育史を、次いで現代日本における獣医師の使命と獣医療の実践活動、さらに諸外国の獣医師との比較論、国際貢献論を講述し、獣医師の本質的な存在意義の修得に必要な資源とする。</p> <p>(オムニバス方式・共同開講 (一部) /15回) (6 佐藤洋/2回) 第1回、2回：獣医学概論の理念と獣医学史、野生動物保全と獣医師 (40 高橋正弘/2回) 第3回、4回：産業動物獣医師の役割、牛の分娩観察実習ガイダンス (2 片山泰章/2回) 第5回、6回：伴侶動物獣医師の役割、獣医療サービスの質の保証 (48 山崎朗子/1回) 第7回：獣医師と国際関係 (3 木崎景一郎/1回) 第8回：獣医学の隣接科学と獣医療関係職種 (4 佐藤至/1回) 第9回：行政獣医師、公衆・家畜衛生獣医師の役割 (15 古市達哉/1回) 第10回：教育・研究分野における獣医師 (30 大沼俊名/1回) 第11回：企業における獣医師 (40 高橋正弘・8 高橋透・53 金澤朋美・120 木村淳・45 宮崎珠子 (共同開講) /3回) 第12-14回：牛の分娩観察実習 (45 宮崎珠子/1回) 第15回：岩手県鳥獣保護センター見学</p>	オムニバス、共同 (一部)
			獣医倫理 I	<p>生命倫理 (Biotehics) の心理を理解し、動物倫理及び動物の権利、動物の愛護と福祉の思想を、獣医学・獣医療における獣医師の真相理念として習得する。</p> <p>(オムニバス方式/8回) (20 山本欣郎/1回) 第1回：生命倫理学入門 (4 佐藤至/1回) 第2回：日本の獣医関連法規と獣医倫理の基本原則 (52 横山拓矢/1回) 第3回：獣医師に係る倫理学 (197 山手寛嗣 (非常勤) /2回) 第4、5回：動物介在療法と獣医倫理 (6 佐藤洋/1回) 第6回：野生動物および展示動物と獣医倫理 (30 大沼俊名/2回) 第7、8回：西欧の動物保護法規と日本の動物保護法</p>	オムニバス
			獣医倫理 II	<p>生命倫理 (Biotehics) の心理を理解し、動物倫理及び動物の権利、動物の愛護と福祉の思想を、獣医学・獣医療における獣医師の真相理念として習得する。</p> <p>(オムニバス方式・共同開講 (一部) /8回) (49 山田慎二/1回) 第1回：科学実験の遂行と成果の発表に関する倫理 (6 佐藤洋/1回) 第2回：医薬品使用と獣医倫理 (15 古市達哉/1回) 第3回：動物実験に係る獣医倫理 (15 古市達哉、6 佐藤洋、30 大沼俊名 (共同開講) /1回) 第4回：動物実験に係る獣医倫理 (ケーススタディ) (47 森田智也/1回) 第5回：伴侶動物の獣医療と獣医倫理学 (47 森田智也、55 小林沙織 (共同開講) /1回) 第6回：伴侶動物の獣医療と獣医倫理学 (ケーススタディ) (8 高橋透/1回) 第7回：産業動物の獣医療と獣医倫理学 (8 高橋透、40 高橋正弘 (共同開講) /1回) 第8回：産業動物の獣医療と獣医倫理学 (ケーススタディ)</p>	オムニバス、共同 (一部)

獣医事法規	○	<p>獣医師の職務である獣医療・公衆衛生ならびに家畜衛生に関する種々の法令の規定について習得し、職務の適正な遂行に資する。</p> <p>(オムニバス方式/8回) (2 片山泰章/3回) 第1回～第3回：獣医師法および獣医療並びに小動物医療指針(4 佐藤至/5回) 第4回～第8回：薬機法、麻取法、動愛法、鳥獣保護法、感染症予防法、狂犬病予防法、家伝法、家畜改良増殖法、飼料安全法、食品衛生法、と畜場法、食鳥検査法、他</p>	オムニバス
内臓・脈管系解剖学	○	<p>犬、馬、豚、反芻類、および鶏を対象動物とし、動物体を構成する消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、および脈管系について主要な器官の肉眼的構造を理解する。また、対象動物間の解剖学的な差異、器官が担う機能と構造の対応関係、および器官の臨床上の重要性を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (20 山本欣郎/10回) 第1回～第10回：内臓系の解剖学(42 中牟田信明/5回) 第11回～第15回：脈管系の解剖学</p>	オムニバス
解剖学実習 I	○	<p>動物体を構成する骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、脈管系、神経系、および感覚器系について主要な器官の肉眼的構造に関する理解を深める。</p>	共同
解剖学実習 II	○	<p>犬、馬、豚、反芻類、および鶏を対象動物とし、動物間の解剖学的な差異、器官が担う機能と構造の対応関係、および器官の臨床上の重要性について理解を深める。</p>	共同
組織学	○	<p>動物体を構成する細胞集団としての組織・臓器の構造と細胞構成を理解し、代表的な組織学用語を修得する。また、臓器・組織・細胞が担う機能について組織・細胞レベルの構造と対応関係を理解する。</p>	
組織学実習	○	<p>犬、馬、豚、反芻類、実験動物(マウス、ラットなど)および鶏を対象動物とし、各項目に記載された主要な組織・器官の組織標本を光学顕微鏡で観察・スケッチすることにより、それらの構造的特徴を理解する。</p>	共同
生理学 II	○	<p>動物体を構成する組織・臓器の機能と相互的作用について総合的に理解し、将来学習する病態や臨床獣医療の学習の基盤を修得する。本科目では主として血液の成分や機能、呼吸調節、心臓や血管機能を含む循環系、体温調節、内分泌系による内部環境の統合調節を理解する。</p> <p>(オムニバス形式/15回) (3 木崎景一郎/13回) 第1回～第13回：血液、循環、呼吸及び体温調節の生理学(30 大沼俊名/2回) 第14、15回：内分泌学</p>	オムニバス
生理学実習	○	<p>動物の個体・組織・細胞・人(被験者)を用いて・動物のさまざまな生理機能を自らの目で観察し・自らの手で定性的・定量的に測定すると共に・コンピューターを使用したシミュレーションやビデオ等の観察も通して・個体の生体恒常性が維持される仕組みについて理解する。</p>	共同
獣医基礎生化学	○	<p>獣医学の対象となる生命現象が連続的に進行する化学反応によって支えられているという考え方を修得し、その仕組みを分子レベルで捉える。また、生体を構成する成分の構造と機能を理解し、生命活動を維持するエネルギー産生機構について理解を深める。</p>	
生化学実習	○	<p>生体構成成分の構造と機能に関する基本的な知識に基づいて、獣医学が対象とする生命現象を分子レベルで分析・考察できる基礎的技術を修得する。</p>	
統合薬理学	○	<p>獣医学が対象とする薬のうち、酸・塩基平衡や体液平衡、消化器系、泌尿・生殖器系、免疫系に作用する薬の対象となる疾病の成り立ちを理解するとともに、その作用の現れ方や作用機序に関する基本的知識を、動物種差を含めて修得する。さらに、微生物、ウイルス、寄生虫の感染症や腫瘍の治療・予防薬および殺虫薬・解毒薬についても、作用の現れ方、作用機序や臨床応用に関する基本的知識を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (6 佐藤洋/13回) 第1回～13回：血液に作用する薬、消化器に影響する薬、ホルモン・抗ホルモン・ビタミン、抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、生物学的製剤、抗腫瘍薬、駆虫剤、殺虫剤、中毒とその治療薬、眼科に用いる薬、製薬の概要(61 前原都有子/2回) 第14回、15回：免疫機能に影響する薬、消毒薬</p>	オムニバス
薬理学実習	○	<p>獣医学が対象とする代表的な治療薬の反応を様々な実験手技を通じて修得する。さらに、それらの反応を多角的に考察することにより、薬の作用の現れ方、作用機序、および生体内運命に関する基本的知識を修得するとともに、生体反応を総合的に理解する。</p>	共同
獣医遺伝育種学	○	<p>動物の生命現象ほとんどは、ゲノムにより決定される。その根幹としての遺伝現象について遺伝子に基づく形質発現原理と機序、世代間での遺伝の仕組みを理解した上で、家畜改良や動物に発生する遺伝性疾患について、その発生の仕組みや遺伝様式を推定し、育種選択法や予防法の確立について考察できるようにすることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/8回) (15 古市達哉/6回) 第1回～6回：遺伝様式の基礎、分子遺伝学の実践、動物の遺伝性疾患・概論、各論(94 福田智一/2回) 第7、8回：育種学の基礎、遺伝的改良の基礎</p>	オムニバス

専門教育科目

基礎獣医学科目群

実験動物学	○	遺伝、育種、繁殖などの実験動物の品質に関する事項および飼育環境（微生物等を含む）や動物実験法などの動物実験に関する事項を比較生物学的視点から理解すると共に法令や基準等の社会規範に則し、かつ動物の福祉に配慮した適正な動物実験を実施するための方策を修得する。	
実験動物学実習	○	動物実験計画の立案と審査について学ぶとともに保定、投与、採血、麻酔、安楽死、剖検・採材などの基本的動物実験手技を修得する。また、実験動物の品質を保证するための遺伝的モニタリングや微生物モニタリング、および発生工学の基礎技術を体験し、動物実験を実施するための基盤を理解する。	
基礎放射線学	○	放射線および放射性物質の性質・放射線の生物影響・並びに関係法規について学び・放射線の安全な取り扱いとその防護について習得する。 (オムニバス方式/15回) (4 佐藤至/6回) 第1回～6回：放射線物理及び化学並びに放射線測定 (2 片山泰章/9回) 第7回～15回：放射線の生物学的利用、DNA損傷、放射線の細胞への影響、放射線の組織・臓器に対する影響、放射線による確定的影響と確率的影響、遺伝的影響、放射線の臨床応用	オムニバス
畜産学概論	○	わが国の畜産の現況を、養豚論、家禽論、乳牛論及び肉牛論の4科目から総合的に学び、日本の畜産業の実際的な側面と将来の方向性について学習する。	共同
家畜飼養学	○	家畜飼養学は、動物栄養学及び飼料機能学を基礎とし、家畜・家禽の各論、生産及び消費動向、飼養管理技術、栄養評価、飼料評価に関する知識の修得を目標とする。	共同
動物病理学総論	○	獣医学において対象とする動物の疾病の病理学を理解するために、病理学の歴史・概念を学ぶと共に、細胞の傷害、適応と細胞死、炎症、組織の再生と修復、循環障害、免疫、腫瘍や先天異常などの基本的知識を習得することを目的とする。	共同
動物病理学各論 I	○	獣医病理学 I (総論) で学んだ事を基礎に、主要6臓器(循環器、血液および造血器、体腔、呼吸器、消化器)につき、臓器・組織別に獣医学において対象とする動物の疾病を理解する。対象動物は生産動物および伴侶動物から野生動物や虫類までであり、各疾患について病理形態学を基盤として病理発生や比較病理学的観点からも疾病を理解・習得することを目的とする。 (オムニバス方式/15回) (6 佐藤洋/1回) 第1回：各論の概要 (56 佐々木淳/14回) 第2～15回：循環器、血液および造血器、体腔、呼吸器、消化器	オムニバス
動物病理学実習 I	○	動物疾患の代表的な形態学的変化とその意義を、病理解剖や病理組織学的検索を通して理解する。さらに鑑別診断・補助的なあるいは追加すべき検索方法に関する基本知識を習得し、動物疾患の成り立ちを総合的に理解する能力を養う。	共同
動物病理学実習 II	○	動物疾患の代表的な形態学的変化とその意義を、病理解剖や病理組織学的検索を通して理解する。さらに鑑別診断・補助的なあるいは追加すべき検索方法に関する基本知識を習得し、動物疾患の成り立ちを総合的に理解する能力を養う。	共同
病原微生物学	○	感染症の原因となるウイルスおよび細菌について病原体ごとに基本的な性状を学び、動物感染症ならびに人獣共通感染症について病因学的見地から理解する素養を修得する。 (オムニバス方式/15回) (18 村上賢二/8回) 第1回～8回：DNAウイルス、RNAウイルス、プリオン (49 山田慎二/6回) 第9回～14回：グラム陰性菌、グラム陽性菌、らせん菌、芽胞性桿菌、無芽胞菌桿菌、リケッチア、クラミジア (183 秦 英司 (非常勤) /1回) 第15回：マイコプラズマ、放線菌	オムニバス
微生物学実習 I	○	獣医学において基本的な概念である無菌操作、病原体の特性及びその取扱いを体験的に学ぶ。細菌の特性を体験的に理解することにより適切で安全に取扱える能力、ならびに基礎的な免疫学的手法を用いた診断法を実施できる能力を身につける。	共同
微生物学実習 II	○	獣医学において基本的な概念である無菌操作、病原体の特性及びその取扱いを体験的に学ぶ。ウイルスの特性を体験的に理解することにより適切で安全に取扱える能力、ならびに基礎的な免疫学的手法を用いた診断法を実施できる能力を身につける。	共同
家禽疾病学	○	家禽の解剖学的・生理学的・免疫学的機能と特性を理解し、個々の家禽疾病の原因、症状、診断および予防に関する知識を修得し、それらを家禽産業あるいは関連分野に応用できる能力と技能を身につける。 (オムニバス方式/15回) (157 落合謙爾 (非常勤) /14回) 第1回～14回：養鶏の飼養衛生管理、解剖と生理、鶏の病気 (49 山田慎二、岩手県家畜保健所講師 (非常勤) /1回) 第15回：高病原性鳥インフルエンザ	オムニバス・共同 (一部)

病態獣医学科目群

専門教育科目

基礎獣医学科目群

病態獣医学科目群

寄生虫学 I	○	原虫類、吸虫類、条虫類の生物学的特性および宿主との関連性を学び、原虫類、吸虫類、条虫類による感染症の機序や制御に関する知識、技術および考え方を習得する。 (オムニバス方式/15回) (7 佐藤雪太/8回) 第1回～8回：寄生虫学・寄生虫病学総論、原虫総論、原虫各論（鞭毛虫類、アピコンプレックス類、微孢子虫類他） (39 関まどか/7回) 第9回～15回：吸虫総論、吸虫各論（肝蛭、双口吸虫、肺吸虫他）、条虫総論、条虫各論（裂頭条虫、テニア属条虫、エキノコックス他）	オムニバス
寄生虫学 II	○	線虫類および衛生動物の生物学的特性および宿主との関連性を学び、線虫類による感染症の機序および制御、衛生動物と獣医衛生に関する知識、技術および考え方を習得する。 (オムニバス方式/15回) (7 佐藤雪太/11回) 第1回～11回：線虫総論、線虫各論（円虫、毛様線虫、鉤虫、糞線虫、回虫、顎口虫、糸状虫他）、鉤頭虫 (39 関まどか/4回) 第12回～15回：節足動物総論、節足動物各論（マダニ、ノミ、カ、ブユ、ヌカカ他）	オムニバス
寄生虫学実習	○	寄生虫の感染様式や、発育に伴う寄生様式並びに形態の変化の観察、および代表的な寄生虫感染検出法の実践に基づいて、寄生虫の発育・生活環と病害発生や診断法との関連性を説明でき、寄生虫病の診断と対策に必要な知識、技術、および考え方を身につける。	共同
動物衛生学実習	○	動物衛生学が対象とする家畜の飼育環境と管理方法、疾病予防・診断・防除方法、畜産物の安全性の評価方法など家畜衛生に関する基本的技能と手技を、関連する法規の趣旨と共に修得することで、高学年次で履修する獣医臨床学・予防衛生学を総合的に理解する知識を習得する。	共同
公衆衛生学総論	○	公衆衛生の基本的な考え方について理解を深め、公衆衛生に関連した様々な問題解決を行うための手法を理解し、国民の健康増進、動物福祉、地球環境保全等に役立ちうる知識を習得する。	共同
公衆衛生学実習	○	人獣共通感染症の特色や診断の意義を理解し、各種検査法、診断法を修得する。また、大気・水等の衛生検査手技を修得し、われわれを取り巻く環境の衛生状態を評価する能力を養う。	共同
食品衛生学実習	○	獣医学の科学と技術を人類の健康確保に還元する事を最終的な目的として、食品の安全を守るために必要な技術を体得すると共に、これらの技術の背後にある科学的な裏付けを理解する。	
環境衛生学	○	ヒトや動物の健康ならびに生態系にとってより良い環境を維持するために、生活環境・地域環境・および地球環境における課題・現状ならびに対策等に関する基本的知識と必要な関連法規を習得する。	共同
毒性学実習	○	化学物質が、人や動物そして環境に及ぼす有害作用を明らかにするための手法について、必要な知識と手技を修得することを目的とする。化学物質の生体での有害作用と体内動態および毒性発現のメカニズムおよびその毒性試験法について学び、毒性学における網羅性の重要性について理解する。	共同
人獣共通感染症学	○	人獣共通感染症の制御は、それぞれの感染症の感染環を理解した上で予防対策を実施することが重要である。人獣共通感染症の一般的な特色や発生要因などについて理解するとともに、各種人獣共通感染症に関して感染環、発生状況、症状、病原体、診断法および予防対策などの詳細な知識の習得を目標とする。	共同
野生動物学	○	野生動物の生体機構のしくみを深く理解しながら、生態系のバランスを崩さぬように環境を健全な形で保全していく知恵や知識を養成する。 (オムニバス方式/15回) (181 辻本恒徳（非常勤）/14回) 第1回～14回：野生動物学総論、分類、形態機能、生態、疾病、保護管理、野生動物医学、域外保全、動物園・水族館学 (7 佐藤雪太/1回) 第15回 野生動物と獣医学	オムニバス
行政体験実習	○	家畜衛生または公衆衛生の職場を体験し、獣医師としての進路を考える機会を作ると共に、社会生活に必要な礼節とコミュニケーション能力を涵養する。	共同
内科学総論	○	獣医学領域における診療の進め方の全体像を理解する。その中で、総論部分においては、問診、身体検査、診療記録、説明と同意、臨床検査、画像診断といった項目に関する基本的な概念を理解した上で、それらを論理的に組み立てて診療を進めるための実際的な考え方と知識を習得する。	
外科学総論	○	外科的疾患に対する診断と治療の基礎を横断的に理解するために、外科的侵襲、損傷、創傷治癒、ショック、出血・止血、周術期の輸液や栄養管理、理学療法などに関する基本的な知識を習得する。 (オムニバス方式/8回) (44 星野有希/1回) 第1回：体液組成と外科領域の輸液、 (2 片山泰章/7回) 第2回～8回：創傷の治癒と一般創傷処置、ショック、外科手術の栄養管理、跛行診断、理学療法、移植療法	オムニバス

実証獣医学科目群

小動物臨床獣医学科目群

麻酔学・手術学	○	手術を実施する上で必要な理論と実践に関する基本的な知識、技能および態度を身につけるために、手術の方法と技術論について包括的に学習する。さらに、麻酔学では麻酔・疼痛管理および心肺脳蘇生・集中治療の基礎理論を学ぶ。 (オムニバス方式/8回) (152 伊丹貴晴/6回) 第1回～6回：麻酔の概要と歴史・疼痛と鎮痛、局所麻酔、鎮静、全身麻酔薬、周術期管理、動物種と麻酔・心肺蘇生法・安楽死、 (2 片山泰章/2回) 第7回、8回：手術準備と無菌手技	オムニバス
軟部外科学	○	小動物の軟部組織・臓器における外科疾患について、病因、病態、症候、診断法および外科的治療法を理解する。 (オムニバス方式/8回) (2 片山泰章/2回) 第1回、2回：外科の基本、外科手術器械 (58 中田浩平/1回) 第3回：避妊と去勢 (44 星野有希/5回) 第4回～8回：縫合・結紮法と止血法、皮膚の外科、ヘルニア（会陰、腹壁、横隔膜）、脾臓の外科、救急外科	オムニバス
小動物内科学実習・基礎編	○	内科学的な診断法と治療法に関する基礎的な手技・技術を習得する。	共同
小動物内科学実習・応用編	○	基礎編で習得した手技・技術を実践可能なレベルにまで高める。	共同
小動物外科学実習・基礎編	○	外科学的な診断法と治療法に関する基礎的な手技・技術を習得する。	共同
小動物外科学実習・応用編	○	基礎編で習得した手技・技術を実践可能なレベルにまで高める。	共同
代謝病・中毒学	○	食品、薬品、化学物質、農薬、殺虫剤、殺鼠剤など各種の中毒物質に起因する疾患、ならびにエネルギー代謝、蛋白質代謝、糖質代謝、脂肪代謝、水電解質代謝など物質代謝が障害されることによつて起こる疾患（代謝病）の病態生理、症候、診断法および治療法を学ぶ。 (オムニバス方式/8回) (6 佐藤洋/1回) 第1回：中毒学総論 (19 山崎真大/7回) 第2回～8回：伴侶動物および産業動物の代謝病、中毒	オムニバス
血液免疫病学	○	正常な造血機構を十分に理解した上で、赤血球、白血球および血小板が増加あるいは減少する機構について学び、各種血液疾患に関する臨床的な考え方と対応法を習得する。	
神経病・運動器病学	○	神経系疾患の診断手法を理解し、基本的技能を身につけるために、主要な神経疾患について病因、病態生理、症候、診断法および治療法を学ぶ。また、神経系疾患とも密接な関連性を有する運動器病について、筋骨格系の正常な構造と機能を十分に理解したうえで、その病因、病態生理、症候、診断および治療についての基礎的な知識と技術を習得する。 (オムニバス方式/15回) (58 中田浩平/7回) 第1回～7回：神経病学 (2 片山泰章/8回) 第8回～15回：整形外科	オムニバス
泌尿器病・生殖器病学	○	泌尿・生殖器系の構造と機能を理解し、主な泌尿器病および生殖器病の病因、病態生理、症候、診断と治療（内科的・外科的）に関する知識を学ぶ。 (オムニバス方式/8回) (19 山崎真大/1回) 第1回：泌尿器の間診、検査法 (55 小林沙織/3回) 第2回～4回：泌尿器病の内科学 (2 片山泰章/3回) 第5回～7回：泌尿器病の外科学 (8 高橋透/1回) 第8回：伴侶動物の繁殖学	オムニバス
臨床腫瘍学	○	動物に発生する各種の腫瘍疾患に対して適切な診断と治療を施すために、腫瘍に関する生物学的および臨床病理学的な基礎知識、診断法、治療法、予防法について理解する。 (オムニバス方式/8回) (44 星野有希/4回) 第1回～4回：腫瘍の生物学・診断学、放射線腫瘍学、皮膚皮下の腫瘍、リンパ系と組織球系腫瘍 (154 内田直宏（非常勤）/1回) 第5回：腫瘍内科学 (174 高木哲（非常勤）/3回) 第6回～8回：腫瘍外科学、骨・口腔・肛門周囲の腫瘍、内分泌・泌尿生殖器の腫瘍	オムニバス



画像診断学	○	<p>獣医臨床において用いられる各種画像診断法の基本原理を学び、それぞれの画像診断法の特徴を把握した上で、各種疾患に対する具体的な臨床応用法について理解する。さらに獣医臨床において重要かつ代表的な疾患の画像上の特徴を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (2 片山泰章/11回) 第1回～11回：X線装置の基本構造、X線検査、CT検査、核医学、画像診断（胸部、腹部、消化管、四肢関節） (6 佐藤洋/1回) 第12回：造影剤の種類と特殊な造影検査 (58 中田浩平/2回) 第13回、14回：画像診断（頭部）、MRI検査 (59 南雲隆弘/1回) 第15回：超音波検査</p>	オムニバス
画像診断学実習	○	<p>放射線の発生、測定、生物への影響を理解し、放射線と放射性同位元素を安全かつ有効に利用する能力を養う。また、獣医臨床において用いられる各種画像診断法の基礎原理とそれぞれの画像診断法の特徴を理解するとともに、主要疾患の画像診断に関する知識と技術を習得する。</p>	共同
総合参加型臨床実習Ⅰ	○	<p>実際の診療技能と臨床的知識を身につけることを最終目標に、主に双方向授業によりコミュニケーションスキル、チーム医療、インフォームドコンセント、医療の安全性確保等の重要性について十分に理解する。さらに模擬症例を用いて問題志向型システム（POS）にそった診療法を理解し実践できるようになった上で、教員の同伴もしくは指導下で臨床例に対する診療行為を実践する。 総合参加型臨床実習Ⅰは農工大において農工大生のために開講される。</p>	共同
総合参加型臨床実習Ⅱ	○	<p>実際の診療技能と臨床的知識を身につけることを最終目標に、主に双方向授業によりコミュニケーションスキル、チーム医療、インフォームドコンセント、医療の安全性確保等の重要性について十分に理解する。さらに模擬症例を用いて問題志向型システム（POS）にそった診療法を理解し実践できるようになった上で、教員の同伴もしくは指導下で臨床例に対する診療行為を実践する。 総合参加型臨床実習Ⅱは農工大において農工大生のために開講される。</p>	共同
繁殖機能制御学	○	<p>動物の繁殖に関わる生理学を体系的に学び、代表的な動物の発情周期、妊娠、分娩および産褥の過程を理解する。また、動物の生殖機能を人為的に調節する方法についても学習する。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (8 高橋透/11回) 第1回～11回：雌性生殖器官の構造 雄性生殖器官の構造、生殖機能を司る内分泌機構1（視床下部および下垂体）、生殖機能を司る内分泌機構2（性腺および副生殖腺）、雌の繁殖生理1（家畜）、雌の繁殖生理（伴侶動物）、雄の繁殖生理、発情と受精、初期胚の発生と着床、着床と妊娠、分娩 (53 金澤朋美/4回) 第12回～15回：人工授精、胚移植、OPUと体外受精、先進生殖補助医療</p>	オムニバス
繁殖機能制御学実習	○	<p>動物の各種生殖器官検査の基本的な手技を学び、発情診断、妊娠診断、人工授精、胚移植および各種関連技術を実践する。</p>	共同
臨床繁殖学実習	○	<p>動物の繁殖障害および産科疾患に対する診断方法と治療方法ならびに生殖制御法を学び、実践する。群としての動物の繁殖管理方法を学ぶ。</p>	共同
産業動物臨床学Ⅰ	○	<p>産業動物臨床の基本事項と特性・産業動物における各種内科疾患の病態・原因、診断法および治療法を理解し・疾病予防と生産性の向上に必要な予防法について学ぶ。</p>	共同
産業動物臨床学Ⅱ	○	<p>大動物（産業動物）の外科学を網羅し、馬の疾患も含む講義内容である。産業動物の疾患に共通する臨床徴候とその病態の解釈、さらに診断と治療の基本原則について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (158 岡田啓司（非常勤）/9回) 第1回～9回：麻酔、運動器疾患総論、運動器疾患（蹄疾患）、運動器疾患（骨疾患）、運動器疾患（関節・靭帯疾患）、牛の胃腸疾患、体壁疾患、乳房・泌尿器疾患、生殖器疾患 (163 笠嶋快周（非常勤）/1回) 第10回：馬の外科疾患（馬疾患等の臨床例について） (40 高橋正弘/5回) 第11～15回：産業動物における診療技術の基本、運動器疾患（腱疾患）、消化器疾患（上部消化器・馬）、頭部・呼吸器疾患、その他総括</p>	オムニバス
馬臨床学	○	<p>動物としての馬の特徴を理解し、競走馬・乗馬・コンパニオンアニマルとしての馬について知り、馬を取り扱う技術、馬特有の疾患について原因・症状・診断法・治療法・予後に関する知識を学ぶ。</p>	共同、標準外
大動物臨床実習・基礎編	○	<p>大動物の健康情報を収集・診断するための基本的な手技を習得する。</p>	共同
大動物臨床実習・応用編	○	<p>大動物の内科ならびに外科疾患に対する処置ならびに治療法について学ぶ。</p>	共同
総合参加型臨床実習Ⅴ	○	<p>実際の診療技能と臨床的知識を身につけることを最終目標に、主に双方向授業によりコミュニケーションスキル、チーム医療、インフォームドコンセント、医療の安全性確保等の重要性について十分に理解する。さらに模擬症例を用いて問題志向型システム（POS）にそった診療法を理解し実践できるようになった上で、教員の同伴もしくは指導下で臨床例に対する診療行為を実践する。</p>	共同

専門教育科目	実証獣医学科目 大動物臨床獣医学科目目録	総合参加型臨床実習VI	○	実際の診療技能と臨床的知識を身につけることを最終目標に、主に双方向授業によりコミュニケーションスキル、チーム医療、インフォームドコンセント、医療の安全性確保等の重要性について十分に理解する。さらに模擬症例を用いて問題志向型システム (POS) にそった診療法を理解し実践できるようになった上で、教員の同伴もしくは指導下で臨床例に対する診療行為を実践する。	共同
		学外実習 (国内)	○	獣医師としてのキャリアパスに関する意識を涵養することを目的とし、広い獣医師の職域の最前線で職場体験を行う。	共同
		学外実習 (国外)	○	獣医師に必要な国際的視野を養うことを目的とし、姉妹校への短期留学等により海外の獣医学教育を体験する。	共同
		人と動物関係学	○	本講義では人と動物の関係を大まかに伴侶動物・産業動物そして野生動物に分類する。歴史的に人とどのような関わりを持ってきたのか・また動物に対する社会情勢や文化的背景なども解説する。 (オムニバス形式/15回) (3 木崎景一郎/1回) 第1回：人・動物関係学概論、産業動物と人の関係 (192 松浦晶央/4回) 第2回～5回：動物介在活動・療法・教育 (168 木村祐也/4回) 第6回～9回：伴侶動物と人の関係 (181 辻本恒徳/5回) 第10回～14回：野生動物及び動物園動物と人の関係 (30 大沼俊名/1回) 第15回：動物愛護	オムニバス
		動物介在学	○	動物介在療法、動物介在教育、動物介在活動について実例を学ぶ。獣医師として動物の健康と福祉を確保しながら、医療や教育現場や社会における動物の役割について考える。乗馬によるホースセラピーの実習を含む。	
		宿主寄生体関係特論	○	産業動物や野生動物を対象に、宿主と病原体の関係を理解するため、フィールド調査等を通じて原虫・蠕虫・衛生動物の分布状況を明らかにし、宿主における病原性も考察する一連の手法を実践する。 (オムニバス方式/8回) (7 佐藤雪太/4回) 第1回～4回：宿主寄生体関係総論、調査方法論、原虫調査実践演習、衛生動物調査実践演習 (39 関まどか/4回) 第5回～8回：蠕虫総論、蠕虫調査実践演習、総合討論	オムニバス

<p>専門教育科目</p>	<p>専修科目</p>	<p>獣医学演習</p>	<p>○</p> <p>講義・実習等で習得した知識と技術を利用して研究を行い・獣医学を総合的に理解することを目的とする。研究室に配属し・指導教員のもとで学習及び研究を行い、本授業を通じて専門性を高めるとともに・獣医学領域に関わる「課題」に着目し、「課題」に対する研究手法や研究意義を理解する。得られた課題や研究結果をまとめ・指導教員の指導に基づき報告または発表する。</p> <p>(2 片山 泰章)  獣医外科学、臓器移植、腎臓病学、整形外科学  (3 木崎 景一郎)  動物生命科学、総合動物科学、分子細胞生理学  (4 佐藤 至)  環境衛生学、放射性物質、化学物質、重金属、環境汚染  (6 佐藤 洋)  薬学、薬理、基礎医学、トキシコロジー、内分泌、実験病理、化学療法  (7 佐藤 雪太)  獣医寄生虫学、野生動物、保全医学、ベクター媒介性感染症  (8 高橋 透)  繁殖障害の診断・治療・予防  (15 古市 達哉)  動物生命科学、総合動物科学、実験動物学、疾患モデル動物学、発生工学  (18 村上 賢二)  微生物学、獣医感染症学、獣医免疫学、病原微生物、ウイルス、動物ウイルス感染症、感染免疫、診断・予防  (19 山崎 真大)  小動物内科学、獣医血液病学、原虫病  (20 山本 欣郎)  動物生命科学、総合動物科学、神経系比較組織学  (30 大沼 俊名)  動物生命科学、腫瘍学、統合獣医学、腫瘍生物学  (39 関 まどか)  獣医寄生虫学、蠕虫学、吸虫、人獣共通感染症、顧みられない熱帯病  (40 高橋 正弘)  産業動物臨床学、牛、胚移植、脂肪酸分析  (42 中牟田 信明)  獣医解剖学、獣医組織学、獣医発生学  (44 星野 有希)  臨床腫瘍学、軟部組織外科学  (45 宮崎 珠子)  動物介在学、動物行動学、産業動物臨床学  (47 森田 智也)  獣医内科学、循環器病学、画像診断  (48 山崎 朗子)  食品衛生学、野生鳥獣肉衛生管理  (49 山田 慎二)  獣医微生物学、ウイルス、感染免疫、抗体、診断・予防学  (50 山田 美鈴)  動物生命科学、総合動物科学、ホメオスタシス維持機構  (52 横山 拓矢)  動物生命科学、組織学、神経科学  (53 金澤 朋美)  臨床繁殖学、卵巣生理、牛の受胎性評価、繁殖改善  (55 小林 沙織)  小動物内科学、腎泌尿器病学、獣医遺伝病学、免疫不全症  (56 佐々木 淳)  獣医病理学、感染症、家禽疾病、運動器系疾患、被ばく  (58 中田 浩平)  小動物外科学、獣医神経病学、獣医画像診断学  (59 南雲 隆弘)  獣医外科学、低侵襲外科学、小動物画像診断学、手術支援  (61 前原 都有子)  薬理、薬学、毒性</p>	
---------------	-------------	--------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

卒業研究	○	<p>講義・実習等で習得した知識と技術を利用して研究を行い・獣医学を総合的に理解することを目的とする。研究室に配属し・指導教員のもとで学習及び研究を行い、本授業を通じて専門性を高めるとともに・獣医学領域に関わる「課題」に着目し、「課題」に対する研究手法や研究意義を理解する。得られた課題や研究結果をまとめ・指導教員の指導に基づき報告または発表する。</p> <p>(2 片山 泰章)          獣医外科学、臓器移植、腎臓病学、整形外科学          (3 木崎 景一郎)          動物生命科学、総合動物科学、分子細胞生理学          (4 佐藤 至)          環境衛生学、放射性物質、化学物質、重金属、環境汚染          (6 佐藤 洋)          薬学、薬理、基礎医学、トキシコロジー、内分泌、実験病理、化学療法          (7 佐藤 雪大)          獣医寄生虫学、野生動物、保全医学、ベクター媒介性感染症          (8 高橋 透)          繁殖障害の診断・治療・予防          (15 古市 達哉)          動物生命科学、総合動物科学、実験動物学、疾患モデル動物学、発生工学          (18 村上 賢二)          微生物学、獣医感染症学、獣医免疫学、病原微生物、ウイルス、動物ウイルス感染症、感染免疫、診断・予防          (19 山崎 真大)          小動物内科学、獣医血液病学、原虫病          (20 山本 欣郎)          動物生命科学、総合動物科学、神経系比較組織学          (30 大沼 俊名)          動物生命科学、腫瘍学、統合獣医学、腫瘍生物学          (39 関 まどか)          獣医寄生虫学、蠕虫学、吸虫、人獣共通感染症、顧みられない熱帯病          (40 高橋 正弘)          産業動物臨床学、牛、胚移植、脂肪酸分析          (42 中牟田 信明)          獣医解剖学、獣医組織学、獣医発生学          (44 星野 有希)          臨床腫瘍学、軟部組織外科学          (45 宮崎 珠子)          動物介在学、動物行動学、産業動物臨床学          (47 森田 智也)          獣医内科学、循環器病学、画像診断          (48 山崎 朗子)          食品衛生学、野生鳥獣肉衛生管理          (49 山田 慎二)          獣医微生物学、ウイルス、感染免疫、抗体、診断・予防学          (50 山田 美鈴)          動物生命科学、総合動物科学、ホメオスタシス維持機構          (52 横山 拓矢)          動物生命科学、組織学、神経科学          (53 金澤 朋美)          臨床繁殖学、卵巣生理、牛の受胎性評価、繁殖改善          (55 小林 沙織)          小動物内科学、腎泌尿器病学、獣医遺伝病学、免疫不全症          (56 佐々木 淳)          獣医病理学、感染症、家禽疾病、運動器系疾患、被ばく          (58 中田 浩平)          小動物外科学、獣医神経病学、獣医画像診断学          (59 南雲 隆弘)          獣医外科学、低侵襲外科学、小動物画像診断学、手術支援          (61 前原 都有子)          薬理、薬学、毒性</p>	
------	---	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

		<p>学内臨床アドバンス：共用試験に合格した学生が総合参加型臨床実習とは別途本学附属動物病院での臨床実習に参加し・獣医師として将来目指す分野の知識や技術をさらに深化させるとともに学生の自主性を育む。また・様々な分野の科目を学生自ら選択して受講することで・獣医師としての見識を広げる。</p> <p>(2 片山 泰章)</p> <p>獣医外科学、臓器移植、腎臓病学、整形外科学 (8 高橋 透)</p> <p>繁殖障害の診断・治療・予防 (19 山崎 真大)</p> <p>小動物内科学、獣医血液病学、原虫病 (40 高橋 正弘)</p> <p>産業動物臨床学、牛、胚移植、脂肪酸分析 (44 星野 有希)</p> <p>臨床腫瘍学、軟部組織外科学 (45 宮崎 珠子)</p> <p>動物介在学、動物行動学、産業動物臨床学 (47 森田 智也)</p> <p>獣医内科学、循環器病学、画像診断 (53 金澤 朋美)</p> <p>臨床繁殖学、卵巣生理、牛の受胎性評価、繁殖改善 (55 小林 沙織)</p> <p>小動物内科学、腎泌尿器病学、獣医遺伝病学、免疫不全症 (58 中田 浩平)</p> <p>小動物外科学、獣医神経病学、獣医画像診断学 (59 南雲 隆弘)</p> <p>獣医外科学、低侵襲外科学、小動物画像診断学、手術支援</p> <p>獣医学特別研究アドバンス：本学教員（卒業論文指導教員に限らない）指導のもと・興味関心のあるテーマについての研究をすすめ・研究方法・実験の技術・文献探索・ならびに成果の纏め方や発表法について習得する。</p> <p>(2 片山 泰章)</p> <p>獣医外科学、臓器移植、腎臓病学、整形外科学 (3 木崎 景一郎)</p> <p>動物生命科学、総合動物科学、分子細胞生理学 (4 佐藤 至)</p> <p>環境衛生学、放射性物質、化学物質、重金属、環境汚染 (6 佐藤 洋)</p> <p>薬学、薬理、基礎医学、トキシコロジー、内分泌、実験病理、化学療法 (7 佐藤 雪太)</p> <p>獣医寄生虫学、野生動物、保全医学、ベクター媒介性感染症 (8 高橋 透)</p> <p>繁殖障害の診断・治療・予防 (15 古市 達哉)</p> <p>動物生命科学、総合動物科学、実験動物学、疾患モデル動物学、発生工学 (18 村上 賢二)</p> <p>微生物学、獣医感染症学、獣医免疫学、病原微生物、ウイルス、動物ウイルス感染症、感染免疫、診断・予防 (19 山崎 真大)</p> <p>小動物内科学、獣医血液病学、原虫病 (20 山本 欣郎)</p> <p>動物生命科学、総合動物科学、神経系比較組織学 (30 大沼 俊名)</p> <p>動物生命科学、腫瘍学、統合獣医科学、腫瘍生物学 (39 関 まどか)</p> <p>獣医寄生虫学、蠕虫学、吸虫、人獣共通感染症、顧みられない熱帯病 (40 高橋 正弘)</p> <p>産業動物臨床学、牛、胚移植、脂肪酸分析 (42 中牟田 信明)</p> <p>獣医解剖学、獣医組織学、獣医発生学 (44 星野 有希)</p> <p>臨床腫瘍学、軟部組織外科学 (45 宮崎 珠子)</p> <p>動物介在学、動物行動学、産業動物臨床学 (47 森田 智也)</p> <p>獣医内科学、循環器病学、画像診断 (48 山崎 朗子)</p> <p>食品衛生学、野生鳥獣肉衛生管理 (49 山田 慎二)</p> <p>獣医微生物学、ウイルス、感染免疫、抗体、診断・予防学 (50 山田 美鈴)</p> <p>動物生命科学、総合動物科学、ホメオスタシス維持機構 (52 横山 拓矢)</p> <p>動物生命科学、組織学、神経科学 (53 金澤 朋美)</p> <p>臨床繁殖学、卵巣生理、牛の受胎性評価、繁殖改善 (55 小林 沙織)</p> <p>小動物内科学、腎泌尿器病学、獣医遺伝病学、免疫不全症 (56 佐々木 淳)</p> <p>獣医病理学、感染症、家禽疾病、運動器系疾患、被ばく (58 中田 浩平)</p> <p>小動物外科学、獣医神経病学、獣医画像診断学 (59 南雲 隆弘)</p> <p>獣医外科学、低侵襲外科学、小動物画像診断学、手術支援 (61 前原 都有子)</p> <p>薬理、薬学、毒性</p>	<p>アドバンス演習 ○</p>
--	--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------

			<p>獣医学特別実践演習アドバンス：共用試験に合格した学生が外部機関における研修を通じ・獣医師として将来目指す分野の知識や技術をさらに深化させるとともに学生の自主性を育む。また・様々な分野の科目を学生自ら選択して受講することで・獣医師としての見識を広げる。</p> <p>(2 片山 泰章)  獣医外科学、臓器移植、腎臓病学、整形外科学  (3 木崎 景一郎)  動物生命科学、総合動物科学、分子細胞生理学  (4 佐藤 至)  環境衛生学、放射性物質、化学物質、重金属、環境汚染  (6 佐藤 洋)  薬学、薬理、基礎医学、トキシコロジー、内分泌、実験病理、化学療法  (7 佐藤 雪太)  獣医寄生虫学、野生動物、保全医学、ベクター媒介性感染症  (8 高橋 透)  繁殖障害の診断・治療・予防  (15 古市 達哉)  動物生命科学、総合動物科学、実験動物学、疾患モデル動物学、発生工学  (18 村上 賢二)  微生物学、獣医感染症学、獣医免疫学、病原微生物、ウイルス、動物ウイルス感染症、感染免疫、診断・予防  (19 山崎 真大)  小動物内科学、獣医血液病学、原虫病  (20 山本 欣郎)  動物生命科学、総合動物科学、神経系比較組織学  (30 大沼 俊名)  動物生命科学、腫瘍学、統合獣医学、腫瘍生物学  (39 関 まどか)  獣医寄生虫学、蠕虫学、吸虫、人獣共通感染症、顧みられない熱帯病  (40 高橋 正弘)  産業動物臨床学、牛、胚移植、脂肪酸分析  (42 中牟田 信明)  獣医解剖学、獣医組織学、獣医発生学  (44 星野 有希)  臨床腫瘍学、軟部組織外科学  (45 宮崎 珠子)  動物介在学、動物行動学、産業動物臨床学  (47 森田 智也)  獣医内科学、循環器病学、画像診断  (48 山崎 朗子)  食品衛生学、野生鳥獣肉衛生管理  (49 山田 慎二)  獣医微生物学、ウイルス、感染免疫、抗体、診断・予防学  (50 山田 美鈴)  動物生命科学、統合動物科学、ホメオスタシス維持機構  (52 横山 拓矢)  動物生命科学、組織学、神経科学  (53 金澤 朋美)  臨床繁殖学、卵巣生理、牛の受胎性評価、繁殖改善  (55 小林 沙織)  小動物内科学、腎泌尿器病学、獣医遺伝病学、免疫不全症  (56 佐々木 淳)  獣医病理学、感染症、家禽疾病、運動器系疾患、被ばく  (58 中田 浩平)  小動物外科学、獣医神経病学、獣医画像診断学  (59 南雲 隆弘)  獣医外科学、低侵襲外科学、小動物画像診断学、手術支援  (61 前原 都有子)  薬理、薬学、毒性</p>	
--	--	--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

授 業 科 目 の 概 要				
(農学部共同獣医学科) 【東京農工大学開設分】				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	大学教育導入科目群	農学基礎ゼミ	<p>第1回から第5回までの講義等の内容            大学を知り、大学でいかに学ぶかを考える講義形式の授業です。            本学は、現代社会と科学技術が顕在化させた持続発展可能な社会の実現に向けた課題を正面から受け止め、農学、工学およびその融合領域における自由な発想に基づく教育研究を通して、世界の平和と社会や自然環境と調和した科学技術の進展に貢献するとともに、課題解決とその実現を担う人材の育成と知の創造に邁進することを基本理念としています。本学の理念・歴史と共に、研究活動に関する理解を深め、学びへの意欲を増進すると共に、キャリア形成を理解することを目的としています。</p> <p>(オムニバス方式/15回)            (133 安村 友紀/5回)            本学の理念・歴史とともに、本学の研究活動や社会的な取組み、そして研究倫理に関する理解を深め、学びへの意欲の増進と俯瞰的な大学生活の設計を促します。</p> <p>(73 北野 克和/10回)            大学生活に適応し、自発的な学習習慣を身につけることを目的としています。この授業を通し、大学での学びは問いを立てて理解を深めること、知を開拓する面白さや、主体的に学ぶことにあることを実感、自覚し、大学生活への動機付けを目的としています。</p>	オムニバス
		スポーツ健康科目群	体力学実技	豊かで健全な社会生活（大学生生活含む）を営むための身体的な基盤となる健康関連体力を自己管理する方法を実習することを目的とし、スポーツ健康科学科目として位置づける。健康関連体力や運動能力を測定し、自己の体力レベルに適したエクササイズを行なう。体力トレーニング法の実技に加えて、各種スポーツ種目の特性を活かしたエクササイズ実技を行う。各自の授業成果を分析し、考察する。
外国語科目群	生涯スポーツ実技	生涯スポーツ実技	スポーツは個々人の自由な自発的欲求に基づくものであり、社会生活においてスポーツを楽しむことは単に「する」だけにとどまらない。オリンピック・パラリンピックやワールドカップを観戦したり、子供の運動会に応援するなど、スポーツを「みる」楽しさもある。さらに、職場や地域で健康づくりイベントを企画運営したり、指導者やボランティアとして協力するなど、スポーツを「ささえる」側に立って楽しみを分かち合うこともある。 スポーツは、個々人のより高く豊かな生活の質を実現することに役立ち、その楽しみ方や関わり方が個々の体力レベルやライフイベントにより生涯を通して変容していくものである。本科目では、希望するスポーツ種目を選択し、そのスポーツに特有の文化的側面の理解、運動スキル・戦術・ルール・マナー・審判方法・試合の運営方法等を実技で学びながら、将来の社会形成に貢献する能力を身に付けることを目的として、スポーツ健康科学科目に位置づける。	
		Integrated English	大学で必要とされる英語の基礎固めを目的とし、Integrated Englishを農工大の英語カリキュラムの導入科目として位置付けます。学生は、英語のスキルを様々な組み合わせで使うことを学びます。この科目では特に、リーディング、リスニングなどの受容技能を向上させることを目指します。あわせて、それらの受容技能を、ライティング、スピーキングなどの発表技能と統合することを学びます。	
		Paragraph Writing	大学で必要となる自律的に学びを深める力は、特定の事柄について、自分で調べて、考えて、書くことを通して培われます。したがって、1年次に Paragraph Writing を必修科目とし、英語で文章を記述する上での基礎であるパラグラフの構成の仕方を学び、形式性と論理性を意識して英文を書く技能を修得します。習熟度別クラス編成で授業を行います。この科目は、農工大の英語カリキュラムのライティング入門科目として位置づけられます。	
		English Discussion	英語で積極的にコミュニケーションをはかる能力を伸ばすために、必修科目として1年次にEnglish Discussion、2年次にEnglish Presentationを開講し、アカデミックな環境で重要となる英語によるディスカッション能力、プレゼンテーション能力を身につけます。English Discussionでは、学術的な場面を含め、いろんな場面において、英語で話す際の基本的なスキルを学びます。また、効果的なコミュニケーションをするためのノウハウも学びます。	
		Essay Writing	この科目では、Paragraph Writingで修得した技能を前提とし、パラグラフを組み合わせることによって、自分の考えを英文エッセイとして論理的に表現する技能を身につけます。また、構想を練り、草稿を作成し、推敲・編集を重ねることを通して、議論をまとめ上げるプロセス・ライティングに習熟することを目指します。	
		English Presentation	英語で積極的にコミュニケーションをはかる能力を伸ばすために、必修科目として1年次にEnglish Discussion、2年次にEnglish Presentationを開講し、アカデミックな環境で重要となる英語によるディスカッション能力、プレゼンテーション能力を身につけます。English Presentationでは、どのように学術的なプレゼンテーションを行うか、どのようにしたら効果的なプレゼンテーションができるのかを学びます。	
English Reading	大学での研究で必要とされる英語の読解力を身につけるため、科学技術や世界事情、文化・社会などについて、論理的に書かれたやや複雑な英文を、Essay Writingまでで習得した文章構成方法を基礎として、パラグラフごとの論点の展開、対比されている複数の視点、文献参照と引用、等を理解しつつ読みます。12月第2土曜日に受験するTOEFL ITPのスコアを20点に換算して成績に算入します。この科目は、農工大の英語カリキュラムの2年次必修英語科目として開講されます。			

共通教育科目	人文社会科学科目群	現代倫理論	本講義では、現代社会に生きるわれわれがいかに生きるべきかという問いを倫理的な視点から考える。一見、自らの意志で生きているようで、どこか何者かによって動かされて生きている感覚。この感覚をもちながら、生きているのは私だけだろうか。本講義を通じて、現代社会において自ら考え、行為することの難しさ、同時に自ら考え、行為することを放棄してしまうことの危うさを、受講者が考える契機とする。現代社会において、社会の中で流されて生きてしまっていないだろうか。「ジリツ」が叫ばれ、個性が尊ばれているが、あなたは「ジリツ」できているかどうか、さらに個性を発揮できているだろうか。はたまた、社会の中で流されて生きることに馴化してはいないだろうか。本講義では、このような問いを、倫理学の諸理論に触れることを通じて、考えていきたい。「自ら考え、行為すること」を考えることは、「いかに生きるべきか」を問うことであり、倫理学の問いそのものである。	
		日本国憲法	日本国憲法は、我々国民が守るべきことが書かれた法ではありません。ここにいう憲法とは、国家権力を制限して国民の権利・自由を守ることを目的とする国家の基礎法のことです。どこの国の歴史においても、国家権力はしばしば濫用され、これにより国民の権利・自由は侵害されてきました。憲法は、そのような歴史を踏まえて定められた法規範なのです。日本の憲法も、戦争の放棄をはじめ、国家権力を制限する様々な仕組みが定められています。そこで、日本国憲法におけるそのような仕組みを理解するのが本講義の目標です。憲法の教科書を見ると、大きく分けて、憲法について検討するための一般理論である「憲法総論」、憲法が保障する自由と権利に関する「基本権（人権）」、政府の権限分配に関する「統治機構」の三分野があります。この授業では、日本国憲法の基本原理、立憲主義とは何かを理解し、人権の分野について学び、可能であれば統治機構論についてもふれ、ひいては「憲法に基づいたものの見方」を養うことを目的とします。	
		経済学	前期に開講される経済学に関する講義等の内容 経済理論（近代経済学）はミクロ経済学（新古典派経済学）とマクロ経済学（ケインズの一般理論に由来）に大きく分類される。ミクロ経済学では、市場の資源配分機能とその背景にある個々の経済主体（消費者や生産者）の行動様式について考察する。ここで留意すべきは、市場は効率的な資源配分を実現するメカニズムであり、そこでは価格が重要なシグナルとして機能している点にある。これが、ミクロ経済理論が一般に 価格理論とも呼ばれている理由である。一方、マクロ経済学では、GDP、失業率、利子率、為替レートなどの集計的経済変数の動向やそれら変数間の関係および背景にある諸要因について分析する。また財政政策や金融政策に関する分析もマクロ経済学の重要なテーマである。  本授業では、まず、経済学な考え方を概説したうえで、現在私たちが直面している経済現象のいくつかを具体例として示しながら、本題であるマクロ経済学とミクロ経済学の諸理論について説明していく。  (オムニバス方式/15回) (147 丸 健/前半7回) マクロ経済学の紹介およびミクロ経済学の価格理論を扱う。  (121 草処 基/後半8回) 不完全競争市場における市場の限界および政府の役割を扱う。  後期に開講される経済学に関する講義等の内容 主にマルクス経済学をベースにしながら、封建社会とその崩壊、資本主義の発生・確立、後期資本主義への転化、ならびに日本資本主義の発達史、金融史を理解するための講義です。あわせて資本主義に特徴的な生産関係、商品化、貨幣、資本等の概念についても考察を行います。  以下の教員が後期に経済学を単独で担当する 62 新井 祥穂	オムニバス（前期のみ）
		社会学	人と社会の学であるところの社会学の理論や視点を学び、社会は私たちをどう捉えているか、私たちは 私たち自身や社会をどう捉えているか、またそのつながりについて理解する。	
		心理学	心理学は、複雑な「心」を科学的に解明し、理解しようとする学問です。現代心理学が扱う内容や方法は多岐に渡りますが、この授業では心理学における基礎的な知見を理解し、それらが日常生活の中でどのように作用しているのかを知ることが目標とします。また、自分の心理状態の一端を知る試みも授業中に取り上げる予定です。	
		現代宗教論	「世界を分断する宗教」といったように「宗教」は人々の差異を説明するのに用いられています。また、「日本人は無宗教」もよく耳にすることばでしょう。これらの解釈ははたして正しいのか？実はこうした発言をする人が「宗教」音痴なだけという可能性は？本講義では、テンプレな「宗教」理解に対して、一見すると「宗教」とは無関係に見えるモノ・コトから「宗教」を捉えます。これは現代社会が「価値観の異なる相手との協働」を必要としているからです。相手を理解することと自分を伝えることは等価です。そのための知識・方法論を「宗教」から学びます。	
		多文化共生論	国際社会が多様性の価値と豊かさをますます認識するようになった今、私たちは「違いを欠陥とみなす」見方から脱却する必要がある。また、文化を「本質化」したり、伝統的に理解したりすることは、特定の集団に固定的な特徴があるかのように誤って描きかねないため、避けることが肝要である。本講義は、主として日本社会における様々なマイノリティ当事者の経験や歴史から、文化の複雑さ、多様性、アイデンティティの概念、権力関係などに関する困難な問いを探索する。従来の多文化共生の論理が、ともすれば異なる文化的背景を持つ「他者」と「私たち」という文化本質主義的な二分法に陥ってしまう限界を抱えてきたからこそ、多様な差異を受けとめ、様々な経験に学ぶ必要がある。 誰もが生きやすい社会へと日本を開いていくためにはどうすればいいか。本講義を通じて自分事として考える視点を持つことで、地域社会の調和、反レイシズム、異文化理解、あらゆる文化的背景を持つ市民間の好ましい関係を促進しうる。	



共通教育科目	人文社会科学科目群	文学・芸術学	「文学・芸術学」は、大きくみれば哲学、より専門的には美学とよばれる学問領域に属します。美学は英語ではaestheticsと言い、「感性の学問」という意味です。「文学・芸術学」では、この「感性」が、私たちにとってもつ意味を、探求します。「感性」とは、私たちの心が、なにかに出会った時、その相手を受け取り、触発される能力のことです（「相手」とは、具体的な人であったり、社会的事件であったり、空模様だったりします）。わたしは、これからの時代は、どんな職業に就くにせよ、出来合いの意見や世論の寄せ集めではなく、ひとりひとりが自分の歩む人生を裏切らないような意見を持つことが、とても大事になると考えています。そのためには、「感性」の働きの、もっと注目する必要があると考えます（その理由は、授業のなかで話します）。授業では、過去の文学・芸術運動をとりあげながら、いま、わたしたちが感じ、意見をもつためのヒントを一緒に探求していきたいと思っています。	
		哲学	哲学の対象は、時代とともに変遷してきており、自然、宇宙、神、科学、人間、人生、愛、社会、自由、平等、生命・・・と、いまや多岐にわたっているからです。このことは、哲学者たちが、時代の要請に応じて前の時代の思想を変化させ、次の時代にバトンタッチしてきたという事実を表しています。そうした哲学の歴史的営為が新しい社会観、人間観、歴史観を築いてきたことによって、現代に生きる私たちはあらゆる自由を享受できているのです。理系学部にも所属するみなさんが携わる自然科学を例に考えてみましょう。自然科学は、近代の科学革命の恩恵により誕生しますが、科学革命を可能にしたのは、哲学による価値観の転換だったのです。また、自然科学を扱ううえでは、その研究の社会的意義を考えなければなりません。さらに、科学の発展には自由な発想が欠かせません。そして、研究者として、社会人として働くことの意味も自問する日が来るかもしれません。そこで本講義では、あらゆる哲学の対象の中から「科学とは何か」「自由とは何か」「人間が働く意味とは何か」というテーマで哲学の面白さを探求しつつ、自然科学や現代社会の諸問題と哲学がいかに深く関係しているか考えたいと思います	
		歴史学	かつて私たちの踏みしめるこの大地のうえに、江戸文明と呼ばれる文明社会が存在しました。この文明は高度な資源循環型社会を生み出したといわれ、日本列島を素材とした環境史を考えていくうえで重要な検討素材になると考えられています。高度経済成長以降の私たちの社会は、この江戸文明の否定のうえに成り立ったものとも考えられ、江戸文明を考えることは、私たちの社会が豊かさや便利さを手に入れる一方で、何を失ってきたのかを指し示してくれることになるかもしれません。この授業では、このような問題関心を抱えながら、「江戸文明とは何か」、そして「江戸文明はなぜ日本列島のうえに成立したのか」を考えてみたいと思っています。それは、日本の伝統的文化がどのように成立したのか・どのような特徴をもつのかを理解することにもつながっていくことになろうと思います。	
	配置大学特色科目群	細胞・遺伝学	<p>遺伝学の基礎を学ぶとともに、生命体の最小単位である「細胞」におけるエネルギーの獲得、利用ならびに遺伝情報の処理の生物学的仕組みを分子レベルで解説する。この講義は、生命科学系の専門教育の基盤となる。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (100 山田哲也/2回) 「第1回 細胞の基礎」、「第2回 細胞周期、減数分裂と配偶子形成」</p> <p>(86 天竺桂 弘子/1回) 「第3回 メンデル遺伝」</p> <p>(32 金田 正弘/2回) 「第4回 非メンデル遺伝」、「第5回 染色体と遺伝子地図」</p> <p>(38 鈴木 和彦/3回) 「第6回 細胞の構造と機能 (1) 細胞骨格・細胞外マトリックス・細胞間連絡構造」 「第7回 細胞の構造と機能 (2) 細胞膜・膜タンパク質・膜輸送」 「第8回 生体を構成する物質：糖 とタンパク質」</p> <p>(132 宮田 真路/2回) 「第9回 細胞呼吸：化学エネルギーの利用 (1) 解糖系・醗酵」、 「第10回 細胞呼吸：化学エネルギーの利用 (2) TCA回路・グリオキシル酸回路」</p> <p>(99 森山 裕充/3回) 「第11回 葉緑体とその働き」、「第12回 遺伝子の構造・複製・修復」、 「第13回 遺伝子からタンパク質へ」</p> <p>(67 梅澤 泰史/2回) 「第14回 遺伝子の発現調節 (1) 原核生物の遺伝子発現制御」 「第15回 遺伝子の発現調節 (2) 真核生物の遺伝子発現制御」</p>	オムニバス
		情報処理学	本授業科目は、高度情報化社会における技術の発展やそれに伴う社会の変化に対し、主体的に対応できる能力と態度を育成することを目指します。初等中等教育においても情報活用能力の育成が行われていることも考慮し、本授業科目では、ワードプロセッサや表計算等のアプリケーションソフトウェアの具体的な使用方法を教授する授業ではなく、その概念や原理を理解し、正しく情報機器を利用する能力と情報を扱う力（情報活用能力）を育むことを目指します。	
		物理化学	エネルギーは最も重要な物理量のひとつであり、熱、電気、光など様々な形態をとる。本講義では化学熱力学、電気化学、光化学の基礎を理解する。講義では、各項目で重要となるポイントを説明し、それを理解できるように進めていく。また、知識として修得しておくべき用語についても説明する。さらに講義中に使用するスライドをGoogle classroomにアップして配布するので、講義中だけでなく、予習・復習にも活用して物理化学の基礎を修得してほしい。	

共通教育科目	配置大学特色科目群	情報・データ科学活用入門Ⅰ	<p>実例を紹介しながら社会とデータサイエンスの関連、およびビッグデータを含むデータの収集、加工、分析方法を学ぶ。まず、データサイエンスやAI・機械学習技術が実社会の業務・サービスでどのように活用されているか概観するとともに、その技術的発展が人間社会にもたらした変革について解説する。次に、AI 研究の歴史を概観するとともに、AI 技術の発展が顕在化させた倫理的問題について解説する。こうした社会的背景を踏まえて、データ分析の基礎となる記述統計について学び、データの取得方法、取得したデータ分析のための前処理の方法、データを概観するために必要となる可視化手法を習得する。Python を用いた演習では、リスト、多次元配列、データフレーム処理、グラフ描画を扱う。最後に、変数間の関係を定量化する相関係数について学び、Python を使って関数、条件分岐、線形単回帰、ロジスティック回帰について演習する。</p>	
		情報・データ科学活用入門Ⅱ	<p>機械学習の基礎的事項について学び、さらにPython を用いた演習を実施することで、より理解を深める。まず、機械学習の基礎として、教師あり学習、教師なし学習、強化学習の違いを理解する。このために、重回帰分析、正則化、ロジスティック回帰、交差検証等について学び、実践的な演習を行う。さらに、教師あり学習の例として、決定木、サポートベクターマシン (SVM) の理論について学ぶ。教師なし学習の例としては、クラスタリング (階層型/非階層型クラスタリング、k-means 法) や主成分分析 (PCA) の理論について学ぶ。これらの中で、決定木、SVM、kmeans法、主成分分析について、Scikit-learn モジュールを用いて、実践的な演習を行う。</p>	
		情報・データ科学活用入門Ⅲ	<p>深層学習を学び、AI を用いたデータ処理を実践的に進められる素地を養う。まず、ニューラルネットワークの基礎技術として、パーセプトロン、多層パーセプトロン、誤差逆伝播法、確率的勾配降下法等について学び、TensorFlow、Keras モジュール等を用いて3層ニューラルネットワークの誤差逆伝播法について実践的な演習を行う。さらに Iris データセットを用いて非線形な多クラス分類問題に取り組む。次に、深層学習の基礎となる技術的課題について学び、最新の機械学習技術の活用について理解を深める。最後に、ビッグデータ活用、機械学習、深層学習等を応用した研究事例を通して、AIの構築と運用を考える。さらに企業での運用例として、実際に作ったモデルをデプロイしたり、バージョン管理したりする MLOps の必要性と実際について、自然言語処理を例に解説する。</p>	
		農業史	<p>原始・古代から現代に至る日本農業の歩みを、世界史の中に位置づけながら概観する。本科目の目的は、日本農業の歴史的な変化を通時的に学ぶことで異なる時代に固有な農業技術とそれを支える価値観を理解できるようにすること、そして農業のあり方から時代や社会の特徴を広く見渡し、持続可能な技術のあり方を歴史的に考察できる視点を身につけることとする。このために、まずは原始の「農耕の開始」、古代の「開発・勸農と仏教」、中世の「農法・村落と資源管理」を学ぶ。そして近世から近代にかけての、「小農社会の成立」、「農書の世界」、「地租改正と地主制」、「食料問題と明治農法」、「資本主義の発展と小作争議」、「『帝国』日本の農業」について理解を深める。最後に、現代の「大恐慌から農地改革へ」、「高度経済成長と農業・農村」、「衰退する農業と現在」、「有機農業の歴史」を学び持続可能な技術のあり方を考察する。</p>	
		食料・環境問題	<p>現代社会が直面している食料・環境問題とその背景についての知識を深める。具体的には、食料問題を取り巻く動向、プラスチックによる環境汚染、作物生産や畜産の現状と課題について説明したのち、近年の食料消費と家計や食の安心・安全問題を考える。さらに、持続可能な社会の観点から、環境保全型農業の可能性、バイオマス変換利用技術の現状と課題、大気環境問題、植物・深林・野生動物・水産資源に関連した環境問題、近年の環境汚染問題について理解を深め、そのうえで人新世における食糧・環境問題を考える。</p>	
		(農)の哲学と倫理	<p>〈農〉は、私たち人類にとって生きていく上で必須の基盤である。ところでなぜ、私たち人類は〈農〉を実践するようになったのか。〈農〉の様式は、時代の変化とともにどのように変遷してきたのか。国連が、国際家族農業年 (2014年)、小農の権利宣言 (2018年) といった形でそのよさを提唱する小規模農業と、大規模農業とでは、どのような違いがあり、持続可能な社会にとってどういったメリット、デメリットがあるのか。本科目は、こうした問いを念頭に、オムニバス方式で各教員が哲学、倫理学の面から以下の内容を講義する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)  (144 澤 佳成/第1~4回、第6回~9回、第11~12回、第14~15回)  まず、〈農〉とはそもそも人間にとってどんな意味を持っているのか、という根源的な考察を行う (第1~4回)。そのうえで、〈農〉を取り巻く現実の問題や実践をふまえて、〈農〉にはどんな社会的問題があるのかを把握する (第6~9回)。そして最後に、持続可能な〈農〉はどうすれば可能かという点について、〈農〉の思想と地域での実践を交えながら考える (第11~12、14~15回)。</p> <p>(143 大倉 茂/第5回、第10回、第13回)  人類史のなかで、〈農〉は常に人間の生活のなかで育まれていたことを確認し、〈農〉が自然に対する人間の倫理の一側面を担っている点を考える (第5回)。技術のひとつである農業は、技術倫理としての農業倫理が存在することを示している。そこで農業を人間が自然に対する技術として捉え、その倫理のあり方に迫る (第10回)。現代社会において、都市生活者は消費を通して、農と関わっている。そういった現状を踏まえ、これからの農を考える上で消費と倫理の関係はどうあるべきかについて考える (第13回)。</p>	オムニバス
		理系大学生のための表現技法	<p>大学での学びに必要な文章力、思考力の養成を目的とし、大学導入科目として位置づける。講義による授業のほか、様々な考え方を共有し思考を深めるグループワークや文章作成の演習、課題作文などを通して実践的に以下の内容を学ぶ。1. 理系学生に必要な文章作法とは 2. クリティカルシンキングを身につける: 「主体的に考える力」と「根拠の確かさ」 3. 問題を解決に導くための考え方の基礎を学ぶ 4. データを基に議論を展開させるエクササイズ 5. 論理的な文章の書き方を身につける  授業時間16時間課題作文作成時間5時間程度に加え、テキストや参考書を用いて予習復習を行うことが求められている。</p>	

共通教育科目	配置大学特色科目群	生態・進化学	<p>生物は環境に適応し、進化・多様化してきました。生物資源の永続的利用、環境問題などの課題に適切に対処するためには、生物の進化ならびに生物とその環境の相互作用に関する科学である生態学に関する理解が必要です。この講義では、生物の進化現象、個体-個体群-群集-生態系、さまざまな階層に渡る生態学の基礎について学びます。生物・環境系専門科目を理解する基盤となります。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (102 伊藤 克彦/1回) 「集団の進化」</p> <p>(161 小栗 恵美子/2回) 「植物系統学Ⅰ」、「植物系統学Ⅱ」</p> <p>(154 木賀田 哲人/2回) 「動物系統学Ⅰ」、「動物系統学Ⅱ」</p> <p>(201 小林 勇太/1回) 「生態学概論・環境-生物」</p> <p>(34 小山 哲史/1回) 「行動生態学」</p> <p>(115 金子 弥生/1回) 「個体群生態学(1)」</p> <p>(105 岩井 紀子/1回) 「個体群生態学(2)」</p> <p>(137 吉田 智弘/1回) 「群集生態学」</p> <p>(135 山崎 和久) /5回 「生物多様性」、「生態系生態学Ⅰ」、「生態系生態学Ⅱ」、「保全生態学Ⅰ」、「保全生態学Ⅱ」</p>	オムニバス
		動物・植物科学	<p>植物と動物の構造と機能についてその基礎を理解するとともに、その多様な構造と機能による生きる仕組みおよびそれらの農学分野への応用研究例についてオムニバス授業形態により解説する。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (140 渡辺 誠/3回) 「植物の構造、成長、分化」、「土壌と植物栄養、被子植物の生殖とバイオテクノロジー」、「農学への応用1」</p> <p>(114 桂 圭佑/2回) 「内外のシグナルに対する植物の応答」、「農学への応用2」</p> <p>(10 田中 知己/2回) 「動物の形態と機能の基本原則」、「感覚と運動のメカニズム」</p> <p>(81 杉村 智史/2回) 「動物の栄養」、「農学への応用3」</p> <p>(22 皆上 大吾/2回) 「循環とガス交換」、「浸透圧調節と排出」</p> <p>(26 遠藤なつみ/1回) 「ホルモンと内分泌系」</p> <p>(46 村上 智亮/1回) 「免疫系」</p> <p>(154 木賀田 哲人/1回) 「神経系」</p> <p>(25 白井 達哉/1回) 「農学への応用4」</p>	オムニバス
		線形代数学Ⅰ	<p>いくつかの数をひとまとめにして考えるとき、行列を用いると効果的に計算を行うことが可能となる。本講義では、基本変形、逆行列、行列式など行列に関連する様々な概念を学ぶとともに、その計算方法の習得を目指す。工学・農学の諸分野におけるさまざまな現象を記述し解析する上で、線形代数学で学習する内容は必須のものとなっている。とくに行列に関する種々の計算技術を習得することはより抽象的なベクトル空間などの諸概念を理解する助けとなるので、演習を通してこれを実践する。</p>	
		微分積分学Ⅰ	<p>1変数関数の微分積分とその応用を学ぶ。微分積分学は自然現象や社会現象などの変化を数式で記述し解析する学問であり、統計学、物理学、化学、工学などに広く利用されている。高校で学んだ微分積分の考え方を発展させ、極限の考え方を理解するとともに高度な計算力を身につけることが目標である。まず実数の性質の中で連続性が微分積分の基本となっていることを説明する。極限の考え方から出発して微分を定義し、その計算法を習得する。その過程で三角関数、逆三角関数、指数関数、対数関数などの関数の性質も学ぶ。積分については、微分と積分はたがいに逆演算であるという微分積分学の基本定理を説明し、不定積分、定積分の計算法を学び、その応用として図形の面積や曲線の長さなどの意味と計算法を習得する。</p>	
		数理統計学	<p>数理統計学は実験結果や測定値などの与えられたデータの特性を数学的に記述し、少数の標本から母集団の性質を推定することを目的とする学問である。本講義ではまず統計学の基本概念である平均、分散、確率分布、標準偏差、ランダムサンプルなどを学び、そして母集団の性質と標本データの間のつながりについて考察を行う。そのうえで各種の確率分布を用いた区間推定、仮説検定の考え方を学習し、基本的な推測統計の手法を理解することを目標とする。</p>	

共通教育科目	配置 大学特色科目群	有機化学	<p>【目的】生物が営む生命現象（生物の有機反応）を理解するうえで、その基礎となる有機化学を理解する。【概要】有機化合物は天然物、合成物を合わせると数えきれないほど多く、複雑な構造をもつものや変わった反応をするものなどがあり、一見理解しがたいと感じるかもしれない。一見複雑そうに見える構造や反応も、個々に見ていけば合理的に考えることができるのである。初めて有機化学を学ぶ人が、なぜそのような構造になるのか、どのように反応するかを考え、理解することに重点をおきながら講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (70 梶田 真也/8回) 第1回；原子の構造と電子配置 第2回；混成軌道 第3回；酸と塩基 第4回；共鳴 第5回；立体化学 第6回；結合の生成と解離 第7回；付加、置換、脱離、転移反応の基礎 第8回；前半のまとめと総合演習</p> <p>(73 北野 克和/7回) 第9回；アルカン、ハロゲン化アルキル 第10回；アルコール、エーテル 第11回；アルケン 第12回；アルキン、芳香族化合物 第13回；アルデヒド、ケトン 第14回；カルボン酸とその誘導体、含窒素化合物 第15回；全体のまとめと総合演習</p>	オムニバス
		生物学実験	<p>共同獣医学科専門科目の基礎となる「生物学」の実験手技、スケッチの仕方、顕微鏡の使い方、データの統計解析の基礎、レポート作成法について学ぶ。各教育研究分野の研究室・施設の見学も行う。</p>	共同
専門教育科目	基礎 獣医学科目群	獣医学概論	<p>獣医学概論は、獣医学の概要を明確に把握すると同時に、獣医学、獣医師、獣医療に求められる獣医哲学を極める生命科学として存在する。その意図に基づき、獣医学史では人類と動物の共生における歴史的考察と、日本の獣医学教育史を。次いで現代日本における獣医師の使命と獣医療の実践活動、さらに諸外国の獣医師との比較論、国際貢献論を講述し、獣医師の本質的な存在意義の修得に必要な資源とする。</p> <p>(オムニバス方式/10回、共同開講演習/5回) (13 西藤公司/1回) 第1回：獣医学概論の理念（獣医学教育、獣医師免許・資格制度など） (35 佐々木一昭/1回) 第2回：獣医史学 (12 永岡謙太郎/1回) 第3回：企業における獣医師の役割 (10 田中知己/1回) 第4回：産業動物獣医師の役割 (14 福島隆治/1回) 第5回：伴侶動物獣医師の役割 (31 オブライエン悠木子/1回) 第6回：国際関係における獣医師の役割 (38 鈴木和彦/1回) 第7回：教育・研究分野における獣医師の役割 (23 石原加奈子/1回) 第8回：行政獣医師、家畜衛生獣医師、公衆衛生獣医師の役割 (60 播磨勇人/1回) 第9回：野生動物保全における獣医師の役割 (29 大森啓太郎/1回) 第10回：地域における二次診療施設での役割 (担当教員全員/5回) 第11-15回：獣医学概論課題発表、総合討論</p>	オムニバス、共同（一部）、演習（一部）
		獣医倫理 I	<p>生命倫理 (Biotehics) の心理を理解し、動物倫理及び動物の権利、動物の愛護と福祉の思想を、獣医学・獣医療における獣医師の真相理念として習得する。</p> <p>(オムニバス方式/6回、共同開講演習/2回) (13 西藤公司/1回) 第1回：獣医倫理学概論 (32 金田正弘/1回) 第2回：日本の獣医関連法規と獣医倫理の基本原則 (154 木賀田哲人/1回) 第3回：獣医師に係る倫理学 (57 島田香寿美/1回) 第4回：動物介在療法と獣医倫理 (51 山本ゆき/1回) 第5回：野生動物および展示動物と獣医倫理 (43 濱部理奈/1回) 第6回：西欧の動物保護法規と日本の動物保護法 (担当教員全員/2回) 第7-8回：獣医倫理I課題発表、総合討論</p>	オムニバス、共同（一部）、演習（一部）
		獣医倫理 II	<p>生命倫理 (Biotehics) の心理を理解し、動物倫理及び動物の権利、動物の愛護と福祉の思想を、獣医学・獣医療における獣医師の真相理念として習得する。</p> <p>(オムニバス方式/6回、共同開講演習/2回) (46 村上智亮/1回) 第1回：科学実験の遂行と成果の発表に関する倫理 (25 臼井達哉/1回) 第2回：医薬品使用と獣医倫理 (12 永岡謙太郎/1回) 第3回：動物実験に係る獣医倫理 (24 井手香織/1回) 第4回：伴侶動物の獣医療と獣医倫理学 (28 大松勉/1回) 第5回：防疫の重要性と獣医倫理 (26 遠藤なつ美/1回) 第6回：産業動物の獣医療と獣医倫理学 (担当教員全員/2回) 第7-8回：獣医倫理II課題発表、総合討論</p>	オムニバス、共同（一部）、演習（一部）
		獣医事法規	<p>獣医師の職務である獣医療・公衆衛生ならびに家畜衛生に関する種々の法令の規定について習得し、職務の適正な遂行に資する。</p>	

専門 教育 科目	基盤 獣医 学科 目	基礎 獣医 学科 目群	運動器・神経系解剖学	○	犬、馬、豚、反芻類、および鶏を対象動物とし、動物体を構成する骨格系、筋系、および神経系について主要な器官の肉眼的構造を理解する。また、対象動物間の解剖学的な差異、器官が担う機能と構造の対応関係、および器官の臨床上の重要性を理解する。 (オムニバス方式/15回) (154 木賀田哲人/5回) 第1回～5回：運動器解剖学 (173 柴田秀史/10回) 第6回～15回：神経系解剖学	オムニバス
			解剖学実習 I	○	動物体を構成する骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、脈管系、神経系、および感覚器系について主要な器官の肉眼的構造に関する理解を深める。	共同
			解剖学実習 II	○	犬、馬、豚、反芻類、および鶏を対象動物とし、動物間の解剖学的な差異、器官が担う機能と構造の対応関係、および器官の臨床上の重要性について理解を深める。	共同
			組織学実習	○	犬、馬、豚、反芻類、実験動物(マウス、ラットなど)および鶏を対象動物とし、各項目に記載された主要な組織・器官の組織標本を光学顕微鏡で観察・スケッチすることにより、それらの構造的特徴を理解する。	共同
			発生学	○	獣医学で対象とする動物体を構成する組織や器官あるいは個体の形成過程を学ぶことによって発生、成熟過程と発生過程の調節のしくみを理解し、発生異常によって起こる奇形などを生じるしくみの基本的な知識を修得する。	
			生理学 I	○	動物の生体における細胞、神経の機能およびそれらの情報交換および相互調節機構について、生命現象の根幹である分子・細胞・組織を基本とした生体における機能と制御機構について修得する。本科目では主として細胞機能、細胞間情報伝達、恒常性維持、神経、筋肉、消化機能(反芻動物の消化生理を含む)、腎機能を理解する。 (オムニバス方式/15回) (12 永岡謙太郎/8回) 第1回～第8回：細胞機能、細胞間情報伝達、恒常性維持、消化機能(反芻動物の消化生理を含む)の生理学 (51 山本ゆき/7回) 第9回～第15回：神経、筋肉、腎臓の生理学	オムニバス
			生理学実習	○	動物の個体・組織・細胞・人(被験者)を用いて・動物のさまざまな生理機能を自らの目で観察し・自らの手で定性的・定量的に測定すると共に・コンピューターを使用したシミュレーションやビデオ等の観察も通して・個体の生体恒常性が維持される仕組みについて理解する。	共同
			獣医代謝生化学	○	獣医代謝生化学では、獣医基礎生化学での知識を基にして、生体構成成分の代謝について分子レベルで理解を深める。生体エネルギー産生機構とその調節機構について修得し、その調節機構の乱れが疾病につながることを理解する。また、動物種特有の代謝機構についても知識を修得する。	
			生化学実習	○	生体構成成分の構造と機能に関する基本的な知識に基づいて、獣医学が対象とする生命現象を分子レベルで分析・考察できる基礎的技能を修得する。	共同
			基礎薬理学	○	薬の作用や体内での運命に関する基本的な理論を習得する。さらに、獣医学が対象とする薬のうち、末梢神経系、中枢神経系、呼吸・循環器系に作用する薬の対象となる疾病の成り立ちを理解するとともに、その作用の現れ方、作用機序、および体内での運命に関する基本的知識を、動物種差を含めて修得する。(オムニバス方式/15回) (35 佐々木一昭/8回) 第1回～8回：総論、末梢神経系作用薬、局所麻酔薬、中枢神経系作用薬、薬物動態学の基礎 (25 臼井達哉/7回) 第9回～15回：循環器薬、オータコイド、抗炎症薬、利尿薬	オムニバス
			薬理学実習	○	獣医学が対象とする代表的な治療薬の反応を様々な実験手技を通じて修得する。さらに、それらの反応を多角的に考察することにより、薬の作用の現れ方、作用機序、および体内運命に関する基本的知識を修得するとともに、生体反応を総合的に理解する。	共同
			獣医遺伝育種学	○	動物の生命現象のほとんどは、ゲノムにより決定される。その根幹としての遺伝現象について遺伝子に基づく形質発現原理と機序、世代間での遺伝の仕組みを理解した上で、家畜改良や動物に発生する遺伝性疾患について、その発生の仕組みや遺伝様式を推定し、育種選択法や予防法の確立について考察できるようにすることを目標とする。	共同
			実験動物学実習	○	動物実験計画の立案と審査について学ぶとともに保定、投与、採血、麻酔、安楽死、剖検・採材などの基本的動物実験手技を修得する。また、実験動物の品質を保証するための遺伝的モニタリングや微生物モニタリング、および発生工学の基礎技術を体験し、動物実験を実施するための基盤を理解する。 (オムニバス方式/15回) (9 田中あかね/9回) 第1回～9回：動物実験計画書の作成演習、実験小動物のハンドリング、生物統計、遺伝子モニタリング (37 鈴木馨/3回) 第10回～12回：エキゾチック動物のハンドリング (31 オブライエン悠木子/2回) 第13回～14回：鳥のハンドリング (27 大場真己、28 大松勉/1回) 第15回：微生物モニタリング	オムニバス、共同(一部)
基礎放射線学	○	放射線および放射性物質の性質・放射線の生物影響・並びに関係法規について学び・放射線の安全な取り扱いとその防護について習得する。				

専門教育科目	基礎獣医学科目群	畜産学概論	○	わが国の畜産の現況を、養豚論、家禽論、乳牛論及び肉牛論の4科目から総合的に学び、日本の畜産業の実践的な側面と将来の方向性について学習する。	
		家畜飼養学	○	家畜飼養学は、動物栄養学及び飼料機能学を基礎とし、家畜・家禽の各論、生産及び消費動向、飼養管理技術、栄養評価、飼料評価に関する知識の修得を目標とする。	
		生物統計学	○	身の回りには多くのデータが氾濫しており、それらを避けては生活できない。文献や実験での調査・実験等から収集した情報・データの統計学的評価方法を学ぶ。	
	病態獣医学科目群	動物病理学総論	○	獣医学において対象とする動物の疾病の病理学を理解するために、病理学の歴史・概念を学ぶと共に、細胞の傷害、適応と細胞死、炎症、組織の再生と修復、循環障害、免疫、腫瘍や先天異常などの基本的知識を習得することを目的とする。 (オムニバス方式/15回) (21 吉田敏則/9回) 第1回～第9回：細胞傷害の基本、細胞組織の傷害死、適応・分化異常、細胞増殖・再生修復の病理学 (46 村上智亮/3回) 第10回～第12回：炎症、免疫の病理学 (38 鈴木和彦/3回) 第13回～第15回：腫瘍、発生異常の病理学	オムニバス
		動物病理学各論Ⅱ	○	動物病理学総論で学んだ事を基礎に、主要6臓器(動物病理学各論Ⅰ)以外の臓器(上部呼吸器、消化管、生殖器、感覚器、内分泌器、運動器、外皮・乳腺)、臓器・組織別に獣医学において対象とする動物の疾病を理解する。対象動物は生産動物および伴侶動物から野生動物や虫類までであり、各疾患について病理形態学を基盤として病理発生や比較病理学的観点からも疾病を理解・習得することを目的とする。 (オムニバス方式/15回) (21 吉田敏則/9回) 第1回～第9回：泌尿器、生殖器、神経の病理学 (46 村上智亮/3回) 第10回～第12回：感覚器、内分泌器の病理学 (38 鈴木和彦/3回) 第13回～第15回：運動器、外皮の病理学	オムニバス
		動物病理学実習Ⅰ	○	動物疾患の代表的な形態学的変化とその意義を、病理解剖や病理組織学的検索を通して理解する。さらに鑑別診断・補助的なあるいは追加すべき検索方法に関する基本知識を習得し、動物疾患の成り立ちを総合的に理解する能力を養う。	共同
		動物病理学実習Ⅱ	○	動物疾患の代表的な形態学的変化とその意義を、病理解剖や病理組織学的検索を通して理解する。さらに鑑別診断・補助的なあるいは追加すべき検索方法に関する基本知識を習得し、動物疾患の成り立ちを総合的に理解する能力を養う。	共同
		免疫学	○	免疫学は臨床および基礎を問わずすべての分野に関連する自己・非自己認識機構を体系的に理解するものである。最も重要な生体機能のひとつである免疫反応は、重度の疾患から生態のホメオスタシスの維持に至るまで、幅広く生命現象に関わっている。さらに近年免疫系は細胞分化などを理解する上にも必要不可欠な要因を多く含んでいる。本科目では免疫系の基本的な仕組みと働きを充分理解でき、さらに免疫学と他の教科との関連づけができる応用力を習得することを目的としている。 (オムニバス方式/15回) (177 高橋武司/5回) 第1回～5回：基礎免疫学 (9 田中あかね/5回) 第6回～10回：臨床免疫学 (16 古谷哲也/1回) 第11回：感染症と免疫 (31 オブライエン悠木子/2回) 第12回～13回：鳥の免疫、免疫を用いた実験方法 (担当教員全員/2回) 第14～15回：免疫学最新トピックス、総合討論	オムニバス、共同(一部)
		微生物学総論	○	微生物そのものおよび感染症の原因となる病原微生物の特性について基礎的な事項を学び、感染症への対策(治療・予防法)についての能力を養う。	共同
		微生物学実習Ⅰ	○	獣医学において基本的な概念である無菌操作、病原体の特性及びその取扱いを体験的に学ぶ。細菌の特性を体験的に理解することにより適切で安全に取扱える能力、ならびに基礎的な免疫学的手法を用いた診断法を実施できる能力を身につける。	
		微生物学実習Ⅱ	○	獣医学において基本的な概念である無菌操作、病原体の特性及びその取扱いを体験的に学ぶ。ウイルスの特性を体験的に理解することにより適切で安全に取扱える能力、ならびに基礎的な免疫学的手法を用いた診断法を実施できる能力を身につける。	
		動物感染症学	○	産業動物および伴侶動物の代表的な感染症について、前半は細菌性、後半はウイルス性感染症の概要および診断・予防について学習する。本講義では基本的に、ほ乳類の伝染病に関してのみ行う。動物の感染症について流行様式、病原、症状、診断、予防などを全て習得する。 (オムニバス方式/15回) (31 オブライエン悠木子/8回) 第1回～8回：ウイルス性感染症 (16 古谷哲也/7回) 第9回～15回：細菌性感染症	オムニバス

専門教育科目	基礎獣医学科目	病態獣医学科目群	寄生虫学実習	○	寄生虫の感染様式や、発育に伴う寄生様式並びに形態の変化の観察、および代表的な寄生虫感染検出法の実践に基づいて、寄生虫の発育・生活環と病害発生や診断法との関連性を説明でき、寄生虫病の診断と対策に必要な知識、技術、および考え方を身につける。 (オムニバス方式/15回) (151 案浦 研/4回) 第1回～4回：蠕虫分野の基礎実習 (16 古谷哲也/11回) 第5回～15回：原虫分野の基礎実習、衛生動物分野の基礎実習、外部施設見学	オムニバス	
		応用獣医学科目群	魚病学	○	水生動物の疾病の病態ならびに疫学を理解することにより、それらの診断・予防ならびに治療のための基礎知識を得ることを目標とする。養殖現場における疾病診断や無病証明書の発行、抗生物質や抗菌物質による治療、またワクチン投与、さらに動物園・水族館、小動物臨床において、臨床に対応できる基礎知識を習得する。	共同	
			動物衛生学	○	アニマルウェルフェアの考え方にに基づき家畜を健全に飼育し、安全な畜産物を得るために家畜衛生行政、飼育環境、疾病の予防・防除の重要性・必要性を学び、家畜疾病を制御する基本的な方策を関連法規に基づき習得する。さらに伴侶動物、展示動物、使役動物、特用家畜などの飼養・管理衛生、野生動物と家畜防疫などを習得する。	共同	
			動物衛生学実習	○	動物衛生学が対象とする家畜の飼育環境と管理方法、疾病予防・診断・防除方法、畜産物の安全性の評価方法など家畜衛生に関する基本的技能と手技を、関連する法規の趣旨と共に修得することで、高学年次で履修する獣医臨床学・予防衛生学を総合的に理解する知識を習得する。 上記の講義内容を以下の教員で行う。	共同	
			公衆衛生学総論	○	公衆衛生の基本的な考え方について理解を深め、公衆衛生に関連した様々な問題解決を行うための手法を理解し、国民の健康増進、動物福祉、地球環境保全等に役立ちうる知識を習得する。 (オムニバス方式/8回) (187 堀田 明豊/3回) 第1回から第3回：公衆衛生概論、獣医公衆衛生学の役割と課題、国民衛生の動向、人と動物の共生と公衆衛生 (23 石原 加奈子/5回) 第4回から第8回：感染症と対策、公衆衛生行政Ⅰ・Ⅱ	オムニバス	
			公衆衛生学実習	○	人獣共通感染症の特色や診断の意義を理解し、各種検査法、診断法を修得する。また、大気・水等の衛生検査手技を修得し、われわれを取り巻く環境の衛生状態を評価する能力を養う。 上記の講義内容を以下の教員で行う。	共同	
			食品衛生学（獣医）	○	食品の安全を確保することを目的に、害を及ぼす要因、その作用機序を理解し、さらに食品の規格基準等に関する知識を身につけることにより、食品の安全確保の方策を理解する。 (オムニバス方式/15回) (23 石原 加奈子/13回) 第1回から第13回：食品衛生の概要、細菌性・ウイルス・寄生性食中毒、自然毒、有害物質、食品添加物、生体反応による食品の有害性、微生物制御と腐敗、食肉・食鳥肉の衛生、食品衛生行政 (60 播磨 勇人/2回) 第14回から第15回：食品衛生管理、乳・乳製品・食卵・魚介類・野菜・果物の衛生	オムニバス	
			食品衛生学実習	○	獣医学の科学と技術を人類の健康確保に還元する事を最終的な目的として、食品の安全を守るために必要な技術を体得すると共に、これらの技術の背後にある科学的な裏付けを理解する。	共同	
			毒性学	○	化学物質がヒトや動物、環境に及ぼす有害作用を明らかにし、その予防における獣医師の役割を理解して必要な知識を習得することを目的とする。化学物質の有害作用と体内動態、生体毒性発現のメカニズム、地域・地球規模での化学物質の動態や環境への影響について学ぶ毒性学の網羅する範囲の重要性を理解し、リスク解析や規制方法について学習する。		
			毒性学実習	○	化学物質が、人や動物そして環境に及ぼす有害作用を明らかにするための手法について、必要な知識と手技を修得することを目的とする。化学物質の生体での有害作用と体内動態および毒性発現のメカニズムおよびその毒性試験法について学び、毒性学における網羅性の重要性について理解する。		
			疫学	○	動物や人間集団における健康や疾病とそれらに関連する事象の分布や規定要因を解明し、集団レベルでの疾病予防対策を行う疫学の基本的な考え方を理解し、そのために必要な疫学指標、疫学研究のデザインと手法、疫学的データの解析の基礎知識を修得する。	共同	
		野生動物学	○	野生動物の生体機構のしくみを深く理解しながら、生態系のバランスを崩さぬように環境を健全な形で保全していく知恵や知識を養成する。			
		行政体験実習	○	家畜衛生または公衆衛生の職場を体験し、獣医師としての進路を考える機会を作ると共に、社会生活に必要な礼節とコミュニケーション能力を涵養する。	共同		
		実証獣医学科目	小動物臨床獣医学科目群	内科学総論	○	獣医学領域における診療の進め方の全体像を理解する。その中で、総論部分においては、問診、身体検査、診療記録、説明と同意、臨床検査、画像診断といった項目に関する基本的な概念を理解した上で、それらを論理的に組み立てて診療を進めるための実際的な考え方と知識を習得する。(オムニバス方式/8回) (13 西藤公司/3回) 第1回～3回：内科診察の進め方と内分泌学総論、皮膚病学総論、臨床栄養学総論 (9 田中あかね/2回) 第4回～5回：血液免疫疫病学総論、眼科学総論 (155 打出毅/3回) 第6回～8回：インフォームドコンセントと診療記録、代謝病・中毒学総論、泌尿器病学総論	オムニバス

専門 教育 科目	実証 獣医 学科 目	小動物 臨床 獣医 学科 目群	呼吸器病・循環器病学	○	<p>獣医学が対象とする動物（主に犬、猫）の呼吸器系および循環器系の正常な構造と機能を理解した上で、主な呼吸器系疾患と循環器系疾患の病因、病態生理、症候、診断法および治療法（内科的・外科的）を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式/15回） （11 田中綾/7回） 第1回～7回：呼吸器病の診断法、胸腔と縦隔の疾患、循環器の構造と機能、循環器疾患の臨床症状、心不全、先天性心疾患、後天性弁膜症（14 福島隆治/4回） 第8回～11回：呼吸器の構造と機能、呼吸器疾患の臨床症状、上部気道疾患、循環器疾患の診断法（57 島田香寿美/4回） 第12回～15回：気管と気管支の疾患、肺の疾患、心筋・心膜疾患、犬糸状虫症</p>	オムニバス
			消化器病学	○	<p>歯牙も含め口腔から肛門にいたる消化器系の全領域について、その正常な構造と機能を理解した上で、各種消化器系疾患の病因、病態生理、症候、診断法および治療法（内科的・外科的）を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式/15回） （11 田中綾/3回） 第1回～3回：上部消化管の外科的治療、下部消化管の外科的治療（29 大森啓太郎/3回） 第4回～6回：消化器疾患の臨床症状、腸の疾患1、肝臓・胆道の疾患（13 西藤公司：3回） 第7回～9回：胃の疾患、腸の疾患2、腹膜・膵臓の疾患（24 井手香織/4回） 第10回～13回：消化器の解剖と生理、消化器疾患の診断法、消化器疾患の治療法、口腔・歯の疾患（43 濱部理奈/2回） 第14回～15回：咽頭・食道の疾患と嚥下障害、肝臓・胆道・膵臓の外科的治療</p>	オムニバス
			外科学総論	○	<p>外科的疾患に対する診断と治療の基礎を横断的に理解するために、外科的侵襲、損傷、創傷治癒、ショック、出血・止血、周術期の輸液や栄養管理、理学療法などに関する基本的な知識を習得する。</p> <p>（オムニバス方式/8回） （11 田中綾/3回） 第1回～3回：栄養管理、体液と酸塩基平衡ならびに輸液（22 皆上大吾/2回） 第4回～5回：損傷と創傷治癒、外科的侵襲（43 濱部理奈：2回） 第6回～7回：ショック、出血、止血と輸血（57 島田香寿美/1回） 第8回：再生医療と臓器移植</p>	オムニバス
			麻酔学・手術学	○	<p>手術を実施する上で必要な理論と実践に関する基本的な知識、技能および態度を身につけるために、手術の方法と技術論について包括的に学習する。さらに、麻酔学では麻酔・疼痛管理および心肺脳蘇生・集中治療の基礎理論を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式/15回） （11 田中綾/5回） 第1回～5回：手術の歴史的発展と特性、採血法、手術手技、低侵襲手術、全身麻酔（14 福島隆治/3回） 第6回～8回：無菌法、輸液・輸血（22 皆上大吾：2回） 第9回～10回：周術期管理・モニター、心肺脳蘇生法・安楽死（36 清水美希/5回） 第11回～15回：手術器具および手術室、手術創の管理、手術創と感染、麻酔前投与薬、局所麻酔・疼痛と鎮痛</p>	オムニバス
			軟部外科学	○	<p>小動物の軟部組織・臓器における外科疾患について、病因、病態、症候、診断法および外科的治療法を理解する。</p> <p>（オムニバス方式/8回） （22 皆上大吾/2回） 第1～2回：皮膚と皮下織の疾患、雄性生殖器の外科疾患雌性生殖器の外科疾患（43 濱部理奈/1回） 第3回：雌性生殖器の外科疾患（57 島田香寿美/1回） 第4回：循環器系の外科疾患（11 田中綾/2回） 第5～6回：呼吸器・胸郭・胸腔の外科疾患、泌尿器系の外科疾患（14 福島隆治/2回） 第7～8回：消化器系の外科疾患、ヘルニア</p>	オムニバス
			小動物内科学実習・基礎編	○	<p>内科学的な診断法と治療法に関する基礎的な手技・技術を習得する。</p> <p>（オムニバス方式/15回） （13 西藤公司/5回） 第1回～5回：犬身体検査1、犬身体検査2、皮膚科検査、耳科検査、爪及び肛門嚢処置（24 井手香織/5回） 第6～10回：問診、採血法、血球計算・血液塗抹検査、消化管内視鏡検査、骨髄検査（29 大森 啓太郎/5回） 第11～15回：医療面接、血液生化学検査、投薬法、採尿法・尿検査、糞便検査。</p>	オムニバス



専門教育科目	実証獣医学科目	小動物臨床獣医学科目群	小動物内科学実習・応用編	○	基礎編で習得した手技・技術を実践可能なレベルにまで高める。 (オムニバス方式/15回) (29 大森啓太郎/6回) 第1回～6回：輸液療法、内分泌検査・腺外分泌機能検査、腹部超音波検査、肝機能検査、OSCEに対応した医療面接 (9 田中あかね/2回) 第7回～8回：腎機能検査、眼科検査 (24 井手香織/2回) 第9回～10回：輸血、血液凝固検査 (22 皆上大吾/2回) 第11回～12回：脳脊髄液検査、細胞診 (11 田中綾/1回) 第13回：心臓超音波検査 (36 清水美希/1回) 第14回：神経学的検査 (57 島田香寿美/1回) 第15回：心電図検査	オムニバス
			小動物外科学実習・基礎編	○	外科学的な診断法と治療法に関する基礎的な手技・技術を習得する。(オムニバス方式/15回) (11 田中綾/6回) 第1回～6回：外科的処置の適応判断、リスク評価、結紮、切開・止血・縫合、全身麻酔 (57 島田香寿美/1回) 第7回：血管確保 (36 清水美希/3回) 第8回～10回：器具の滅菌、術創保護・創傷管理、局所麻酔 (14 福島隆治/2回) 第11回～12回：手洗い・グローブ・ガウン装着、尿道カテーテル・ドレーン (22 皆上大吾/3回) 第13回～15回：周術期管理・モニター、救命医療の基本手技	オムニバス
			小動物外科学実習・応用編	○	基礎編で習得した手技・技術を実践可能なレベルにまで高める。 (オムニバス方式/15回) (22 皆上大吾/4回) 第1～4回：体表の手術、生殖器系の手術 (11 田中綾/4回) 第5～8回：呼吸器系の手術、胸腔の手術、泌尿器系の手術 (36 清水美希/2回) 第9～10回：運動器系の手術、神経系の手術 (14 福島隆治/2回) 第11～12回：消化器系の手術、体壁の手術 (43 濱部理奈/1回) 第13回：循環器系の手術 (57 島田香寿美/2回) 第14～15回：生体を用いた手術実践	オムニバス
			内分泌病・皮膚病学	○	生体内細胞が細胞外に分泌する化学伝達物質であるホルモンの作用と、そのホルモンによる生体内の代謝変化を理解し、ホルモン異常による病態(亢進症・低下症)の診断法と治療法を習得する。さらに、内分泌性疾患とも密接な関連性を有する皮膚病について、皮膚の正常な構造と機能を十分に理解したうえで、その病因、病態生理、症候、診断法および治療法を学ぶ。 (オムニバス方式/15回) (13 西藤 公司/9回) 第1～9回：皮膚病学総論、外部寄生虫症、皮膚感染症、アレルギー性皮膚疾患、免疫介在性皮膚疾患、遺伝性皮膚疾患・角化症、猫特有の皮膚疾患、脱毛症、皮膚腫瘍 (24 井手 香織/6回) 第10～15回：視床下部・下垂体・性腺の疾患、甲状腺の疾患、上皮小体の疾患、膵臓の内分泌疾患1、膵臓の内分泌疾患2	オムニバス
			血液免疫病学	○	正常な造血機構を十分に理解した上で、赤血球、白血球および血小板が増加あるいは減少する機構について学び、各種血液疾患に関する臨床的な考え方と対応法を習得する。 (オムニバス方式/8回) (9 田中あかね/4回) 第1回～4回：産業動物の血液免疫病 (24 井手香織/4回) 第5回～8回：小動物の血液免疫病	オムニバス
			臨床病理学	○	動物の生体試料を用いて様々な検査を実施し、それらの検査で得られた情報を解釈して、疾患について適切な診断、治療、予後判定を行う能力の獲得を目指す。そのために、臨床診断に用いる様々な臨床検査の原理、方法、ならびに意義を理解・習得する。さらに、検査結果を総合的に解釈し、診断・治療・予後判定に結びつける方法を習得する。	
			臨床薬理学	○	薬物治療を行う際に必要となる医薬品の基礎知識を学び、投薬方法の根拠となる薬物動態学の理論、投薬後に現れる効果や副作用を理解する。これらの事項に関わる獣医学領域の特殊性を、特に比較生物学的な立場から理解する。また、産業動物における疾病治療を含めた医薬品の使用方法と残留について理解する。 (オムニバス方式/8回) (35 佐々木一昭/6回) 第1回～6回：総論、薬物動態支配因子、抗菌薬とPKPD理論、食用動物へ使用する医薬品、薬物間相互作用 (25 白井達哉/2回) 第7回：投与経路と剤型	オムニバス
			臨床腫瘍学	○	動物に発生する各種の腫瘍疾患に対して適切な診断と治療を施すために、腫瘍に関する生物学および臨床病理学的な基礎知識、診断法、治療法、予防法について理解する。	共同
			臨床栄養学	○	健康小動物の栄養学的な健康管理法をベースとして、罹病小動物の各種疾患時における栄養補助や病態の悪化防止を目途とした栄養管理法について理解する。	共同

専門教育科目	実証獣医学科目	小動物臨床獣医学科目群	画像診断学	○	<p>獣医臨床において用いられる各種画像診断法の基本原理を学び、それぞれの画像診断法の特徴を把握した上で、各種疾患に対する具体的な臨床応用について理解する。さらに獣医臨床において重要かつ代表的な疾患の画像上の特徴を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (36 清水美希/8回)</p> <p>第1回～8回：超音波検査、核磁気共鳴画像検査、頭部・脳の画像診断、呼吸器の画像診断、循環器の画像診断、脊椎・脊髄の画像診断、筋骨格系の画像診断1、筋骨格系の画像診断2 (33 岸本海織/7回)</p> <p>第9回～15回：X線検査、コンピューター断層撮影検査、放射線同位元素を用いた画像診断と放射線防護、消化管の画像診断1、消化管の画像診断2、腹部画像診断1、腹部画像診断2</p>	オムニバス
			画像診断学実習	○	<p>放射線の発生、測定、生物への影響を理解し、放射線と放射性同位元素を安全かつ有効に利用する能力を養う。また、獣医臨床において用いられる各種画像診断法の基礎原理とそれぞれの画像診断法の特徴を理解するとともに、主要疾患の画像診断に関する知識と技術を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (33 岸本海織/8回)</p> <p>第1回～8回：X線検査1、X線検査2、コンピューター断層撮影検査、放射線同位元素を用いた画像診断と放射線防護、消化管の画像診断1、消化管の画像診断2、腹部画像診断1、腹部画像診断2 (36 清水美希/7回)</p> <p>第9回～15回：超音波検査、核磁気共鳴画像検査、頭部・脳の画像診断、呼吸器の画像診断、循環器の画像診断、脊椎・脊髄の画像診断、筋骨格系の画像診断</p>	オムニバス
			眼科学	○	<p>眼・視覚器系の構造と生理・機能を理解し、視覚機能に障害をおよぼす眼科（眼・視覚系）疾患の病因・病態、臨床徴候、診断（介助・補助犬の正確な視覚機能検査実施能力も含む）、治療（視覚機能維持、もしくは視覚機能を維持できないまでも良好な生活の質を確保することを目的とした内科・薬物療法と外科療法）、予後判定、予防法を理解する。</p>	
			獣医動物行動学	○	<p>「行動治療学」は比較的新しい学問領域であるが、これまで動物の身体的健康に主眼が置かれてきた臨床獣医学においては、動物の心身の健康を維持・増進するという観点から、今後ますます重要性が増すことが予想される。「行動治療学」について、その基本的な概念、すなわち、問題行動の定義、種類、特徴、病因、病態生理、危険因子、症状、診断方法、治療方法、フォローアップ方法などを体系的に理解し、臨床に応用する能力を培う。</p> <p>(オムニバス方式/15回) (34 小山哲史/5回)</p> <p>第1回～5回：基礎動物行動学 (104 入交眞巳/10回)</p> <p>第6回～15回：行動治療学</p>	オムニバス
			総合参加型臨床実習Ⅰ	○	<p>実際の診療技能と臨床的知識を身につけることを最終目標に、主に双方向授業によりコミュニケーションスキル、チーム医療、インフォームドコンセント、医療の安全性確保等の重要性について十分に理解する。さらに模擬症例を用いて問題志向型システム（POS）にそった診療法を理解し実践できるようになった上で、教員の同伴もしくは指導下で臨床例に対する診療行為を実践する。</p> <p>総合参加型臨床実習Ⅰは農工大において農工大生のために開講される。</p>	共同
			総合参加型臨床実習Ⅱ	○	<p>実際の診療技能と臨床的知識を身につけることを最終目標に、主に双方向授業によりコミュニケーションスキル、チーム医療、インフォームドコンセント、医療の安全性確保等の重要性について十分に理解する。さらに模擬症例を用いて問題志向型システム（POS）にそった診療法を理解し実践できるようになった上で、教員の同伴もしくは指導下で臨床例に対する診療行為を実践する。</p> <p>総合参加型臨床実習Ⅱは農工大において農工大生のために開講される。</p>	共同
			総合参加型臨床実習Ⅲ	○	<p>実際の診療技能と臨床的知識を身につけることを最終目標に、主に双方向授業によりコミュニケーションスキル、チーム医療、インフォームドコンセント、医療の安全性確保等の重要性について十分に理解する。さらに模擬症例を用いて問題志向型システム（POS）にそった診療法を理解し実践できるようになった上で、教員の同伴もしくは指導下で臨床例に対する診療行為を実践する。総合参加型臨床実習Ⅲは農工大において岩手大学の学生のために開講される。</p>	共同
			総合参加型臨床実習Ⅳ	○	<p>実際の診療技能と臨床的知識を身につけることを最終目標に、主に双方向授業によりコミュニケーションスキル、チーム医療、インフォームドコンセント、医療の安全性確保等の重要性について十分に理解する。さらに模擬症例を用いて問題志向型システム（POS）にそった診療法を理解し実践できるようになった上で、教員の同伴もしくは指導下で臨床例に対する診療行為を実践する。</p> <p>総合参加型臨床実習Ⅳは農工大において岩手大学の学生のために開講される。</p>	共同
			臨床繁殖学	○	<p>動物の繁殖障害、妊娠期の異常、分娩時の異常、産褥期の異常、泌乳および乳房の疾患の原因、診断、治療および予防法を理解する。</p>	
			繁殖機能制御学実習	○	<p>動物の各種生殖器官検査の基本的な手技を学び、発情診断、妊娠診断、人工授精、胚移植および各種関連技術を実践する。</p>	共同
			臨床繁殖学実習	○	<p>動物の繁殖障害および産科疾患に対する診断方法と治療方法ならびに生殖制御法を学び、実践する。群としての動物の繁殖管理方法を学ぶ。</p> <p>上記の講義内容を以下の教員で行う。</p>	共同
			大動物臨床実習・基礎編	○	<p>大動物の健康情報を収集・診断するための基本的な手技を習得する。</p>	共同

専門教育科目	実証獣医学科目	大動物臨床獣医学科目群	大動物臨床実習・応用編	○	大動物の内科ならびに外科疾患に対する処置ならびに治療法について学ぶ。特に、馬や豚の取り扱い方、診断、治療に必要な基本的手技を身に付ける。 (オムニバスと共同開講方式/15回) (9 田中あかね、190 前尚見、169 黒田泰輔/6回) 第1回～6回：馬の内科疾患（循環器・呼吸器・消化器）、馬の外科疾患（運動器）、馬の感染症、競馬開催における獣医師の役割、競走馬研究所における研究業務、馬の取扱い・曳き馬・保定法・個体識別、糞告・臨床検査、歩様検査・跛行診断・包帯法、採血・投薬・予防注射、東京競馬場施設見学・レントゲン検査、トレッドミル見学・エコー検査・内視鏡検査 (27 大場真己、165 吉川康宏/9回) 第7回～15回：家畜としての豚の基本的な知識、豚熱とPED、農場防疫、養豚場とと畜場（パッキングプラント）、養豚関連まとめ、豚の取り扱い方、保定法、採血方法、ワクチン注射、投薬、殺処分法、サンプリング方法	オムニバス、共同
			選択科目	学外実習（国内）	○	獣医師としてのキャリアパスに関する意識を涵養することを目的とし、広い獣医師の職域の最前線で職場体験を行う。
	学外実習（国外）	○	獣医師に必要な国際的視野を養うことを目的とし、姉妹校への短期留学等により海外の獣医学教育を体験する。	共同		
	動物園動物学	○	本科目を受講することで、動物園で飼育展示されている野生動物（水族館で飼育されている海獣類を含む）・動物園動物の種類と特徴、動物園動物の福祉、飼育管理、健康管理、希少動物保全のための動物園の役割に関する基礎的な知識を習得する。また、動物園水族館の機能や社会的役割および臨床技術を学ぶ。 (オムニバス方式/12回、共同開講/3回) (12 永岡謙太郎/4回) 第1回～4回：動物園動物の種類、特徴、福祉、飼育管理、健康管理 (199 綿貫宏史朗/5回) 第5回～9回：動物園水族館の機能や社会的役割および臨床技術 (51 山本ゆき/3回) 第10回～12回：希少動物保全のための動物園の役割 (担当教員全員/3回) 第13～15回：東京近辺の動物園と水族館見学	オムニバス、共同（一部）、実習（一部）		
	国際感染症制御学	○	世界における感染症の現状を把握し、それらをどのように制御していくべきか、それぞれの国状を理解しながら、グローバルな視点で対応を考えられるような知識を習得する。 (オムニバス方式/13回、共同開講/2回) (31 オブライエン悠木子/8回) 第1回～8回：海外生活及び動物の国際取引で注意すべき感染症、農林水産省検疫所の取り組み (16 古谷哲也/1回) 第9回：節足動物媒介性感染症 (27 大場真己/1回) 第10回：現在流行している感染症 (153 林昌宏/2回) 第11回～12回：国際感染症制御のための国際的な取り組み (156 浦辺真帆/1回) 第13回：国際獣疫事務局(WOAH)の取り組み (担当教員全員/2回) 第14～15回：感染症の最新トピック、討論	オムニバス、共同（一部）、実習（一部）		
	動物病院経営学	○	小動物（伴侶動物）の一次診療施設、二次診療施設および企業動物病院の経営担当者が、動物病院経営の現状と将来的展望について解説する。 (オムニバス方式/8回) (22 皆上大吾/2回) 第1回～2回：大学附属病院経営学 (160 小椋功/2回) 第3回～4回：小動物一次診療施設における動物病院経営学 (185 平尾秀博/2回) 第5回～6回：小動物二次診療施設における動物病院経営学 (162 小沼守/2回) 第7回～8回：企業動物病院の将来的展望	オムニバス		

専門教育科目	専修科目	獣医学演習	<p>講義・実習等で習得した知識と技術を利用して研究を行い・獣医学を総合的に理解することを目的とする。研究室に配属し・指導教員のもとで学習及び研究を行い、本授業を通じて専門性を高めるとともに・獣医学領域に関わる「課題」に着目し、「課題」に対する研究手法や研究意義を理解する。得られた課題や研究結果をまとめ・指導教員の指導に基づき報告または発表する。</p> <p>(32 金田 正弘) 動物基礎医学、形態機能学、獣医解剖学、エビゲノム生物学 (154 木賀田 哲人) 動物基礎医学、形態機能学、獣医解剖学、哺乳類の比較解剖学 (12 永岡 謙太郎) 動物基礎医学、形態機能学、獣医生理学、生理機能調節学 (51 山本 ゆき) 動物基礎医学、形態機能学、獣医生理学、動物生理学 (35 佐々木 一昭) 動物基礎医学、機能制御学、獣医薬理学、獣医臨床薬理学 (25 臼井 達哉) 動物基礎医学、機能制御学、獣医薬理学、獣医病態薬理学 (21 吉田 敏則) 動物基礎医学、機能制御学、獣医病理学、実験病理学 (38 鈴木 和彦) 動物基礎医学、機能制御学、獣医毒性学、実験病態病理学 (46 村上 智亮) 動物基礎医学、機能制御学、獣医毒性学、疾病病態解析学 (16 古谷 哲也) 獣医衛生科学、動物衛生学、獣医微生物学、病原感染因子学 (31 オブライエン 悠木子) 獣医衛生科学、動物衛生学、獣医伝染病学、病原性微生物学 (23 石原 加奈子) 獣医衛生科学、獣医衛生学、獣医公衆衛生学、衛生微生物学 (60 播磨 勇人) 獣医衛生科学、獣医衛生学、獣医公衆衛生学、人獣共通感染症学 (13 西藤 公司) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医内科学、獣医皮膚科学 (24 井手 香織) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医内科学、小動物内科学 (57 島田 香寿美) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医外科学、獣医軟部外科学 (10 田中 知己) 獣医臨床医科学、産業動物臨床医学、獣医臨床繁殖学、家畜不妊症防除学 (26 遠藤 なつ美) 獣医臨床医科学、産業動物臨床医学、獣医臨床繁殖学、繁殖障害診断学 (5 佐藤 俊幸) 動物基礎医学、形態機能学、動物行動学、行動生物学 (34 小山 哲史) 動物基礎医学、形態機能学、動物行動学、進化生物学 (29 大森 啓太郎) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医分子病態治療学、獣医臨床免疫学 (36 清水 美希) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医画像診断学、小動物外科学 (33 岸本 海織) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医画像診断学、獣医臨床放射線学 (22 皆上 大吾) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医臨床腫瘍学、腫瘍学 (43 濱部 理奈) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医臨床腫瘍学、腫瘍診断学 (9 田中 あかね) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、比較動物医学、分子免疫学 (14 福島 隆治) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、動物病院経営学、小動物病態ME解析学 (11 田中 綾) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医外科学、実験外科学 (17 水谷 哲也) 獣医衛生科学、獣医衛生学、感染症未来疫学、家畜感染症学 (28 大松 勉) 獣医衛生科学、獣医衛生学、感染症未来疫学、動物感染症防疫学 (27 大場 真己) 獣医衛生科学、獣医衛生学、感染症未来疫学、未来疫学 (41 竹前 等) 獣医衛生科学、獣医衛生学、感染症未来疫学、ウィルスゲノム学 (37 鈴木 馨) 獣医臨床医科学、野生動物臨床医学、野生動物医学、獣医麻酔学</p>	
--------	------	-------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

専門教育科目	専修科目	卒業研究	<p>講義・実習等で習得した知識と技術を利用して卒業研究を行い・獣医学を総合的に理解・発展させることを目的とする。研究を通じて・研究の進め方や得られた結果の考察・まとめ方・論文の書き方を理解し・卒業論文として提出する。</p> <p>(32 金田 正弘) 動物基礎医学、形態機能学、獣医解剖学、エビゲノム生物学 (154 木賀田 哲人) 動物基礎医学、形態機能学、獣医解剖学、哺乳類の比較解剖学 (12 永岡 謙太郎) 動物基礎医学、形態機能学、獣医生理学、生理機能調節学 (51 山本 ゆき) 動物基礎医学、形態機能学、獣医生理学、動物生理学 (35 佐々木 一昭) 動物基礎医学、機能制御学、獣医薬理学、獣医臨床薬理学 (25 臼井 達哉) 動物基礎医学、機能制御学、獣医薬理学、獣医病態薬理学 (21 吉田 敏則) 動物基礎医学、機能制御学、獣医病理学、実験病理学 (38 鈴木 和彦) 動物基礎医学、機能制御学、獣医毒性学、実験病態病理学 (46 村上 智亮) 動物基礎医学、機能制御学、獣医毒性学、疾病病態解析学 (16 古谷 哲也) 獣医衛生科学、動物衛生学、獣医微生物学、病原感染因子学 (31 オブライエン 悠木子) 獣医衛生科学、動物衛生学、獣医伝染病学、病原性微生物学 (23 石原 加奈子) 獣医衛生科学、獣医衛生学、獣医公衆衛生学、衛生微生物学 (60 播磨 勇人) 獣医衛生科学、獣医衛生学、獣医公衆衛生学、人獣共通感染症学 (13 西藤 公司) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医内科学、獣医皮膚科学 (24 井手 香織) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医内科学、小動物内科学 (57 島田 香寿美) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医外科学、獣医軟部外科学 (10 田中 知己) 獣医臨床医科学、産業動物臨床医学、獣医臨床繁殖学、家畜不妊症防除学 (26 遠藤 なつ美) 獣医臨床医科学、産業動物臨床医学、獣医臨床繁殖学、繁殖障害診断学 (5 佐藤 俊幸) 動物基礎医学、形態機能学、動物行動学、行動生物学 (34 小山 哲史) 動物基礎医学、形態機能学、動物行動学、進化生物学 (29 大森 啓太郎) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医分子病態治療学、獣医臨床免疫学 (36 清水 美希) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医画像診断学、小動物外科学 (33 岸本 海織) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医画像診断学、獣医臨床放射線学 (22 皆上 大吾) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医臨床腫瘍学、腫瘍学 (43 濱部 理奈) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医臨床腫瘍学、腫瘍診断学 (9 田中 あかね) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、比較動物医学、分子免疫学 (14 福島 隆治) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、動物病院経営学、小動物病態ME解析学 (11 田中 綾) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医外科学、実験外科学 (17 水谷 哲也) 獣医衛生科学、獣医衛生学、感染症未来学、家畜感染症学 (28 大松 勉) 獣医衛生科学、獣医衛生学、感染症未来学、動物感染症防疫学 (27 大場 真己) 獣医衛生科学、獣医衛生学、感染症未来学、未来疫学 (41 竹前 等) 獣医衛生科学、獣医衛生学、感染症未来学、ウイルスゲノム学 (37 鈴木 馨) 獣医臨床医科学、野生動物臨床医学、野生動物医学、獣医麻酔学</p>	
--------	------	------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

専門教育科目	専修科目	アドバンス演習	<p>学内臨床アドバンス：共用試験に合格した学生が総合参加型臨床実習とは別途本学附属動物病院での臨床実習に参加し・獣医師として将来目指す分野の知識や技術をさらに深化させるとともに学生の自主性を育む。また・様々な分野の科目を学生自ら選択して受講することで・獣医師としての見識を広げる。</p> <p>獣医学特別研究アドバンス：本学教員（卒業論文指導教員に限らない）指導のもと・興味関心のあるテーマについての研究をすすめ・研究方法・実験の技術・文献探索・ならびに成果の纏め方や発表法について習得する。</p> <p>獣医学特別実践演習アドバンス：共用試験に合格した学生が外部機関における研修を通じ・獣医師として将来目指す分野の知識や技術をさらに深化させるとともに学生の自主性を育む。また・様々な分野の科目を学生自ら選択して受講することで・獣医師としての見識を広げる。</p> <p>(32 金田 正弘) 動物基礎医学、形態機能学、獣医解剖学、エビゲノム生物学 (154 木賀田 哲人) 動物基礎医学、形態機能学、獣医解剖学、哺乳類の比較解剖学 (12 永岡 謙太郎) 動物基礎医学、形態機能学、獣医生理学、生理機能調節学 (51 山本 ゆき) 動物基礎医学、形態機能学、獣医生理学、動物生理学 (35 佐々木 一昭) 動物基礎医学、機能制御学、獣医薬理学、獣医臨床薬理学 (25 臼井 達哉) 動物基礎医学、機能制御学、獣医薬理学、獣医病態薬理学 (21 吉田 敏則) 動物基礎医学、機能制御学、獣医病理学、実験病理学 (38 鈴木 和彦) 動物基礎医学、機能制御学、獣医毒性学、実験病態病理学 (46 村上 智亮) 動物基礎医学、機能制御学、獣医毒性学、疾病病態解析学 (16 古谷 哲也) 獣医衛生科学、動物衛生学、獣医微生物学、病原感染因子学 (31 オブライエン 悠木子) 獣医衛生科学、動物衛生学、獣医伝染病学、病原性微生物学 (23 石原 加奈子) 獣医衛生科学、獣医衛生学、獣医公衆衛生学、衛生微生物学 (60 播磨 勇人) 獣医衛生科学、獣医衛生学、獣医公衆衛生学、人獣共通感染症学 (13 西藤 公司) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医内科学、獣医皮膚科学 (24 井手 香織) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医内科学、小動物内科学 (57 島田 香寿美) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医外科学、獣医軟部外科学 (10 田中 知己) 獣医臨床医科学、産業動物臨床医学、獣医臨床繁殖学、家畜不妊症防除学 (26 遠藤 なつ美) 獣医臨床医科学、産業動物臨床医学、獣医臨床繁殖学、繁殖障害診断学 (5 佐藤 俊幸) 動物基礎医学、形態機能学、動物行動学、行動生物学 (34 小山 哲史) 動物基礎医学、形態機能学、動物行動学、進化生物学 (29 大森 啓太郎) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医分子病態治療学、獣医臨床免疫学 (36 清水 美希) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医画像診断学、小動物外科学 (33 岸本 海織) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医画像診断学、獣医臨床放射線学 (22 皆上 大吾) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医臨床腫瘍学、腫瘍学 (43 濱部 理奈) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医臨床腫瘍学、腫瘍診断学 (9 田中 あかね) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、比較動物医学、分子免疫学 (14 福島 隆治) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、動物病院経営学、小動物病態ME解析学 (11 田中 綾) 獣医臨床医科学、伴侶動物臨床医学、獣医外科学、実験外科学 (17 水谷 哲也) 獣医衛生科学、獣医衛生学、感染症未来疫学、家畜感染症学 (28 大松 勉) 獣医衛生科学、獣医衛生学、感染症未来疫学、動物感染症防疫学 (27 大場 真己) 獣医衛生科学、獣医衛生学、感染症未来疫学、未来疫学 (41 竹前 等) 獣医衛生科学、獣医衛生学、感染症未来疫学、ウィルスゲノム学 (37 鈴木 馨) 獣医臨床医科学、野生動物臨床医学、野生動物医学、獣医麻酔学</p>	
--------	------	---------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--